

Title	現代の時代もののフィクション作品における「疑似古語」についての日中対照研究
Author(s)	Liu, Lu
Citation	大阪大学, 2013, 博士論文
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/26221">https://doi.org/10.18910/26221</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

2012 年度博士学位申請論文

現代の時代もののフィクション作品における「疑似古語」についての日中対照研究

大阪大学大学院言語文化研究科

言語文化専攻

刘 璐

## 論文目次

序章.....	1
1. 現代語の中に生きる「古語」たち .....	1
2. 本論文の構成 .....	4
第一章「疑似古語」について .....	5
1.1 研究背景と研究意義 .....	5
1.2 「疑似古語」の定義と特徴 .....	8
1.2.1 「疑似古語」の定義 .....	8
1.2.2 「疑似古語」の特徴 .....	11
1.3 関連研究 .....	12
1.3.1 「疑似古語」と直接に関係する先行研究 .....	13
1.3.2 「疑似古語」について言及した先行研究 .....	14
1.4 本研究の目的 .....	19
1.5 「疑似古語」の選定方法 .....	21
1.5.1 日本語の場合 .....	21
1.5.2 中国語の場合 .....	23
第二章 日本語における「疑似古語」 .....	24
2.1 国語辞書における「疑似古語」の扱い .....	24
2.1.1 「古風」と注記される語 .....	24
2.1.1.1 『三省堂』の場合 .....	25
2.1.1.2 『岩波』の場合 .....	29
2.1.1.3 『三省堂』と『岩波』の比較 .....	32
2.1.2 「疑似古語」の扱い .....	36
2.1.3 まとめ .....	41
2.2 「疑似古語」使用の様相 .....	42
2.2.1 語レベルの考察 .....	43
2.2.1.1 人称代名詞 .....	43
2.2.1.2 文末表現 .....	63

2.2.1.3 その他の語 .....	69
2.2.2 文レベルの考察 .....	74
2.2.3 文法レベルの考察 .....	76
<b>第三章 中国語における「疑似古語」 .....</b>	<b>81</b>
3.1 現代国語辞書における扱い .....	81
3.1.1 『現代漢語詞典』における扱い方 .....	82
3.1.2 『現代漢語大詞典』における扱い方 .....	85
3.2 「疑似古語」使用の様相 .....	86
3.2.1 語レベルの考察 .....	86
3.2.1.1 人称詞 .....	86
3.2.1.2 文章語 .....	110
3.2.1.3 単音節詞の多用 .....	114
3.2.2 文レベルの考察 .....	114
3.2.3 文法レベルの考察 .....	115
3.3 中国語「疑似古語」の起源をさかのぼる .....	117
3.3.1 「上古漢語」における“臣妾” .....	118
3.3.2 「中古漢語」における“臣妾” .....	118
3.3.3 「近代漢語」における“臣妾” .....	119
<b>第四章 両言語における「疑似古語」の扱い .....</b>	<b>121</b>
4.1 辞書における扱いの比較 .....	121
4.1.1 国語辞書における扱いの比較 .....	122
4.1.2 両国の外国語学習辞書における扱いの比較 .....	124
4.2 実際の使用様相の比較 .....	135
4.2.1 同形語の比較 .....	135
4.2.2 全体的傾向の比較 .....	138
<b>第五章 翻訳作品における「疑似古語」の扱い .....</b>	<b>141</b>
5.1 日本語から中国語に訳す場合 .....	141
5.1.1 中国語に相当する「疑似古語」が存在する場合 .....	142
5.1.2 中国語に相当する「疑似古語」が存在しない場合 .....	144
5.1.3 慣用表現の翻訳 .....	146

5.1.4 問題の改善策 .....	146
5.2 中国語から日本語に訳す場合 .....	174
5.2.1 日本語に相当する「疑似古語」が存在する場合 .....	174
5.2.2 日本語に相当する「疑似古語」が存在しない場合 .....	178
5.2.3 中国語の現代語が日本語の「疑似古語」に翻訳される .....	181
5.2.4 問題の改善策 .....	182
5.3 「疑似古語」を使用する理由 .....	201
<b>第六章 終章.....</b>	<b>202</b>
6.1 本論文の成果のまとめ .....	202
6.2 不十分な点と今後の課題 .....	202
6.3 「疑似古語」研究の展開 .....	203
<b>参考文献.....</b>	<b>208</b>
<b>用例出典.....</b>	<b>215</b>

## 序章

### 1.現代語の中に生きる「古語」たち

いわゆる「古語」とは、一般的に「①過去の時代に行われ、今は用いられないことば。②古人の言ったことば」<sup>1</sup>というように解釈されている。すなわち、古典の文章や古文獻を引用するという場合を除いて、現代では、ほとんど使用しない語を指している。しかしながら、現代日本社会の中で生活している者なら必ずと言っていいほど、古語らしき言葉づかいを見た、あるいは聞いた経験を持つはずである。例えば、最近では「富士の湧水」という天然水のテレビCM(2012)<sup>2</sup>に登場している侍風の男性の台詞は以下のようなものである。

侍風の登場人物：「拙者、富士の湧水」

「水にはちと、うるそうござる」

(水を飲んで)：「うまいのう」

「しかも宅配とは便利な」

(宅配の人に)：「イワタニどの、かたじけない」

(視聴者に向けて)：「そなたのサーバーの水は、天然水でござるか」

下線部のところは、どれも古めかしいニュアンスを持っており、現代の日本人が日常生活で使用すると恐らく「いつの時代の人間よ」と突っ込まれるのだろう。他には、時代劇ドラマや時代小説においてもよくこのような古めかしい言葉づかいが見られる。これらの語は形式上「古語」と見分けが付かないが、本質上では異なるものである。古い時代に用いられた「古語」に対して、歴史書物や文献などを用いて行う研究は、歴史言語学の分野においては昔から多く見られる。しかし、上に挙げたCMのように、現代語の中で頻繁に現れる古語らしき言葉づかいについてはの研究はまだほとんど見られない。また、このような言葉づかいは日本語以外の言語においても存在する。本論文は、日本語と中国語の現代語の中で実際に使われている古語らしき言葉づかいを対象に書いたものである。文化の国

<sup>1</sup>『広辞苑第六版』より。

<sup>2</sup> [http://www.iwatani.co.jp/jpn/company/company08\\_popup15.html](http://www.iwatani.co.jp/jpn/company/company08_popup15.html)(最終アクセス 2013年3月16日)にて視聴できる。

際交流が年々高まる中、韓国や中国の時代ものの映画とテレビドラマが日本に輸入されただけではなく、日本の時代ものの映画や時代もののテレビドラマも海外へ進出するようになり、多くの注目を集めている。例えば、2009年に製作された時代もののドラマ『JIN-仁-』は日本国内で高い視聴率を記録し、国内外で33個の賞を受賞した<sup>3</sup>。第一期の人気を受け、第二期は世界80か国で放送されることになった。こういった時代ものの作品の海外進出とともに生まれてきた一つの大きな問題は、時代ものの作品の台詞に特有の言葉づかいをどのように翻訳すれば、海外の視聴者たちに時代ものの作品が持つ古めかしい雰囲気や伝えられるかという問題である。また、日本に輸入された海外の時代ものの作品の台詞に使用されている古めかしい言葉づかいを正確に理解し、かつ適切な日本語に訳すというスキルも翻訳者に求められる。そこで、時代ものの作品の翻訳質の向上に貢献することは本論文の目的の一つである。

また、このような言葉づかいに注目したもう一つの理由は、近年の日本語教育分野で見られる日本語学習動機の新しい傾向にある。外務省の調査<sup>4</sup>によると、これまでの主な学習動機と言え、「留学」や「就職」といった実利的なものだったが、最近、日本の映画やテレビドラマ、またはアニメやマンガ、ゲームソフト、ポップミュージック、ファッションといった日本のポップカルチャーをきっかけに、日本語を学び始める人たちが増えている。これらの学習者は教材から日本語を学習するだけではなく、自ら日本の映画、テレビドラマ、アニメやマンガなどを視聴し、積極的に学習する傾向が見られる。このような学習動機の変化について、すでに多くの先行研究が行われている。また近年、マンガやアニメを教材として用いる日本語教育活動についての研究と開発も増えつつある。例えば、国際交流基金関西国際センターは日本語教材開発の分野では、2010年2月1日に英語、スペイン語、韓国語、中国語、フランス語の五ヶ国の言語に対応できるE-ラーニングサイト「アニメ・マンガの日本語」<sup>5</sup>を開設した。開発した理由については、国際交流基金のウェブサイトにある記事は次のように述べている。

世界中の若者の間で、今、日本のアニメ・マンガは大人気です。日本語学習者の多くがアニメ・マンガをきっかけに日本語を学び始めるとも言われています。しかし、

<sup>3</sup> 『産経新聞』2011年4月12日朝刊「民放各局 春の改編 原点回帰「愛されるテレビ」」（萩原万貴枝）

<sup>4</sup> <http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/wakaru/topics/vol43/index.html> (2013年3月16日最終アクセス)

<sup>5</sup> <http://www.anime-manga.jp/> (2013年3月16日最終アクセス)

さまざまなキャラクターや幅広いジャンルなど、アニメ・マンガの日本語には、教科書や辞書には載っていない表現も多く、アニメ・マンガを日本語で理解するのはなかなか難しいもの。そこで、国際交流基金関西国際センターでは、アニメ・マンガ好きの日本語学習者のために、趣味の延長として楽しみながら日本語・日本文化に興味をもってもらえるサイトを目指して、アニメ・マンガに現れるキャラクターやジャンルの日本語を楽しく学べるEラーニングサイト「アニメ・マンガの日本語」を開発しました。(略)

(JF便り＜日本語教育編・23号＞ 2010年5月)

このEラーニングサイトに登場するキャラクターは計8人があり、男の子、女の子、不良、侍、おじいさん、お嬢様、執事、大阪人である。侍の言葉づかいの中に、本論文の研究対象となる「古語」らしき語が多くあるが、その解説及び中国語訳には多くの問題点が見られる。例えば、「～殿/そなた」という語項目について、「「～」には名前が入る。男性が主に女性に対して使う。「そなた」は目下の人にも使うことがある」<sup>6</sup>と説明しているが、本論文の考察によると、「名前+殿」という呼び方は男性が女性に対して使用する場面も見られるが、多くの場合は男性が男性に対して使うものだ分かる。また、翻訳の面においても改善すべき点が多くある。例えば一人称詞「わし」は現代中国語の代表的な一人称詞の“我”と翻訳され、発話者の特徴はまったく伝わらない訳語になっている。

熊野・川嶋(2011)は、アニメ・マンガの日本語授業への活用の方法や意義について調査を行い、海外で人気のあるジャンルは「恋愛、学校、忍者、侍」の4つであることが分かった。執筆者の調査によると、そのうちの「忍者」と「侍」のジャンルにおいて、多くの古めかしい言葉づかいが用いられている。さらに、「忍者」や「侍」のジャンルに属さない作品においても、「古語」らしき言葉づかいが用いられている。例えば、日本国内だけではなく、海外でも人気のあるスタジオジブリの映画『もののけ姫』より、台詞の一部を引用する(下線は執筆者によるもの)。

ヒイさま：「いずこよりいましあらぶる神とは存ぜぬもかしこみかしこみ申す」(0:06:53)

アシタカ：「すまぬが、そなたたちの森をとおらせてもらうぞ」(0:24:03)

<sup>6</sup> <http://www.anime-manga.jp/> (2013年3月16日最終アクセス)にある「キャラクター辞書」の「～殿/そなた」項目より。



ジコ坊：「おぬしも生きとったか、よかった」(2:01:12)

下線部の語は従来の日本語教育では、「古語」として扱われており、学習者は上級レベルの古典の授業以外ではほとんど教わることがないと思われる。しかし前述のように、近年、日本のアニメ・マンガ、映画やテレビドラマを通じて日本語を覚えようとする学習者が増えたため、比較的早い段階でこれらの「古語」らしき言葉に触れるようになったと思われる。特に執筆者のような日本に来てから日本語を習い始めた学習者たちは、テレビなどのメディアを通じて、初級レベルの段階で既にこれらの古めかしい言葉づかいに接触することになる。したがって、学校における日本語教育もこのような現状に対応し、早い段階で教えるようにすべきだと考えられる。そのために、まずこれらの「古語」らしき言葉づかいは実際どのように使用され、「古語」との相違などについて詳しく調査する必要がある。そこで、本論文は、将来の日本語教育の多様化に備えて行われた基礎研究の一つとも言える。

## 2. 本論文の構成

本論文は序章を除いて、六章から構成されている。

第一章では、まず研究の背景と研究意義を述べ、次に本論文で提唱する「疑似古語」という概念の定義と特徴について説明する。その後、先行研究と関連研究について述べ、先行研究で不足している点、本研究の目的を明らかにする。第二章と第三章では、まず、両言語の現代語国語辞書における「疑似古語」の扱いを調査し、各国語辞書は「疑似古語」をどのように認識しているのかを明らかにする。そして、20世紀70年代以降の時代もののフィクション作品を中心に、小説、映画、テレビドラマ、漫画やアニメなどから幅広く用例を集め、日本語と中国語のそれぞれの主な「疑似古語」の実際の使用様相などについて詳しい考察を行う。第四章では、第二章と第三章の考察を基にして、両言語における「疑似古語」の扱いに対して、いくつかの視点から対照分析を行う。第五章では、「疑似古語」は両言語間でどのように翻訳されているのか、翻訳する際の問題点について考察を行い、そして改善策として両言語の主要「疑似古語」に対して日中・中日の対訳リストをそれぞれ作成する。第六章は全体のまとめと今後の課題および「疑似古語」研究の将来における展開について述べる。

## 第一章「疑似古語」について

### 1.1 研究背景と研究意義

日本における現代大衆文化の中に、おもに明治維新以前の江戸時代、あるいはそれ以前の日本史上における古い時代を舞台とした、いわゆる「時代もの」というジャンルが存在し、長い歴史を持っている。小説の分野では、歴史小説と時代小説が挙げられる。演劇・映画・テレビドラマにおいては、現代劇と時代劇という二つの対照的な大きなジャンルが存在する。20世紀80年代から台頭しはじめたマンガ、アニメ、テレビゲーム、ライトノベルなどのサブカルチャーにおいても、古い時代を舞台とする作品が数多く存在する。歴史小説のように、主な登場人物が歴史上実在した人物であり、物語の内容もできるかぎり史実の通りに進められるものもあれば、古い時代という舞台だけを借りて、架空の人物を登場させる作品もある。いずれにしても、このような「時代もの」の作品はすべて現代人による創作物であり、つまりフィクションであると言える。本論文では、このような古い時代を舞台とする作品を「時代もののフィクション」と呼ぶ。そして、こういった「時代もののフィクション」に登場するキャラクターが使用する言葉づかいは現代の日本語母語話者なら、その意味を概ね理解できるが、それらの登場人物が発する台詞は現代日本人の喋り方とは異なることも明らかである。例えば、以下のAとBの文は同じ意味を表す台詞だが、AよりBのほうが古めかしいニュアンスがあり、古い時代の人間が想起させられる。

A：あなたは何をしています？

B：おぬしは何をしておる？

このように、「時代もののフィクション」を創作する際に、古い時代背景という設定に合わせて、登場人物の台詞も古めかしく感じられるようにしなければならない。そうしなければ、恐らく現代の読者や視聴者たちにとってはかなり違和感を覚えることになるだろう。しかし、古さを出すためとは言え、その時代に実際使われていた古語や古い文法と言い回しを忠実に再現しようとする、現代の読者と視聴者たちの大多数が恐らく台詞の意味を理解できなくなるだろう。つまり、「時代もののフィクション」の登場人物が発する台詞は現代人が現代語をベースにして、古語と思われる一部の単語や言い回しなどを入れて創造

した話体と言ってもよい。本論文では、「時代ものフィクション」の登場人物の台詞で見られる古めかしい言葉づかいを「疑似古語」と呼ぶ。「疑似古語」についての詳しい説明は次の節で述べる。また、このような言語スタイルが形成される原因について、山口(1998;2005;2011)は提示したフィクション作品における「巨視的コミュニケーション」という概念を用いて説明する。山口は、フィクション作品の中で、登場人物同士が行う言葉のやり取りを作品内のコミュニケーションとして捉え、微視的コミュニケーション(microcosmic communication)と名付けた。これに対して、作者から読者(観客)への情報の伝達は、作品の外で行われるものであるため、巨視的コミュニケーション(macrocosmic communication)とした。山口(2011)は下記図1-1を用いて、微視的コミュニケーションと巨視的コミュニケーションの関係を表わした。(山口2011, p.27より引用)

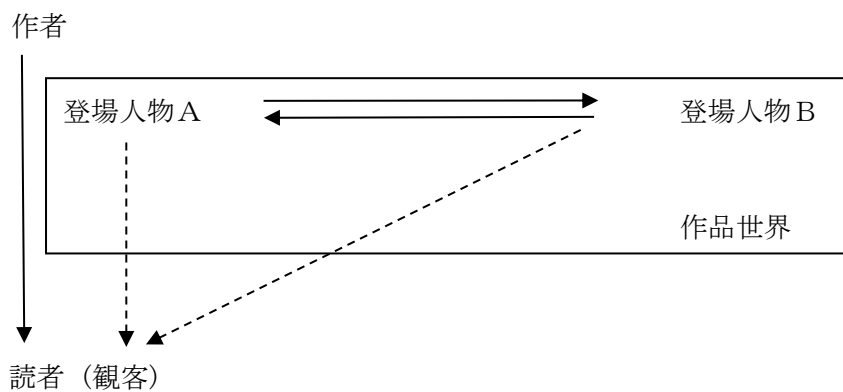


図1-1：フィクションの語りにおけるふたつのコミュニケーション

山口の説明によれば、図1-1の登場人物AとBの間の横方向の矢印は微視的コミュニケーションを表し、作者から読者(観客)へ、および登場人物A・Bから読者(観客)への縦方向の矢印は巨視的コミュニケーションを表す。特に破線の矢印は、「登場人物の台詞は対話者に向けられると同時に、それを傍で聞いている格好の観客にも向けられている。つまり、登場人物の台詞は観客が無理なく理解できるように発せられねばならない。(山口2011:29)」と述べた。「時代ものフィクション」においても、このような制約が存在するため、登場人物同士のやり取り(微視的コミュニケーション)では舞台となる時代に実際使われていた古語を使用することが許されるとしても、巨視的コミュニケーションの面においては、読者・視聴者が登場人物同士のやり取りを理解できない恐れがあるため、古い言葉の過剰使用は避けるべきである。一方、もし登場人物同士が現代語のみでやり取りをすると、今度

は微視的コミュニケーションの面で違和感が生じ、登場人物が持つ「古い時代の人間」という属性とその言葉づかいの間にずれが生じる。したがって、「時代もののフィクション」の登場人物が発する台詞は、現代語と「疑似古語」が混在しているスピーチスタイルでなければならないのである。

「時代もののフィクション」は日本以外の国においても存在する。例えば、日本の時代劇に相当するものは英語圏では「Period piece」または「Period drama」と呼ばれ、中国では「歴史劇(リーシーजू、中国語: 历史剧)」または「古装劇(グーツゥアンजू、中国語: 古装剧)」と呼ばれ、韓国では「史劇(サグク、ハングル: 사극)」と呼ばれている。中国では、時代もののテレビドラマは特に人気が高く、年間制作されるドラマの中で大きな割合を占めている。近年、中国と韓国の時代劇ドラマは日本にも進出し、多くの人気作品が放送または販売されている。例えば、韓国の大人気時代劇ドラマ「大長今(邦題: チャングムの誓い)」はNHK-BS2にて2004年10月7日から2005年10月27日まで放送された後、反響が大きかったため、2005年7月から2005年12月まで再びNHK-BS2で集中的に再放送された。また、2005年10月8日から11月18日までNHK総合でも放送されて、更に2007年1月12日から2008年2月15日までノーカット字幕版である完全版がNHK-BS2にて放送され、NHKだけで合計4回も放送された人気ぶりである。一方、日本のNHK大河ドラマや民放の時代劇テレビドラマなども近年海外で人気を博している様子である。このような「時代もののフィクション作品」のグローバル化が進む中、各言語へのローカリゼーションの質は作品の売れ行きに大きく影響する。「時代もののフィクション」の異なる言語間における翻訳の質が原作作品のイメージを正確に伝えるのに大きな役割を果たしていると考えられる。しかし、「疑似古語」が混ざっている「時代もののフィクション」の言葉づかいを翻訳するのは、すべて現代語で書かれた作品よりも難しいと思われる。翻訳する側には相手国の現代語だけではなく、「疑似古語」についての知識も要求されるためである。その上、「疑似古語」を用いる登場人物の属性のバリエーションについても正確に把握していなければ、適切に翻訳することは難しいと思われる。「時代もののフィクション」の登場人物のイメージを正確にローカライズすることは作品全体のローカリゼーションの質を決める大きな要素と言えよう。各言語における「疑似古語」の様態を正確に把握することによって、ワンランク上の翻訳が期待できるであろう。そこで、本論文はそのための基礎研究の一端として十分な意義があると思われる。

また、序章で述べたように、近年の各国における日本語学習の動機の変化に応じて、教育の現場においても、アニメ・マンガ、映画やテレビドラマの台詞を授業で活用する教師が増えつつある。そこで、今後「時代もののフィクション」も人気ジャンルの一つとして授業に導入されていくと予想される。その際に、現代を舞台とする作品の台詞でほとんど用いられない「疑似古語」をどのように扱うのが難しいところだと思われる。なぜなら、「疑似古語」としての意味用法は古語辞典に載っている実在した意味用法と同じとは限らないからである。したがって、授業で時代もののフィクション作品を用いる前に、まず「疑似古語」の全体像及び個々の語の意味用法を掴まなければならない。本論文は数多くの時代もののフィクション作品を用いて、日本語と中国語のそれぞれの代表的「疑似古語」の意味用法を詳しく考察するため、外国語としての日本語教育と中国語教育の多様化にも貢献できると思われる。

## 1.2 「疑似古語」の定義と特徴

### 1.2.1 「疑似古語」の定義

まず、本論文で使われている「疑似古語」<sup>7</sup>という概念を以下のように定義する。

「疑似古語」とは、現代人が書いた或いは制作した、古い時代を舞台とするフィクション作品の中で、登場人物の台詞で古めかしさを感じさせられる場合、あるいは現代人がある言葉づかいを聞いて古い時代の人間を思い浮かべる場合に用いられる言葉づかいのことである。例えば「そなた、名はなんと申す」<sup>8</sup>という台詞の中に用いられている「そなた」と「申す」の二語は「疑似古語」に当てはまる。

ただ、時代もののフィクション作品の登場人物の台詞で使用されているすべての古めかしい言葉づかいが「疑似古語」であるとは限らない。下記の二つのグループに属する古めかしい言葉づかいは「疑似古語」に属さない。

- 一、現代ではすでに存在しない物事の呼び名。例えば、「大奥(おおおく)」、「棒手振り(ぼてふり)」、「岡っ引き(おかっぴき)」、「参勤交代(さんきんこうたい)」、「若年寄(わかどしより)」などの語。

<sup>7</sup> 他の言語にも「疑似古語」が存在するが、本論文では、日本語の「疑似古語」を基にして定義する。

<sup>8</sup> 映画『ICHI』より引用。(0:14:12)

二、俳句や短歌などの特殊な文体でのみ用いられる言葉づかい。例えば、「潮みてば いりぬる磯の草なれや 見らくすくなく恋ふらくの多き」<sup>9</sup>に見られる古語の文法も「疑似古語」ではない。

また、「疑似古語」は単語レベルだけではなく、文法や言い回し、音声があればそのアクセントとイントネーションも「疑似古語」の対象となる。つまり、「疑似古語」は時代もののフィクション作品に登場するキャラクターの口調を古めかしく感じさせるすべての言語的要素を指している。それは以下の四つのレベルのように分けることができる。なお、本論文は主に㊶～㊸について論及し、音声レベルについては本論文では扱わない。

㊶ 語レベルの「疑似古語」。例えば、「そなた」、「心の臓(しんのぞう)」、「盗っ人(ぬすつと)」、「曲者(くせもの)」、「童(わらべ)」、「申す(もうす)」、「相成る(あいなる)」、「貴殿(きでん)」、「わし」など。これらの語の特徴は、下に示したように、同じ意味を持つ常用現代語が存在することである。

疑似古語	現代語
そなた	あなた
朝げ	朝ご飯
心の臓	心臓
盗っ人	泥棒
童	子供
申す	言う
相成る	なる
貴殿	あなた
わし	わたし

また、「疑似古語」になる語の中には、わざと古めかしさを出す場合を除いて現代語ではほとんど用いない語と現代語でも日常的に見かける語が存在する。「そなた」、「心の臓」、「盗っ人」は前者であり、「曲者」、「童」、「申す」、「相成る」、「貴殿」、

<sup>9</sup> 漫画『あさきゆめみし1』p. 270 より。

「わし」は後者である。後者の場合、下に挙げた5つの特徴のどれかに当てはまる。

- ① 多義語であり、主に「疑似古語」として用いられる語義と主に現代語として用いられる語義はそれぞれ異なる。「曲者」はその例である。『広辞苑第六版』では、「曲者」の語義は「①ひとくせある人物。変り者。変人。②異常な能力をそなえた人間。③妙手。やり手。④得体の知れないもの。用心すべきもの。⑤ばけもの。怪物。⑥あやしい者。不審な者」<sup>10</sup>の六つがある。⑥の語義だけは「疑似古語」として用いられる。
- ② 現代語では、単独で用いることがほとんどなく、決まった熟語や慣用表現でのみ現れる。例えば「童<sup>わらべ</sup>」は現代語では「童歌(わらべうた)」という形で用いることがほとんどである。一方、「疑似古語」としての「童」は単独で用いられることが多い。
- ③ 現代語での用法と「疑似古語」としての用法は異なる。例えば、「申す」を使っている「a.織田と申します」と「b.織田と申す」の2文の場合、丁寧体のaは現代でもごく普通に使用されるが、普通体のbのように名乗る人はほとんどいないだろう<sup>11</sup>。このように、同じ語でも、用法が異なれば「疑似古語」になることがあり得る。
- ④ 現代では主に手紙や文書で用いる文章語である。「相成る」と「貴殿」はその例である。
- ⑤ 現代では位相語として用いられる。「わし」はその例である。
- ㊦ 文レベルの「疑似古語」。例えば「ありがたき幸せ」、「控えおろう」、「面を上げい」、「出会えい！出会えい！」などのような、現代の話し言葉ではほとんど用いない慣用句や常套句を指す。
- ㊧ 文法レベルの「疑似古語」。例えば、台詞「そのようなことを口に出すでない」<sup>12</sup>の中に用いられている禁止の意を表す「動詞＋で(は)ない」という古い文法はその例である。
- ㊨ 音声レベルの「疑似古語」。例えば、公家のキャラクターによく見られる高い声でゆっくりに喋る口調。

<sup>10</sup> 岩波書店 2008 年『広辞苑第六版(机上版あーそ)』p. 798

<sup>11</sup> 親しい友人や家族とのくだけた場面の会話で、侍ごっこなどの遊びとして用いる場合は例外である。

<sup>12</sup> 宮尾登美子『篤姫(上)』p. 69

## 1.2.2 「疑似古語」の特徴

一、作品の舞台となる時代の実際にあった話し方と異なること。

日本語の場合、舞台は平安時代であれ、戦国時代であれ、江戸時代であれ、ほぼすべて同じ「疑似古語」が用いられている。例えば、金水(2000)によると、平安時代を描写するドラマにはよく現れる「～ませぬ」、「～おじやる」などは、実際には室町時代末以降のものであったようである。つまり、「疑似古語」は古語と形式上同じように見えるが、その古語の実際の使用年代や元々の意味用法を無視して使用されていると思われる。この現象は日本語ではなく、他の言語においても観察されている。例えば、「thou」は古英語の単数形二人称代名詞であり、現代英語の「you」に相当する。現代では、極一部の特殊な場面を除いて、話し言葉として使用されることはほとんどないが、金田(2011)によると、「時代ものフィクション」では「thou」を使用する場面がしばしば見られる。金田(2011)からの例を引用する<sup>13</sup>。

- a. まあ、まあ、まあ、まあ、それはともかく、君は何者でござる？
- b. Oh, dear... Do simmer down, sirs! And thou, o wild one... Who might thou be?

aは『ファイナルファンタジーVI』というゲームに登場する「カイエン」という侍キャラクターが発した台詞で、bはその英訳である。「カイエンは自称詞に「拙者」、語尾に「～でござる」を付けて話す典型的なサムライキャラであり、英語版では、呼びかけ詞のsirを用いることに加えて、単数のyouの代わりに古語のthouを使用する。(金田2011:138)」また、金田は「thouに対する動詞・助動詞は、規範的には二人称単数に特有の活用語尾による一致を伴い、thou art “you are”, thou hast “you have”, thou wilt “you will” のようになる。しかし、それ以外の文脈では、bのように本来mightst(またはmightest)となるところをmightのままで用いたり、“But... however, did thou find me?” のようにdidstではなくdidが現れるケースが見られた。つまり、定型的なthou art, thou hast などを除けば、thouに対して動詞が一致するような、本来あるべき出現コンテキストを無視した用法がしばしば現れている。(金田2011:138-139)」と指摘した。この例のように、「時代ものフィクション」で用いられている「疑似古語」は、必ずしもその古語本来の意味や使い

<sup>13</sup> 『ファイナルファンタジーVI』(1994年、スクウェア(現スクウェア・エニックス))に登場するサムライ「カイエン」の台詞と、その北米版リメイクのFinal Fantasy Advance VI(2007年、Square-Enix)における英訳の例である。(金田 2011:138)



方と一致しない。つまり、「時代ものフィクション」で使用されている「疑似古語」は本来の古語に似せた「別物」であり、時代ものフィクション作品では、その時代の言葉づかいを再現するために用いられているのではない。「疑似古語」は、時代ものフィクション作品に登場するキャラクターの属性や性格、または場面の雰囲気をもより補強するために生まれてきた「ステレオタイプ化された言葉づかい」である。したがって、たとえ時代ものフィクション作品の登場人物の話し方がその時代に実際にあった話し方と違ってても、現代の読者や視聴者が持つ「この登場人物はこのように喋るべきだ」という思い込みと一致すれば問題にならない。逆にその時代に実際にあった話し方と一致しても、その話し方が現代の読者や視聴者が持つ思い込みと違えば、違和感が生じる。

二、「疑似古語」は必ずしも古語から生まれてきたとは限らない。

「拙者」や「そなた」のように、「疑似古語」として用いられる場合を除いて、現代の話言葉においても、書き言葉においてもほとんど用いられないものは「古語」から生まれてきた「疑似古語」であると思われる。一方、「相成る」、「何故<sup>なにゆえ</sup>」、「斯様」のような語は現代においても使用されているが、話言葉ではなく、ほとんどが書き言葉として用いられている。つまり現代の書き言葉からも「疑似古語」が生まれてくる。古語からであれ、現代の書き言葉からであれ、「疑似古語」になった言葉づかいは「現代人が日常会話でほとんど使用しない」<sup>14</sup>という共通する特徴を持っていると考えられる。ただし、すべての古語と現代の書き言葉は「疑似古語」になりうるわけではない。時代ものフィクションが誕生してから現在まで、さまざまな作品で繰り返して用いられてきた一部の古語と現代の書き言葉は、一種の知識として多くの読者や視聴者の脳に刷り込まれており、その中のある程度定着した言葉づかいだけが「疑似古語」と言える。

### 1.3 関連研究

日本語の場合、現代の時代ものフィクション作品で用いられる「疑似古語」について言及した研究はわずかながら存在する。そのうち「疑似古語」をメインに書かれたものは一つで、その他の研究は、「疑似古語」の存在について少し触れただけのものであったり、または「疑似古語」と関係があるものであったりする。中国語の「疑似古語」に関する研

<sup>14</sup> 標準語を使用する会話に限る。

究は執筆者の知る限りではまだ見られない。本節では、ひとまず日本語の「疑似古語」について言及した先行研究をまとめる。

### 1.3.1 「疑似古語」と直接に関係する先行研究

現代日本語に関する研究の中で、初めて「疑似古語」の存在を指摘したのは石井久雄(1986)の『古代(的)言語表現の享受と創造—現代日本語における』である。彼は「歴史小説あるいは時代小説と称される文芸は、文芸研究の対象として占める地位のいかんにかかはらず、現代の文芸に占める地位は大きいと思はれる。その歴史小説なり時代小説なりに現はれる言語は、一般的には、現代語という枠のうちに収まるものであらうが、また、直ちに現代語としては位置づけ難いものも少なくない。」と述べ、登場人物が用いる「おぬし」や「でござる」などのような言葉づかいを古代的言語または非現代語と呼ぶ。更に「歴史小説なり時代小説なりに現はれるからと言って、その小説の扱ふ時代の古代語であると考えるのは、早計である。」と指摘し、つまり古代的言語は実際に描かれた時代に見合うものではなく、現代語的でさえなければよいという性質を持っていることについても触れた。また、このような言葉づかいは古代の雰囲気を醸し出すために作家が創造したものであり、読者がそれを享受すると主張している。まさに本論文で提唱した「疑似古語」と同じものだと考えられる。

古代的言語に対する詳しい考察は、二つのグループに分けて行われた。一つ目は、『源氏物語若紫』の現代語訳5種類を用いて、それぞれの現代語訳本を比較し、古代語を現代語へ翻訳する際に、登場人物がしゃべる台詞は非現代語的な雰囲気を感じさせながら現代人にも分かる文章にするために、作家たちがどのように古代的言語を作り出したのか、そしてどのように使用したのかを考察するものである。二つ目は、『歴史ロマン傑作選』の作品群から短編作品の会話文について調べ、歴史小説または時代小説において、どのような古代的言語が使用されているのかなどの使用実状を明らかにしようとするものである。

石井の研究は、現代語のうちに非現代語(「疑似古語」)が存在することを指摘し、これは歴史文献資料を対象とする従来の古代語研究や文語研究とは異なる研究分野であるため、歴史文献資料を用いるのではなく、現代の作家が創作した歴史小説や時代小説などのフィクション作品を対象として見るべきだと提示してくれた。しかし、石井の研究が行われたのは1986年で、それ以降、「疑似古語」をメインに行われた研究は管見の限りではまだない。また、石井が考察に使用した作品は20世紀80年代以前の小説だけであり、それ以外の

メディア(映画、テレビドラマ、マンガ・アニメなど)における「疑似古語」の使用様相を調査していなかったため、現代日本語における「疑似古語」の全体像はまだ明らかになっていないと思われる。

### 1.3.2 「疑似古語」について言及した先行研究

#### ① 単語の文体的特徴に関する研究

文章全体の文体的効果を生み出す言語手段はいろいろあるが、その中の一つとして、単語の文体的特徴は文章の文体を決定する一つの要素であると宮島(1994)は主張した。単語のもつ文体的特徴とは、国語学の分野では位相論の対象となるべきものであると思われる。言語の位相及び位相差について、田中(1999)では以下のように定義している。

「ことばには、性別や世代の違いによって、あるいは社会階層・職業などの違いによって、さまざまな差異や対応がみられる。また、軍隊・遊郭・やくざなど、閉鎖性の強い集団には、その集団独特なことばが生じやすい。一方、話しことばと書きことば、詩歌と散文など、表現様式の違いによって、ことばの差異や対立がもたらされることもある。演説には演説特有の、また手紙には手紙独特のことばが用いられるというように、場面によって違いが生じる場合もある。このように、社会的な集団や階層、あるいは、表現上の様式や場面それぞれにみられる、言語の特有な様相を「位相」と言い、それに基づく、言語上の差異を「位相差」と呼ぶ。」(田中1999: 1)

この定義のように、一般に位相論の対象となるものは、男のことば・女のことば・子どものことば・軍隊のことば・遊里のことば・女房ことばなど、ある社会集団・グループに属する人間が実際に使う/使った言葉や言い回しなどである。しかし、話し手が属する社会的な集団や階層などによる分類以外に、どのような場面や文脈で使うかによる分類もできる。例えば「わたし」、「今日」、「歩く」のような、どのような種類の話しことば、書きことばにも用いられる、いわゆる積極的な文体の特徴をもたない中立的な語もあれば、「いましがた」、「黎明」、「鑑みる」のような、かたい文章でしか使わない語もある。つまり、ある文体に属するか、または、ある文体的な特徴を持っている単語が存在すると言える。宮島(1994)は、地域的な分化、時間的な分化、社会的な分化、性・年齢の範囲による分化の四つのグループに分けて、単語の文体的特徴についての分析を行った。その中で、時間的な分化の部分の論述においては、昔は使われていたが、現在ではまったく現わ

れない「古語」は現代語としての文体的価値をもっていない、「むかし一般的につかわれて、いま、たまにつかわれることばは、ある種の文体的価値をもつことがおおい」と述べた。更に、現代語に現われる「古語」の一群として、「みども、たわけもの、大音声、中食、余の儀(ではない)、からからと(わらう)」などを挙げ、現代では主に講談や時代ものの小説などで、古さを出す役目として使われている「特殊な文章語」と説明した。このグループに属する単語の一部は「疑似古語」だと思われる。しかし、宮島(1994)では「疑似古語」の存在について言及されたが、これ以上の考察は行われていなかった。

## ②「役割語」に関する研究

「疑似古語」の本質を説明するには、金水敏が提示した「役割語」という概念が相応しいと思われる。金水(2003)は「役割語」を以下のように定義した。

「ある特定の言葉づかい(語彙・語法・言い回し・イントネーション等)を聞くと特定の人物(年齢、性別、職業、階層、時代、容姿・風貌、性格等)を思い浮かべることができるとき、あるいはある特定の人物像を提示されると、その人物がいかにも使用しそうな言葉づかいを思い浮かべることができるとき、その言葉づかいを「役割語」と呼ぶ。(p.205)」

例えば、「そうなんじゃ、わしは知つとるんじゃ」のような喋り方を聞くと、老人を想起し、「そうですわ、わたくしが存じておりますわ」のような喋り方を聞けば上品なお嬢様を想起する。金水(2003)は、それぞれ「老人語」と「お嬢様ことば」と呼んでいる。フィクション作品の世界では特に様々な役割語が見られる。「わたし、知ってるあるよ」のように喋る中国人キャラや、「麻呂は知ってるでおじゃる」のように喋る平安時代の貴族キャラや、「自分は知ってるであります」のように喋る軍人キャラ等がある。

性別や世代、社会階層・職業などの違いによって言語使用上の差異が存在するという視点から見れば、「役割語」は従来の位相・位相差と、同様のものだと思われる。しかし、現代日本社会では、上に挙げた「老人語」をしゃべる年配者や「お嬢様ことば」をしゃべるお嬢様はおそらく現実には存在しないだろう。位相・位相差の研究対象は現実社会で実際に使われているまたは使われていた言語であり、「老人語」や「お嬢様ことば」のように、小説やドラマなどのフィクション作品によく現われるが、現実社会ではほとんど現わ

れない言語現象についてはカバーできない点は明らかである。言語の位相・位相差と「役割語」の相違について、金水(2003)は以下のように説明している。

「言葉の位相・位相差と役割語とは、よく似ている部分と大変異なっている部分がある。違っている部分から先に述べておくと、言葉の位相(差)は、「現実」(リアリティ)における様相・差異を学者が研究することによって得られるのに対し、役割語は、私たち一人一人が現実に対して持っている観念であり、いわば「仮想現実」(ヴァーチャル・リアリティ)なのである。「現実」というと、誰の目にも明らかなことのように思われるかもしれないが、必ずしもそうではない。位相・位相差は、研究者がフィールド・ワークや文献の調査等の手続きを経ることでようやく明らかになるもので、一般の日本語話者には見えていないことが多いのだ。むしろ一般の話者が知識として持っているのは、役割語の知識なのである。(p.37)」

また、「明日は雨だわ」の文末が上昇調になる「わ」、「きれいだこと!」の感動を表す「こと」等の表現は、現代日本語では、女性特有の表現と見なされている。「これらの表現が女性特有であることは日本語の母語話者なら誰でも知っていることで、小説やドラマの対話の中にも当たり前のように用いられている。しかし、現実の日常的な会話の中で、女性がこれらの女性特有語をどれくらいの頻度で用いているか、ということは、一般話者にはわからない。話者の年齢や方言にもよるが、実は現実には女性特有表現の使用頻度は驚くほど小さい。(金水2003:38)」つまり、私たちが持つ役割語の知識は、必ずしも現実の言語使用状況を忠実に再現しているものではない。「現実との距離は、近い場合もあれば、まったく現実と無関係、という場合まで、さまざまであるが、必ず何らかの形でバイアスがかかっていると考えてよい。(金水2003:39)」

更に、役割語と現実との間にこのような距離が発生した理由について、金水は社会学で使われている「ステレオタイプ」という概念を用いて説明した。ステレオタイプとは、あるカテゴリーに属する事物に対して定型的なイメージを持つことである。例えば、「女性は感情的である」、「イタリアの男性はよく女性を口説く」、「日本人は勤勉である」というように、私たちは目の前に現れる人間や物事を自分自身の経験や持っている知識によって、分類しがちである。つまり、対象を様々なカテゴリーに分類し、そのカテゴリーに属する人間・物事が共通して持っている特徴や性質は目の前の対象も持っていると思いがちである。金水(2003)は、役割語はまさに言語上のステレオタイプであると指摘した。現実では勤勉でない日本人も多くいる。つまりステレオタイプは現実とは必ずしも一致する

わけではない。そのため、役割語(=言語上のステレオタイプ)も同然、現実とはかけ離れているのである。

上述した役割語の定義と特徴によれば、本論文の対象となる「疑似古語」は「役割語」の範疇に入っていると考えられる。つまり、「疑似古語」は現代人が想像した「過去の時代」という仮想空間に存在する「ヴァーチャルな古語」と言える。金水(2003)は、役割語を用いるキャラクターを分類する際に、「過去の時代の人(武士、公家等)」という一つのグループが挙げた。更に、このグループを「外国人(西洋人、黒人、中国人)」グループ、「人でないもの(神、幽霊、妖精、宇宙人、ロボット等)」グループと一緒に、「異人」と呼び、つまり現代の日本人ではない存在として位置づけている。これらのキャラクターは、現代の日本人ではないため、用いる言葉づかいも非現代日本語でなくてはならない。全体的には現代日本語のように見えても、「わたし、知ってるあるよ」のように、必ずどこか異質な部分が存在する。役割語が、ヴァーチャルな言語表現でありながら、現代社会（特にフィクション作品）で頻繁に用いられる一つの重要な条件となるものは、言語共同体の中でその役割語に対する知識が共有されていることである。つまり、役割語の発達は大衆メディアの発達と深く関わっていると言える。

金水(2007a)は、「役割語は、人の属性と結びついたスピーチスタイルであるから、役割語について考察する場合は、属性面と言語面の双方からアプローチしなければならない(金水2007a:1)」と提示した。属性面については、以下のように示している。

- 年齢：幼児、少年・少女、青年、壮年、熟年、老年等
- 性別：女、男、男性的女性、女性的男性等
- 社会的階層・職業：下層・上層、知識人、芸術家、事務員、肉体労働者、農民、漁民、商売人、やくざ、学生、暴走族、体育会系等
- 地域性：都会人、田舎者（方言話者）、大阪人・関西人、九州人（博多者、鹿児島人等）、土佐人等
- 国籍・人種：外国人（西洋人）、中国人、黒人、“アメリカ・インディアン”等
- 時代：武士、江戸っ子、大名、公家、王様、お姫様等
- その他：宇宙人、ロボット等

この中の時代というグループが本論文の「疑似古語」に当てはまる。ただ、「役割語」は主にある特定の人物像とある特定の言葉づかいとの関係を強調するため、ここでは「侍言葉」、「江戸っ子言葉」、「公家言葉」のように、人物像ごとに分けている。また、本論文は現代のフィクション作品に存在するすべての人物像はまず「古代」と「現代」の二つの大きなグループに振り分けることができている。例えば、「武士」は「古代グループ」に属し、「ロボット」は「現代グループ」に属する。しかし両方のグループに属する人物像も多くある。例えば、古代のお姫様と現代のお姫様、古代の農民と現代の農民、古代の中国人と現代の中国人などのように、所属する時代が古代か現代によってそれぞれの言葉づかいも異なる。つまり、「古代グループ」に属する人物像の言葉づかいは「現代グループ」に属する人物像の言葉づかいと根本的な違いが存在すると思われる。したがって、本論文では「疑似古語」という概念を提唱し、「古代グループ」に属するすべての人物像の言葉づかいを一つの大きなジャンルと見なす。この「古代グループ」に属する人物像たちには共通して用いる「疑似古語」もあれば、属性や性格によって、ある人物像専用の「疑似古語」もあると考えられる。

金水は言語面においては、個別言語によって大きく異なるが、日本語の場合は、「役割語」が現れやすい部分として、「人称代名詞」と「語尾の表現」が挙げられている。他の役割語の形成に関わっている要素も提示されている。以下は金水(2007a)より引用したものである。

- (1) 人称代名詞(特に1人称)：わたし、わたくし、あたし、あたい、わて、わし、わい、あちき、あっし、おれ、おれさま、おら、おいら、ぼく、ぼくちゃん、うち、われ、拙者、それがし、まろ、朕

## (2) 語尾の表現

- 断定の助動詞：だ、です、である、でございます、でござんす、でござわす、  
 でごんす、でやす、でやんす、でありんす、じゃ、や、  
 でおます、だす、どす、にて候、なり  
 終助詞：わ、よ、ね、のう、ぜ、ぞ、わい

### (3) その他の言語面の要素

①語彙面

- ・（狭義）敬語（尊敬語、謙譲語、丁寧・丁寧語）の使用・不使用、また敬語の段階。
- ・美化語、雅語、卑語の使用・不使用：お～、ご～、めし、あほ、～やがる等

- ・ 漢語、外来語の使用頻度
- ・ 専門用語、業界用語、ジャーゴン、略語等の使用・不使用
- ・ 感動詞、笑い声、生理音等：あら、おい、こら、うむ、おお、ははは、うふふ、きゃー等

②文法・語法的側面

- ・ 助詞の省略・非省略:「水がほしい」 vs. 「水  $\phi$  ほしい」
- ・ 言いさし表現の使用:「あたし……うれしくて……」
- ・ ピジンの特殊語法:「時間無いアル、早く払うヨロシ」

③音声的側面

- ・ 音便、母音融合、音素の脱落・挿入等:「知らねえ」「そりゃあそうだ」、「行くのだ」 vs. 「行くんだ」等
- ・ アクセント、イントネーション
- ・ テンポ・雄弁さ
- ・ 声質：咽頭のゆるみ、緊張等

④語用論、ディスコース的側面。

- ・ 命令形の使用・不使用:「やめろ」「やめてくれ」 vs. 「やめて」「やめてちょうだい」
- ・ 講義的口調の有無
- ・ 感嘆文の使用の多寡
- ・ 話題の選択権

金水が提唱した「役割語」の概念によって、「疑似古語」を含め、現代のフィクション作品に存在するさまざまなステレオタイプ化された言葉づかいは一つのジャンルとして確立され、語彙、音声、語法、方言などの言語学諸分野や、日本語教育、翻訳、対照言語学などの分野においても、さまざまな研究が行われている。しかし、それらの中で「疑似古語」についての研究はまだ見られない。

## 1.4 本研究の目的

1.3で述べたように、「疑似古語」に関する研究は、日本語の場合、小規模の考察しか行われておらず、日本語の「疑似古語」の全体像を掴むにはまだ不十分だと思われる。中国語の場合は、多くの「疑似古語」が使用されているにも関わらず、それに関する研究はま



だ見られない。両言語の「疑似古語」は具体的にいつ、どこから、どのように生まれてきたのか、個々の「疑似古語」の由来や、意味用法の歴史的変遷などの通時的研究も興味深い。本研究では、まず現存する「疑似古語」の全体像についての調査を行いたい。つまり、現在(主に21世紀以降)日中両言語において、主にどのような言葉づかいは「疑似古語」として用いられているのか、そして作品では実際どのように使用されているのかなどの傾向を明らかにしたい。「役割語」(「疑似古語」も含め)の知識は、日本で育った日本人なら特に勉強しなくても自然に身に付けることができるが、外国で日本語を勉強している学習者にとっては、その習得は容易なものではない。しかし、「役割語」の知識は日本社会と文化をより深く理解するための重要な要素であり、外国語教育の多様化の傾向に対応するためにもいち早く授業に導入すべきである。よって、本研究が目指している最終的な目標は「疑似古語」を外国語としての日本語教育と中国語教育に導入することであり、そのための現状調査及び将来の運用のための分析が本論文の主な目的である。また現在、日中間で時代もののフィクション作品の交流が盛んに行われているが、翻訳の現状については、まだ把握できておらず、日中両言語の「疑似古語」が実際どのように翻訳されているのか、問題点はないのかを明らかにすることが本研究のもう一つの目的である。本研究の目的をまとめると、以下のようになる。

一、現代日本語と現代中国語のそれぞれの「疑似古語」の使用様相を明らかにする。

本論文はまず両言語の「疑似古語」の全体像を掴むべく、小説だけではなく、映画やテレビドラマ、サブカルチャー作品(漫画・アニメ・ライトノベル・ゲームなど)まで、現存の様々なメディアから幅広く「疑似古語」の収集を行う。その中の代表的なものについて、まずそれらが現代の国語辞書でどのように扱われているのかを調査する。そして、その中の代表的な「疑似古語」が現代の時代もののフィクション作品では実際どのように用いられているのかを、言語面の特徴だけではなく、登場人物の性格や使用場面との関連性も含めて、詳しく考察する。

二、日中両言語の「疑似古語」について、いくつかの視点から比較考察を行う。特に中国人日本語学習者と日本人中国語学習者が頻繁に利用する日中・中日辞書において、「疑似古語」はどの程度収録されているか、そして収録されている語についてどのように解釈しているのかを調査する。そして、それらの記述が「疑似古語」の習得に役に立っているのか、学習者にどのような影響を与えているのか、両国で出版された日中・中日辞書数種類を比較することによって明らかにする。

三、日中両言語のそれぞれの「時代もののフィクション」作品とその翻訳本を用いて、「疑似古語」の翻訳の現状、問題点の有無を調査する。そして、問題点が確認できた場合は、その解決策を探る。

### 1.5 「疑似古語」の選定方法

本研究では、「疑似古語」の全体像を掴むことが主な目的なので、一つのメディアや作家に限定せず、できる限り多様なメディアと、異なる作家の作品から、多方面にわたって候補語を収集するという方法を用いる。日中両言語のそれぞれの「疑似古語」の収集と選定のプロセスは以下の通りである。

#### 1.5.1 日本語の場合

##### 一、候補語の収集

以下二つの資料体から候補語を収集する。

①1970年代以降出版された時代小説や時代劇の用語についての解説書<sup>15</sup>。

②1970年代以降初出版、初放送された時代もののフィクション作品。

作品の詳細は付録の「日本語作品一覧」にまとめて提示する。収集にあたっては、「疑似古語」の定義に照らして、執筆者がまず暫定的に古めかしいと感じた言葉づかいを候補語とする。

##### 二、候補語より「疑似古語」の選定

収集した136語の候補語の中から、本論文で扱う「疑似古語」を選定するのに際して、可能な限り客観性をたもつため、以下二つの選定方法によって、日本語「疑似古語」であるかどうかを決める。

①現代日本語コーパス<sup>16</sup>でメディアを書籍と雑誌に指定し、ジャンルを「文学」に指定する。さらに期間を1970年代以降に指定してから、すべての候補語を検索にかける。検索結果は下記図1-2のように表示されている。まず、全検索結果から台詞(「」に囲まれている文)で用いられる用例だけを取り出し、その作品が時代もののフィクション作品であるかどうかをタイトルや副題から判断する。それだけでは判断できない場合は、インターネットで作品の詳細を検索し、時代もののフィクション作品であるかどうかを調べる。そして、ある語が出現した全作品中の7割以上が時代もののフィクション作品

<sup>15</sup> 『日常生活で使ってみたい「侍」の日本語』(市川スガノ)、『武士語でござる』(八幡和郎)、『武士語で候』(もんじろう運営委員会)、『使ってみたい武士の日本語』(野火迅)。

<sup>16</sup> 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ: Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese)  
<http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/> (2013年3月16日最終アクセス)

であれば、その語を「疑似古語」と見なす。ただし、1.2.1で提示した、「疑似古語」だけではなく、現代語としても用いられる一部の多義語などの場合は、現代語としての用法と「疑似古語」としての用法が異なるため、語義別または用法別に作品の種類を判断する必要がある。それについては、すべての語義と用法のうちにある語義と用法の用例の7割以上が時代もののフィクション作品からの用例であれば、その語を「疑似古語」と見なす。

図1-2 「おぬし」の検索結果の表示画面の一例

表示 番号	前文脈	検索文字列	後文脈	執筆者	生年代	性別	メディア ／ジャンル	タイトル	副題	巻号	編著者 等*	出版者	出版 年
333	寄ってみた。卯之吉は、小屋の軒下に腰を下ろして餌作りに使う刃物を研いでいた。「	おぬし	、大層腕を上げたな。なんぞ夜釣りの秘法でもあったら、教えてくれや。」半兵衛はそ	三浦 哲郎(著)	1930	男	書籍/9 文学	昭和文学全集		第23巻	井上靖  ほか編	小学館	1987
332	士は、笠の縁を押さえたままで、やくざたちを見回して言った。「老婆の言った通りだ。	おぬし	たちは、大手を振って歩ける立場じゃない。さっさと消えることだ」「なんだと」揉み	大栗 丹後(著)	1920	男	書籍/9 文学	裏隠密踏む	二条左近 無生剣		大栗丹 後 著	春陽堂 書店	2003
331	なずき)蓮如どの。蓮如 なんじゃ。備後法師 では、ひとつ、こうしよう。さっきから	おぬし	、親鸞聖人がどうの、他力がどうのと言っておるが、わしにはどうもさっぱりわからぬ。	五木 寛之(著)	1930	男	書籍/9 文学	蓮如	われ深き淵より		五木寛 之 著	中央公 論社	1995
330	を躲すことはできぬ。わかっていような。しかし、おぬしはわしの敵方ではなさそうだ。	おぬし	のすすめに従って、しばし眠ろうか」「ごゆるりと、おやすみなさいまし」妖之介は	峰 隆一郎(著)	1930	男	書籍/9 文学	虚陰十郎 必殺剣	傑作長篇 時代小説		峰隆一 郎 著	廣済堂 出版	1998

- ② ①の方法を用いて、語レベルと文レベルの「疑似古語」の大部分は選定できるが、中には①の方法で判断することが難しいものが存在する。例えば、「夫婦」を漢字で検索すると、「夫婦」の用例との区別がつかない。しかし、平仮名で検索すれば用例が出てこないというケースもある。また、文法レベルの「疑似古語」の選定にも①の方法が向いていないと思われる。このように、①の方法で判断できない場合は、日本人母語話者複数人<sup>17</sup>に直接確認する手段を取る。全員が「古めかしい、現代の話し言葉ではほとんど使用しない」、「時代劇でよく使用するイメージがある」などのようなコメントをしたら、その語を「疑似古語」と見なす。

<sup>17</sup> 60代1人、50代3人、40代1人、30代3人、20代2人。

### 1.5.2 中国語の場合

#### 一、候補語の収集

中国語の場合は、時代小説や時代劇の用語についての解説書は執筆者の調べた限りではまだ出版されていないため、中国語母語話者である執筆者の語感から、20世紀70年代以降初出版、初放送された時代もののフィクション作品の台詞のうち、古めかしいと感じた言葉づかいを候補語として96語を抽出する。作品の詳細は付録の「中国語作品一覧」を参考する。

#### 二、候補語より「疑似古語」の選定

日本語と同様、現代中国語のコーパスと中国人母語話者に直接確認するという二つの方法を用いて、中国語の「疑似古語」を選定する。選定のプロセスは日本語と基本的に同じである。しかし、中国語のコーパスには用例の作品情報が示されていないものが多く、時代もののフィクション作品からの用例であるかどうか判断できない場合もある。したがって、コーパスの検索結果は一つの参考として、中国人母語話者複数人<sup>18</sup>に直接確認するという方法を主な選定方法とする。

---

<sup>18</sup> 70代1人、60代2人、50代2人、40代2人、30代1人、20代2人。

## 第二章 日本語における「疑似古語」

### 2.1 国語辞書における「疑似古語」の扱い

日本の国語辞書は日本語母語話者に利用されているだけでなく、日本にいる日本語学習者(特に上級レベルの者)にも頻繁に利用されている。また、他国で日本語辞書を編纂する際にも日本の国語辞書を参考することは多いため、日本国外にいる日本語学習者にも間接的に影響を与えている。つまり、日本語の国語辞書がどのように「疑似古語」を扱っているかによって、外国人日本語学習者の「疑似古語」についての認識も変わってくると考えられる。したがって、「疑似古語」の実際の使用様相を考察する前に、まず現代語の国語辞書における語レベルの「疑似古語」の扱いについて調査し、現状や問題点を明らかにしておく必要がある。

#### 2.1.1 「古風」と注記される語

まず数種類の現代語国語辞書を確認した結果、複数の辞書では一部の語は「古風」と注記されていることが分かった。「古風」とは古めかしいという意味であり、「疑似古語」の主な特徴は読者・視聴者に「古めかしさ」を感じさせられることである。したがって、国語辞書で「古風」と注記される語と本論文で言う「疑似古語」とは同じものの可能性もある。そこで、本節では、まず国語辞書において、どのような語が「古風」と注記されているのか、また本論文の研究対象となる「疑似古語」とどのような関係にあるのかを明らかにしたい。現在市販されている最新小型<sup>19</sup>国語辞典14種類<sup>20</sup>の中で、語の項目に「古風」の注記が見られるものは9種類あるが、この9種類の辞書をすべて調べることは非常に困難である。また、本調査の目的は各辞書における「古風」と注記される語の具体的な比較考察ではなく、どのような語が「古風」と注記されるのかの全体的傾向を見ることであるため、今回は執筆者の手元にある出版社が異なる二種類の国語辞書を用いることにした。『三省堂国語辞典(第六版)』(以下『三省堂』と略す)と『岩波国語辞典(第七版)』(以下『岩波』

<sup>19</sup> 小型辞書とは、10万語以下の収録語数の辞書を指す。小型を使用する理由は、中型以上の辞書となると、現代語だけではなく、古語も多く収録されているため、調査に相応しくないと考えられるためである。

<sup>20</sup> 『角川新国語辞典』(1993年)、『現代国語例解辞典第四版』(2005年)、『新選国語辞典第九版』(2011年)、『三省堂国語辞典第六版』(2008年)、『岩波国語辞典第七版』(2009年)、『新明解国語辞典第七版』(2012年)、『新潮現代国語辞典第二版』(2000年)、『集英社国語辞典第三版』(2012年)、『明鏡国語辞典第二版』(2010年)、『三省堂現代新国語辞典』(2011年)、『旺文社国語辞典第十版』(2005年)、『角川必携国語辞典』(1995)、『学研現代新国語辞典改訂第五版』(2012年)、『ベネッセ新修国語辞典第二版』(2012年)

と略す)である。この二冊の国語辞書から、「古風」と注記されているすべての語を抽出した結果、『三省堂』は合計189語あり、『岩波』は合計277語があった<sup>21</sup>。以下、それぞれの「古風」と注記される語について考察を行った上で、両辞書の語を比較し、「古風」に対する認識が一致するかどうかを明らかにする。

### 2.1.1.1 『三省堂』の場合

『三省堂』の場合は、全体の収録項目数約八万のうち、「古風」と注記される項目数は189語(表 2-1)がある。

表 2-1: 『三省堂』における「古風」と注記される語の一覧

あいびき【逢引・媾曳】	そやつ【其奴】	ふわけ【腑分け】
あさげ【朝餉】	ぞんじ【存じ・存知】	ほいない【本意ない】
うえつかた【上つ方】	だいじょうぶ【大丈夫】	ぼう【坊】
おう【応】	たしなむ【嗜む】	ほうこう【奉公】
おかた【御方】	たてまつる【奉る】	ほえる【吠える・吼える】
おぬし【御主】	たなこ【店子】	ほろう【歩廊】
おる	たまう【給う】	まし
がいとう【外套】	だん【段】	まする
かえす【返す】	ちちご【父御】	まちどお【待ち遠】
かごん【過言】	ちゃん	まちのしんし【街の紳士】
がつてん【合点】	ちゅうじき【昼食・中食】	まにあう【間に合う】
かならず【必ず】	ちよく【直】	まぶ【間夫】
かまえて【構えて】	つかまつる【仕る】	まみえ【眉】
かやつ【彼奴】	つかわす【遣わす】	みずあび【水浴び】
かわや【厠】	て	みずがし【水菓子】
かわゆい	であう【出合う】	みそ【味噌】
かんがえ【考え】	てづま【手妻】	みども【身共】
かんがく【官学】	てんしゅきょう【天主教】	みなものしゅう【皆の衆】
かんじゃ【間者】	とうじ【当時】	みめ【見目】
きつと	とうせつ【当節】	みめよい【見目好い】
きんす【金子】	どうつかまつりまして	みょうもく【名目】
くださんす【下さんす】	とこや【床屋】	みょうり【冥利】
くらす【暮らす】	ところ【所・処】	むぎゆ【麦湯】
げす7	としばえ【年延え】	むらおさ【村長】
ゲル	とど	めおと【夫婦】

<sup>21</sup> 執筆者の目視による調整のため、少々誤差があると思われる。

けんおんき【検温器】	どん	めかけ【妾】
ここな【此处な】	ない	メッチェン
こごめる【屈める】	なにやつ【何奴】	めでたい【目出度い・芽出度い】
ござります【御座ります】	なら	もうさば【申さば】
ござる【御座る】	ならん	もうしきける【申し聞ける】
ござんす【御座んす】	なれば	もうす【申す】
ごしんぞう【御新造】	なんぞ【何ぞ】	もそっと
ごぜ【御前】	なんでも【何でも】	もつ【持つ】
こたび【此度】	なんど	もどす【戻す】
こやつ【此奴】	ぬし【主】	ものども【者共】
ごろうじる【御覧じる】	ぬすびと【盗人】	もみりょうじ【揉み療治】
ころおい【頃おい】	ぬれごと【濡れ事】	もる【盛る】
こんにち【今日】	ねぶる【舐る】	やくざ
さい【妻】	はつめい【発明】	ヤソ【耶蘇】
さいきん【最近】	はなよめ【花嫁】	ヤソきょう【ヤソ教】
ささ【酒】	はばかりさま【憚り様】	やつばら【奴原】
ざとう【座頭】	ははご【母御】	やめる【病める】
さわやま【沢山】	ばら【輩・原】	やれ
しゃくせん【借錢】	はらさんざん【腹散散】	やれる【破れる】
しゃくふ【酌婦】	ハンケチ【名】	やわら【柔ら】
シャッポ	はんちく【半ちく】	やんや
しゅじん【主人】	ビードロ	ゆくたて【行く立て】
じょう【滋養】	ひかず【日数】	ゆどの【湯殿】
じょうふ【情夫】	ひきあけ【引け明け】	ゆや【湯屋】
じょうふ【情婦】	ひたぶる	よ【余・予】
じょきゅう【女給】	ひつじょう【必定】	よう
すいさん【推参】	ひょうじょう【評定】	ようこう【洋行】
ずいぶん【随分】	ふうし【夫子】	ようよう【漸う】
セコンド	ふぐり	よくぞ【良くぞ】
せっしゃ【拙者】	ふじょ【婦女】	ランデブー
せっちん【雪隠】	ふじよし【婦女子】	リーベ
そうし【壮士】	ふため【不為】	りょうけん【了見・料簡・了簡】
そうろう【候】	ふづくえ【文机】	るり【瑠璃】
そち【其方】	ぶどうしゅ【葡萄酒】	レッテル【名】
そなた	ふばこ【文箱】	ろぎん【路銀】
そのほう【其の方】	ぶばる【武張る】	わい
そもじ【其文字】	ふりる【古りる】	わらわ【妾】

注記の仕方は、下記に示したように、語義が一つの場合は品詞の後に、語義が二つ以上の場合は該当語義の最初の部分に「〔古風〕」と注記される。

- せっしゃ[拙者](代)〔古風〕 武士などが自分をけんそんして言ったことば。わたくし。
- たしな・む[嗜む](他五) ①好きなことをする。「俳句を一」 ②心がける。「少したしなんでおまして」 ③〔古風〕(身を)つつしむ。「ちと、たしなみなさい」

〔古風〕という表記は、第六版より新たに加われた位相項目であり、『三省堂』は「年配者の話しことば、小説の台詞、落語・時代劇などに出てくる古めかしいことばは、〔古風〕としてしめました。」<sup>22</sup>との説明がある。これにより、「疑似古語」も「古風」の項目に含まれていることが分かった。新設した「古風」の項目に属する語は今までどのように扱っていたのかを知るために、第五版での説明を調べてみた。「古風」と注記される前に、以下のように扱われていた。

- (1)「文語」として扱われていた語。例えば「朝餉」「問者」「ござる」「そなた」など。
- (2)「古い言い方」または「古風な言い方」という注記があった語。例えば「おぬし」「ござります」「こやつ」「夫婦<sup>めおと</sup>」など。
- (3)収録されていなかった語。「こたび」と「まし」の2語。

このように、第五版では一部の語に対して「古風な言い方」という注記も見られたが、多くの「疑似古語」は「文語」として見なされた。第五版の時点では「疑似古語」に対する認識はまだはっきりとしていないと言える。第六版で「古風」の項目を新設することは、「疑似古語」は従来の「古語」や「文語」とは異なるものであると認識するようになったと言える。これは一つの進歩であるが、しかし古めかしいという共通点を持っているからと言って、「疑似古語」を「年配者の話しことば」と同様に「古風」として扱うことはまったく問題ないと言えるだろうか。まず、同じ「古風」でも、「疑似古語」と単なる「古めかしい」語の使用頻度には明らかな差が見られる。表 2-1 から「疑似古語」と思われる語とそうでない語に対して、現代日本語コーパスにおける使用頻度を調査し、それぞれ上位 10

<sup>22</sup> 『三省堂国語辞典第六版』「この辞書の使い方」p. (15)より。



語の使用頻度を表 2-2 に示した<sup>23</sup>。「疑似古語」の全体的な使用頻度は、それ以外の「古風」の語より高いということが分かる。そして、「疑似古語」の語はこれからも時代もののフィクション作品の中で受け継がれていくため、時代ものというジャンルが消滅しないかぎり、「疑似古語」の使用頻度もさほど下がらないと思われる。一方、それ以外の「古風」の語は単なる「古い表現」として、時間が経つにつれ廃れていくであろう。将来性という視点から考えると、今後も用いられ続ける「疑似古語」と今後は消滅する可能性が大きい語を別々に扱うべきだと主張したい。

表 2-2: 上位 10 語の使用頻度の傾向

「疑似古語」	使用頻度	「疑似古語」ではない「古風」の語	使用頻度
まする	1247	がいとう【外套】	259
そなた	762	レッテル	227
ござる	555	かわや【厠】	151
ござります【御座ります】	515	ぶどうしゅ【葡萄酒】	131
おぬし【御主】	478	ゆどの【湯殿】	97
がってん【合点】	270	じょう【滋養】	94
そち	230	ふじょ【婦女】	77
せっしゃ【拙者】	229	ハンケチ	66
ぬすっと【盗人】	154	ゆや【湯屋】	62
ござんす	108	そうし【壮士】	61

「疑似古語」を他の古めかしい語と同様に扱うことは、国語辞書を利用する日本語母語話者にとっては、実際には大した不便がないと思われる。なぜなら、日本語母語話者には様々なメディアからすでに「疑似古語」の知識が刷り込まれているため、語感だけで「疑似古語」とそれ以外の「古めかしい語」の区別がある程度分かるためである。しかし、外国人学習者にとっては、両者を区別するのは非常に困難なことである。また、日本の国語辞書は外国語学習用辞書が編纂される際にも頻繁に参考として用いられるため、日本語教育の視点からもより精密な分類が行われることが望ましいと考えられる。なぜなら、小説、漫画・アニメ、映画、テレビドラマでよく見かける「疑似古語」は「検温器」や「リーベ」のような「死語」になりつつある語より、日本語学習者に教える価値が遥かに高いからである。

<sup>23</sup> 多義語の場合は、「疑似古語」ではない用法も含まれるため、全ての語義が「古風」とされる語のみについて調べる。なお、全体的な使用傾向を見るため、メディアとジャンルなどを指定していない。

## 2.1.1.2 『岩波』の場合

『岩波』の場合は、全体の収録項目数約六万五千のうち、「古風」と注記される項目数は277語(表2-3)がある。『三省堂』と比べて、全体に占める割合は少し高い。

表2-3: 『岩波』における「古風」と注記される語の一覧

あいやく【相役】	ささわり【障り】	なにさま【何様】
あいろ【文色】	さしまねく【差し招く・磨く】	なにとて
あつかい【扱い】	さと【里】	ならぬ
あつかう【扱う】	さり	なんじょう
あとげつ【後月】	ざれうた【戯(れ)歌】	なんだ
あやにく【生憎】	さんがい【三界】	にえぎも【煮え肝】
ありうち	じきげ【直下】	にしあかり【西明かり】
あんずるに【案ずるに・按ずるに】	しこ【四顧】	にちじょう【日乗】
いえもち【家持ち】	しご【死期】	によしょう【女性】
いかい	じする【辞する】	によにん【女人】
いかさま【如何様】	しそう【詞宗】	にんじょう【刃傷】
いかん	しっかい【悉皆】	の
いきせき	じっしょう【実正】	のう
いずれ【何れ・孰れ】	しなだま【品玉】	ばうて【場打て】
いたごと【痛事】	じぶん【時分】	はしため【端女】
いっこう【一向】	しまつ【始末】	はたまた【将又】
いでたち【出で立ち】	しゃぎ【謝儀】	はつだ【発兌】
いと	じゃけん【邪見】	はつめい【發明】
いな【異な】	しゅんじょう【春情】	はばかりさま【憚り様】
うせもの【失せ物】	じゅんりょう【淳良】	はばかりながら【憚りながら】
うせる【失せる】	しょうがい【生害】	ははじゃびと【母者人】
うちつけ	しょうかん【小官】	はむしゃ【端武者・葉武者】
うちのひと【内の人】	しょうじ【粧次】	ばんけい【晩景】
おおみよ【大御代】	しょくりょう【食料】	ばんじょう【番匠】
おこ【烏滸・尾籠】	しょげん【諸彦】	ひがごと【僻事】
おこう【汚行】	しょとく【所得】	ひきずり【引(き)摺り】
おそなわる【遅なわる】	じょぶく【除服】	ひひ【比比】
おなじくは【同じくは】	しよわけ【諸訳】	ひりん【賁臨】
おもんみる【惟る】	しらきちょうめん【白几帳面】	ひろいあるき【拾い歩き】
かいしき	しろっぱい【白っぽい】	ひろう【拾う】
かいしょう【回章・廻章】	しんがく【進学】	ふうぎ【風儀】
かいらん【回覧・廻覧】	しんじょう【進上】	ぶじ【無事】

かくし【隠し】	すかす【賺す】	ふししずむ【伏し沈む】
かくや【斯くや】	すすどい	ぶねん【無念・不念】
かくん【家君】	すれあう【擦れ合う】	ぶへん【武辺】
かけい【家兄】	せいしよく【声色】	ぶま
かしこきあたり【畏き辺り】	せいはい【儕輩】	ふろく【不陸】
かしこくも【畏くも】	せぎる【瀬切る】	ほど【程】
かたみがわり【互替(わ)り】	せっかく【折角】	ほんに【本に】
がな	せっしゅう【接収】	まいる【参る】
かふ【家父】	せんきょ【占拠】	まかりならぬ【罷り成らぬ】
かぼ【家母】	ぜんこ【全戸】	まぶ【間夫】
かほど	せんこう【先考】	まましい【継しい】
かまえて【構えて】	ぜんざい【善哉】	まみ【目見】
がまん【我慢】	せんばん【千万】	まめやか
かめい【下名】	ぜんぶ【全部】	みじんまく【身慎莫】
かよう【斯様】	せんぷく【先腹】	みせがかり【店懸(か)り】
からめる【搦める・絡める】	ぞくする【賊する】	みたり【三人】
かんばつ【簡拔】	そち【其方】	みちのべ【道の辺】
きこえる【聞こえる】	そなた【〈其方〉】	みっかい【密会】
ぎじょう【議定】	そらなき【空泣き】	みつき【見付き】
きほよう【気保養】	それ【其(れ)】	みめ【見目】
きゃん【俠】	たいき【大気】	みもち【身持ち】
きょうほん【教本】	だいこう【乃公】	むかしがたり【昔語り】
きれはなれ【切れ離れ】	たいじん【大人】	むさい
きんしん【近信】	たいぜい【大勢】	むやく【無益】
くさめ【噓】	だいふ【乃父】	めんめん【面面】
くちおしい【口惜しい】	たいほう【大方】	めんよう【面妖】
くにびと【国人】	たしなむ【嗜む】	もぎどう【没義道】
ぐんばい【軍配】	たたむ【畳む】	ものども【者共】
けいさい【継妻】	たびもの【旅物】	やうち【家内】
けいはい【軽輩】	たまざん【玉算・珠算】	やくぎ【役儀】
けいはく【軽薄】	たんかん【単簡】	やくだい【薬代】
けいろ【径路・逕路】	だんこん【男根】	やしなう【養う】
げじき【下直】	ちかまわり【近回り・近廻り】	やつばら【奴原】
げせる【解せる】	ちと	ゆうけい【夕景】
けそう【懸想】	ちゅうじき【昼食・中食】	ゆうし【遊子・遊士】
けっく【結句】	つ【唾】	ゆめさら【夢更】
けっこう【結構】	つかさ【司・官】	ようど【用度】
けんご【堅固】	つけびと【付け人】	よがら【世柄】

げんしょう【絃誦】	つけぶみ【付け文】	よごころ【世心】
けんどん【慳貪】	つのめだつ【角目立つ】	よこみち【横道】
けんぱく【建白】	て	よさり【夜さり】
こうじき【高直】	であう【出合う】	よしない【由無い】
こかんじゃ【小冠者】	ておもい【手重い】	よしなに【良しなに】
こくぼ【国母】	てんうん【天運】	ようりく【揚陸】
ここもと	どうぞ	よのぎ【余の儀】
こころぐま【心隈】	とうじ【当時】	よめご【嫁御】
ござなく【御座なく】	とうふく【当腹】	よめじょ【嫁女】
こしゅ【故主】	どうやく【同役】	らいか【雷火】
ごじん【吾人】	とうりゅう【当流】	らぎょう【裸形】
ごじん【御仁】	どうりゅう【同流】	らっき【落暉】
ことごと【事事】	どち	ラムネ
こなた【此方】	とと	りょうきやつき【両脚規】
ごねる	となり【隣】	りんき【恪気】
ごのう【御悩】	とのご【殿御】	れいしゃ【礼者】
これ	とりつめる【取（り）詰める】	ろうせい【老生】
ころおい【頃おい】	とんち【頓智・頓知】	ろうだい【老台】
こわつき【声つき】	なぐさむ【慰む】	ろぎん【路銀】
こわっぱ【小童】	なおる【直る】	わい
さい【妻】	など	わざくれ
さいくん【細君・妻君】	なにがさて	
さいじょ【妻女】	なにがな	

実際の注記は、下記の例のように、「▽」マークで示されている。『岩波』の説明によると、「▽」による注記は、「語源・原義、故事、類義語との区別、用法上の注意、語形のゆれ、外来語の原つづりなど、多角的な補足説明」<sup>24</sup>である。

- あいろ【文色】ものの区別。けじめ。「一がつかぬ」▽既に古風。
- いでたち【出で立ち】①（外出する時の）身なり。装い。「たいそうな一だ」②旅立ち。しゅったつ。▽古風。

また「古風」の他に、「既に古風」、「やや古風」、「古風な言い方」、「古風な語」、「～より古風」という類似表現がいくつか存在するが、それぞれの違いについての説明が

<sup>24</sup> 『岩波国語辞典第七版』「凡例」p. 10 より。

ないため、本調査ではまとめて「古風」として扱う。『三省堂』のように、どのような語を「古風」と注記するかについての明確な説明がないが、『岩波』第七版の冒頭では、「収録語の原則的範囲について、現今の感じで古くさくなっている、明治二十年ごろ以降で昭和中期まで普通に使われたものは、採用する方針を再確認した。」<sup>25</sup>という記述から、昔は使われていたが現在はほとんど使われていない「廃れた語」が「古風」と注記されていると推測される。現代日本語コーパスBCCWJで277語の使用頻度を検索した結果、該当数が0の語は93語があった。『岩波』の「古風」と注記されている語の中に「疑似古語」が入っているのか、また、それはどれくらいの割合を占めているのかについては、2.1.2節で詳しく考察する。

### 2.1.1.3 『三省堂』と『岩波』の比較

本節では、表2-1と表2-3に挙げた両辞書のそれぞれの「古風」と注記される語に対して、具体的な比較分析を行う。今までの考察から、両辞書で「古風」という注記の扱いにある程度差が存在することが分かったが、その差がどれくらいあるのかについてはまだ不明である。また、一方で「古風」と注記される語が、他方の辞書ではどのように扱われているのかについても明らかではない。

#### I 両方で「古風」と注記される語

『三省堂』と『岩波』の両方において「古風」と注記される語を表4にまとめた。両方で「古風」と注記される語が当初の予想以上に少なく、わずか18語であった。両辞書における「古風」に対する認識の差がかなり大きいことが分かった。

表2-4: 両辞書において両方「古風」と注記される語

かまえて【構えて】	て	みめ【見目】
ころおい【頃おい】	であう【出合う】	ものども【者共】
さい【妻】	とうじ【当時】	やつばら【奴原】
そち【其方】	はつめい【発明】	ろぎん【路銀】
そなた【〈其方〉】	はばかりさま【憚り様】	わい
たしなむ【嗜む】	ひきあけ【引け明け】	
ちゅうじき【昼食・中食】	まぶ【間夫】	

<sup>25</sup> 『岩波国語辞典第七版』「第七版刊行に際して」p. 1 より。

## II 片方のみ「古風」と注記される語

片方の辞書のみで「古風」と注記される語について、もう片方の辞書においてどのような位相情報が付けられているかを調査した。その結果を表2-5に示す。

表2-5: 一辞書においてのみ「古風」と注記される語

	『三省堂』で「古風」と注記される語の 『岩波』での扱い	『岩波』で「古風」と注記される語 の『三省堂』での扱い
①収録なし	23語	109語
②語義なし	10語	20語
③位相なし	97語	54語
④文語	1語	81語
⑤雅語	1語	4語
⑥その他	36語	15語

## ① 収録されていない語

この傾向は『三省堂』のほうに多く見られる。つまり『岩波』で「古風」として注記されるが、『三省堂』では収録さえされていない語の数は109語ある。数は多くないが、『三省堂』の「古風」と注記される語の中に、『岩波』では収録されていない語も23語ある。その中にはBCCWJの検索でそれなりの使用頻度を示した語も存在する。例えば、かやつ【彼奴】(46)、もそっと(30)、セコンド(23)などである。

## ② 「古風」と注記される下位区分の語義が存在しない語。以下はその例である。

## ▲かならず【必ず】

『三省堂』：(副)①きっと。確かに。「－お送りします」②〔古風〕けっして。〔「かならずともに」とも〕「－気にしなさんな」

『岩波』：〔副/〕例外など一つも起こらずに。まちがいなく。きっと。確かに。「戦えば－勝つ」「隠しても－あらわれるものだ」「－返事をもらって来い」「晴れば－と言ってよいほど風が出る」「－のようにそうなる」

## ▲しょくりょう【食料】

『三省堂』：(名)たべもの。おもに主食をさすことば。糧食。

『岩波』：①食物（の材料）。②食事の代金。▽(2)は古風。

### ③ 位相情報がないもの

もう片方の辞典で位相情報らしい注記がまったく見られない語が多く、国語辞典における位相情報の記述の不十分さを垣間見ることができる。以下はその例である。

#### ▲ かんじゃ【間者】

『三省堂』：(名)〔古風〕まわしもの。スパイ。

『岩波』：敵方の様子をさぐる者。間諜。まわしもの。スパイ。

#### ▲ よめご【嫁御】

『三省堂』：(名) 嫁を尊敬した言い方。

『岩波』：嫁に対する敬称。▽かなり古風。

### ④ 「文語」と注記されるもの。

『岩波』で「古風」と注記される語のうち、『三省堂』では「文語」と注記されるものが6つのパターンの中でもっとも多く、97語見られる。一方、『岩波』で「文語」と注記される語は1語しかない。これは『岩波』において、「古風」以外の位相情報の項目が辞書全体から見ても非常に少なく、『岩波』が他の辞書に比べて収録語に位相情報を付与することに対して保守的であると言えよう。以下はその例である。

#### ▲ ひたぶる

『三省堂』：(形動ダ・副)〔古風〕ひたすら。例：ひたぶるにはげむ。

『岩波』：それに向けて激しく、いちず。▽文語的。

#### ▲ いな【異な】

『三省堂』：(連体)〔文〕へんな。妙な。「一ことを聞く・一もの」

『岩波』：〔連体〕妙な。変な。普通と変わっている。「これは一ことを承る」「縁は一もの」▽既に古風。

### ⑤ 「雅語」と注記されるもの。

今回の調査では6つのパターンの中で最も数が少ないが、「雅語」は元々古めかしいニュアンスを持っているため、「古風な言葉」とはっきり区別することが難しいと思われる。表1と表3の語をさらに『新明解国語辞典(第七版)』で調べてみた結果、「雅語」と注記される語が多数見られた。

#### ▲ あさげ【朝餉】

『三省堂』：(名)〔古風〕あさめし。「一のぜん(膳)に向かう」

『岩波』：あさめし。▽雅語的。

▲ いと

『三省堂』：(副)〔雅〕ひじょうに。きわめて。

『岩波』：『副〕きわめて。はなはだ。「それは一(も)たやすいことです」▽さらに強めて「いとど」(=「いといと」の転)とも言う。ともに、既に古風。

⑥ その他の注記

①～⑤のパターン以外に、「俗語」、「方言」、「仏語」、「近ごろ言わない」、などの注記も見られる。下はその例である。

▲ ほんに【本に】

『三省堂』：(副)〔方〕ほんとうに。いかにも。まったく。「一幸せなことです」

『岩波』：『連語〕本当に。まことに。「一よいお天気で」▽古風な言い方。

▲ よさり【夜さり】

『三省堂』：(名)〔方〕よる。よ。

『岩波』：よる。▽既に古風。「さり」は「去り」で時が自然にめぐり移る意。

▲ ゲル

『三省堂』：ゲルト(ドGel)〔古風〕〔学〕おかね。

『岩波』：『俗〕金銭。かね。ゲルト。「ゲルピン」(一文無し)▽ドイツ Geldから。

まとめ

以上の考察から、現代語の国語辞書に見られる「古風」と注記される語は、本論文の「疑似古語」と重なる部分もあるが、「疑似古語」ではない語も多く含まれていることが明らかになった。辞書によって「古風」と注記される語はかなり異なることも分かった。また、片方の辞書では「古風」と見なされる語が、もう片方の辞書では位相情報がなかったり、異なる位相情報を付けられたりするという不一致も分かった。このような位相情報の不一致は、日本語学習者を混乱させる恐れもあると考えられるため、各辞書は位相情報について再考する必要がある。特に「古風」、「文語」、「雅語」の三者に関しては、より熟慮した上で注記をつける必要があると思われる。



## 2.1.2 「疑似古語」の扱い

本節では、前節の考察で用いた『三省堂国語辞典第六版』と『岩波国語辞典第七版』の他に、『新明解国語辞典第七版』（以下『新明解』と略す）を新たに追加し、本論文の考察対象語となる語レベルの日本語「疑似古語」81語に対して、この三種類の国語辞書では具体的にどのように扱われているのかを調査する。表2-6はその結果の一覧である。

表2-6: 三種類の国語辞書における「疑似古語」の扱い

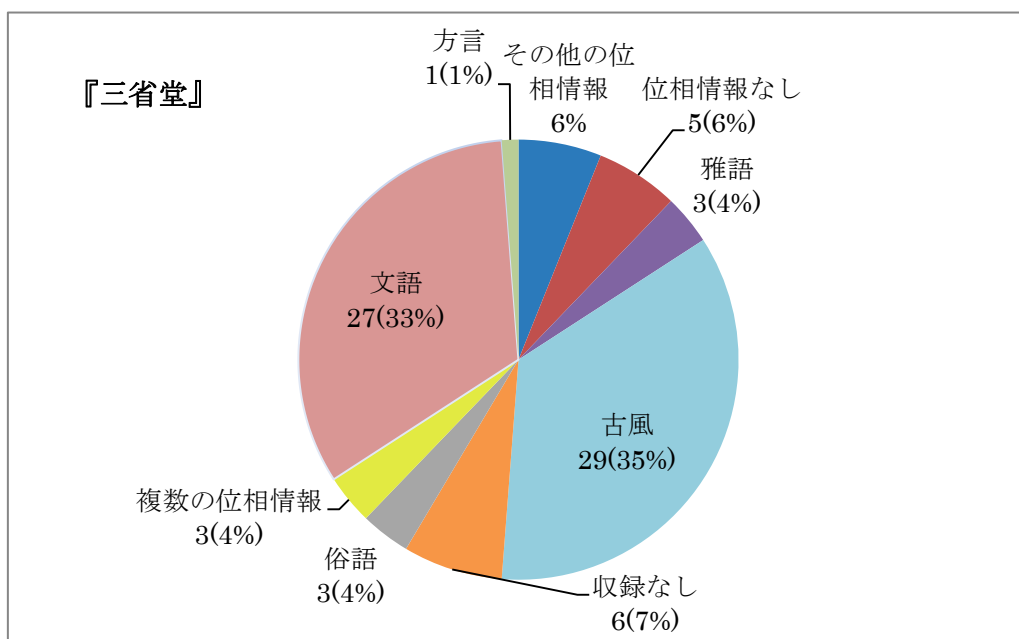
日本語「疑似古語」	『三省堂』	『岩波』	『新明解』
相成る(あいなる)	文語	収録なし	その他の位相情報
朝餉(あさげ)	古風	雅語的	古風
あちき	収録なし	収録なし	収録なし
あやつ	古風	収録なし	収録なし
ありんす	収録なし	収録なし	収録なし
戦(いくさ)	文語	位相情報なし	古風
何処(いずこ)	文語	雅語的	雅語
甚く(いたく)	文語	古語的	文語
異な	文語	古風	位相情報なし
うぬ	俗語	位相情報なし	位相情報なし
おじゃる	収録なし	収録なし	その他の位相情報
御っ母さん(おっかさん)	その他の位相情報	収録なし	古風
女子(おなご)	位相情報なし	位相情報なし	古風
おぬし	古風	その他の位相情報	方言
おる	古風	文語	古風
母様(かかさま)	収録なし	収録なし	収録なし
かたじけない	その他の位相情報	位相情報なし	位相情報なし
合点(がってん)	古風	位相情報なし	位相情報なし
かやつ	古風	収録なし	収録なし
斯様(かよう)	文語	古風	古風
間者(かんじゃ)	古風	位相情報なし	古語
貴公(きこう)	その他の位相情報	その他の位相情報	その他の位相情報
貴殿(きでん)	文語	その他の位相情報	その他の位相情報
御意(ぎょい)	文語	位相情報なし	位相情報なし
金子(きんす)	古風	位相情報なし	位相情報なし
曲者(くせもの)	位相情報なし	位相情報なし	位相情報なし

げす	古風・俗語	収録なし	その他の位相情報
ござります	古風	その他の位相情報	古風
ござる	文語・俗語・古風	位相情報なし	古風
ござんす	古風	その他の位相情報	古風
此度(こたび)	古風	収録なし	その他の位相情報
こなた	雅語	古風	雅語
こやつ	古風・俗語	その他の位相情報	位相情報なし
今宵(こよい)	雅語	位相情報なし	雅語
これしき	俗語	位相情報なし	その他の位相情報
左様(さよう)	文語	位相情報なし	古風
して	文語	文語	古風
じゃ	方言	古風	古風・方言
心の臓(しんのぞう)	文語	収録なし	収録なし
拙者(せっしゃ)	古風	その他の位相情報	その他の位相情報
ぞ	文語	その他の位相情報	位相情報なし
そこもと	文語	その他の位相情報	雅語
そち	古風	古風	雅語
そなた	文語・古風	古風	雅語
その方(そのほう)	古風	その他の位相情報	その他の位相情報
そやつ	古風	その他の位相情報	古風
それがし	文語	その他の位相情報	古語
大事無い(だいじない)	文語	古風	位相情報なし
戯け(たわけ)	位相情報なし	位相情報なし	位相情報なし
父上	文語	収録なし	その他の位相情報
重畳	文語	位相情報なし	位相情報なし
朕(ちん)	文語	その他の位相情報	その他の位相情報
手前(てまえ)	文語	その他の位相情報	その他の位相情報
当節(とうせつ)	古風	位相情報なし	位相情報なし
何ゆえ(なにゆえ)	文語	位相情報なし	古風
なれど(も)	文語	収録なし	雅語
汝(なんじ)	文語	文語	雅語
盗人(ぬすっと)	俗語	位相情報なし	位相情報なし
のう	収録なし	古風	その他の位相情報
ははあ	位相情報なし	収録なし	位相情報なし
腑分け(ふわけ)	古風	その他の位相情報	その他の位相情報

まこと	文語	位相情報なし	位相情報なし
まし	古風	収録なし	一部の語義収録なし
まする	古風	その他の位相情報	古風
麻呂・麿(まろ)	その他の位相情報	収録なし	雅語
身共(みども)	古風	その他の位相情報	雅語
皆の衆	古風	その他の位相情報	収録なし
夫婦(めおと)	古風	位相情報なし	古風
申す(もうす)	古風	その他の位相情報	位相情報なし
もしや	文語	位相情報なし	古風
もそっと	古風	収録なし	古風
者共(ものども)	古風	古風	雅語
やつがれ	文語	収録なし	雅語
ゆえ	文語	位相情報なし	位相情報なし
余・予(よ)	古風	位相情報なし	その他の位相情報
よしなに	位相情報なし	古風	その他の位相情報
よもや	文語	位相情報なし	位相情報なし
路銀(ろぎん)	古風	古風	位相情報なし
わし	その他の位相情報	その他の位相情報	その他の位相情報
童(わらべ)	雅語	雅語	位相情報なし
わらわ	古風	その他の位相情報	その他の位相情報

## I 『三省堂』の場合

図2-1: 『三省堂』における「疑似古語」の扱い方の概況

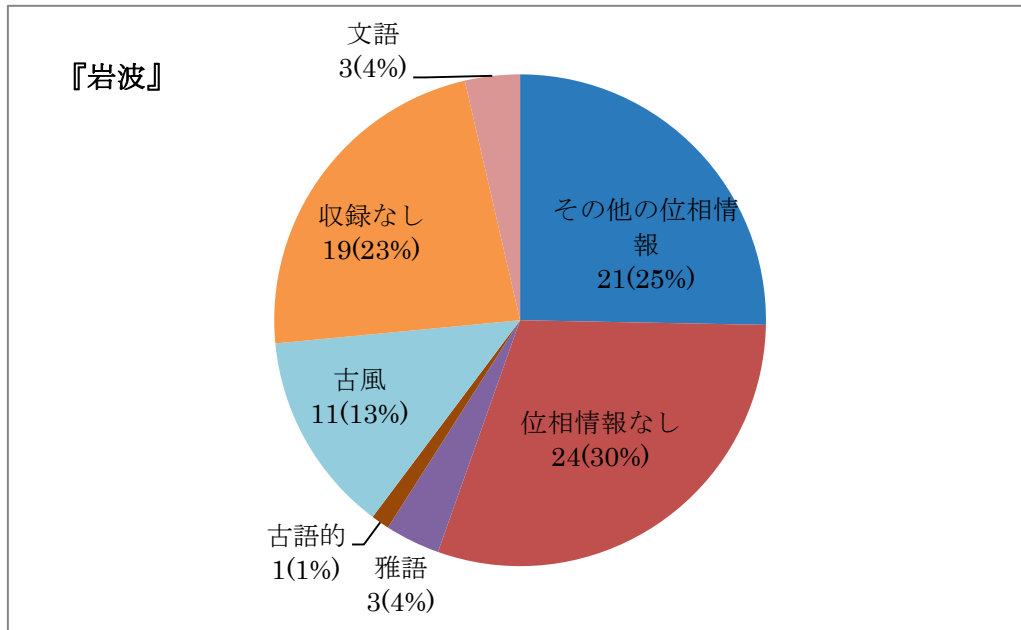


分析：

- ① 三種類の辞書の中、収録した「疑似古語」の語数をもっとも多いが、収録されていない語も確認した。「あちき」、「ありんす」、「おじやる」、「母様(かかさま)」、「のう」の5語である。
- ② 「古風」と注記される語の割合は35%であり、「古風」も含まれる「複数の位相情報」の語も合わせて合計32語があり、全項目の中で最も多い。『三省堂』第六版から新設された「古風」項目の編纂方針がある程度反映されていると言える。
- ③ 「古風」の29語に続き、2番目多いのが「文語」と注記される27語である。第一章の「疑似古語」の定義と特徴の部分で述べたように、一部の文語も「疑似古語」としてよく用いられるため、これらの語について、『三省堂』は「古風」ではなく、「文語」の項目に分類したと思われる。例えば、「斯様(かよう)」、「貴殿(きでん)」、「重畳(ちょうじょう)」などである。しかし、「疑似古語」として用いられる文語は「古めかしさ」を持っているのに対して、普通の文語は現代人の読者・視聴者に古めかしさを感じさせることができないという大きな違いが存在する。例えば、「愛唱(あいしょう)」、「滋味(じみ)」、「本夕(ほんせき)」などのような「疑似古語」として用いられない文語を見ても、現代の読者は古めかしさを感じないだろう。したがって、「疑似古語」として用いられる「文語」に対しては、「文語」と「古風」の両方を注記するのが望ましいと思われる。
- ④ 位相情報がまったく注記されていない語も見られた。「女子(おなご)」、「曲者(くせもの)」、「戯け(たわけ)」、「ははあ」、「よしなに」の5語である。「曲者」と「ははあ」は多義語であり、そのうちの一つの語義のみ「疑似古語」として用いられる。これについては、他の語義と区別するために、「疑似古語」としての語義だけに「古風」と注記するのが望ましいと思われる。
- ⑤ 「雅語」、「俗語」、「その他の位相情報」と注記される語も少数ながら見られる。「雅語」と注記される語は「こなた」、「今宵」、「童(わらべ)」の3語であり、「文語」の場合と同じように、「雅語」でありながら「疑似古語」としても用いられる語に対して、「雅語」と「古風」両方を注記することが望ましい。「俗語」と注記される語は「盗っ人(ぬすつと)」だが、同じ意味の「盗人(ぬすびと)」のほうは「古風」と注記されている。「その他の位相情報」の項目には、位相情報が具体的に示される語が多く入っている。

## Ⅱ 『岩波』の場合

図2-2: 『岩波』における「疑似古語」の扱い方の概況



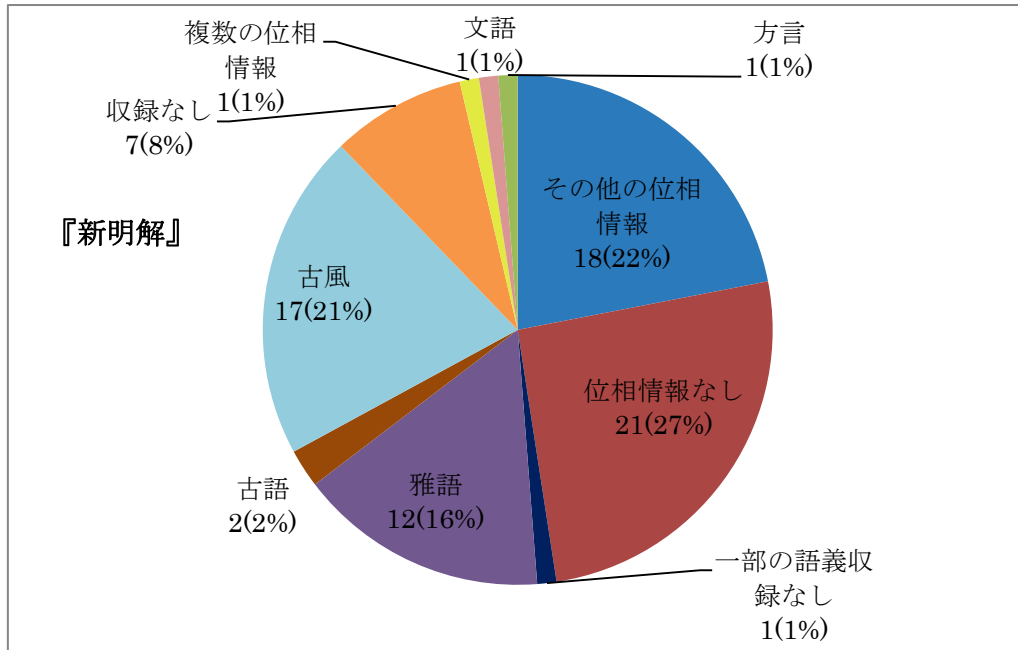
分析：

- ① 収録されていない語数は19語であり、三種類の辞書の中で最も多い。中にはBCCWJで比較的高い使用頻度を示した語も含まれている。例えば「あやつ」(57件)、「こたび」(43件)、「なれど」(110件)など<sup>26</sup>である。『岩波』の「古風」と注記される語の総数は『三省堂』より90語も多いが、収録した「疑似古語」の数はもっとも少なく、「疑似古語」に対する認識はまだ不十分であると考えられる。
- ② 収録された「疑似古語」の中で、「古風」と注記された語数が三種類の辞書の中でもっとも少なく、11語しかいない。
- ③ 「古風」以外の位相情報として、「文語」、「雅語」、「古語的」も見られるが、「位相情報なし」と「その他の位相情報」の割合のほうが遥かに高い。「位相情報なし」の語は『岩波』では現代語として扱われていると考えられるが、「間者」、「そやつ」、「夫婦(めおと)」のような、他の二種類の辞書では「古風」と注記されている語も含まれており、「位相情報なし」の語については再考する余地があると思われる。

<sup>26</sup> 書籍と雑誌の「文学」ジャンルに指定した検索結果である。

## Ⅲ 『新明解』の場合

図2-3: 『新明解』における「疑似古語」の扱い方の概況



分析：

- ① 収録されていない語は7語で、「あちき」、「あやつ」、「ありんす」、「母様(かかさま)」、「かやつ」、「心の臓」、「皆の衆」の7語である。「あちき」、「ありんす」、「母様(かかさま)」の三語は、三種類の辞書のいずれにも収録されていないが、次節の考察で詳述するが、時代もののフィクション作品ではよく用いられる。
- ② 「古風」と注記される語の数は『三省堂』と『岩波』の中間程度であるが、「雅語」と注記される語の数は他の二種類より遥かに多い。「雅語」も現代人から見ると古めかしく感じられるため、「古風」と「雅語」の境界線は辞書によっても大きく異なっていることが分かった。
- ③ 『岩波』と同じく、「位相情報なし」と「その他の位相情報」の語は大きな割合を占めている。「位相情報なし」の語は、『岩波』と同じ場合もあれば、異なる場合もある。したがって、見直す必要があると思われる。

## 2.1.3 まとめ

本節では、まず国語辞書に見られる「古風」と注記される語について、二種類の国語辞書を用いて、それぞれの「古風」と注記される語を考察した上で、両辞書の「古風」と注

記される語を比較してみた。その結果、両辞書とも「古風」と注記される語の数がわずかに18語しかなく、「古風」に対する認識があまり一致していないことが分かった。また、片方の辞書では「古風」と見なされる語が、もう片方の辞書では「文語」、「雅語」、「古語」、「俗語」、「方言」などさまざまな位相情報を付けられていることも分かった。このような辞書間の位相情報の不一致は外国人日本語学習者の語彙習得に混乱を招く恐れがあるため、できる限り統一するように見直すべきである。

また、語レベルの「疑似古語」81語を対象に、三種類の国語辞書を用いて、それぞれの辞書ではどのように扱われているのかを調査した結果、どの辞書においても収録されていない語が存在することが分かった。しかし、それらの収録されていない語はいずれも時代もののフィクション作品ではよく用いられている。このことは、現在の国語辞典の「疑似古語」に対する認識がまだ不十分だということを示している。収録されている語の中で「古風」と注記される語は当初の予想よりも少なく、1割から3割くらいにとどまっていた。さらに、辞書によって、「古風」と注記される「疑似古語」も大きく異なることが分かった。このように、現代国語辞典の「疑似古語」に対する認識と扱い方には大きな不一致があり、現状を改善するために、「疑似古語」の実際の使用様相を詳しく調査する必要がある。

## 2.2 「疑似古語」使用の様相

本節では、日本語に見られる代表的な「疑似古語」が「語レベル」、「文レベル」、「文法レベル」ごとに、時代もののフィクション作品の中で実際どのように用いられているのかについて詳しく分析する。金水(2000)は、日本語の性質上、役割語がもっとも現れやすい部分は人称代名詞と文末表現であると指摘した。この特徴は「疑似古語」においても見られる。一方、人称代名詞と文末表現以外にも「疑似古語」と思われる語が多く存在する。そこで、「語レベル」の考察では、「人称代名詞」、「文末表現」、「その他の語」の三つのグループに分けて分析を行う。特に「人称代名詞」と「文末表現」については、使用する登場人物の性格や特徴、そして発話場面の雰囲気などと深く関わっているため、重点的に考察を行いたい。分析手法にあたっては、まず『日本国語大辞典(第二版)』<sup>27</sup>や歴史文献資料などを参考に、実際にあった歴史的用法を示す。そして現代の時代もののフィクション作品か

<sup>27</sup> ジャパンナレッジ版を使用した。

ら収集した用例を分析し、「疑似古語」として用いられる時の意味用法と元々の「古語」としての意味用法との相違点を明らかにする。また、発話場面や発話人物の属性などについても詳しく分析したい。

### 2.2.1 語レベルの考察

#### 2.2.1.1 人称代名詞

日本語の人称代名詞は他の言語と比べて、バリエーションが非常に豊富だと言われている。その中の一部は特に「疑似古語」としてよく用いられる。以下、一人称、二人称、三人称、その他の呼称詞の順に分析を行う。

##### (1) 一人称

##### ① 拙者(せっしゃ)、それがし、手前(てまえ)、身共(みども)、

用例[1]～[4]のように、この四語は時代もののフィクション作品では、主に武士の自称詞として用いられている。以下、それぞれについて考察を行う。

[1]拙者、一癖ある身できっとお役に立つと存じます。 (『篤姫』第4話0:24:25)

[2]それがしは当日、偶然その場に行き合わせた者、心当たりなどござらぬ。

(『大乱妖花伝』 p.13)

[3]あの女、手前に危ないところを助けられたと。 (『水戸黄門第一部』第7話0:16:41)

[4]父もみどもも亘理が気に入っております。 (『炎立つ壺』 p.14)

八幡(2008)では、かつての武士が実際に使っていた一人称代名詞として、「余」、「身共」、「拙者」、「それがし」、「俺」、「僕」、「自分」の七つを挙げた<sup>28</sup>。また、それぞれの用法について、「余」は「殿様など身分の高い武士が家来などに自分のことを指すときに使う」、「身共」は「同輩やそれ以下の者に対して使う」、「拙者」は「主に武士が謙遜して使う言葉である」、「それがし」は「武士は威厳をもって、自分の所有するものを、「それがしの〇〇」のように使う」と説明した。本論文が調査した作品の中には、武士キャラクターが用いる一人称代名詞として、「拙者」、「それがし」、「手前」、「わたし」、「わたくし」、「おれ」、「わし」、「余・予」が見られる。現代語である「わ

<sup>28</sup> 八幡(2008)『武士語でござる』p. 34-37 参照。



たし」、「わたくし」、「おれ」を除いて、残り五語の使用状況を調べた。五語の中で、「拙者」の使用頻度はもっとも高く、[5]～[9]の用例はそれぞれ映画、小説、テレビドラマ、漫画の台詞から抽出したものである。「拙者」は武士キャラクターの代表的な自称詞として広範囲で認知されていると言える。

[5]拙者は御中臈の松島と申す。 (『大奥-男女逆転-』0:21:26)

[6]呼びとめたのは、拙者のことか。 (『江戸女人絵巻』 p.19)

[7]拙者には、どうもそうとは思えぬのです。 (『巷説百物語』 p.231)

[8]拙者に何か? (『JIN-仁-』 第4話0:24:36)

[9]拙者は剣四郎、宮本剣四郎と申します。

(『THE・武頼<サムライ> 剣四郎妖斬剣(1)』 p.12)

『日本国語大辞典』の「拙者」の項目には、「自分をけんそんするという語。目上に対して多く武士が用いた」と説明している。さらに「拙者」の項目下にある「語誌」の説明によると、「拙者」は武士専用の一人称であるが、主に書き言葉に用い、話し言葉に使うことは稀だそう。近世前期上方語では、「使用者はほぼ武士に限られ、目上に対して用いる、高い待遇価値を有した語であったと考えられるが、町人男性が堅い表現の場合に使用した例もいくらか見られる」。近世後期江戸語では、「主に武士に使用されるという点は変わらないものの、目下に対して用いた例も見られるところから、待遇価値は近世前期に比べて低くなっていると考えられる」と説明している。また、小松(1985)によると、現実の武士言葉は必ずしも武士だけが使うものではなく、京都生まれの富商の隠居も「貴公」や「拙者」を使っていたようである。さらに、江戸時代の武士は場面によって言葉づかいも変化すると指摘されている。公的な場面などのいわゆる「表」の方では、「拙者」、「身共」などを使うが、「裏」では、「おれ」を使ったようである。また、表では「ござる」、「じゃ」、「だ」などを用いて、裏では「だ」だけが使われたようである。武士同士の会話では、自称にワッチ、対称にオメエも使われていた。つまり、「古語」としての「拙者」は主に武士が書き言葉で使用していたが、武士以外の人間も場合によって用いていた。また時代によって、待遇価値の面には変化があるようである。一方、「疑似古語」としての「拙者」は書き言葉にも話し言葉にも用いられる。武士以外のキャラクターが「拙者」と自称する場面はほとんど見られない。また、作品の時代による待遇価値の変化も見られな

い。ただ、時代もののフィクション作品に登場する武士キャラクターは常に「拙者」と自称しているわけではなく、場面によって他の自称詞も使用する。用例[10]～[12]は同じ作品の同一人物が発した台詞であるが、それぞれ異なる自称詞を使用している。[10]は初対面の人に対して名乗る時「拙者」と自称する。[11]は自分の妻に対して「わし」と自称する。[12]は同輩の武士仲間に対して「わたし」と自称する。全体的に見ると、改まった場面や、自分が武士であることを強調したい時によく「拙者」を使用する傾向が見られる。一方、くだけた場面、または身内や目下の人間に対して「拙者」と自称することは少ないと言える。

[10]足立殿！拙者、織田家牢人、前田利家と申す。 (『利家とまつ』第5話0:19:05)

[11]こたびはわしが悪かった。 (『利家とまつ』第6話0:28:26)

[12]わたしが勘当中な身ゆえ。 (『利家とまつ』第5話0:01:01)

時代もののフィクションでは、武士でありながらも「拙者」を使用しない武士キャラクターも見られる。もっとも代表的な人物は坂本龍馬、西郷隆盛および勝海舟の三人である。よく知られているように、この三人の幕末ヒーローはそれぞれ「土佐弁」、「薩摩弁」と「江戸弁(べらんめえ口調)」を使用している。この幕末ヒーローが「方言キャラ」化する過程と要因について、田中(2011)は詳しく考察を行っている。この三人が一般的な武家の「疑似古語」を使わない理由の一つとして挙げられるのは、武士がたくさん登場する幕末という背景において、周囲の武士と同じ喋り方では、ヒーローとしての印象が薄くなるため、方言キャラとして造形されるほうが人物の特徴がより際立つためであろう。また、稀ではあるが、見た目が武士とかけ離れている登場人物が「拙者」と自称するケースも見られる。例えば、下記のような用例がある。

[13]拙者の名は、蜂須賀五右衛門でござる。 (『織田信奈の野望』 p.20)

[13]の台詞を発するキャラクターは蜂須賀五右衛門<sup>はちすか</sup>という忍者であるが、原作の説明によると、外見は現代の小学生五年生くらいの小柄な女の子で、さらに喋り方は舌足らず。つまり、一般的な武士キャラクターのイメージとはだいぶ異なっている。「役割語」の定義では「ある特定の言葉づかいを聞くと特定の人物を思い浮かべることができる」となっているため、この台詞での「拙者」の使用は、「疑似古語」の特殊的な用法と考えた方が

いいと思われる。この作品の舞台は現実の日本の戦国時代を下敷きにして、ただ登場する戦国武将たちが武士ではなく、美少女である世界と設定されている。主要な武将キャラクターは全員がそれぞれ特徴のある喋り方をしている。例えば、[14]は徳川家康に当てはまるキャラクターの台詞で、語尾に「です～」を付けるのが特徴である。[15]は今川義元に当てはまるキャラクターの台詞で、「お嬢様ことば」を用いている。[16]は織田信長に当てはまる本作のヒロインで、現代の若い女性とそっくりの喋り方をしている。このように、この作品の著者は、登場する女性キャラクターたちにそれぞれの外見や性格に合わせて、異なる口調を喋らせているように思われる。したがって、[10]のように女の子に武士専用の自称詞「拙者」と文末表現「でござる」を使わせる理由は単なるキャラ作りのためだと考えられる。このように、漫画やライトノベルなどの、いわゆるサブカルチャーに属する作品においては、「役割語」の本来の使用場面から逸脱するものもあると考えられる。

[14]そうですか～。私は松平元康、あだ名は竹千代です～。よろしくです～。

(『織田信奈の野望2』 p.24)

[15]あら。なんですの、お前は？ 奇妙な鎧を着ていますわね。(『織田信奈の野望』 p.11)

[16]これから自分で仕えようとしている大将の名前を間違えるなんて、あんたほんとにバカじゃないの？

(『織田信奈の野望』 p.31)

「拙者」のほかに、武士の専用一人称詞として、「それがし」と「手前」と「身共」も用いられているが、使用頻度は「拙者」より低く、漫画などの子供向けの作品での使用はほとんど見られない。「それがし」は本来不定称の指示代名詞であって、名前の不明な人・事物をばくぜんとさし示す時に用いられていた。一人称代名詞としての用法は中世以降に現れたとされている。しかし、現代の時代ものフィクション作品においては、不定称の指示代名詞としての用例はまったく見当たらず、一人称代名詞としてのみ用いられている。また、『大辞泉』によると、一人称代名詞としての「それがし」は「もとは謙譲の意であったが、のちには尊大の意を表す」とされているが、「疑似古語」としての「それがし」はほとんど謙譲の意を持って用いられていると思われる。例えば、[17][18][19]はそれぞれ武士が將軍の正室に、御老中が將軍に、武士が目上の武士に向けて発した台詞で、三つとも目上の人間に対して「それがし」を用いている。「それがし」の用例は全体的に「拙者」の用例よりも謙遜度が高いと思われる。

[17]それがしは無骨者ゆえ、とうてい御所勤めなどできかねます。（『大乱妖花伝』p.9）

[18]それがしはただのお見舞いにござる。（『風林火山』第35話0:18:06）

[19]お指図いただければ、それがし、身命を賭して。

（『鬼平犯科帳シリーズ5』第1話0:24:40）

[20][21][22]の「手前」は、昔一人称代名詞だけではなく、二人称代名詞としても用いられていたが、現代の時代ものフィクション作品では一人称の用法だけが残っている。また、武士以外の登場人物が「手前」と自称する場面も見られる。そのほとんどが[20]の発話人物である呉服屋の主人のような商売人キャラクターである。

[20]手前、稲荷…じゃない。い、伊勢屋と申します。（『憑神』0:09:13）

[21]あの女、手前に危ないところを助けられたと。（『水戸黄門第1部』7話0:16:41）

[22]もう一方は手前の十郎丸で！！（『花の慶次(1)』p.11）

武士キャラクターが用いる四つの自称詞の中では、「身共」の用例数が最も少なかった。本節の最初の部分で挙げた用例[4]のように、2000年以前の作品からの用例がほとんどで、2000年以降の作品では次第に見られなくなった。八幡（2008）は、「寛政期の聞書記録『よしの冊子』<sup>29</sup>では、将軍は「身共」というが、「拙者」とは絶対にいわなかった（p.27）」と述べたが、現代の時代もの作品では将軍キャラクターは「拙者」とも「身共」とも自称せず、他の自称詞を用いている。つまり、「疑似古語」としての「拙者」と「身共」の間に実在していた用法の違いがなくなったため、両方が同時に「疑似古語」として存在する必要がなくなったと考えられる。恐らく「拙者」は「疑似古語」として現代語に生き残り、「身共」はそのうち完全に現代語から消えることになるだろう。

## ② 朕(ちん)、余・予(よ)

『日本国語大辞典』では、「朕」を「天子の自称」と記されている。かつては古代中国において普通自称詞として一般的に用いられたが、秦の始皇帝の統治時代から天子のみの自称となった。それに倣い、日本においても天皇が詔勅や公文書内における一人称として

<sup>29</sup> 松平定信の側近水野為永が、江戸城内外の世情や情報を採集したものである。

用いるようになった。現代の時代ものフィクション作品においても、[23][24][25]のような天皇による用例が見られる。しかし、詔勅や公文書内ではなく、どれも話し言葉での使用例だった。

[23] 朕を恨むものなどおらん。 (『陰陽師 I』 0:59:02)

[24] そちは、朕を愚かな男と思うておるであろう。 (『平清盛』 第2話0:15:16)

[25] 朕の後を継ぎ、玲瓏帝(れいろうてい)と称するがよい。 (『千年の恋』 1:33:58)

[26] 私を帝と呼ばず、兄と呼んでくれ (『千年の恋』 1:33:00)

また、天皇は常に「朕」と自称するわけではなく、場面によって、他の自称詞も用いている。例えば、[25]と[26]は同じ天皇が発した台詞だが、[25]は公的な場面で次期天皇に対して「朕」と自称し、[26]は私的な場面で自分の弟に対して「私」と自称している。このように「疑似古語」としての「朕」は、主に天皇が自分の威厳を出したい場面で用いられると考えられる。

「余・予」の『日本国語大辞典』における説明は「平安時代から男子が用い、明治以降も改まった、あるいはやや尊大な表現として用いられた」となっており、実際戦前までは身分を問わず一般的に使用されていたが、戦後は口語ではほぼ使用されなくなった。現代日本語コーパスの用例を見てみると、その多くは時代ものフィクション作品の台詞の中に用いられ、時代ものフィクション作品ではない用例も、その作品の作者の生年代は1900年前後の者が多い。つまり、戦後における「余・予」の使用は、「疑似古語」としてのみであると言える。「余・予」を用いるキャラクターを見てみると、[27]～[30]の用例のように、ほとんどは将軍や藩主のような身分の高い男性が自称する時に用いられている。[30]の場合、発話キャラクターの年齢は幼いが、徳川家当主という身分であるため、「余・予」と自称している。しかし、「疑似古語」としての「余・予」は尊大なイメージを持っているため、「余・予」と自称していい場面とそうでない場面が存在すると言える。[31]の台詞を発したキャラクターは[30]と同一人物であるが、[31]の場合、相手が篤姫(将軍の正室)であるため、自称は「<sup>わたし</sup>私」に変わった。

[27] 織田信長:余は明日から富士遊覧の旅に出る。 (『信長燃ゆ(下)』 p.202)

[28] 徳川家光:余はそちのことを乳母などと考えたことは一度もないぞ!!

(『春日の局上巻』 p.7)

[29]織田信長：どうだ、余に仕えてみぬか。(『花の慶次(6)』 p.13)

[30]徳川慶喜(11歳)：予は有栖川宮の孫なるぞ。(『篤姫(上)』 p.349)

[31]私は単に一橋家の当主でございます故、天下のことは詳しく見えませぬ。  
(『篤姫(上)』 p.353)

また、すべての将軍や藩主キャラクターが「余・予」を使用するわけではなく、そのキャラクターの具体的設定(年齢、性別、性格など)によって、「余・予」以外の自称詞の使用も見られる。[32]の発話キャラクターは女性将軍であるため、「余・予」を使わず「私」と自称する。[33]の場合は歳を取った将軍であるため、「わし」という自称詞を使用している。このように、作品の登場人物はそれぞれ主に使用する自称詞があるが、場面によって他の自称詞を用いることもできる。

[32]吉宗(将軍)：私には頭のおかしい者と思えぬ。(『大奥～男女逆転～』0:58:41)

[33]家光：ゆえにこそ、わしは明成に許しを与えた。(『柳生忍法帖(1)』 p.13)

### ③ わし

金水(2003)は「博士語」表現の一つとして、【1】と【2】のように、自称詞「わし」の使用を挙げた(下線は著者によるもの)。他にも、黒崎(2011)は金水(2003)を基に「わし」の方言性と出現時期などについて考察を行った。しかし、両者とも現代の時代もののフィクション作品における「わし」の使用については言及していない。

【1】おるんじゃよ この中に……ワシのにらんだ 犯人がな!!

(阿笠博士『名探偵コナン13』 p.168)

【2】アトム きてくれ アトム わしじゃ お茶の水じゃ

(お茶の水博士『手塚治虫絵コンテ大全第1巻 鉄腕アトム』 p.60)

まず、国語辞典は「わし」についてどのように解説しているかを見てみる。大型と中型の国語辞典では主に⑦のように、近世では主に女性が用い、現代では男性が目下の者に対

して用いるというような記述が多く、小型辞典では㊦と㊧のように、年取った男性が用いるという説明が付くことが多い。つまり、現代では、目下の者に対して、尊大感を伴う男性専用の自称詞、近世では主に女性が用いた自称詞として認識されているのが一般的であると言える。

- ㊦ 〔代名〕（「わたし」の変化したもの）自称。近世、主として女性が用いた。現在では、尊大感を伴って目下の者に対して、男性が用いる。（『日本国語大辞典第二版』）
- ㊦ 〔代〕 {年とった男性などが} 自分をさすことば。わたし。{やや尊大な感じをともなうこともある。} （『三省堂国語辞典第六版』）
- ㊧ 〔代〕 第一人称単数の代名詞。おれ。▽普通、年輩の男性が目下に対して使い、尊大な感じが伴う。「儂」とも書く。「俺」をこう読ませることもある。（『岩波国語辞典第七版』）

黒崎(2011)は、「奈良、平安、鎌倉、安土桃山時代には「わし」が使用されていなかったと考えられる(p.8)」と述べ、「わし」は江戸時代で出現したものであると指摘している。しかし、「疑似古語」としての「わし」は江戸時代を舞台とする作品だけでなく、平安時代や戦国時代を舞台とする作品においても多く見られる。また、「わし」と自称するキャラクターも多様であり、[34]のような戦国武将もいれば、[36]のような僧侶や、[38]のような身分の低い漁師や、[40]のような僧兵もいる。さらに[37]のような若い武家男性や、[39]のような年配の女性、[42]の将軍と[43]の法皇も「わし」を用いている。[44]の作品は、織田信長は女であったという仮説の元につくり上げた戦国物語であり、その女信長は普段「わし」と自称するが、柴田勝家に自分は女であることを打ち明けた場面があり、その直後、[45]のように自称が「私」に変わった。すなわち「疑似古語」としての「わし」は男性の自称詞というイメージが強いと考えられる。女性が使用する場合は、ほとんど歳を取った身分の高い女性に限られている。「近世、主として女性が用いた」という歴史的用法が「疑似古語」としての「わし」には残っていないと思われる。現代を舞台とするフィクション作品では、自称詞「わし」はほぼ年配の男性キャラクターのみが使用する。一方、時代もののフィクション作品においては、年をとった男性の登場人物が「わし」と自称する傾向も見られるが、それ以外の登場人物が用いる場合も見られる。ただ、下記用例のように、使用する登場人物の身分、年齢、性別などは多様であるが、尊大感を伴うという点は共通している。

- [34] じゃが、そのわしとてひとりの人間。 (戦国武将『天地人』第1話0:42:01)
- [35] わしとて農民のせがれよ。 (下級武士『織田信奈の野望1』 p.15)
- [36] そうじゃ、拙僧じゃ。この儂じゃッ。 (僧侶『巷説百物語』 p.53)
- [37] いや、わしは詳しくは知らぬのじゃ。  
(15歳の武士『姫武将政宗伝ぼんたん!! (3)』 p.12)
- [38] わしはここの長(おさ)ですゆえ、皆を飢えさせるわけには。  
(漁師『平清盛』第2話0:21:30)
- [39] このわしが言うてやる。 (関白の母『女太閤記』第36話0:06:12)
- [40] やっとわしとやる気になりおったな。 (僧兵『義経』第5話0:07:18)
- [41] わしはそなたの父じゃ。 (戦国武将『風林火山』第43話0:00:23)
- [42] わしがいくさは好かぬ。 (徳川将軍『篤姫』第23話0:15:29)
- [43] わしが<sup>うつつ</sup>現に生けるもののけとは。 (法皇『平清盛』第2話0:28:55)
- [44] 権六、わしの味方になれ。 (女信長『女信長』 p.64)
- [45] 私をみろ。 (女信長『女信長』 p.72)

#### ④ 麻呂・麿(まろ)

『日本国語大辞典』における「麻呂・麿」の説明は以下のようにになっている(引用例は省略する)。自称詞としての使用は、主に平安時代以降に見られたという。また、語誌によると、「今昔物語」などでは主に女性が使う語となっているようであり、さらに時代を下ると、天皇またはこれに準ずる人の自称代名詞として用いられていたようである。

- i 〔語素〕種々の名称の語末の構成要素として用いる。男子の人名を構成するのに用いる。名詞や形容詞語幹その他の語に付いて、人名を作る。古くは単独で用いられる場合も多い。「麿」の字は、「麻呂」を合わせて作られたものという。「人麻呂」「虫麻呂」など。
- ii 〔接尾〕人の呼称や動物の名などに付けて親愛の意を表わす。「うままろ」「さるまろ」など。
- iii 〔代名〕自称。主として平安時代以降に用いられた。まろら。→まる(丸・麻呂)。

現代の日本語母語話者に「麻呂・麿」の意味を尋ねたところ、「肌が白く、眉頭だけ残っている眉毛、お歯黒、声高い」といった特徴を持つ平安時代の公家の大臣が自分のこと



を指す時に使う自称詞という意見が多かった。しかし、本研究において調査した作品の中では、「麻呂・麿」と自称する公家キャラクターが[46]の一人しかおらず、むしろ[47]～[49]のように、「麻呂・麿」を用いない公家キャラクターのほうが多かった。

[46] 麻呂は尊き公家衆の中でもいちばん偉いのでおじゃる！

(公家の男性『織田信奈の野望3』 p.48)

[47] なぜわしが崇られねばならん。

(公家の大臣『陰陽師 I』 0:15:52)

[48] いずれ、この師家(もろいえ)はわたしの後を継ぎ、藤原氏の長者となる。

(藤原基房『平清盛』 第44話0:28:57)

[49] ぜひとも私(わたくし)の話を聞いてください！

(右大臣『千年の恋』 1:02:08)

そこで、「疑似古語」としての「麻呂・麿」の使用状況をさらに知るために、BCCWJで「麻呂」と「麿」を検索してみた。その結果、「麻呂」は298件、「麿」は199件見られたが、その用例のほとんどが自称詞ではなく、前述した『日本国語大辞典』に記載されている①と②の用法であった。自称詞としての用例は「麻呂」と「麿」両方を合わせても10例ほどしかない。したがって、やはり自称詞としての使用はそれほど多くないと思われる。では、現代の日本語母語話者が持つ「麻呂・麿」を使用する人物のイメージはどこから来たのであろうか。詳しい調査は行っていないが、これには恐らく昔から人気のある時代もののフィクション作品に登場する公家キャラクターによる影響が大きいと思われる。例えば、下記台詞は日本の国民的時代劇と言われている『水戸黄門』第18部第23話に登場する一条三位という公家男性が発したものである。この公家男性のキャラクターは常に傲慢不遜な態度を取っており、その言動と仕草には滑稽さを感じさせられる。

「だまりゃ！その方ら麿を何と心得る！麿は恐れ多くも帝より三位の位を賜わり中納言を務めた身じゃ！すなわち帝の臣であって徳川の家来ではおじゃらん！その麿の屋敷内で狼藉を働くとは言語道断！この事直ちに帝に言上しきつと公儀に掛け合うてくれる故、心しておじゃれ！」<sup>30</sup>

<sup>30</sup> <http://koebu.com/topic/%E4%B8%80%E6%9D%A1%E4%B8%89%E4%BD%8D%E3%81%AE%E5%8F%B0%E8%A9%9E%E3%82%92%E8%A8%80%E3%81%A3%E3%81%A6%E3%81%BF%E3%82%88%E3%81%86>(2013年3月16日最終アクセス)より引用

また、1998年より放送されるNHKの子供向けの人気アニメ『おじゃる丸』の主人公も常に「まる」と自称している。このキャラクターの性格は基本的にのんびりとしているが、わがままで自己中心的な一面も持っている。つまり、「疑似古語」としての「まる」は、公家男性が用いる自称詞として認識されているが、実際時代もののフィクション作品では普通の公家男性の登場人物はあまり用いず、主に娯楽性の高い作品において外見と言動が滑稽で、自己中心的な性格を持つ公家男性の登場人物が使用する傾向が見られる。

#### ⑤ あちき、わちき、わっち、わらわ

このグループの四語は主に女性が用いる自称詞である。まず「あちき」、「わちき」と「わっち」の三語を見てみる。『日本国語大辞典』における説明は以下のようになっている。三語とも遊女が用いた自称詞であった。

**あちき**〔代名〕近世語。自称。遊女などが用いた。わちき。

**わちき**【私】〔代名〕（「わたくし」から変化したもの）自称。江戸の芸娼妓の用いた語。

町家の娘が用いることもある。

**わっち**【私】〔代名〕（「わたし」の変化した語）自称。身分の低い階層の男女が用いる。

わっし。【補注】近世初期、足軽などが用いたが、宝暦（一七五一～六四）頃からは、町家の婦女や遊女も用いるようになった。

現代の時代もののフィクション作品において、[50]～[52]のように、遊女キャラクターの中でも特に花魁の自称詞として多く用いられる。しかし「あちき」「わちき」「わっち」のそれぞれの使用状況には目立った特徴が見られなかった。また、この三語を使用しない遊女キャラクターも見られる。遊女専用の自称詞を使用しない理由には様々なものがあるが、[53]の場合は、作品の舞台となる時代は明治後期であるため、台詞を古めかしくする必要がなくなったからであると考えられる。[54]の場合は、時代劇であるがその内容はコメディ的で、しかも作品の舞台が江戸ではなく、大阪となっているためであろう。

[50] あちきの見立てはまず外れないからねえ。 (紅葉花魁『吉原遊女絵伝』 p.18)

[51] あちきが汚れた体だからでありんすか！ (野風花魁『JIN-仁-』 第9話0:22:29)

[52] こんな煮しめごぼうみたいなくらい禿(かむろ)、わっちゃあ、いりんせん。

(粧ひ花魁『さくらん』0:10:45)

[53] 私はどうしてくれるつもり？

(小花花魁『吉原炎上』0:41:16)

[54] あたいのこと、見受けしてくれるか？(お喜乃花魁『やじきた道中でれすこ』0:11:56)

次に、「わらわ」の使用様相を概観する。『日本国語大辞典』における「わらわ」の説明は以下のようにになっている。

わらわ[わらは]【私・妾】〔代名〕（「わらわ（童）」から）

自称。主として女がみずからをへりくだっている。近世では特に武家の女性が用いた。

しかし、時代もののフィクションでは地位の低い武家女性ほとんど使用せず、主に將軍の正室が用いる用例が多い。それも目下の人間に対して自称する時に使用されている。例えば、[55]は將軍の正室が乳母のお福に対して発した台詞で、「わらわ」と自称している。一方、異なる場面で將軍を相手に話す時には、[56]のように「わたくし」に切り替えている。また、[57]のように、將軍の正室という設定ではないキャラクターが「わらわ」を用いるケースもある。[57]の台詞を発した登場人物は「十二単を着用し、華麗で雅な貴族趣味をしている姫武将」という設定で、台詞全体は[58]のような「お嬢様口調」になっているが、自称詞だけは「疑似古語」の「わらわ」を用いている。「わらわ」と「お嬢様ことば」が同時に用いられることは珍しいが、この作品の作者は登場するメインの女性キャラクターたちにそれぞれの外見や性格に合わせて、異なる口調を喋らせようとする工夫が見られるため、「わらわ」もキャラクターの印象を強めるために用いられたと考えられる。

[55] 世継ぎの母はわらわじゃ、そなたではない。

(御台様『大奥～第一章～』第1話 0:54:48)

[56] わたくしは、あの女子が嫌いです。(御台様『大奥～第一章～』第2話 0:19:26)

[57] なぜお前のようなあやしげな者を、この由緒正しい今川家の大大名であるこのわ・

ら・わが雇わねばならないのですか？ (今川義元『織田信奈の野望1』p.11)

[58] あら。なんですの、お前は？ 奇妙な鎧を着ていますわね。

(今川義元『織田信奈の野望1』p.11)

## (2) 二人称

今までの考察で明らかになったように多種多様な一人称代名詞を使い分けることは、登場人物の性格や特徴を表わすには効果的と言える。一方、様々な二人称代名詞の使い分けによって、話し手と聞き手の上下関係や、相手への敬意度を示すことができる。以下、「疑似古語」として用いられる二人称代名詞を詳しく考察する。

## ①おぬし、汝(なんじ)、うぬ

この三つの二人称代名詞は下記『日本国語大辞典』の記述によると、主に目下の人間に対して用いるものと思われる。

**おぬし【御主】**〔代名〕（「お」は接頭語）対称。室町以後用いられ、対等もしくは対等に近い下位者に対する語。男女とも用いた。そなた。→おのし。

**なんじ[：んぢ]【汝・爾】**〔代名〕（古くは「なむち」。「な（汝）むち（貴）」の意）対称。上代古くは、相手を尊敬して呼んだ語と推定されるが、奈良時代以降、対等またはそれ以下の相手に対して用いられ、中世以降は、目下の者に対する、もっとも一般的な代名詞として用いられる。

**うぬ【汝・己】**〔代名〕対称。相手をののしったり軽んじたりする場合に用いる。

「汝」の出現時期はもっともはやく、「おぬし」はその次で、「うぬ」の出現時期はもっとも遅い。さらに、待遇面では、室町期における「おぬし」の待遇価値は、「そなた」に相当し、やわらかい上品な語として、対等もしくは対等に近い下位の者に対して用いられている。その後、身分の低い者や召使等と話すのに用いられ、江戸後期になると、さらに待遇価値が下がり、「てめえ」と同様、かなり低い者に対しても用いられるようになる。

「なんじ」も古くは目上に対して用いられたが、その後、目下の者に対して用いられるようになり、「おぬし」と同じく待遇価値が下がった。一方、「うぬ」は出現した当初から待遇価値が低かったと思われる。以下、待遇面の変化なども含めて、現代の時代もののフィクション作品におけるこの三語の使用実状を考察する。まず、出現頻度がもっとも高いのは「おぬし」であり、「汝」と「うぬ」の用例は「おぬし」より遥かに低い。[59]～[64]の用例を詳しく見ると、発話キャラクターは武家の女性であったり、戦国大名であったり、同心であったり、平安時代の陰陽師であったり、「おぬし」を用いる登場人物のタイプは様々であるが、「社会的地位が比較的高い」という特徴は共通している。つまり百姓や下

層町人や賤民階級などの下級階級に属する登場人物は「おぬし」をほとんど用いない。さらに相手との関係を見ると、ほぼすべての用例が自分と対等(例59, 60, 61)または自分より下の人間(例62、63、64)に対して用いられていることが分かった。

[59] おぬし 確か向島から来たと申したな。(下級武家の女性⇒店の主人『憑神』0:10:53)

[60] おぬし こそ手を離したではないか。(医師A⇒医師B『JIN-仁-』第2話0:43:15)

[61] おぬし はそれでも同心か。(同心A⇒同心B『ぼんぐら同心(1)』p.14)

[62] 敵ながら、おぬし の戦い、見事であった！

(織田信長⇒前田慶次『花の慶次(6)』p.12)

[63] わしか、おぬし か。(陰陽師頭領⇒安部晴明『陰陽師 I』1:45:46)

[64] 了庵、お主 もとんでもないことを考え出すものよのォ！

(武士頭領⇒手下『くノ一捕物帳恋縄緋鳥①』p.21)

「汝」の『日本国語大辞典』における説明は「中世以降は、目下の者に対する、**もっとも一般的な代名詞**として用いられる」となっているが、実際現代の作品における使用頻度はそれほど高くないと思われる。[65]と[66]のように、上の立場から相手を説教する場面や神が人間にお告げをする場面のような、発話者と相手の身分の差が非常に大きい場合に限って用いられている。「うぬ」の使用頻度は「おぬし」と「汝」より低い。また古い作品での使用が多く、近年の作品ではほぼ見られなくなった。待遇面においては、三語とも待遇価値が低い部類に属するが、「おぬし」、「汝」、「うぬ」の順にさらに待遇価値が下がると言える。

[65] 汝 の罪、万死に値するぞ！(水戸黄門⇒悪い大名『水戸黄門第3部』第15話0:43:14)

[66] 汝ら は光の使者。この弓矢を静姫に与えよ。(神様⇒八犬士『里見八犬伝』1:44:27)

[67] うぬ は一体何といたすつもりじゃ？

(武士頭領⇒浪人『山風短(1)くノ一紅騎兵』p.16)

[68] うぬら、堀一門の縁につながる女どもが…

(武士⇒罪人となった僧侶『Y+M〜柳生忍法帖〜(1)』p.17)

## ②こなた、そなた、その方(そのほう)、そち

グループ①の三語と比べて、このグループに属する四語は待遇面では比較的高い敬意を持っている。以下、まずそれぞれの『日本国語大辞典』における説明は以下のようになっている。

### こなた【此方】〔代名〕

〔一〕 他称。

(1)話し手のいる、または話し手側に近い方角をさし示す（近称）。空間的に離れていても、話し手の意識のうえで強く問題にしている場所や方面をいう場合もある。この所。こちら。

(2)ある一定の時を限って、それより話し手の位置する時に近い期間をさし示す（近称）。

(イ)過去のある時から現在までの間をさし示す。それより後。以来。

(ロ)将来の、ある時よりも手前の期間をさし示す。それより前。以前。以内。

(3)すぐ前に述べた事柄や、それに関連した方面をさし示す（近称）。こちら。この方面。

(4)二人以上の人物のうち、位置的に、また、意識のうえで近くにいる方の人。また、最も問題にされている方の人。この人。

〔二〕 自称。わたくし。

〔三〕 対称。対等または対等に近い目上の相手に対して丁寧な言い方のとき用いる語。近世にはいつてからはやや待遇価値が落ち、目下に対しても用いるようになった。男女ともに用いた。「そなた」より敬意が高いが、近世では「こなたさま」の類の語が生じて、敬意は落ちた。

### そなた【其方】〔代名〕

(1)他称。相手側に近い方向や、話題にのぼった方向をさし示す（中称）。そちら。

(2)対称。下位の相手、もしくは対等の相手に用いる。「こなた」より相手を低く遇し、「そち」よりは待遇価値が高い。

### そのほう〔：ハウ〕【其方】〔代名〕

(1)対称。対等もしくは下位の相手に対し武士・僧侶などが用いる。町人が用いるときは莊重な表現となる。

(2)他称。相手側に近い方向をさし示す（中称）。そっち。

(3)他称。相手側の物事、もしくは相手に近い物をさし示す。また、二つあるうちの相手に

近い物をさし示す。

そち【其方】〔代名〕

(1)他称。相手側のいる方向をさし示す（中称）。そっち。そちら。

(2)対称。中世以降使用された語で、(1)の転用。多く下位の相手に用い、主として武士・男性が用いた。「そなた」より敬意が低い。

古語としてのこの四語は、二人称だけではなく、一人称または三人称としての用法もあった。しかし、二人称の用法だけが「疑似古語」として現代まで残った。実際の使用様相を見てみると、「こなた」の時代ものフィクション作品における出現頻度は低く、ほとんど小説でしか見られなかった。また2000年以降の作品での使用はほとんど見られず、既に衰退しつつある状況にあると思われる。衰退した理由については後述する。「そなた」、「そのほう」、「そち」の三つは小説だけでなく、他のメディアでもよく見かける。中でも「そなた」の使用頻度はもっとも高く、「おぬし」と並んで代表的な二人称「疑似古語」とであると言える。また、「そなた」、「その方」、「そち」の間にはっきりとした意味の違いが見られず、ただ待遇面においてはそれぞれの使用傾向は少し異なっていると思われる。「そなた」は用例[70][71]のように、自分より身分の低い相手に対しても用いられ、[72]のように、自分とほぼ対等である相手に対しても用いられている。また[73]の場合は、聞き手は話し手より地位が低い、話し手が聞き手を親友として接している場面でも「そなた」を用いることができる。一方、「その方」と「そち」は、用例[76]～[82]のように、ほぼ自分より地位の低い相手に対して用いられ、「そなた」のように、親しい相手に対してあまり用いられていない。つまり、「疑似古語」としての「そなた」の待遇価値は「その方」と「そち」よりやや高いと言える。また、この四語を使用する登場人物は概ね上級階級に属する人間である。

[69] こなたは平素からこのような病いをお持ちか。（篤姫⇒菊千代『篤姫(上)』p.360)

[70] そなたに一つお願いがあります。（富子[将軍の正室]⇒武士『大乱妖花伝』p.9)

[71] そなた、妻にはなりませぬぞ。（磯禅師[母]⇒静[娘]『義経』第26話0:18:53)

[72] そなた、名は何と申す。（浪人侍⇒女座頭『ICHI』0:14:12)

[73] そなたと隆信どののことは…私も…噂で聞いてはいますよ。

（中宮⇒中宮付女房『時代ロマンシリーズ(1) ささめごと』p.32)

- [74] そなたが帝の目を奪ったのじゃ！ (太后様⇒朧月夜尚侍『千年の恋』1:26:40)
- [75] そなたたちもよう来てくださいました。(北政所⇒家臣『女太閤記』第36話0:20:41)
- [76] そのほうの才覚に任せよう。(島津斉彬⇒幾島『篤姫(上)』p.262)
- [77] そのほうっ！麻呂を御所のおん前で襲うとは、いったい何者でおじゃるかっ！  
(公家大臣⇒武士『織田信奈の野望 3』 p.47)
- [78] そのほう、すまぬが、文を読んでおくれ。(武家女性⇒町人『功名が辻』第35話0:12:52)
- [79] そのほう、名はなんと申す。(大奥総取締⇒御半下『大奥(男女逆転)』0:36:46)
- [80] 平清盛と申す者はそちか？ (天皇⇒若い頃の平清盛『平清盛』第2話0:26:44)
- [81] 伝兵衛、そちの命、このわしに預けてくれるか。  
(大名⇒家臣『風林火山』第28話0:18:00)
- [82] 人としての暮らしを全う(まっとう)させるが、そちの役目になるよう心するのじゃ。  
(水戸黄門⇒悪い大名『水戸黄門第3部』第15話0:43:53)

たくさんの種類の人称代名詞が存在する理由について、一人称の場合は、男性専用と女性専用、さらに天皇や遊女など、身分の違いによる使用制限があるためと思われるが、二人称代名詞の場合は、「おぬし」、「汝」、「うぬ」、「こなた」、「そなた」、「その方」、「そち」の七語の間に、特に発話者の性別の制限もなく、身分地位による使用制限もそれほど明確ではない。つまり発話キャラクター自身の属性と使用する二人称の傾向との関連性は低いと思われる。二人称の場合は、今までの考察からも分かるように、二人称の使用は発話者と相手の上下関係(心理的上下関係も含む)による影響が大きいと考えられる。例えば「おぬし」、「そなた」、「こなた」の三語はどちらも目上の人間が目下に対して用いる。「こなた」は中世末期に発生した語であり、元々は対等・対等に近い目上を丁寧に呼ぶ語として用いられており、「そなた」より敬意が高かったため、「古語」としての「こなた」は「そなた」と共存できていた。しかし、「疑似古語」としての「こなた」は「そなた」と待遇面における差がなくなり、意味も「そなた」と同じであるため、「疑似古語」としての「こなた」は次第に衰退し、近年の作品ではほとんど見かけなくなった。一方、「そなた」と待遇面の差がある「おぬし」は今でも頻繁に用いられている。また意味上でも、待遇の面においてもほぼ同じである「その方」と「そち」の両語が共に「疑似古語」として生き残っている理由は、恐らく作家たちが異なるルートから「疑似古語」の知識を得たからであろう。



### ③貴殿、貴公、そこもと

「貴殿」、「貴公」、「そこもと」の三語と、グループ①と②の七語との違いは、主に男性が男性に対して用いるものであるという点である。『日本国語大辞典』の記述は以下のようになっている。三語とも元々は敬意の高い語であったが、時代がくだるにつれ、待遇価値も落ちたようである。

きでん【貴殿】〔代名〕対称。同等もしくは同等以上の男に対し、敬意をもって用いる語。

男性が男に対して使用する語。貴兄。貴堂。【補注】江戸前期には、武家が目上の相手を尊敬して呼ぶ語として使用されたが、のちには同輩に対しても用いた。

きこう【貴公】〔代名〕対称。本来は武家が目上の男を尊敬して呼ぶ語であったが、のちには、同輩かまたは同輩以下に対して一般にも用いられた。男性が男性に対して用いる語。

貴殿。貴閣。

そこもと【其処許・其許・其元】〔代名〕

(1)他称。相手側の方角、場所をさし示す（中称）。はっきりさし示す場合と、ばくぜんとさし示す場合とがある。そのところ。そこ。そのへん。そこらへん。

(2)対称。多くは、武士がやや目上と思われる相手、同輩、もしくはそれ以下のものに対して用いた。まれに町人の使用例も見受けられるが、格式ばった言い方で、老人、家主などが用いた。時代がくだると待遇度も落ちた。そのもと。そこほど。

「疑似古語」としての「貴殿」、「貴公」、「そこもと」の用例を見てみると、どれも武家の男性が男性相手に用いるものがほとんどであるが、待遇面の差は見られなかった。三つとも、自分と同等もしくは同等以下の男性に対して用いられ、待遇価値は「おぬし」、「汝」、「うぬ」よりは高いと思われる。

[83] よう、貴公。 (落ち武者の幽霊⇒現代人の男性『素敵な金縛り』2:18:02)

[84] 貴公、駿河の浪人か。 (山本勘助⇒浪人『風林火山』第1話0:18:54)

[85] さっそく 貴殿に訊ねるが、過日の施粥小屋騒動の首謀者について心当たりはないか、  
お答え願いたい。 (武士⇒武士『大乱妖花伝』p.13)

[86] 貴殿の名は？ (武士⇒武士『天地人』第5話0:18:59)

[87] そこもとは平治の戦のおりの源氏の統領、源義朝のお子にござる。

(新宮十郎義盛⇒遮那王『義経』第2話0:37:25)

### (3) 三人称

「疑似古語」と思われる三人称代名詞は「こやつ」、「そやつ」、「あやつ」の三つあるが、BCCWJにおける用例はそれぞれ49件、35件、57件であり、使用頻度は一人称、二人称と比べて遥かに低いと思われる。『日本国語大辞典』の説明は以下のようになっている。

#### こやつ【此奴】(代名)

「こいつ(此奴)」に同じ。

(イ)人をさす場合。(ロ)物をさす場合。

#### そやつ【其奴】(代名)

他称。相手側の人、または話題の人をののしったり乱暴にいたりするのに用いる。そいつ。

#### あやつ【彼奴】(代名)

他称。第三者をののしっていう。あのやつ。あいつ。きゃつ。

古語としての「こやつ」は物をさす場合もあったが、「疑似古語」としての「こやつ」は「そやつ」、「あやつ」と同様、人を指す時のみに用いられた。用例[88]～[93]のように、三語の意味は同じであり、待遇価値も共に低く、主にののしったり、あなどったりするときに用いられていた。また、それぞれの語を使用する登場人物の共通の特徴も特になく、一人称と二人称に見られる社会的階層による使用傾向は見られなかった。現在、「疑似古語」としては、三語とも同程度の頻度で用いられているが、三語の間に意味と用法上の差異がないため、将来的には一つだけが「疑似古語」として残り、後の二つは消えることになるだろうと推測される。

[88] こやつが京で商いを営んでおりました時代の本名は、松波庄九郎！

(老婆『織田信奈の野望3』 p.36)

[89]母上、こやつの肌の匂い、血の香り、素藤の弟とは思われません！

(城主『里見八犬伝』 1:27:20)

[90] そやつらが静姫を奉じ我々を滅ぼしに攻め寄せてくる! (玉梓『里見八犬伝』0:28:03)

[91] そやつを呼べっ!! (宦官『故事往来伝』p.13)

[92] あやつのどこが平氏の嫡男(ちゃくなん)にふさわしいと申すのだ?

(武家男性『平清盛』第2話 0:06:20)

[93] されど、あやつめ…

(『天地人』第26話 0:11:54)

#### (4) その他の呼称詞

##### ① ～殿(どの)

相手または第三者を指す時に、「名前・官職・身分+殿」という形の呼称詞がよく用いられる。[94]～[96]は対称としての用例であり、[97]～[99]は他称としての用例である。対称と他称はほぼ同程度の割合で使用されており、使用上の傾向が見られなかった。発話キャラクターは男女ともに見られるが、相手は男性の場合が多いと思われる。相手が女性の場合でも使用されるケースも見られるが、その場合、その女性は高い地位についている場合が多い。例えば[96]の相手は大奥で務めている女中で、[97]のエボシという女性はある集団を率いるリーダーである。

[94] スサ殿、今のしらべは? (公家男性⇒正体不明の男性『陰陽師Ⅱ』0:16:05)

[95] 一橋殿、よう参られた。 (將軍正室⇒藩主『篤姫』第23話0:19:02)

[96] 幾島どのはきついお方よのう (大奥女中⇒大奥女中『篤姫(上)』p.28)

[97] エボシ殿はここにはいないのか!? (『もののけ姫』1:14:39)

[98] 私と道節殿はつぶさに探って参りました。 (『里見八犬伝』0:26:00)

[99] こたびは若殿の初陣。 (『武田信玄』第1話0:09:58)

##### ② 父上、母上、姉上、兄上

時代もののフィクション作品では、自分の家族への呼び方も現代語と異なっている。「疑似古語」としてよく用いられるものには、「父上」、「母上」、「姉上」、「兄上」が挙げられる。[100]～[103]のように、この四語は対称([100][101][103])としても、他称([102][103])としても使用できる。また、[101]のように、後に「さま」を付けて、さらに高い敬意を表すことができる。この四語は上級階級に属する登場人物だけ使用し、町人などの下級階級はほとんど使用しない。他人の父を指す時、「お父上」の形で用いられる

こともできる。

[100] 母上 どうされました？ (ぼん姫⇒母『姫武将政宗伝 ぼんたん!! (1)』p.7)

[101] 姉上さま、今日は一段とおきれい。 (於才⇒篤姫『篤姫(上)』p.47)

[102] 父上 も、またあなた自身を見ているのではないから……

(源氏⇒藤壺女御『あさきゆめみし 1』 p.203)

[103] 母上、兄上は無事に命を… (武家女性⇒母親『JIN-仁-』第 1 話 00:39:02)

### ③ 母様(かかさま)、父様(ととさま)、御っ母さん(おっかさん)、御っ父さん(おっとさん)

母親と父親の呼び方として、先述の「母上」と「父上」のほか、<sup>かかさま</sup>「母様」、<sup>ととさま</sup>「父様」、「御<sup>か</sup>っ母さん」、「御<sup>と</sup>っ父さん」、などの呼び方も見られる。これらの呼び方には使用上の違いが見られる。例えば、母親の呼び方には「母上」、「おっ母さん」と「かかさま」がある。「母上」の使用頻度は最も多いが、主に武家と公家の、いわゆる身分の高い登場人物が用いる。一方、「おっ母さん」は主に町人の若い子供が用いて(例[104] と[105])、「かかさま」は主に身分の高い若い女の子が用いる(例[106]と[107])。父親の呼び方にも同じ傾向が見られる。また、この四語は例[108]のように、大人の登場人物が若い子供に向って、その子の両親を指す場面でも用いられる。

[104] おっ母さんが作ってくれた水で治ったから。

(喜市【10 歳未満の男の子】『JIN～仁～』第 3 話 0:14:49)

[105] おっかさんが言ってた。 (町の貧しい男の子『てれすこ』0:07:49)

[106] いやです。かかさま。(千代【10 代前半の女の子】『功名が辻』第 1 話 0:25:40)

[107] かかさま？ (静【10 代後半の女の子】『義経』第 26 話 0:19:47)

[108] <sup>とと</sup>父様はおおざっぱでございますから。

(お婆さん⇒赤ん坊『天地人』第 31 話 0:16:28)

#### 2.2.1.2 文末表現

##### ① でござる、でおじゃる

『日本国語大辞典』における「ござる」と「おじゃる」の記述は以下のようになっている。

**ござる**〔自ラ四〕（「ござある」の変化した語）㊶動作・存在の主を敬って用いる。①「ある」「いる」の尊敬語。②「ある」「いる」の丁寧語。㊶（多く「ござった」の形で）普通の状態でなくなる。腐る。変になる。だめになる。㊶空腹になる。㊶補助動詞として用いる。補助動詞「ある」「いる」の丁寧語。

**おじゃ・る**〔おぢやる〕〔自ラ四〕（「お出（い）である」の変化したものという。近世には「おじゃる」の表記が普通となる）㊶「来る」「行く」「居る」「ある」の意の敬語。㊶補助動詞として用いる。「ある」の意の丁寧語。ござります。ございます。

まず、「疑似古語」としての「ござる」の場合は、[109]～[113]のように「でござる」か、「にござる」の形で文末に現れることが多い。また、「ござる」を用いるキャラクターの多くは武家男性であるが、近年の作品では[113]のように公家の大臣が「ござる」を用いるケースも見られる。[114]～[117]のように、「ござる」の丁寧形として「ござります」もよく用いられる。「ござります」の場合は、発話キャラクターの種類が増え、武家と公家の男性だけではなく、僧侶(例[115])、武家女性(例[116])や公家女性(例[117])なども用いる。『日本国語大辞典』の説明のように、古語としての「ござる」は「ある」「いる」の尊敬語または丁寧語として使用された。しかし、「疑似古語」としての場合は、尊敬の意があまり感じられず、自称詞の「拙者」と同じように主に武士キャラクターを想起させるマーカーとして機能していると思われる。尊敬の意を表わしたい時には「ござります」を用いる。『日本国語大辞典』によれば、「ござります」は江戸前期に出現した表現であるが、現代の時代もののフィクション作品では舞台となる時代は江戸時代より前であっても、「ござります」の使用が多く見られる。

[109]これは浪人ながら、江戸の牛込榎坂<sup>エノキザカ</sup>に軍学の道場をかまえる由比正雪<sup>ユイショウセツ</sup>と申すものと、  
その門弟でござる。(浪人『柳生十兵衛死す(上)』p.19)

[110]地震でござる。地震でござる。(武士『篤姫(上)』p.253)

[111]殿、未練にござるぞ。(武士『信長燃ゆ(下)』p.120)

[112]愛姫様<sup>めぎ</sup>のご様子、いかがでござるか？  
(原田宗時[15歳]『姫武将政宗伝ぼんたん!!(3)』p.10)

[113]本日の加冠役(かかんやく)は、我が子、家成にござる。  
(公家大臣『平清盛』第2話0:17:40)

- [114]それがし、幸せでござります。(大奥に入った武士『大奥(男女逆転)』0:41:10)
- [115]御意にござります。(寛永寺大僧正『柳生忍法帖(1)』p.13)
- [116]一城のあるじが、そのように勝手気ままなふるまいをして、よいものでござりまし  
ようや。(於さまの方 『忍びの女(上)』p.9)
- [117]さよう……でござりますね。(堀河局[公家の女性]『平清盛』第1話0:26:40)

「ござる」とほぼ同じ時期<sup>31</sup>に出現した「おじゃる」は本来、対等またはそれ以下に対する親愛の気持ちの表現として用いられていた。しかし、「疑似古語」としての「おじゃる」はそのようなニュアンスはほとんど感じられず、むしろ用例[118]と[119]のように、相手を見下している場面でよく用いられる。また、[122]のように、公家女性が用いるケースも稀に見られるが、多くの場合は公家男性が用いている。『日本国語大辞典』の語誌によると、江戸時代前期上方語の資料には、「おじゃる」は特定の階級（大名、武士、僧侶）や年配の町人などに使用が限られているようである。しかし「疑似古語」としての「おじゃる」は公家以外のキャラクターによる使用例がほとんど見られない。つまり、「ござる」が武家を想起させるマーカーであるように、「おじゃる」は公家を想起させるマーカーであると思われる。

- [118]血の匂いがすると思うたら、やはり武士でおじゃったか。  
(藤原忠実 『平清盛』 第1話0:10:10)
- [119]百姓が関白になぞ、なれるわけがないでおじゃる！  
(公家大臣『織田信奈の野望3』p.48)
- [120]まことに気前の良い男でおじゃりますな。(公家大臣『源義経』0:18:59)
- [121]みやびの世界も、楽しいものでおじゃるぞ。(公家大臣『陰陽師Ⅱ』0:23:19)
- [122]なれど、よくも悪くも清盛あつての平家でおじゃりました。  
(公家女性『義経』第19話0:06:51)
- [123]だまりゃ！嘘を言うなでおじゃるっ！ (公家大臣『織田信奈の野望3』p.50)

さらに、「疑似古語」として用いられる「でござる」と「でおじゃる」は、文法的に不

<sup>31</sup> 『日本国語大辞典』「おじゃる」の語誌部分の説明による。

自然な使い方もしばしば見られる。例えば[123]のように、動詞の連用形を伴って、禁止の意を表す「な」の後ろに付く。[123]の文を現代語に直せば、「だまりや！嘘を言うなですっ！」という不自然な文になる。この現象について、定延(2007)も指摘している。定延(2007)はこの文末に現れる「でござる」と「でおじゃる」を「キャラコピュラ」と呼び、コピュラの変異体であると指摘した。また、「麻呂・麿」の分析で挙げられる一条三位という公家キャラクターの台詞の中では、「おじゃる」の命令形として「おじゃれ」が用いられている。しかし、『日本国語大辞典』では、「命令形は「おじゃ」となることがあり、またそれに「や」が付いた「おじゃや」の形もある」というふうに説明している。つまり、「おじゃれ」は現代人が現代語の文法ルールに基づいて作り出した表現であると言える。

## ② でありんす、でござんす、でげす

この三語は身分の低いキャラクターが用いる文末表現である。「ありんす」、「ござんす」、「げす」の『日本国語大辞典』における記述は以下のようになっている。

**あり - ・んす**〔連語〕「あります」の意で、主に江戸新吉原の遊女が用いた語。吉原の郭言葉のうち、最も代表的なものとされる。

**ござんす**【御座】〔自サ特活〕（「ござります」の変化した語）近世以後の語。発生当初は遊女のことばであったが、元禄（一六八八～一七〇四）頃には若い一般女性間にも流行し、近世後期では男性も使用するようになった。㊟「行く」「来る」の尊敬語。いらっしゃる。おいでになる。㊟「ある」の丁寧語。ございます。あります。㊟補助動詞「いる」の尊敬語。

**げす**〔助動〕（活用は「げせ・げし・げす・げす・〇・〇」。「ございます」の変化した語か）江戸の語で、「ある」の意に用いられ、「てげす」の形では助動詞「た」に、「でげす」の形では助動詞「です」の意に当たる。江戸末期から明治にかけて、芸人や通人、職人の間に用いられることが多かった。げえす。

現代の時代ものフィクション作品では、以下のように用いられている。「でありんす」は主に吉原の遊女が使用する表現であり、[124]～[127]のように特に遊女の最上位とされる花魁による使用例が目立つ。「でござんす」は[128]のような遊女キャラクターも、[129]と[130]のような町の商人キャラクター、および[131]のような身分の低い使用人も用いる。

一方、「でげす」は[132]のように、主に身分の低い町人が使用する。

[124]けど、わっちは生むつもりでありんす。(きよ葉花魁『さくらん』1:25:16)

[125]主さんも野暮なお方でありんすなあ。(紅花魁『吉原遊女絵伝』p.9)

[126]ぬしは淋しいお方でありんすのう。(花魁『吉原手引き草』p.165)

[127]どんな病も治せるでありんすか？(野風花魁『JIN-仁-』第4話0:10:33)

[128]結局、ぶざまに戻るしかなかったでござんす。  
(野風花魁『JIN-仁-』第4話0:29:53)

[129]あっしはな、相撲に詳しいでござんすが。(蕎麦屋の主人『憑神』0:40:18)

[130]へいっ…ありがとうござんした。(商売人『吉原遊女絵伝』p.13)

[131]ご機嫌でござんすよ。(中梅楼の使用人『吉原炎上』0:54:43)

[132]血が足りないということだそうでげす。(鈴屋使用人『JIN-仁-』第4話0:13:54)

### ③ じゃ、ぞ、のう

金水(2007)は<老人語・博士語>の一つの特徴として、断定助詞の「じゃ」を使用することを指摘している。この「じゃ」のように、「疑似古語」として用いられるだけではなく、他の役割語としても使用される語がいくつかある。金水(2003)は<老人語・博士語>の起源について、江戸語形成の過程が深く関与していると述べている。江戸語が形成される過程で「上方語的表現」と「東国語的表現」の対立が現われ、更に顕在化し、やがて方言間の対立から江戸語内部の階層間の対立まで発展したと言われている。「若年・壮年層の人物が、いち早く江戸の新共通語である東国的表現を自分たちの言葉として駆使していた時点で、老年層は未だ上方語的表現を、規範的な言葉として手放さなかったというような構図が、江戸においてある程度現実に存在したのであろう(金水2003:26)」年輩の人の多くが上方風の喋り方をしていたという当時の現実の状況が歌舞伎や戯作などで誇張されて、「じゃ」を含めて上方語的な表現が記号的に登場人物に割り当てられていたようである。そして、「老人」=上方風の喋り方というイメージが現代まで受け継がれ、それが老人を表現するために用いられるようになった。一方、「上方語的表現」が「疑似古語」として用いられる理由は、単にそれらが昔に実際使われていたので、古い時代の人間を表現するために適切だと判断されているからであろう。その結果、「疑似古語」として用いられる場合は、老人だけではなく、ほぼすべての登場キャラクターが「じゃ」を使用している。例[133]～[142]



の台詞を発した登場人物はそれぞれ武士、農民、浪人、子供の天皇、武家の女性、百姓、花魁、公家の姫君、天皇、太后という身分である。また、史料の中の「じゃ」は「だ」以外の用法(例えば接続助詞「て」に付いて軽い敬意を示す)も存在したが、「疑似古語」としての「じゃ」は他の用法がほとんど見られない。つまり、時代もののフィクション作品において、「じゃ」は現代語の「だ」の代わりに用いられ、古めかしさを出す役割を果たしていると考えられる。

- [133]その覚悟じゃ。(武士『炎立つ(壱)』p.218)
- [134]柳生の殿さまじゃ！(農夫『柳生十兵衛死す(上)』p.11)
- [135]伝助はいずこじゃ。(山本勘助『風林火山』第1話0:22:50)
- [136]この貝に絵がないのは何ゆえじゃ。(安徳天皇『義経』第33話0:27:01)
- [137]一体、恭太郎に何をするつもりじゃ！(橘栄『JIN～仁～』第1話0:31:13)
- [138]アッシの在じゃ、正体は蛇だと聞きましたかのう。(百姓『巷説百物語』p.42)
- [139]おまえには、それが似合いじゃ。(粧ひ花魁『さくらん』0:18:33)
- [140]なんでじゃ？(和宮『篤姫』第33話0:08:12)
- [141]左大臣、どうじゃ？(天皇『陰陽師 I』0:04:22)
- [142]そうじゃ、その通りじゃ！(大后様『千年の恋』1:03:19)

現代語としての「ぞ」は主に男性が用いる文末助詞であるのに対して、「疑似古語」としての「ぞ」は性別、年齢、身分に関係なく用いられている。例えば[143]と[147]はそれぞれ出家した武家女性と子供の姫が発した台詞である。これは「疑似古語」の「ぞ」と現代語の「ぞ」の使用上の大きな特徴の一つである。また[146]のように、名詞の後に付けて強調の意を表すという使い方も現代語の「ぞ」には見られない。

- [143]そなた、妻にはなりませぬぞ。(磯禅師『義経』第26話0:18:53)
- [144]そして、笑いあおうぞ。(針商人『功名が辻』第35話0:13:33)
- [145]誰ぞ、薬籠(やくろう)と濡れ手拭いをこれへ。(篤姫『篤姫(上)』p.156)
- [146]都の目の届かぬところで、勝手をしておるものの、要職につけるなど、乱世の元ぞ。  
(右大臣藤原兼実『平清盛』3話0:09:27)
- [147]なかなか良いながめぞ!!(ぼん姫『姫武将政宗伝 ぼんたん!!(1)』p.4)

「のう」は元々「なう」の形で中世後期以降用いられたが、近代以降は「ね」、「ねえ」、「なあ」が一般化し、現在では主に、方言として西日本で用いられる。例[148]～[152]のように、時代もののフィクション作品では、現代語では一般的に感嘆詞「ね」や「ねえ」を使用する状況で、代わりに「のう」を使用するケースが多く見られる。しかし、主に上級・中級階級に属する人間が用い、下級階級に属する百姓や町人などはあまり用いない。また、使用する登場人物の年齢も比較的高い。

[148]なれど、もう心配はいらん。のう、正春。 (武家男性『里見八犬伝』2:08:20)

[149]いずれも、みな、この太閤がために受けた傷よのう。(豊臣『忍びの女(上)』p.17)

[150]於一が男でなくてのう。(島津忠剛『篤姫(上)』p.16)

[151]幾島どのはきついお方よのう。(滝山『篤姫(上)』p.280)

[152]いい息子をもってしあわせじゃのう。(同心『ぼんぐら同心(1)』p.16)

### 2.2.1.3 その他の語

人称詞と文末表現の他にも「疑似古語」と思われる語が多く存在する。例えば名詞の「朝餉」と「間者」、動詞の「相成る」と「申す」、副詞の「何故」と「もそっと」などは、主に時代もののフィクション作品で使用されている。これらの語は2.1.2の考察で分かったように、国語辞書での扱いは大きく異なっている。各語の正確な使用状況を知るには更に膨大な用例データが必要であるが、本論文ではまず手元にあるデータに基づき、相当する現代語と使用上の特徴や傾向などを表2-7のようにまとめた。こちらの語は、人称詞と文末表現のように、キャラクターの細かい属性との関連性はあまり強くなく、作品の古めかしさを出すことが主な役割であると考えられる。ただ、全体的にやはり身分の高いキャラクターほど使用頻度も高くなるという傾向が見られる。例えば大河ドラマ『義経』において、メインキャラクターのほとんどは「疑似古語」を使用しているが、[153]のように、主人公の幼馴染として登場するうつぼという京都出身の百姓の女の子の台詞だけはほぼ現代語になっている(下線は執筆者によるもの)。

[153]その名前、昔聞いたことある。借りた被き(かずき)を返さなきゃならないとか。だから知ってたよ。義経様と幼馴染だもの。(うつぼ：『義経』第26話0:33:30)

表2-7: その他の「疑似古語」

「疑似古語」	品詞	相当する現代語	使用例と使用上の特徴
相成る(あいなる)	動詞	なる	そなた、何歳に相成る?(『篤姫(上)』p.47) [「ある年齢になる」という表現で「なる」の代わりに用いられることが多い]
朝餉(あさげ)	名詞	朝食、朝ご飯、朝飯	すぐ朝餉の支度を。(『JIN〜仁〜』第2話0:07:00) [「昼ご飯」と「晩ご飯」を指す際に、「昼餉」と「夕餉」を用いる]
軍・戦(いくさ)	名詞	戦い、戦争	戦が始まるぞ。(『功名が辻』第35話0:16:24) [「疑似古語」としての「いくさ」は「戦争」その物を指す際に用いられる。一方、現代語ではほとんど比喩的な意味で使用される]
何処(いずこ)	代名詞	どこ	いずこの花とおまちがえなのでは?(『時代ロマンシリーズ(1) ささめごと』p.12) [現代語では、時々硬い文章語として用いられる]
甚く(いたく)	副詞	非常に	姫君さま、いたくお疲れではございませぬか。(『篤姫(上)』p.152) [現代語では、時々硬い文章語として用いられる]
異な	形容動詞	変な、妙な	異なことを申す。(『水戸黄門第3部』第15話0:06:29) [現代語では、主に「縁は異なもの味なもの」のようなことわざで用いられる]
女子(おなご)	名詞	女、女性、女子(じょし)	帝がお気に召すような素晴らしき女子に磨き上げてほしい。(『千年の恋』0:14:15) [現代語では、多くは東北地方や関西で使用されるが、「疑似古語」としてこのような地域的傾向が見られない]
おる	動詞	いる	惚れておる。(『陰陽師Ⅱ』0:09:47)

	補 助 動 詞		〔やや尊大感を伴う。男女ともに使用できる。 「おります」と「おらず」には古風な感じがな いが、「～まする」と組み合わせて「おります る」という形なら、古風な感じがする。現代語 では方言的な響きを帯びるが、「疑似古語」と しては地域的傾向が見られない〕
忝い(かたじけ ない)	形容詞	ありがとう	それはかたじけない。(『大奥(男女逆転)』 0:26:08)〔「疑似古語」として主に感謝の意 を表す時に用いられる〕
合点(がってん)	名詞	承知、同意	とんと合点がいかぬ。(『大乱妖花伝』 p.14) 〔「がてん」とも読むが、「疑似古語」として 用いられる際、概ね「がってん」と読む。また 目上の人にはあまり用いない〕
斯様(かよう)	形 容 動 詞	このよう	あれが何の煙か存じて、かように申すか？ (『平清盛』 第2話0:11:48)〔主に上級階級に 属する登場人物が用いる〕
間者(かんじゃ)	名詞	スパイ	それがし、間者ではござらん。(『風林火山』 第1話0:13:10)
御意(ぎょい)	名詞	ごもっとも、お っしゃるとおり	当主:あれは間違いなく母の血を継いでおる な。 侍女:御意に。(『姫武将政宗伝ぼんたん!! (1)』 p.7)〔「疑似古語」として、主に目上の人 に対して、同意・了承の意を示す際に用いる〕
金子(きんす)	名詞	お金	金子は気にせずともよい。(『篤姫』 第33話 0:39:54)〔「お金」関係の「疑似古語」には、 「路銀」という表現も見られる。現代語の「旅 費」に相当する〕
曲者(くせもの)	名詞	怪しい者	曲者はどうした！(『里見八犬伝』 0:34:07) 〔「疑似古語」としては主に盗賊などの怪しい

			者を指す際に用いる。現代語では主にひと癖があつて、普通とは違う人物を指す際に用いる]
此度(こたび)	名詞	このたび、今回、今度	こたび、淀城の奥を取り仕切ってもらうことになった。(『女太閤記』第36話0:20:21) [主に上級階級に属する登場人物が用いる]
今宵(こよい)	名詞	今夜	今宵はわたしも気が塞いでいて、やむなくお相手にした。(『義経』第5話0:09:00) [現代語の書き言葉では大きなイベントや特別な事がある夜を指す際に用いる。「疑似古語」として、主に上級階級に属する登場人物が用いる]
これしき	名詞	これくらい	なんのこれしき、名張者には当たり前のこと。(『水戸黄門第3部』第15話0:01:01)
左様(さよう)	形容動詞 感嘆詞	そのよう	左様なご心配にや及びませんよ。(『吉原手引き草』 p.173)
して	接続詞	そして	して、その五人とは。。。(『SHINOBI』0:24:09) [主に上級階級に属する登場人物が用いる]
心の臓(しんのぞう)	名詞	心臓	心の臓が止まるかと思いましたぞ。(『篤姫』第23話0:05:03)
大事無い(だいじない)	形容詞	たいしたことはない	大事無い。(『利家とまつ』第4話0:39:09) [主に上級階級に属する登場人物が用いる]
戯け(たわけ)	名詞	バカ	このたわけ者！(『憑神』 0:38:27) [意味が似たような語「うつけ」も「疑似古語」として稀に用いられる]
重畳(ちょうじょう)	名詞	非常に喜ばしい	それは何より重畳。(『篤姫(上)』 p.255) [「疑似古語」としては、主に非常に満足する様子を表す際に用いる。「幾重にも重なる」という意味での使用は「疑似古語」ではない。主に上級階級に属する登場人物が用いる]

当節(とうせつ)	名詞	このごろ、今	当節は、どんなご用件でおいでになりました。 (『大奥～第一章～』第1話0:29:27)
何故(なにゆえ)	副詞	なぜ	しかし、何故指まで落として、十両ばかりの金を無視する。(『てれすこ』0:10:20)〔主に上級階級に属する登場人物が用いる〕
なれど(も)	接続詞	けれど(も)	なれど、もう心配はいらん。(『花の乱』第5話0:08:20)〔主に上級階級に属する登場人物が用いる〕
盗っ人(ぬすつと)	名詞	泥棒	父を盗っ人呼ばわりとは、とんだお門ちがい。 (『天地人(中)』p.208)〔「ぬすびと」とも言う。現代語では、主に「盗人猛々しい」のような慣用句で用いられる〕
はは/ははあ	感動詞	はい	当主：それで正成、その子に会うてきてくれ。 そして良いようにはからうように。 正成：ははっ(『ちょっと江戸まで(1)』p.14) 〔主に畏まった場面で、武士が大名などの目上の人間に対して用いる〕
腑分け(ふわけ)	名詞	解剖	死んだら腑分けをする腹じゃ。(『JIN～仁～』第4話00:16:29)
まこと	名詞、副詞	本当	なんと、それはまことですか？(『織田信奈の野望1』p.30)〔主に上級階級に属する登場人物が用いる〕
皆の衆(みなものしゅう)	名詞	みんな	いよお一、皆の衆一ッ(『蒼天航路(1)』p.9) 〔主に武家男性が用いる〕
夫婦(めおと)	名詞	夫婦(ふうふ)	わしらはめおと、一心同体ゆえな。(『篤姫』27話0:20:25)〔現代語では、単独で用いることは少なく、主に「夫婦茶碗」や「夫婦松」のような熟語で用いられる〕
申す(もうす)	動詞	言う	おすめが、塩部屋に待っておると申すのじゃ

			な。(『忍びの女(上)』p.22) 〔丁寧体で用いる際は「疑似古語」ではなくなる〕
もしや	副詞	もしかしたら	もしや、あの鬼の正体はわが娘だとしたら… (『陰陽師Ⅱ』0:39:10) 〔主に上級階級に属する登場人物が用いる〕
もそっと	副詞	もう少し	もそっと近こうへ。(『風林火山』第4話 0:30:10)
よしなに	副詞	よろしく	どうぞよしなに。(『大奥(男女逆転)』0:25:53) 〔主に上級階級に属する登場人物が用いる〕
よもや	副詞	まさか	よもや今川に誑かされておるのではあるまい のう。(『風林火山』第1話0:12:05) 〔主に上級階級に属する登場人物が用いる〕
故(ゆえ)	名詞	わけ、ため	こうして甘やかすゆえ、ますますつけあがるの じゃ。(『平清盛』第2話0:07:55)〔現代の堅 い文章語では用いられることがある。主に上級 階級に属する登場人物が用いる〕
童(わらべ)	名詞	子供	そちらの牛若というわらべを甚く可愛がって おいでとか。(『義経』第2話0:33:02)〔現代 語では、単独で用いることが少ない、主に「童 歌」のような熟語の中で用いられる〕

### 2.2.2 文レベルの考察

日本語の「疑似古語」の中には色々な作品で用いられる「決まり文句」が存在する。これらの慣用句は長い年月の中、様々な時代ものフィクション作品において繰り返し使用されたことで、読者・視聴者からの認知度も高く、定着度の高い「疑似古語」であると言える。日本では、これらの慣用句について詳しく説明する解説書<sup>32</sup>も多く、日本在住の日本語学習者がこれらの本を参考にすれば習得できるであろう。しかし、日本にいない学習者は、

<sup>32</sup>『日常生活で使ってみたい「侍」の日本語』(市川スガノ)、『武士語でござる』(八幡和郎)、『武士語で候』(もんじろう運営委員会)、『使ってみたい武士の日本語』(野火迅)などが挙げられる。

これらの慣用句の意味と使用場面を理解するのに非常に労力を要すると推測できる。その場合に、教師が授業で積極的にこれらの慣用句を紹介する、あるいは翻訳者が日本で出版された解説書を他言語に翻訳すれば、このような状況は容易に改善できるだろう。本節では、日本で出版された解説書の説明を参考にし、実際の使用例を基に一部常用のものについて、下記表2-8にその意味と具体的な使用場面を示す。

表2-8 常用「疑似古語」慣用句の一覧表

「疑似古語」慣用句	現代語意味	使用例と使用場面
ありがたき幸せ。	大変ありがたい	ありがたき幸せな言葉でございます。（『新撰組』第26話0:11:26） 将軍や主などの目上の人から褒め言葉や褒章などを賜る場面で用い、感謝の気持を表す。男女ともに使用できる。
控えおろう。	控えなさい	助さん:控えおろう！（『水戸黄門第一部』第9話0:33:32） 自分側の偉い人物の肩書きを使って、人を平伏させる場面で用いる。自分側のほうは身分が高くなければ使えない。主に武士が用いる。
面を上げい。	顔を上げて、顔を見せよ	皆の者、面を上げよ。（『里見八犬伝』0:53:53） 身分の高い人が自分に平伏する相手に用いる。男女ともに使用できる。
出会え！出会え！	出て来い！出て来い！	出会え、出会え、上様の一大事ござる！（『憑神』1:26:04） 敵または怪しい者が現れ、それを発見した人が、自分側の人たちが立ち向かうように大きい声で叫ぶ場面で用いる。
これはしたり！	しまった！/失敗した！	これはしたり！あの金もらって置けば。（『天地人』第1話0:05:42）



		武士が失敗に気付いたときなどに口にする言葉である。
恐悦至極に存じます。	大変うれしく存じます	ご拝顔の榮に浴し、恐悦至極に存じたてまつります。『信長燃ゆ(下)p.144』 「恭悦至極」とも書く。藩主や将軍など自分より上の相手に用いる。主に武士が使用する
よきにはからえ。	君がいいと思うように しなさい	家臣:いかなされます？ 大名:榊原、よきにはからえ。(『天地人』43話0:18:48) 将軍や大名などの偉い人があることに対して、家臣から判断を求められた場面で用い、その件を家臣に任せるという意味である。
大儀であった。	ご苦労だった	本日は大儀であった。(『篤姫』23話0:21:12) 殿は家来が自分のためにした苦労をねぎらうときに用いる。
これにて一件落着。	これで裁判の決着が着 きました	『遠山の金さん』や『大岡越前』など町奉行が活躍する時代劇の中の裁判が行われるシーンで、その裁判が終了するときに用いられる。
滅相もない。	とんでもない	いえいえ、花魁がひと目惚れしただなんて滅相もない。(『吉原手引草』p.83) 男女ともに使用できるが、女性の場合は主に丁寧体の「滅相もございません」を用いる。

### 2.2.3 文法レベルの考察

現代の時代ものフィクション作品では、文法面においても現代語と異なる点がいくつか見られる。これらの文法的特徴も日本語の「疑似古語」を構成する重要な部分である。

#### I 打ち消しの「ぬ」

打ち消しの「ぬ」は上方語的表現であり、同じ上方語的表現の「じゃ」と同じように、「疑似古語」として広く用いられている。下記具体例のように、年齢性別問わずに用いられて

いるが、全体的にみると、農民や町人などのキャラクターより、比較的身分・地位の高い登場キャラクターがより多く使用すると言える。

[154]ゆえに、案じてはおりませぬ。(武家女性『風林火山』第6話0:25:38)

[155]皆、それ以上近づいてはならぬぞ！(村のお婆さん『もののけ姫』0:06:34)

[156]このことは父上さま母上さまにも固く黙っていてはくれぬか。(『篤姫(上)』p.31)

[157]何も起こってはおりませぬ。(公家男性『陰陽師Ⅱ』0:19:03)

[158]あとわずかではございませぬか。(武家男性『義経』第1話0:26:36)

「疑似古語」としての「ぬ」は、現代日本共通語で一般的に用いられる打消しの助動詞「ない」の代わりに用いられ、古めかしさを出す役割を果たしていると考えられる。例えば、「知らない」を「知らぬ」に置き換えるなどが見られる。ただ、「ぬ」に置き換えられない「ない」も存在する。そこで、否定文の中で、「ぬ」を使用する文と「ない」を使用する文の違いを明らかにするために、テレビドラマ『JIN－仁－』に登場するヒロインの全台詞の中から「ぬ」を使う否定表現と「ない」を使う否定表現を取り出し、分析を行った。その結果、「ぬ」は50箇所、「ない」が16箇所で使用されていた。さらに「ない」を使っている文を見ると、16箇所の中で「ではない」の形で使用するものが10箇所もあり、「ではない」の「ない」は「ぬ」に置き換えられない「ない」と言える。

## II 形容詞と動詞の「ウ音便」

現代日本語においても、「ウ音便」は一部の状況で用いられる。一つは方言として現れる。例えば関西弁では「買った」は「<sup>ゝ</sup>買った」と言われる。もう一つは上流階層の人間が、「美しゅうございます」、「嬉しゅうございます」、「美味しゅうございます」などの極一部の定型表現の中で使用すると思われる。一方、「疑似古語」としての「ウ音便」は地域性の制限がなく、身分などによる使用制限も見られない。例えば[163]と[164]の台詞を発する人物は身分の低い遊女見習いと身分の高い城主である。

[159]見ていて、辛ろうございます。(武家女性『天地人』第5話0:30:06)

[160]だれにも知れぬよう、ひそかに、はかろうてくれ。(武家男性『忍びの女(上)』p.7)

[161]それゆえ、義経様のそばにいとうございます。(白拍子『義経』第26話0:19:24)

- [162]親方様、かたじけのうございます。(武家男性『利家とまつ』第5話0:22:44)  
[163]花魁なんぞなりとうない。(遊女見習い[10歳前後]『さくらん』0:17:24)  
[164]母上、これはまた、一段とお美しうなられましたな。(城主『里見八犬伝』0:53:23)  
[165]快川国師さま、お久しゅうございます。(『信長燃ゆ(下)』p.175)

### Ⅲ 動詞+で(は)ない

頻繁に現れないが、「動詞+ではない」または「動詞+でない」の形で禁止を表す文法表現も見られることがある。

- [166]その穢らわしき姿を見せるでない、御所が汚れるであろう！  
(公家男性『織田信奈の野望3』p.50)  
[167]良いか、こたびの事は、誰にも言うでないぞ！(武家女性『篤姫』第5話0:11:04)  
[168]負けるでないぞ！(公家男性『千年の恋』1:13:57)

### Ⅳ 古い敬語表現を用いる

特に皇族や将軍などの身分が最も高い人間に対して、現代では廃止された一部の古い敬語表現を用いて、古めかしさが表現されている。その代表として、「仕る(つかまつる)」、「奉る(たてまつる)」、「遊ばす(あそばす)」の三語が挙げられる。以下はそれぞれの用例である。

- [169]芸をつかまつる。(前田慶次⇒豊臣秀吉『花の慶次(6)』p.6)  
[170]ご無礼つかまつりまする。(伊藤忠清⇒天皇『平清盛』第2話0:18:26)  
[171]失礼つかまつりました。(水野⇒御中臈『大奥逆転』0:30:03)  
[172]承知つかまつりましてございます。(侍女『篤姫』第35話0:10:21)  
[173]このまま菊千代君のお体を伺い奉るように。(篤姫『篤姫(上)』p.361)  
[174]わたくしの言葉は、そのまま薩摩のお殿さまのお言葉と考え遊ばせ。  
(幾島⇒篤姫『篤姫』第23話0:35:46)  
[175]お見舞いはいかが遊ばしまする？(丹後局⇒法皇『義経』第18話0:16:41)

『日本国語大辞典』では、「仕る」<sup>33</sup>、「奉る」、「遊ばす」について、以下のように説明している。

**つこうまつる【仕】**（「つかえまつる（仕奉）」の変化したもの）【一】〔自ラ四〕「つかえる（仕）」の謙讓語で、仕える対象を敬う。目上の人に奉仕申し上げる。お仕え申し上げる。また、目上の人のために、ある事柄に奉仕する。つかまつる。【二】〔他ラ四〕【一】（1）何かを「する」「作る」「行なう」などの謙讓語で、その動作を奉仕する対象を敬う。目上の人のために、またはその言いつけにより何かをしたり作ったりする。つかまつる。（2）（1）の、奉仕する対象を敬う用法から転じて）「する」「行なう」を、聞き手に対しへりくだる気持で丁重にいう。つかまつる。いたします。【二】補助動詞として用いる。他の動詞の連用形について、その動作をしてさし上げる、その動作を尊者に対してするの意を表わす。

**たてまつる【奉】**（動詞「まつる（奉）」の上に、出発させる意の動詞「たてる（立）」の連用形「たて」の付いたもの）【一】〔他ラ五（四）〕㊦①下位者から上位者へ物などをおくる、ささげる意から、「やる」「おくる」動作の対象を敬う謙讓語になったもの。①物などをさしあげる。献上する。㊦特に、人をさしあげるというところから、人を参上させる。使いをさしあげる。②「やる」の意味で、わざと敬語を用いてからかい気味にいう。③便宜上、ある地位にすえておく。敬意を表する。まつりあげる。④貴人が身に受け入れたりつけたりする動作を、傍の人がしてさしあげるものという尊敬語。①「飲む」「食う」の尊敬語。召しあがる。㊦衣服その他を、着たり身につけたりすることをいう尊敬語。お召しになる。御着用になる。㊦補助動詞として用いる。他の動詞に付いて、その動作が下位から上位に向けて行なわれることを示すところから、その動作の対象を敬う謙讓表現を作る。①動詞（または動詞に使役や受身の助動詞の付いたもの）に直接付く場合。…申しあげる。…してさしあげる。㊦特に、動詞「いる（率）」には助詞「て」を介して付き、「率てたてまつる」の形で、お連れ申しあげる、の意を表わす。【二】〔自ラ四〕（貴人の行動を、傍からその用意をするものという尊敬語）①「乗る」の尊敬語。お乗りになる。お召しになる。②「（座に）つく」の尊敬語。おつきになる。御着座になる。【三】〔他ラ下二〕（未然・連用形の用例しかないが、

<sup>33</sup> 「つかまつる」の項目には「「つこうまつる」に同じ」と記されているため、ここでは「つこうまつる」の説明を引用する。

下二段活用と認められる) ⊖【一】が下二段活用化して使役性を持つようになったものか。物をさしあげさせたり、人を行かせたりする、その先方を敬う謙讓語。一説に【一】に同じとも。①物などをさしあげさせる。人を通じてさしあげる、贈る。②人を参上させる。使いをさしあげる。伺わせる。⊖補助動詞として用いる。他の動詞に付いて、その動作を…させ申しあげる意を添え、その動作の対象を敬う。時に使役の意が薄れて、四段補助動詞「たてまつる」と同用法かと思われるものもある。

**あそばす【遊ばす】**【一】〔連語〕（動詞「あそぶ（遊）」の未然形に、上代の尊敬の助動詞「す」の付いた語）狩猟、歌舞、音楽、遊樂などをなさる。お遊びになる。【二】

〔他サ五（四）〕【一】（【一】が一語化した語）(1) 詩歌を詠じたり、音楽を奏したりする意の尊敬語。(2) (広く用いて) いろいろの物事をする意の尊敬語。(3) (自動詞のように用いて) ある動作をする意の尊敬語。(4) 動詞の前に付いて複合語をつくり、その動作をする人に対する敬意を表わす。【二】補助動詞として用いられる。多く動作性の語に付いて、その動作をする人に対する尊敬の意を表わす。助動詞「る」「ます」を下につけて敬意を強める場合もある。(イ) 動作性の名詞につく場合。接頭語「御」のついた漢語である場合が多い。(ロ) 動詞の連用形につく場合。多く、動詞の連用形は、尊敬の接頭語「お」を伴う。

このように、「古語」としての「仕る」、「奉る」、「遊ばす」は様々な動詞の尊敬語や謙讓語になることができるが、「疑似古語」として用いられる場合は、動詞として単独で使用される例は稀で、補助動詞として用いられることが多い。他の動詞の代わりに尊敬語として「仕る」、「奉る」、「遊ばす」が用いられると現代の視聴者・読者たちはその意味を理解できない恐れがあるが、補助動詞として用いられる場合は、主な意味を成す動詞があるため、台詞全体の意味を理解することには特に支障がないからと考えられる。また、[170]、[172]、[175]のように、「まする」などの他の敬語表現と共起して、さらに敬意の高い表現にすることもできる。

## 第三章 中国語における「疑似古語」

### 3.1 現代国語辞書における扱い

中国の現代語国語辞書の中に、日本語の国語辞書のように、「古風」などの位相情報を明記しているものはまだ見られない。本節では、中国語の「疑似古語」の語彙の部分が現代国語辞書において、どのように扱われているかを明らかにするために、『現代漢語詞典第五版(現代漢語詞典第五版)』と『現代漢語大詞典(現代漢語大詞典)』の二種類の国語辞書<sup>34</sup>を用いて、「疑似古語」であると思われる語の項目に対して考察を行う。『現代漢語詞典』は中国のシンクタンクである「中国社会科学院」の語言研究所詞典(辞典)編集室によってが編纂され、老舗の大手出版社「商務印書館」によって出版された、現在中国で最もポピュラーな、権威のある現代語辞書である。特に2005年に出版された第五版は「史上最大」というほどの大規模な改訂・増訂が行われた。第五版は、元本にした第3版から、新たに6000語あまりが加えられ、2500語が削除された。総収載語数は6万5000語あまりである。『現代漢語大詞典』は『漢語大詞典(漢語大詞典)』の現代漢語部分を抽出したものに、さらに語句を追加して、編纂された大型辞典である。『現代漢語詞典』よりも歴史は浅いものの、元になっている『漢語大詞典(漢語大詞典)』は現存するもののうち最大規模の中国語辞書であるため、『現代漢語辞典』に比べ収録語彙数は多く、総収載語数は10万語あまりとなっている。結論から言えば、「疑似古語」に対する認識は両辞書とも日本語の国語辞書より遅れており、改善する余地が大きい。次の小節で、以下72語の「疑似古語」について、中国の国語辞書における扱い方を詳しく見る。

哀家，本，陛下，臣，臣妾，誠，此，大人，大王，当真，等，尔，方才，夫君，父王，母后，父亲，母亲，阁下，公公，公子，故，孤，官人，寡人，何，何故，何许，乎，皇上，今宵，可，客官，老夫，老纳，老身，老朽，乃，爹，娘，娘娘，娘子，奴婢，奴才，奴家，诺，平身，其，岂，卿，然，容，汝，弱，甚，生辰，圣上，厮，望，万岁，勿，吾，相公，宵小，休，言，恙，也，在下，朕，之，足下

<sup>34</sup> 以降、それぞれ『現代漢語詞典』と『現代漢語大詞典』と表記する。

## 3.1.1『現代漢語詞典』における扱い方

まず、収録状況について調べた結果、72語のうち6語は記載されていないことが分かった。“哀家”“臣妾”“夫君”“兄台”“父王”“母后”の6語である。そこで、CCL現代語部分で検索した結果は、“臣妾”“夫君”“兄台”“父王”“母后”の用例数はそれぞれ46件、149件、44件、132件、83件であり、少ないとは言えない。したがって、現代中国語での使用頻度が極めて少ないために収録されなかったとは考えにくい。“哀家”の用例数は2件見られなかったが、時代もののフィクション作品ではよく用いられており、さらに10人の中国人母語話者に確認したところ、全員“哀家”という語を知っていたため、めったに見られない表現ではないと思われる。特に“哀家”と“臣妾”は本論文で調査した「疑似古語」の中においても、時代もののフィクション作品における出現頻度が高い部類に入っているにもかかわらず、収録されていない。その理由として考えられるのは、この4つの語は古代の人称詞として見なされ、現代においても時代小説や時代劇などの、いわゆる大衆娯楽作品にのみで見られるため、規範的な現代語として認められていない可能性があるという点が考えられる。以下、収録されている66語についてさらに詳細を見てみる。

## (1)位相情報が付いている語

『現代漢語詞典』の説明によると、使われている位相情報の注記は<方>(方言)、<书>(文章語)、<古>(古代の用法)、<口>(口頭語)の三つがある(以下それぞれを<方言>、<文章語>、<古語>、<口語>と日本語の表記を用いる)。66語のうち、以上4つの位相情報のどれかが注記されている語は22語あった。それぞれの詳細は表3-1のように、22語のうち<文章語>の注<sup>35</sup>が付いているのは19語で、<方言>の注が付いているのは2語、<口語>の注が付いているのは1語であり、“可”は語義ごとに異なる位相情報が注記されている。また、<古語>と注記される語はなかった。

表 3-1：『現代漢語詞典』における位相情報

<文章語>	<方言>	<口語>	<文章語>と<方言>
诚, 等, 尔, 官人, 何许, 乎, 老衲, 乃, 岂, 然, 容, 汝, 生辰, 望, 吾, 宵小, 恙, 也, 之	公公, 娘子	爹	可

「文章語」と注記されるもののなかに、複数の語義を持つ語が多く、そのうちの一つの

<sup>35</sup> 語義がいくつかある場合は、そのうちの一つでも<文章語>の注が付いていれば、<文章語>と見なす。

語義にだけ「文章語」と注記される場合がほとんどである。日本語もそうであったように、文章語と「疑似古語」の関連性はかなり密接していると考えられる。しかし、辞書に収録されているすべての文章語、または「文章語」と注記されている語義に対して古めかしさを感じるというわけではない。文章語の中には、現代中国人が「硬い」と感じる語と、「硬い」かつ「古い」と感じる語が存在すると思われる。例えば、“老妪(老年の婦人)”と“老衲(老僧)”の二語は『現代漢語詞典』では、どちらも<文章語>と注記されている。しかし、中国語人母語話者10人に両語に対する語感を確かめたところ、“老妪”に対しては本や新聞などで時々見る堅い表現ではあるが、古めかしいと感じる人がほとんどいなかった。一方で、“老衲”に対しては文章語の硬さをあまり感じず、時代もののドラマなどでよく耳にする古い表現と感じる人が多い。しかし、今まで出版されたほとんどの中国語の国語辞書では、このような使用上の区別を無視し、同じ「文章語」として分類されている。また、上に挙げた三つの位相項目は注記されていないが、表3-2に示したように、説明の中に位相情報が含まれる語もある。下線部は位相情報が含まれている部分で、〔 〕内は執筆者による日本語訳である。特に「(多见于早期白话)〔早期の白話でよく見られる〕」という説明が付く語が多い。「早期白話」とは、中国の唐宋の時代から「五・四運動」までの口頭語を元にする中国語の書き言葉であり、主に通俗文学作品で用いられていた。この「早期白話」で書かれた「古白話小説」に関しては、中国語の「疑似古語」の起源との関連性について3.3小節で少し触れてみたい。

表3-2：『現代漢語詞典』の中に位相情報の説明がある語

語	『現代漢語詞典』における記述
大人	①敬辞，称长辈(多用于书信)〔主に手紙で用いる〕：父亲大人。 ②旧时〔昔〕称地位高的官长：巡抚大人。
大王	戏曲，旧小说中〔戏曲や昔の小説の中〕对国王或强盗首领的称呼。
阁下	敬称，称对方。从前书函中常用，今多用于外交场合〔昔は主に書簡の中で用い、今は主に外交の場面で用いる〕：大使阁下 首相阁下。
官人	①〈书〉有官职的人。②宋朝对一般男子的尊称。③妻子称呼丈夫(多见于早期白话)〔早期の白話でよく見られる〕。
客官	【名】旧时店家，船家等对顾客，旅客的尊称。



老身	老年妇女的自称(多见于早期白话)
奴家	青年女子的自称(多见于早期白话)。
平身	旧时指行跪拜礼后立起身子(多见于旧小说, 戏曲)〔昔の小説や戯曲でよく見られる〕。
卿	①古时〔古い時代〕高级官名: 卿相。②古时君称臣。③古时夫妻或好朋友之间表示亲爱的称呼。④【名】姓。
厮	①男性仆人(多见于早期白话, 下同): 小厮。②对人轻视的称呼: 这厮, 那厮。
相公	【名】①旧时妻子对丈夫的尊称。②旧时称年轻的读书人(多见于旧戏曲, 小说)。
休	①停止; 罢休(事情): 休会 争论不休。②【动】休息: 休养 休假 退休 这个星期任务太多, 少休一天。③【动】旧时指丈夫把妻子赶回娘家, 断绝夫妻关系: 休妻 休书。④【副】表示禁止或劝阻(多见于早期白话): 休得无理 闲话休提 休要胡言乱语。 ⑤【名】姓。
在下	谦称自己(多见于早期白话): 先生过奖, 在下实不敢当。
足下	对朋友的尊称(多用于书信)。

## (2) 位相情報が付いていない語

66語のうち、位相情報が一切示されていない語は30語がある。そのうち、用例に「疑似古語」としての使い方が載っていない語や、または実際の使用と異なる語が見られる。表3-3はその一部である。

表 3-3: 『現代漢語詞典』の中に位相情報が付いていない語(一部抜粋)

語	『現代漢語詞典』の記述 <sup>36</sup>	日本語訳
本	⑧指示代词。指自己方面的。～厂   ～校   ～国	⑧指示代名詞。自分側を指す。～工場 ～校 ～国
奴婢	男女奴仆。太监对皇帝, 后妃等也自称奴婢。	男女の奴僕。宦官は皇帝、皇后・妃などに対して「奴婢」と自称することもある。
老夫	年老男子的自称。	年を取った男性の自称。

<sup>36</sup> 「疑似古語」としての用法のみを載せる。

在下	谦称自己（多见于早期白话）。先生过奖，～实不敢当。	自称の謙詞（早期の白話ではよく見られる）。先生から過分にお褒めいただき、わたくしはまことに恐れ入ります。
----	---------------------------	--

「疑似古語」としての“本”は、“本+官職・身分”という形で用いられることが多く、自称詞の類に属する。例えば、“本公主”、“本太子”、“本大人”、“本王”、“本宮”、“本将军”、“本太尉”、“本夫人”など多数存在する。しかし、『現代漢語辞典』の用例には、個人の自称詞としての用例は一つもない。“奴婢”の説明は古語としての用法であり、実際現代の時代ものフィクション作品では宦官ではなく、主に宮廷や貴族の屋敷で仕えている女性使用人が用いる自称詞となっている。“老夫”と自称する男性は現代ではすでにほとんど見かけないにもかかわらず、その使用の実状は辞書に反映されていない。

“在下”は主に男性が使用する自称詞であるが、辞書ではこのような発話者の属性についての説明は一切されていない。以上の考察のように、「疑似古語」としての意味用法は『現代漢語詞典第五版』にはほとんど反映されていないというのが現状である。日本の国語辞書に倣って、「古風」という位相項目を新しく設け、主に「疑似古語」として用いられる語をそれに分類するのが望ましい。

### 3.1.2 『現代漢語大詞典』における扱い方

まず、「疑似古語」の収録状況について、72語中3語が収録されていなかった。“夫君”“何故”“平身”の3語である。“夫君”は『現代漢語詞典』のほうにも収録されていないが、“何故”と“平身”は『現代漢語詞典』に収録されている。CCLで検索した結果、“何故”の用例は386件、“平身”の用例は12件で、それほど少くない。また中国語母語話者10人に確認したところ、全員がこの二語を知っている。“何故”の場合は、編纂者は一つの語ではなく、“何”と“故”の二つの語として分類しているかもしれないが、“何故”はよく見られる組み合わせであるため、『現代漢語詞典』のように一つの熟語としても示した方がよい。『現代漢語大詞典』の収録語数は多いが、『現代漢語詞典』のよう<文章語>、<古語>などの位相項目が設けられていないことは、この辞書の一つの大きな問題点であると言える。そのため、外国人中国語学習者にはやや不向きな辞書だと思われる。また、収録された69語のうち、使用状況が示されているものもあるが、数が少なく、表3-4の10語だけである。

表3-4：『現代漢語大詞典』の中に使用状況が明記されている語

語	『現代漢語大詞典』における記述
哀家	戏曲中孀居的太后的自称。
臣妾	❶古代对奴隶的称谓。男奴叫臣，女奴叫妾。❷古代仕宦家妇女自谦之称。
大人	㊦dàrén❶对父母叔伯等长辈的敬称。对同辈或朋辈中年事稍长者，于通信时也常用此称。㊦dàren❷指成年人。❸旧时官场中下属对上司的习惯称呼。如：抚台大人。❹古代鲜卑，乌桓，契丹等族称其部落首领或部落联盟首领为“大人”。
大王	旧戏曲小说中对山寨头领的称呼。
官人	妻子称呼丈夫（多见于早期白话）
老身	旧时老年妇女的自称。
奴家	旧时青年女子自称。如：奴家父母双亡，随哥哥来的关内。
相公	❶旧时对宰相的敬称。❷泛称官吏。❸旧时妇女对丈夫的敬称。❹旧时对读书人的敬称。后多指秀才。❺旧时对男子的敬称。❻对学徒的戏称。❼旧时指京津等地戏院中饰小旦的男演员。又指男妓。
兄台	对朋辈的敬称（多用于书面语）
足下	❶古代下称上或同辈相称的敬词。现为对朋友的敬称，多用于书信。❷脚底下；脚站立的地方。有如：千里之行始于足下。

### 3.2 「疑似古語」使用の様相

本節では、中国語の「疑似古語」は時代もののフィクション作品において、実際にどのように用いられているのかということについて、言語的特徴と使用する登場人物の属性による使用傾向を明らかにするために、様々な作品からの用例を用いて考察を行う。日本語と同様、語レベル、文レベル、文法レベルの順に分析していく。

#### 3.2.1 語レベルの考察

語レベルの「疑似古語」のうち、「人称詞」が占める割合は大きいいため、以下「人称詞」と「その他の語」の二つのグループに分けて考察する。

##### 3.2.1.1 人称詞

現代を舞台とする作品に比べて、時代もののフィクション作品で使用されている人称詞のバリエーションは明らかに多い。中には現代語の代表的なものもあれば、時代もののフィク

ション作品でしか見られないもの、つまり「疑似古語」としての人称代名詞もある。以下、時代ものフィクション作品でよく用いられている「疑似古語」としての人称代名詞が作品の中で実際どのような具体的な役割を果たしているのかについて、用例文を提示しながら分析していく。

### (1) 自称詞

#### ① “吾”

時代ものフィクション作品で用いられている普通一人称代名詞は“我”と“吾”の二語が見られる。“我”は現代中国のもっとも代表的な一人称代名詞であり、“吾”のほうが古めかしさは断然高い。しかし、実際作品での出現頻度を調べてみたところ、“吾”の出現頻度は極めて低く、どの作品においても“我”の出現頻度のほうが高いことが分かった。表3-5はテレビドラマ6作品からそれぞれ無作為に取り出した15話分の台詞における“我”と“吾”の出現数を示したものである<sup>37</sup>。このように、「疑似古語」でありながら、“吾”の使用頻度は実際には極めて低いということが分かる。

表3-5：“我”と“吾”の使用頻度

	封神榜	秦始皇	漢武帝	三国演義	大明宮詞	大明王朝
我	1090	821	746	683	2188	820
吾	1	1	1	12	0	3

“吾”が見られる文をさらに分析すると、以下のことも分かった。

a) “吾皇”という一つの熟語として使う。

[1] 吾皇万岁！万岁！万万岁！ (《大明王朝》第5話0:25:58)

(皇帝陛下万歳！万歳！万万歳！)

[2] 吾皇万岁！万岁！万万岁！ (《三国演義》第3話0:04:26)

[3] 吾皇威武！ (《漢武帝》第28話0:25:13)

(ご立派なるわが陛下。)

[4] 老臣叩見吾皇，万岁万岁万万岁。 (《宰相劉羅鍋》第1話0:43:38)

(ご挨拶に参上つかまつりましてござります。陛下万歳万歳万々歳。)

<sup>37</sup> 各作品のタイトルは日本語で示す。詳細は参考資料の「中国語作品一覧表」を参照する。以降、使用頻度を示す表はみんな表3-5と同じ調査方法を用いる。

特に例[1][2]のように、正式な場面(皇帝の座に即く場合など)において、大勢の人たちが一斉に“吾皇万岁！万岁！万万岁！”という慣用句を使用することが多い。また、[3]のように皇帝を褒め称える場面や、[4]のように畏まって挨拶する場面においてもよく用いられる。

- b) 書信、詩などを書いたり、読み上げたりする場合、“我”はあまり用いられず、“吾”が用いられる。『現代漢語詞典第五版』の注釈には、“吾”は文語であると書いてあるが、現代中国語コーパスCCLで検索した結果、文語においても“吾”の使用はそれほど多くないことが分かる。また、CCLの用例は古代中国の書物の文を直接に引用する場合がほとんどである。一方、「疑似古語」としての“吾”は例[5]のように、古代書物の文章を引用するときにも用いられるが、例[6][7]のように正式な文書や手紙などにおいても用いられる。つまり、「疑似古語」としての“吾”は時代ものフィクション作品では、一人称代名詞“我”の文章語としての働きを果たしていると考えられる。ただ、“我”の複数形“我等”は「疑似古語」であり、現代中国語の“我们”の代わりに用いられる。

[5]“大节非也，小节虽是也，吾无观其余矣。”王上，书讲完了。（《秦始皇》第9話0:37:48）

（「大節<sup>ひ</sup>非なれば、小節<sup>せ</sup>是なりと雖も、吾其<sup>われ</sup>の余を觀ることなし」<sup>38</sup>主上、本を読み終えました。）

[6]大王，这个檄文上说：今上无道虐杀吾子，削藩乱制，危害宗亲。

（王様、この檄文は「現在の皇帝は無道でわが子を残酷に殺し、属地を削り制度を乱し、親族に危害を加える。」と言っております。）（《漢武大帝》第4話0:15:39）

[7]赫然一行大字便在眼前—吾去安陆五六日还！（《大秦帝国第二部(下)》p.415）

（はっきりと大きな字が目の前に現れた— 余は安陸へ参り、五、六日帰す！）

これらの時代ものドラマでは、“我”は頻繁に用いられ、“吾”のような古い時代の一人称代名詞に限られた極一部の場面でしか使われない原因は、おそらく、“吾”の一人称代名詞としての用法があまりにも古いため、テレビドラマのように一般大衆向けの作品で

<sup>38</sup> 『荀子』 澤田多喜男・小野四平(訳) 中央公論新社 2001年 p.64より引用。

大量に使うと、“吾”の一人称代名詞用法を知らない観衆が戸惑う可能性が高いからであろう。金水(2003)も指摘するように、「役割語」が成り立つ前提は、送り側（テレビドラマの脚本家）と受け側（ドラマを見ている一般大衆）の知識の共有である。この点においては、「疑似古語」も同じである。つまり古めかしい語なら、すべて「疑似古語」になるわけではなく、言葉を発信する側と受信する側の両方がその古めかしい語についての知識を持っているという前提条件を満たして、はじめて「疑似古語」として見なすことができる。

## ② “朕”、“孤”、“寡人”

皇帝は中国の時代もののフィクション作品に頻繁に登場する代表的なキャラクターの一つであり、皇帝専用の自称詞もいくつか存在する。その自称詞を用いることにより、「皇帝」という人物像を容易に生き生きと表現することができる。歴史上の皇帝の自称としてよく知られるものとして“朕”と“孤”と“寡人”の三つがある。この三つは現代でも「疑似古語」としてよく用いられているが、実在した用法とややずれが存在することが分かった。まず、各語の出現頻度を調査した結果を表3-6に示す。

表3-6：“朕”、“孤”、“寡人”の使用頻度

	封神榜	秦始皇	漢武帝	三国演義	大明宮詞	大明王朝
朕	0	162	347	35	5	56
孤	114	0	0	22	0	0
寡人	0	281	48	0	0	0

さらに、《秦始皇》における“朕”と“寡人”、そして《封神演義》における“孤”の格分用をそれぞれ調べた。結果を表3-7に示す。

表3-7：“朕” “寡人” “孤”の格分用の割合

	主格	所有格	目的格	合計
朕	117	22	23	162
孤	81	12	21	114
寡人	190	31	60	281

表3-7から“朕”と“孤”と“寡人”は、主格、所有格、目的格のいずれの格でも用いられていることがわかる。つまり、皇帝の自称詞として、“朕”、“寡人”、“孤”の使い分けは格に関係するのではなく、その他の原因があると考えられる。各語の具体例を用いて詳しい使用の様相を探る。

[8]漢武帝 朕读了你的书,朕气病了。 (《漢武大帝》第1話0:02:57)

(朕は君が書いた本を読んだ。朕はあまりの怒りで病気になってしまった。)

[9]武則天:朕今天叫你来不是为了这个。 (《神探狄仁傑1》p.419)

(本日、朕はそなたをここに呼び出したのはこの件ではない。)

[10]嘉靖:是不是向朕诉苦? (《大明王朝》第3話0:06:04)

(朕に苦情を言うのだろう。)

[11]秦始皇:朕再好好想想吧。 (《秦始皇》第26話0:09:45)

(朕はもっとじっくり考えよう。)

[12]紂王:来,给孤说说此图。 (『封神演義』第10話0:05:48)

(さあ、余にこの図を説明しておくれ。)

[13]曹操:孤亦深爱此子。 (《三国》第55話0:08:22)

(余もこの子を甚く可愛がっておる。)

[14]秦始皇:寡人不会像他那样。 (《秦始皇》第9話0:39:02)

(余は彼と同じようなことをせぬ。)

上の例のように、この三つの中で“朕”は最もよく使われており、次いで“孤”が多く、“寡人”は一番少ない。《封神演義》の紂王と武王の二人は“朕”より“孤”をより頻繁に用いている。しかし、《封神演義》の原作小説である《封神演義》では、二人とも“孤”ではなく“朕”を用いている。《封神演義》の製作者が原作とは異なる自称詞を選んだ理由として、二つの可能性が考えられる。一つは、“朕”が「古くは一人称の代名詞。秦の始皇帝以降、皇帝の自称にのみ用いられるようになった。」<sup>39</sup>という歴史的事実を知った上で“朕”を使わず、“孤”を用いたという可能性である。もう一つの可能性は“朕”には、秦の始皇帝のように一国を統治する唯一の最高統治者というイメージが強いが、《封神演義》は殷朝の最後の皇帝である紂王と、彼の残酷な統治に反対し、殷を倒して周王朝の初

<sup>39</sup> 『小学館中日辞典第2版』より引用。『現代漢語詞典第五版』にも同じような解釈が見られる。

代皇帝となる武王の二人の王が存在するため、二人あるいはどちらか一方が“朕”を用いることは適切ではないと判断したというものである。例[11]と[14]は同じ作品の同一人物（秦の始皇帝）が皇帝になった後となる前に発した台詞であり、“寡人”は始皇帝がまだ中国を統一していない時期に用いる自称であり、中国を統一し、唯一の最高統治者となった“秦始皇”は“朕”を用いるようになった。

“寡人”は徳の少ない者という意味で、王や諸侯<sup>40</sup>が謙遜して言う自称詞であったが、唐代以降は皇帝専用の自称詞となった。実際、下記例[15]～[16]のように、“寡人”は最高統治者の自称詞として使われることが少なく、地方の統治者が用いる場合が多いと思われる。

[15] 刘濞 : 只是寡人不知道其他诸侯王心里是怎么想的！ (《漢武帝》第3話0:08:46)

(ただ、余はほかの諸侯たちがどう考えておるのか分からん。)

[16] 齐桓公 : 寡人当将国政委于何人啊？ (《东周列国春秋篇》第8話0:10:10)

(余は国政を誰に任せれば良いのじゃ？)

[17] 嬴政 寡人的话不想说两遍。 (《秦始皇》第6話0:03:44)

(余は同じ話を二回言うのが嫌いじゃ。)

[15]の“刘濞”は前漢の初代皇帝劉邦の姪子で、当時の諸侯国の一つの呉国の君主である。ドラマでは当時の最高統治者である漢景帝は「朕」を用いているのに対し、“刘濞”は“寡人”を用いている。[16]の“齐桓公”は中国が統一される前の諸国の一つである斉国の君主である。[17]は前にも分析したように、最高統治者になる前の“秦王嬴政”は“朕”を用いず、“寡人”を使用している。

以上に述べたように、時代もののフィクションにおいて、皇帝というキャラクターは“朕”であれ“孤”であれ“寡人”であれ、他の人とは異なる自称詞を用いるのが普通である。しかし、史料を調べると、古代の皇帝たちは常に“朕”、“孤”を用いていたわけではないことが分かる。例えば以下は《漢武帝》の漢景帝と漢武帝に関する史料である。

① 景帝曰：「錯所穿非真廟垣，乃外墼垣，故他官居其中，且又我使為之，錯無罪。」<sup>41</sup>

② 武帝曰：「吾常活之，今懷詐，有不忠之心。」<sup>42</sup>

<sup>40</sup> 「古代中国で、天子から封土を受け、その封土内の人民を支配していた人。」（「大辞泉」小学館）

<sup>41</sup> 史記/列傳/卷九十六/張丞相列傳第三十六（《新校本史記三家注》鼎文書局 1981 p. 2864）



③臣瓚曰：「景帝詔曰『朕親耕，后親桑，為天下先』」<sup>43</sup>

このように、実際の皇帝たちは“我”や“吾”も用いていた。皇帝が“朕”と自称する例は③のように詔書などの正式な文書で多く見られる。つまり歴史上の“朕”は口語ではなく文語であったと考えられる。「疑似古語」としての“朕”は歴史上実際にあった“朕”の用法と異なっていることが分かった。

### ③ “臣” と “臣妾”

“臣[18]”は臣下が君主または皇后や皇太后に対してよく用いる自称詞であり、複数形は“臣等[19]”である。“微臣[20]”、“罪臣[21]”、“儿臣[22]”、“老臣[23]”などのバリエーションが見られる。“微臣”は“臣”よりさらにへりくだった自称詞であり、“罪臣”は罪や過ちを起こした時に用いる自称詞である。“老臣”は「年を取った臣下」の意味であるが、ドラマで“老臣”と自称する人物には、年寄りだけではなく、朝廷で長くつとめ、地位がかなり高いといった特徴もある。“儿臣”は男女を問わず皇族の子供たちが自分の両親と話す時に頻繁に用いられる。

[18]姜子牙→武王<sup>44</sup>：臣回昆仑山，向我师原始天尊讨教。（《封神演義》第26話0:19:08）

（臣は崑崙山に戻り、私の師匠原始天尊に伺ってきます。）

[19]大臣たち→康熙帝：夜半召见臣等，主子有什么大事？（《康熙大帝第4卷》p.119）

（夜中に我々を呼び出し、何事でござりましょう。）

[20]司马迁→漢武帝：也许微臣根本就没有资格来评论陛下。（《漢武帝》第1話0:04:40）

（それがしには陛下を評価する資格などないかもしれません。）

[21]杜摯→秦惠王：罪臣杜摯，参见国公。（《大秦帝国第一部（下）》p.637）

（罪人杜摯、主上に拝謁つかまつりましてござります。）

[22]秦王→王太后：儿臣事事都依着母后，只求母后依孩儿这么一件事。

（わたくしはどんな事も母上様に従うゆえ、この一件だけはどうかご了承ください。）（《秦始皇》第6話0:31:43）

<sup>42</sup> 列傳/卷一百四/田叔列傳第四十四（《新校本史記三家注》鼎文書局 1981 p. 2783）

<sup>43</sup> 本紀/卷四/文帝紀第四（《新校本漢書》鼎文書局 1986 p. 423）

<sup>44</sup> 「→」の前は話し手を指し、後ろは聞き手を表わしている。

- [23] 王愔→康熙: 老臣已经痊愈, 蒙圣上赐药, 令臣感激之至! (《康熙大帝第4卷》p.337)  
(それがしは完治しました。陛下よりお薬を賜りまして、恐悦至極に存じます。)

“臣妾”という言葉は古代中国語では、身分の最も低い人間を指す。《尚书》の注には“役人贱者, 男曰臣女曰妾。”<sup>45</sup> (使用人の中の卑しい者、男を臣といい、女を妾と言う)とあり、また《周礼》の注にも“臣妾, 男女贫贱之称。”<sup>46</sup> (臣妾、男女の貧しく卑しい者の呼称)と記されている。しかし、例[24][25][26]のように「疑似古語」としての“臣妾”は主に皇后・妃が皇帝に対して自称するときに用いられる。

- [24] 太子妃对太子: 臣妾希望太子殿下高兴。 (《美人心计》第31話0:08:48)  
(わたくしは皇太子殿下に喜んでいただきとう存じます。)
- [25] 妲己→紂王: 臣妾何尝不愿意去呢。 (《封神演義》第27話0:26:26)  
(わたくしも行きたくないなど思っておりません。)
- [26] 王皇后→唐高宗: 皇上有话就对臣妾直说吧。 (《武則天》第7話0:16:45)  
(陛下はお話があれば、わたくしに直接おっしゃってください。)

#### ④ “哀家”

“哀家”は本来「夫を亡くして皇后が使用する」自称詞であり、近年の作品では例[27][28]のように、主に皇太后の自称詞として用いられ、本来の意味用法とほぼ一致している。

- [27] 張太后→周將軍: 哀家去那里住就好了。 (《美人心计》第24話0:04:12)  
(わたくしはあそこに住めば良いのです。)
- [28] 太后→妃: 你且坐着, 哀家知道你是个懂事的。 (《后宫甄嬛伝2》p.80)  
(お座りなさい。わしは知っておる。そなたは道理をわきまえられる女子であることを。)
- [29] 現皇后→前皇后: 今天哀家不是来看你 (《一代女皇武則天》第29話0:02:32)  
(今日、わらわはそなたを見に来たのではない。)

<sup>45</sup> 《尚書》 費誓第三十一、原文は“馬牛其風臣妾逋逃勿敢越逐”(《十三經注疏1 尚書》, 藝文印書館, 1989, p. 312)

<sup>46</sup> 《周禮》 天官冢宰第一、原文は“八曰臣妾”(《十三經注疏3 周禮》, 藝文印書館, 1989, p. 30)

しかし、20世紀80年後期から90年代初期までに、中国(大陸)で放送された時代もののドラマでは、皇帝がまだ生きているにもかかわらず、皇后が“哀家”と自称するという不適切な用法が多かった。例えば、例[29]の作品『一代女皇』は1985年に台湾が製作した時代もののテレビドラマであり、台湾で初放送した際の視聴率は60%を超えた。90年代初期より中国大陸で放送されるようになってから、中国全国の各テレビ局で数十回も再放送され、中国全土で大きな「女皇」ブームを引き起こした。当時、中国大陸ではテレビドラマの製作はまだはじまって間もなく、放送できる作品数が少なかったため、各テレビ局は台湾、香港、シンガポールが製作したテレビドラマを数多く放送していた。その際、台湾や香港ではすでに多くの歴史・時代もののドラマが製作されており、それらは次々と中国大陸で放送された。当時の歴史・時代もののブームの影響を受け、中国大陸でも20世紀90年代初期から時代もののドラマを製作するようになり、2000年前後にピークを迎え、視聴率も台湾や香港の時代もののドラマ以上に高くなった。しかし、中国大陸の歴史・時代もののドラマの発展は、初期では台湾や香港の時代もののドラマから大きな影響を受けたため、“哀家”のような台湾や香港のドラマで使用されていた不適切な「疑似古語」も受け継がれたのである。本論文で使用した作品は時代考証などが比較的きちんと行われたものが多く、皇后が“哀家”と自称する用例は少ないが、インターネットで公開されている素人が創作した時代もののフィクション作品では、皇后が“哀家”と自称するケースはいまだに多く見られる。

### ⑤ “奴才” “と” “奴婢”

“奴才”の本来の意味は奴僕であり、身分の低い人々を指す。歴史上では明・清代の宦官や清代の満人・武官が皇帝に対して使う自称詞であった。しかし、[30]～[32]のように、明代以前の唐代や漢代を舞台とする作品でも“奴才”という自称詞がしばしば用いられている。実際、“奴才”と自称する登場人物を詳しく見ると、そのほとんどが皇帝に仕える宦官であることが分かった。

[30] 奴才完全同意您的看法。 (《漢武帝》第29話0:21:10)

(僕<sup>やつがれ</sup>は陛下のお考えに賛成つかまつります。)

[31] 奴才年羹尧叩见四爷,十三爷。 (《雍正王朝》第1話0:12:13)

(それがし年羹尧、四親王さま、十三親王さまにご拝謁つかまつります。)

[32] 是皇上吩咐奴才这样做的。 (《美人心計》第17話0:05:55)

(やつがれは陛下のご命令に従っただけでござります。)

古代中国の宦官制度は周朝までさかのぼることができる。当時の宦官たちが自分のことを実際にどのように呼んでいたかについては詳しく考察していないが、古代中国語のコーパスを利用して調べた結果、少なくとも漢代と唐代の主要な史籍においては、“奴才”という単語は見られない。したがって、「疑似古語」としての“奴才”は時代と関わりなく宦官という登場人物であることを引き立たせるために用いられていると考えられる。一方、“奴婢”は[33][34]のように主に宮廷または貴族の屋敷で主人たちの世話をする仕女の自称詞として用いられる。

[33]使用人(女性):丞相大人, 奴婢正在按方煎药。 (《大秦帝国二(上)》p.376)

(丞相様、わたくしは処方箋通りに薬を煎じております。)

[34]侍女:小主叫奴婢好找。 (《后宫甄嬛传 2》p.6)

(莞嬪<sup>ひん</sup>さま、わたくしはずっと探しておりました。)

[35]若い宦官:奴婢听说冯保压着大伙不许吭声。 (《大明王朝》第1話 0:06:30)

(わたくしは冯保が圧力を加えて皆を黙らせたと聞きました。)

例[35]のように、『大明王朝』という作品では明代の史籍に従い、宦官の自称詞として“奴才”ではなく、“奴婢”を用いたところ、逆に視聴者から間違いではないかと指摘されたというエピソードがある。《大明王朝》の原作では“奴才”を用いていたのだが、ドラマの制作者が史実に従い“奴婢”に変えたところ、視聴者の持っている知識とずれが生じたためであろう。現代中国語母語話者にとって“奴婢”は宮廷で皇族たちの世話をしている女の使用人と結びつく名称である。そのため、女性を想起させる自称詞“奴婢”が男性キャラクターに使われると、当然違和感を覚えることになるのである。

## ⑥ “在下”

“在下”は中国語の時代もののフィクション作品で使われている自称詞の代表的なものであり、例[36]～[45]は、[38]を除いてすべて男性の登場人物によって“在下”が用いられる例である。[38]の発話人物は女性であるが、女性であることを隠したため、男性と装って“在下”と自称した。つまり“在下”は男性専用の自称詞であると考えて良いと思われる。また、“在下”には謙遜の意が含まれるため、それを用いる男性登場人物は教養があり、またある程度の身分を有している者が多い。

[36]因此，在下用了二十八宿中的‘亢龙’这两个字。（《神探狄仁傑1》p.206）

（ゆえに、それがしは二十八宿の「亢龍」という二文字を使った。）

[37]在下谢半大人推荐。（《秦始皇》第3話0:18:59）

（それがしは半殿のご推薦を感謝いたします。）

[38]那就恕在下爱莫能助了。（『尋秦記』第2話0:19:37）

（では、拙者はこれにて。）

[39]在下昨天去牡丹阁查户口，看到了驸马。（《大明宮詞》第12話0:12:24）

（それがし、昨日牡丹閣へ戸籍を調べに参った時、姫君のお婿殿を見かけました。）

[40]在下薛绍。（《大明宮詞》第7話0:34:28）

（拙者は薛紹と申します。）

[41]在下还有好多话要向大人请教。（《大明王朝》第7話0:35:08）

（手前はまだ色々ご教授いただきましたとう存じます）

[42]家父犯下杀人罪孽，都是因在下而引起的。（『天龍八部』第33話0:52:11）

（父が犯した殺人の罪は、すべて手前のせいでござる。）

## ⑦ “老夫”、“老身”、“老衲”、“老朽”

この四語はすべて年を取った登場人物がよく用いる自称詞であるが、性別などの細かい属性や使用場面による使い分けに注意を払う必要がある。まず“老夫”と“老身”の用例状況を概観する。《現代漢語詞典第五版》では“老夫”を“老年男子的自称。”（老年男子の自称である），“老身”を“老年妇女的自称。”（老年婦女の自称である）と説明している。しかし、時代ものフィクション作品においてすべての老人キャラクターが“老夫”と“老身”を使うとは限らない。“老夫”、“老身”を用いる老人キャラクターは威厳があり、一定の社会地位を持っている場合が多い。下に挙げた例[43]～[47]は、いずれもそれに該当する。ただ、例[47]のように、場面によって、例え発話者の身分が低くても“老夫”と自称するケースもある。例[47]の発話人物はただの野菜売りであるが、相手を敵国の人間だと思い込んでいるため、横柄な態度で“老夫”と自称したと解釈できる。

[43]諸侯之母：老身并无大碍，快让御医来看看这个不忠不孝的畜生胡安吧。

（『封神演義』第32話0:25:43）

（わしは大事ない。早く侍医を呼んでこのたわけ者を診てやっておくれ。）

[44] 皇太后:老身有个主意。 (《漢武大帝》第1話0:38:08)

(わしは一つの案がある。)

[45] 60代の男性老人:死, 对老夫来说没什么可怕的。 (『天龍八部』34話0:05:39)

(もはや、わしは死など恐れておらぬ。)

[46] 老夫如此推心置腹, 你又何必还这般疑虑重重? (《大明王朝》第9話0:38:16)

(わしは誠意を持ってそなたに心を開いたというのに、何ゆえまだ疑うのじゃ?)

[47] 老夫没有听错吧? (『尋秦記』第2話0:13:45)

(わしや、聞き間違っただけだよな?)

《封神演義》の“苏护”という老人キャラクターが用いる自称詞をさらに詳しく見ると、“老夫”を使う割合が“我”より明らかに少ないことが分かる。“老夫”と自称する場合は、例[48]のように、年配者としての威厳を出そうとする場面に限られる。ここで“她”が指す人物は“苏护”の娘の“妲己”である。“苏护”が娘の悪行を聞いて怒り、娘を詰問しようとする場面である。ここでは、“老夫”が用いられたことで、父親としての威厳が感じられる。[49][50]のような普通の場面では“老夫”を使わず、“父亲”や“我”などと自称している。

[48] 苏护:如若她真的回来, 老夫一定要责问她, 她为什么贻羞苏家, 祸国殃民, 倘若她无法回答, 又不肯悔改, 那我就把她杀了, 以谢天下! (『封神演義』第35話0:21:40)

(もしあの子が本当に帰ってくるなら、わしは必ず問い詰めてやる。なぜ蘇家に恥をかかせ、国と民とに災いをもたらすのか。あの子が答えられなければ、また、罪を悔い改めようとしないならば、その時わしはあの子を殺して天下にお詫びする。)

[49] 苏护:父亲对不起你, 父亲没有别的办法。 (『封神演義』第2話0:07:45)

(蘇護:父さんが悪かった。もう方法がないのじゃ。)

[50] 你们听听, 我女儿是反对我出兵的。 (『封神演義』第36話0:11:42)

(ほら、私の娘は出兵に反対してるんだ。)

“老朽”も“老夫”と同じく、老人男性の登場人物が用いる自称詞であるが、待遇面における相違が見られる。自分と同等または自分より目下の相手に対して、主に“老夫”を用いる。自分より目上の相手に、または謙遜な態度を表したい時に例[51]と[52]のように

“老朽”を用いることが多い。[53]の“老衲”は歳を取った僧侶が用いる自称詞である。

[51] 近日又下诏大修咸陽学館，更使天下学子齐声称颂，老朽也是感佩不已。

(ここ最近咸陽学館を大いに修築するように告げられることで、天下の書生が一斉に

褒め称え、わしも感服せずにはいられない。) (《秦始皇》第30話0:33:50)

[52] 老朽愿收其为徒，带回终南山，你看可好啊！ (『封神演義』第9話0:22:24)

(わしは彼を弟子にして終南山に連れ帰っても構わぬか。)

[53] 国师的拈花指功如此了得，老衲佩服了。 (『天龍八部』31話0:13:48)

(そなたの拈花指は見事なものだ。拙僧は恐れ入った。)

## ⑧ “本” + 身分・職位

中国の時代ものフィクション作品では、上に挙げた自称詞のほかに、[54]～[56]のように、「“本” + 身分・職位」という類の、いわゆる複合型人称詞も多く見られる。ここの“本”は自分側を指し、「自分の」/「我が～」という意味になる。

[54] 貴族の若様：本公子的事与你何干？ (『尋秦記』第4話0:32:15)

(俺様の事だ、おぬしに何の関係ないが？)

[55] 皇后：就题词的意思好像说本宫心胸狭隘，量小德低吗？ (『封神演義』3話0:23:33)

(まるでわらわが心せまく、徳が低いと申す気か？)

[56] 地方の諸侯：本侯待你不薄啊，你要干什么。 (《秦始皇》第12話0:35:08)

(余はそちを手厚く遇したぞ！何するつもりじゃ？)

“本+名詞”の組み合わせは現代中国語にも見られるが、“本校”、“本公司”、“本厂”のように、“本”の後に来る名詞は組織などを表わす名詞の場合がほとんどである。人を表わす名詞と一緒に使用する例は“本人”くらいで、それ以外の使用はあまり見られない。一方、「疑似古語」の場合は、“本”の後ろに来る名詞はそのキャラクターの身分や職位を表すものに限られる。また、やや尊大なニュアンスを伴っているため、発話者が目下の者に対して発話する場面や、自分の身分や地位を強調するような場面ではよく用いられる。よく見られる組み合わせとして、“本公主”、“本太子”、“本大人”、“本王”、“本公”、“本宫”、“本将”、“本将军”、“本太尉”、“本相”、“本公子”、“本元帅”、“本侯”などが挙げられる。

## ⑨ 固有名詞(姓名・姓・名・字・号)を自称詞として用いる

自分の名前、苗字、下の名、<sup>あざな</sup>字、号などを自称詞の代わりに使用することもよく見られる。自分の名前などを自称詞として用いるケースは現代中国語においてもまれに見られるが、10歳以下の幼児(女兒が多い)が自分を指す際に自分の下の名を使用するケースがほとんどである。または、近年、一部の若い女性が可愛らしさを表現するために自分の下の名を自称詞として用いるケースも見られる。これらはいずれも正式な場面で使用される用法ではない。一方、「疑似古語」の場合は、例[57]～[59]のように、大人の登場人物が謙遜の意で自分の名前を自称詞として用いている。

[57]多谢大人提醒，蒙恬告辞。 (《秦時明月之諸子百家》第20話0:11:23)

(注意していただき、かたじけない。蒙恬はこれにて。)

[58]相邦，司空马向您辞行了。 (《秦始皇》第16話0:11:43)

(丞相、司馬空はいとまごいに参りました。)

[59]嬛嬛失言了。嬛嬛只是害怕。 (《后宫甄嬛伝2》p.25)

(嬛嬛は失言しました。嬛嬛はただ怖いのです。)

## (2) 対称詞

時代もののフィクション作品で用いられる対称詞の種類は自称詞より少ないが、現代中国語に比べれば遥かに多い。自称詞と同様にいくつかのグループに分けて考察を行う。

## ① “汝”と“尔”

普通一人称代名詞の“我”と“吾”の使用傾向と同様、普通二人称代名詞の“汝”と“尔”は古めかしさを持っているが、表3-8に示したように、時代もののフィクション作品における出現頻度は現代語の普通二人称代名詞の“你”や“您”に比べて遥かに少ないことが分かった。

表3-8：“汝”と“尔”の使用頻度

	封神榜	秦始皇	漢武大帝	三国演義	大明宮詞	大明王朝
你	1090	1013	974	587	1395	746
您	24	17	227	0	333	43
汝	3	0	0	42	0	0
尔	0	2	0	5	0	0



考えられる理由の一つとして、“汝”と“尔”が多用されると台詞が聞き取りにくくなる恐れがあるため、“你”や“您”と併用して作品の古めかしさを表現する形になったことが考えられる。また“汝”と“尔”の他にも古めかしいニュアンスを持つ対称詞が多く存在するため、“汝”と“尔”を無理に使用しなくても問題がないからである。“汝”と“尔”のどちらも主に相手を見下すような場面で用いられ、目上の相手には使用できない。また、例[61][62]のように、“尔”は単数形より複数形“尔等”の形で用いられる例のほうが比較的多い。“汝”は主に[63][64]のように、単数形で用いることが多い。複数形“汝等”も存在するが、使用頻度は“尔等”に比べて少ない。

[60]防微杜漸，尔言之成理。 (《康熙大帝 4》p.201)

(悪事が大きくならないように防ぐ。おぬしの申す通りじゃ。)

[61]尔等听清楚了吗? (《神探狄仁傑 1》p.434)

(うぬら分かったか?)

[62]尔等何其无能也! (《大秦帝国第一部(下)》p.522)

(うぬらはなんという無能だ!)

[63]太庙令信口雌黄，不怕嬴秦列祖列宗取汝狗命么? (《大秦帝国第一部(下)》p.676)

(太廟令どのはでたらめを申すとは、秦の祖先たちが汝の命をもらいに來ることが怖くないのか?)

[64]黄公覆，看汝还敢小看我否。 (《三国演义》第35話0:17:12)

(汝、私を見くびるとこうなるぞ!)

## ② “足下”と“閣下”

この2語は目上の人や尊敬する人に対して用いる古い対称詞であり、現代中国語の“您”に相当する。「疑似古語」として、例[65]～[70]のように、主に男性の登場人物が自分と同等の地位または少し下の地位にある男性相手に対して用いる。しかし“您”と“足下”、“閣下”の使用頻度を調査した結果、“您”の使用頻度は高く、どの作品においても一般的に用いられている。次に多いのは“閣下”で、“足下”の用例はもっとも少なかった。“閣下”は現代中国語においても見られるが、主に“大使閣下”のように外交上で用いることが多く、「疑似古語」としての用法とは異なっている。“足下”を使用する作品が少なく、テレビドラマのジャンルでは、例[65]～[67]のように、三国を題材にした作品でしか見られなかった。

[65] 张松 : 请问足下在朝廷任何官职啊? (《三国演义》第48話0:07:45)

(それで貴殿は朝廷で何の官職におつきになっただけなのではないでしょうか)

[66] 杨修 : 足下过目不忘, 真乃天下奇才! (《三国演义》第48話0:12:58)

(一度目を通してだけで覚えられるとは、貴殿はまさに奇才です。)

[67] 我对足下的估计过高了。 (『三国』第22話0:19:52)

(貴公を買いかぶっていた。)

[68] 足下之言貌似有理, 实则差矣! (《大秦帝国第一部(上)》p.84)

(貴殿の言葉は一見一理あるようだが、実は間違っておる!)

[69] 正是! 閣下可知这位令狐冲英雄的遗体落在何处? (《笑傲江湖1》p.179)

(その通り! 貴殿はこの令狐冲殿の遺体はどこに当たるかご存知だろうか。)

[70] 閣下尊姓大名? (《神探狄仁傑 I》p.24)

(貴殿のお名前は?)

『三国演义』は1994年に中国のテレビドラマ制作センターが1.7億元の製作費をかけて製作した大河ドラマであり、原作である《三国演义》をできる限り忠実に再現しようとした結果、登場人物たちの台詞が一般の視聴者たちにとってあまりにも古風であり、うまく台詞を聞き取れない視聴者のために字幕まで付けられた。“足下”という対称詞を知っているかどうかを現代中国人母語話者10人に尋ねたところ、1人しか知らなかった。『三国演义』の脚本を書いたのは六人の脚本家であり、それぞれが一部を担当している。調べた限り六人の中で葉式生という脚本家だけが“足下”を使っている。この理由は明確になっていないが、それを解明するべき、テレビドラマ『三国演义』は中国の有名な長編小説《三国演义》に基づいて作られたドラマであるため、《三国演义》の原文を調べた。

[[65]] 松曰: “敢问公为朝廷何官?” (《三国演义》p.369)

(貴公は朝廷で何の官職におつきになっただけなのではないでしょうか)

[[66]] 修大惊曰: “公过目不忘, 真天下奇才也!” (《三国演义》p.370)

(一度目を通してだけで覚えられるとは、貴公はまさに奇才です。)

原作ではどちらも“足下”を使わず、“公”を用いている。《現代漢語詞典》の“公”の項目には“封建五等爵位的第一等(封建制の五等の爵位的第一位である)”と、“对上了年

紀的男子的尊称（年を取った男性に対して使う尊称である）”という二つの意味が記載されている。したがって現代中国語母語話者にとって、“公”と呼ばれる人は「徳望が高い年配の男性」という印象が強いと考えられる。しかし、例[[70]]と[[71]]の“公”と呼ばれる“張松”や“楊修”は年配の人物ではなく、声望と地位もさほど高くない。おそらく、この理由から葉は二人に“公”を用いることには抵抗があり、“公”の代わりに“足下”を用いたのではないかと思われる。葉が“足下”という言葉を選んだ理由には、《三国志》<sup>47</sup>の影響を受けているという可能性も考えられる。次の引用例④⑤のように、《三国志》では“足下”が多く用いられている。

④足下意以为何如？<sup>48</sup>

（貴殿のお考えはいかがでしょうか）

⑤足下宜因此时早定良计。<sup>49</sup>

（貴殿はこのときに、お早めに良策を決めたほうがよろしいでしょう。）

本来は、小説である《三国演义》ではなく、正式な歴史書《三国志》に従って“足下”を使うのが歴史の用法に忠実であると言えるが、葉以外の脚本家は現代中国語母語話者の多くが“足下”の意味を正確に理解できないと判断し、“足下”を用いなかったのだと推測される。“足下”のような語は理論上「疑似古語」として使用するのが相応しいと思われる。2010年に新たに製作したドラマ『三国』においても、1994年のものより台詞がだいぶ分かりやすくなったが、“足下”を含む一部の語は引き続き使用されている。しかし、《三国演义》を題材とする作品以外の時代もののフィクション作品における使用は少なく、中国語母語話者の間における認知度も低いため、今後“足下”は「疑似古語」として現代中国語に生き残ることができるかどうかは、非常に注目すべき点である。

③ 陛下、圣上、皇上、万岁(爷)、大王<sup>50</sup>

この六つの語は皇帝に対して使用する対称詞である。皇帝に専用の自称詞“朕”、“孤”、“寡人”があるように、臣下などが皇帝を呼ぶ場合にも、決まった呼び方がある。[71]～

<sup>47</sup> 三国時代の歴史を記した歴史書である。《三国演义》は《三国志》に基づいて書かれたものとされている。

<sup>48</sup> 《三国志》/魏書/卷一/魏書一/武帝操（《新校本三国志》鼎文書局 1980 p. 26）

<sup>49</sup> 《三国志》/蜀書/卷四十/蜀書十/劉封（《新校本三国志》鼎文書局 1980 p. 993）

<sup>50</sup> それらの単語は対称詞だけではなく、他称詞としても普通名詞としても使える。表 8 は対称詞と見なす者のみを取り出したものである。

[75]はそれぞれの使用例である。

[71]深夜打扰,请陛下恕罪。(《秦时明月之诸子百家》第1話0:18:27)

(陛下、夜分お邪魔したことを、何卒お許し願わしゅう存じます。)

[72]那就多谢圣上挂念!(《大明宮詞》第6話0:11:05)

(主上のお心配り、ありがたきお幸せにござります。)

[73]臣这里有新安江河道总管马宁远和协办委员常伯熙、张知良三人的供状,请皇上圣察!

(《大明王朝》第5話0:18:48)

(臣は新安江河道の総管馬寧遠と参事官の常伯熙、張知良三人の供述書をお持ちしております。どうか陛下にご明察くださいますようお願い申し上げます。)

[74]奴才们服了,主子万岁爷怎么就知道今天会有这么个天大的喜事。

(私どもめは敬服しました。陛下はどうして今日、大きなめでたいことがあると

ご存知だったのですか。)(《大明王朝》第2話0:01:06)

[75]臣妾要为大王选一位有勇有谋能和大王一心的将军为统率。

(『封神演義』第35話0:11:50)

(わたくしは陛下のために、兵法に長け、陛下に忠実な将軍を選んで差し上げましょう。)

さらに、テレビドラマでの使用状況を見てみると、表3-9に示したように、一つの呼び方に統一している作品もあれば、同時に二つ、三つを用いている作品もある。

表3-9: 陛下、圣上、皇上、万岁(爷)、大王の使用状況

	封神榜	秦始皇	漢武大帝	三国演义	大明宮詞	大明王朝
陛下	2	115	266	51	13	0
圣上	0	0	0	0	40	0
皇上	0	4	352	0	101	105
万岁(爷)	0	0	0	0	0	9
大王	280	0	54	0	0	0

“陛下”という呼び方は「戦国のころまで各諸侯にも用いられたが、秦の始皇帝になっ

て、もっぱら天子だけに用いる尊称として定められた。」<sup>51</sup>。しかし、明朝と清朝を舞台とするドラマでは“陛下”ではなく、代わりに“皇上”、“圣上”、“万岁(爷)”が用いられている。“皇上”、“圣上”、“万岁(爷)”も史籍ではよく見られるが、古代中国語コーパスを利用して調べた結果、明朝と清朝の歴史書では、“陛下”が707回、“皇上”が226回、“万岁”が86回（“万岁(爷)”が0回）、“圣上”が4回用いられている。この数字から見ると、《大明王朝》では“陛下”を用いても特に問題はないと思われるが、このドラマの脚本家は“陛下”を使用しなかった。その明確な理由を断定することはできないが、一つの可能性として、90年代初期に製作された人気のある時代もののドラマから影響を受けていることが考えられる。特に1991年に放送された《戏说乾隆》という台湾と中国大陆が協力して製作した時代もののドラマは、初放送で40%を超える視聴率を獲得し、その後も長い間繰り返し再放送されていた。このドラマの主人公は清朝の皇帝で、他の登場人物が皇帝を呼ぶ時には“皇上”を使用していた。“万岁(爷)”という呼び方は主に清朝を舞台とする作品で用いられ、「大王」は主に漢代以前の時代を舞台とする作品で用いられる傾向が見られる。“陛下”、“皇上”、“圣上”の3語は、一つの作品においても併用されることが多いが、本論文の考察ではそれぞれの使用上の傾向が見られなかった。現時点では、時代もののフィクション作品全体において、この三語の間にまだはっきりとした使用上の区別を特定することはできない状態である。この三語の使用上の違いが明らかに現れ、それぞれの役割が定されるにはまだ時間が必要である。

#### ④ “娘娘” “大人” “卿” “公公” “公子” “客官”

皇帝に対して使用する呼び方が決まっているのと同じように、時代もののフィクション作品に登場する他のキャラクターに対してもそれぞれの呼び方が存在する。ここでは、よく見かける上記6語について説明する。“娘娘[76]”は主に目下の人間が皇后・妃を呼ぶ際に用いられる。“大人[77][78]”は主に目下の人間が長官に対して、または官僚同士が相手への尊敬の意を込めて呼ぶ際に用いられる。“卿[79]”は皇帝が臣下を呼ぶ際に用いられ、信頼している臣下に対しては、さらに親しみが感じられる“爱卿”という呼び方が用いられる。“公公[80]”は皇族に仕える宦官に対して使用する呼称である。“公子[81]”は富豪や士族などの中流・上流階層の家庭の息子に対して使用する呼称である。“客官[82]”

<sup>51</sup> 『中日大辞典増訂第二版』による。

は主に宿屋や飯屋の使用人がお客さんに対して使用する敬意を込めた呼び方である。また、“娘娘”“大人”“公公”“公子”の4語は、それぞれの前に職名・名前など併せて用いることもできる。例えば、“皇后娘娘”、“丞相大人”、“周公公”、“李公子”など。また、“卿”以外の5語は、第三者を指す場合にも用いることができる。

[76] 娘娘、我帮您梳。 (『封神演義』第5話0:14:30)

(皇后様、わたくしが致します。)

[77] 大人笑从何来? (《大秦帝国第一部(上)》p.98)

(庞殿、何ゆえ笑う?)

[78] 来人可是中都宰大人孔丘? (『孔子』0:02:43)

(中都宰の孔丘どので?)

[79] 卿为何阻止朕? (『三国志国際スタンダード版』第15話0:04:59)

(そなた、何ゆえ朕を止める?)

[80] 公公，再服一剂，好不好? (《鹿鼎記1》p.95)

(こうこう、もう一服お飲みになつては?)

[81] 公子有何贵干啊? (『尋秦記』第2話0:07:30)

(旦那様、何の御用でしょうか。)

[82] 怎么客官，您没听说? (《神探狄仁傑I》p.59)

(あれ?お客様はお聞きにならなかったでげすか?)

## ⑤ “父王” “母后” “爹” “娘”

この四語は自分の両親を呼ぶときによく用いられるものであり、発話人物の身分と使用場面によって使い分けられている。[83]～[86]のように、“父王”と“母后”は皇帝の子息である皇子や姫が皇帝と皇后に対して、および皇帝が自分の母親である太后に対してのみ使用できる呼称である。一方、“爹”と“娘”は、例[87]のように、主に身分の低い百姓の子供が自分の親を呼ぶ際に用いる呼称である。しかし、皇族・貴族の人間も私的な場面で親しみを込めて発話する際に“爹”と“娘”を用いるケースが見られる。例えば[86]と[88]は同じ作品において、同じ登場人物が同じ相手に対して発した台詞であるが、それぞれ“母后”と“娘”が用いられている。[88]は秦孝公が病気になり、太后が看病に来たというシーンで秦孝公が母親を心配させないように発した台詞である。[86]は太后が王宮から離れた地に引っ越した後、秦孝公が久しぶりに会いに来たというシーンで、用例は二

人の関係が昔より疎遠になったため、秦孝公尊敬の意を持って発した台詞である。つまり、発話人物が皇族や貴族の場合は、公的な場面または敬意を表わす際に主に“父王”と“母后”を用い、私的な場面または親しみを表わす際に“爹”と“娘”を用いることもできる。

[83] 皇太子→国王: 孩儿思念母亲, 恳请父王。。。 (《西遊記》第13話0:01:27)

(母上に会いとう存じます。父上、どうか…)

[84] 皇太子→皇帝: 父王, 邯鄲攻下了吗? (《秦始皇》第19話0:11:53)

(父上、邯鄲を攻め落としましたか。)

[85] 皇帝→太后: 对不起母后, 朝堂里的事一直没有解决。 (《美人心计》第26話0:00:56)

(母上、申し訳ございませぬ。朝廷のことはずっと解決しておらぬ。)

[86] 秦孝公→太后: 母后, 要不要搬回咸阳啊? (《大秦帝国第一部(下)》p.611)

(母上、咸陽に帰られるのはいかがですか。)

[87] 贱民: 爹, 娘, 你等放心! (《大秦帝国第一部(下)》p.546)

(父ちゃん、母ちゃん、心配するな!)

[88] 秦孝公→太后: 娘, 没事, 我自己来。 (《大秦帝国第一部(上)》p.63)

(母さん、大丈夫、自分でやるから。)

[89] 皇太子→皇后: 娘……你不能死啊! (『封神演義』第5話0:39:00)

(母上、死なないで!)

[90] 宰相の娘→宰相: 爹眼里还有女儿吗? (『封神演義』第18話0:05:43)

(父上の目には娘が入らないのね。)

## ⑥ “娘子” “相公” “官人” “夫君”

夫婦間の呼び方は現代でも地域によってさまざまである。古い時代の場合は、所属する社会階層によって呼び方がより多様化していた。夫が妻に対してよく使用していたものは“夫人”、“细君”、“娘子”、“爱妻”、“良人”などがある。妻が夫に対してよく使用していたものには、“老爷”、“相公”、“官人”、“良人”、“郎君”などが挙げられる。これらの古い呼び方の中で、“老爷”と“夫人”の2語は中国語の封建社会が終わった1911年頃から中華人民共和国が成立するまでの時代を舞台とする作品でもよく用いられているため、その古めかしさは上記4語より薄く、現時点ではまだ「疑似古語」であるとは言えないと思われる。上記4語は「疑似古語」として生き残り、例[91]～[94]のように、現代の時代もののフィクション作品でのみ用いられている。主に中流階層の家庭で夫が自分の

妻を呼ぶ時に“娘子”が用いられる。妻が夫を呼ぶ時には“相公”、“官人”、“夫君”のいずれかが用いられる。“相公”と“官人”の使用場面は概ね一致しており、“夫君”はやや尊敬の意が含まれている。

[91] 娘子 你不用说我也知道了。 (《新白娘子传奇》第24話0:06:38)

(そなたは何も言わなくとも分かるからさ。)

[92] 相公，你吩咐我说的话我已经照着说完了。 (《武林外伝》第43話0:36:47)

(旦那様に申された通りに話しました。)

[93] 官人 那你自己以为呢？ (《新白娘子传奇》第5話0:25:44)

(旦那さまご自身はいかがとお思いですか。)

[94] 夫君，一切都安排好了。 (《大秦帝国第一部(下)》p.684)

(あなた、すべて用意できました。)

また、初期の時代ものフィクション作品では、例[95]のように皇帝が皇后に対して“梓童”という呼び方を用いていたが、近年の作品ではほとんど見かけなくなった。「疑似古語」が形成する過程で、“梓童”のように定着しなかった語も少なくないと考えられる。定着した語と定着しなかった語の違いや、このような結果を生んだ原因を明らかにするためには、更なる調査が必要である。

[95] 寡人今日要在梓童 宫中饮酒。 (《西遊記》第13話0:36:16)

(今日、余は皇后のところで酒を飲みたい。)

#### ⑦ 身分や職名を対称詞として用いる

時代ものフィクションでは、一般的な二人称代名詞“你”の代わりに、身分あるいは職名を用いて相手と呼ぶ例も多く見られる。例えば“公主(姫)”、“太子(皇太子)”、“太后(太后)”、“皇太后(皇太后)”、“格格(清朝の皇族と貴族の娘)”、“阿哥(清朝の皇族と貴族の息子)”、“主公(自分の主(男性)への呼称)”、“主子(自分の主への呼称)”、“小主(清朝の後宮に住む皇帝の側室への呼称)”、“将军(将軍)”、“丞相(丞相)”、“太医(奥医師・侍医)”などのように多くある。古代では身分の上下関係が非常に厳しかったという特徴を表現するため、相手の身分や職を明示することによって、登場人物の互いの上下関係が分かり、古い時代の雰囲気が出されると考えられる。



## ⑧ 固有名詞(姓名・姓・名・字・号)を対称詞として用いる

自分の姓名・姓・名・字・号を自称詞の代わりに用いることができるだけでなく、対称詞としても用いられる。相手に名前と呼びかける場合には、二通りの方法がある。例[96]のように、相手と親しい関係にある場合には、相手の名・字と呼びかけることができる。また、例[97]のように、親が子供に対して、つまり目上の人間は下の人間に対し、相手の名前と呼びかけることができる。現代中国語では相手と呼びかける時、名前と呼ぶのが普通であるが、ここに挙げた例のように、相手が目の前にいる場合に、2人称の“你”を使わず、名前を用いるという使い方は「疑似古語」だけの用法だと思われる。

[96]孔明→魯肅：子敬何以明知故問？（《三国演義》第35話0:20:09）

（子敬どのは知っているのに何ゆえわざわざ尋ねる？）

[97]姬昌→妲己：二丫一路可好？（『封神演義』第35話0:29:31）

（二丫は道中無事だったか？）

## (3) 他称詞

## ① “之” と “其”

“之”と“其”は多義語であり、現代中国語でも文章語や熟語の中でよく用いられるが、三人称代名詞としての用法は現代中国語の話しことばではあまり見られない。“之”と“其”は古代中国語で三人称代名詞としてよく用いられていたが、現代の時代もののフィクション作品においては、三人称代名詞としての使用頻度は、表3-10に示したように、現代中国語の三人称代名詞“他”と“她”に比べてかなり少ないことが分かった。例[105]～[107]のように、“之”と“其”は「疑似古語」として用いられる場合は、その第三者に対して、やや批判的な気持が含まれる傾向が見られる。

表3-10：“之”と“其”の使用頻度

	封神榜	秦始皇	漢武帝	三国演義	大明宮詞	大明王朝
他	331	277	356	165	590	858
她	104	29	77	8	441	48
之	2	3	3	35	0	7
其	26	18	19	44	31	19

[98]师叔有所不知,纣王无道,天下叛之。 (『封神演義』第36話0:34:36)

(叔父さまはご存じないが、紂王の非道な行いにみんなは彼に逆らっております。)

[99]其用心不轨,与商鞅李斯如出一辙呀,陛下! (《漢武帝》第5話0:17:04)

(陛下! あやつには下心があり、商鞅李斯らと同じでござりますぞ。)

## ② “厮”

日本語の「あやつ」、「そやつ」に相当する。主に第三者を軽蔑して指す場面で用いられる。時代ものフィクション作品では、概ね例[100]～[102]のように、“这厮”や“那厮”の形で用いられている。

[100]把这厮给我拿下! (《神探狄仁傑 I》p.57)

(こやつを捕えてくれ!)

[101]大哥,你就这些事儿,忘了袁术那厮,当年如何欺负人,断了咱们的粮饷了?

(『三国』第21集0:11:59)

(兄者は人が良すぎる。昔、あやつに兵糧を断たれ、ひどい目に遭ったぜ。)

[102]武信君与那厮交谊深厚,如何便能助我? (《大秦帝国第二部(下)》p.617)

(武信君はそやつと仲がよく、どうしてわしを助けられるのか。)

## まとめ

以上の考察から、中国語の「疑似古語」の特徴の一つはさまざまな人称詞が用いられることだと考えられる。その中に、“吾”、“汝”、“尔”、“其”といった古代中国語の常用普通人称代名詞も含まれているが、それ以上に現代中国語の普通人称代名詞“我”、“你”、“他”の使用頻度ははるかに高い。つまり、「疑似古語」としての“吾”、“汝”、“尔”は、多くの場面において現代中国語の普通人称代名詞の代わりに用いられることはできないと思われる。時代ものフィクション作品では、これらの普通人称代名詞のほかに、登場人物の属性に合わせて、多種多様な呼称詞が使用され、古めかしい雰囲気を作り出している。特に自称詞と他称詞のバリエーションは非常に豊富で、使用場面や相手との待遇関係に応じて使い分ける必要もある。また、「疑似古語」として用いられる人称詞は歴史上の実際にあった用法とは異なるという推測も証明できた。しかし、それらの人称代名詞が実在した用法と一致しなくても、現代の視聴者たちに古代人らしいと感じさせるには支障がないと考えられる。例えば、“臣妾”、“奴婢”は歴史上で男女の両方を指す人称代

名詞であったが、ドラマでは女性専用のものとなり、ドラマ『大明王朝』では、脚本家が実際の歴史的用法に倣って、宦官の自称に“奴婢”を用いることにしたが、逆に現代の視聴者から誤りであるとの指摘を受けた。

### 3.2.1.2 文章語<sup>52</sup>

時代もののフィクション作品の台詞には、現代中国語の文章語と思われるものが多く見られる。現代を舞台とする作品では、登場人物の台詞には日常会話で使われる表現がほとんどで、文章語を用いることは少ない。一方、時代もののフィクション作品の場合は、登場人物に現代の日常会話で稀にしか用いられない文章語を大量に喋らせる傾向が見られる。この特徴は日本語の「疑似古語」にも見られる。ただし、第一章で「疑似古語」の特徴について述べたように、すべての現代の書き言葉が「疑似古語」になりうるわけではない。さまざまな作品で繰り返し用いられ、一種の知識として多くの読者や視聴者に定着しており、なおかつ読者や視聴者が古めかしいと感じる言葉づかいだけが「疑似古語」であると言える。本論文では、現段階である程度「疑似古語」として定着した一部の文章語を提示する。

#### (1) 実詞<sup>53</sup>の場合

名詞の場合は、人や物事の称呼に文語が用いられることが多い。例えば、例[103][104]の“父亲（父親）”、例[105]の“恙（病気）”、[106]の“生辰”、[107]の“宵小”などである。下線の語のあとの[ ]内に挙げた語は下線部に相当する現代口語であり、「：」のあとに日本語訳を付記した。既出の場合は省略する。

[103] 父亲[爸爸：お父さん]已把这伏羲八卦中的易理，深入浅出的记录下来，成此易经。

（『封神演義』第10話0:40:27）

[104] 父亲，您看陵墓之图有无[没有：ない]修改？（《漢武帝》第16話0:41:00）

[105] 大王要我紧急进京，到底有何急事？会不会是我女儿身体有恙[病：病気]？

（『封神演義』第9話0:24:48）

<sup>52</sup> 文章語と口頭語の境界線は曖昧であり、各辞書の分類もかなり異なっている。本論文では文章語の注記がある《現代汉语词典第五版》、『中日大辞典増訂第二版』、『小学館中日辞典第二版』、『講談社中日辞典第三版』の4種類の辞書を判断基準とし、さらに中国語母語話者の語感を参考に、文章語か口頭語かを総合的に判断する。

<sup>53</sup> 名詞、動詞、形容詞、数量詞、代詞を含む。

[106] 因为明天是王后姐姐的生辰[生日:誕生日]。(『封神演義』第3話0:18:31)

[107] 想不到, 狄怀英一代名臣, 竟然死于宵小[坏人:悪人]之手! (《神探狄仁傑 I》p.41)

現代中国語には、父親を指す単語として、“爸爸”と“父亲”の二つがあるが、「“爸爸”は主として口語に、“父亲”は文章語に多く使われる。」<sup>54</sup>つまり、通常口語での“父亲”の使用には制限があるのだが、「疑似古語」においてこの制限は適用されない。例えば、父の自称には“爸爸”を用い、“父亲”は用いないのだが、「疑似古語」では、例[103]のように自称詞としても“父亲”が用いられる。また、現代中国語の“父亲”はやや改まった場面で、第三者に対して自分の父を“我父亲”、相手の父親を“你父亲”と呼ぶ用法はあるが、自分の父親に呼びかける際には用いない。一方、「疑似古語」としての“父亲”は例[104]のように呼びかける際にもよく用いられる。古代中国語のコーパスで調べた結果、“父亲”に比べて少ないが、“爸爸”は清朝の小説でも頻繁に用いられていた。しかし、時代ものドラマにおいて“爸爸”はほぼ見られない。例えば、シェークスピアの表現手法の影響を受けていると言われており、他の時代ものドラマと比べて台詞が極めて西洋的で独特だとされる『大明宮詞』というドラマにおいても、15話分の台詞の中、“父亲”が55回現れるのに対して、“爸爸”は3回しか見られない。他の調査対象のドラマに至っては、“爸爸”は1回も見られなかった。その理由は二つ考えられる。一つは“父亲”は唐代末期からすでに用いられてきたため、“爸爸”より古めかしいと感じられるという点である。そこで、時代ものドラマでは、この特徴を生かし、比較的現代的な印象を与える“爸爸”を用いないことにしたと推測される。もう一つは、“爸爸”は現代の日常会話でよく用いられるため、時代ものドラマで用いると観客が即座に現代的だと感じると思われるという点である。その他、動詞(例[108],[109])、代詞(例[110],[111])、形容詞(例[112])においてもトレンドドラマの台詞より文語が多く使用される傾向が見られる。

[108] 陛下, 能不能容[允许:許す]臣几日, 想一想办法? (《神探狄仁傑 I》p.421)

[109] 请恕微臣直宣[说:言う]。(『封神演義』第10話0:13:49)

[110] 这个字作何[什么:何]解释? (《秦時明月之諸子百家》第20話0:12:20)

[111] 此[这:この]为你的领地, 却民不聊生, 苛政猛于虎。(『孔子』0:26:27)

<sup>54</sup> 『講談社中日辞典第三版』の“父亲”の条目を参照。

[112]姜兄，你出门时还是满脸不悦[高兴:うれしい]，现在为何又笑？

(『封神演義』第10話0:28:30)

## (2) 虚詞<sup>55</sup>の場合

「実詞」に比べて、虚詞の場合は文語での使用がより多く見られる。それは、中国語「虚詞」が主に文の構成を助けるものであり、文章全体の意味に及ぼす影響が「実詞」ほど大きくないことによると考えられる。

[113]你方才[刚才:先ほど]讲，姜环今年二十六岁，你二十岁，相差仅六岁，众人皆[都:全部]知。  
(『封神演義』第5話0:32:59)

[114]休得胡言，这是洛阳。  
(《大秦帝国第一部(上)》p.133)

[115]稟大王，冀州尚[还:まだ]需留兵防守，焉[怎么:どうして]可倾巢尽出？  
(『封神演義』第36話0:25:04)

[116]此隐者之言，隐者之言也[文末に用い，判断または説明の語気を表す:～である]。  
(《三国演义》第26話0:29:30)

[117]老夫没有觅得求贤令请足下一睹为快，诚[确实:まことに]为憾事  
(《大秦帝国第一部(上)》p.159)

[118]因为丘乃[是:…は…である]士也。  
(『孔子～恕の人～』第3話0:23:50)

[119]若此方真能治愈时疫，乃是天下之福。  
(《后宫甄嬛传2》p.59)

[120]女娲乃上古正神。  
(『封神演義』第1話0:12:34)

[121]皇后阳气甚[很:非常に]旺。  
(《大明宮詞》第2話0:16:12)

[122]上大夫且勿[不要:(禁止)するな]怪罪他们才是呢。(《大秦帝国第二部(下)》p.358)

[123]将军奈何舍美玉而求顽石乎[呢:か]？  
(《三国演义》第27話0:29:05)

[124]两国罢战言和，固然是我天朝之幸，然[但:しかし]更是突厥之幸。  
(《神探狄仁傑 I》p.3)

[125]文远将军何故[为什么:なにゆえ]到此？  
(『三国』第21話0:05:00)

[126]天下人岂[怎么:…ではないか(反問を表す)]不个个心寒，人人自危。  
(『封神演義』第37話0:18:59)

[127]你若[如果:もしも]赢了我，兵车给你500乘  
(『孔子～恕の人～』0:25:40)

<sup>55</sup>「虚詞」とは文法的機能をそなえるが、単独で文成分ならない単語であり、副詞、介詞、接続詞、助詞、感嘆詞、擬声詞が該当する。

例[118]の“乃”は古代中国語における常用虚詞の一つであり、その用法も多種多様であった。現代中国語では、文語として時々用いられるが、用法は古代に比べてはるかに少ない。現代中国語における“乃”には、①副詞としての「…は…である」②接続詞としての「そこで」③副詞としての「やっと」④人称代名詞としての「あなた/あなたの」の四つの用法が見られる<sup>56</sup>。しかし「疑似古語」として用いられる“乃”には例[118][119][120]のように、「…は…である」という一つの用法しか見られない。現代中国語において、「…は…である」という意味を表す際に一般的に使用されているのは“是”であるが、「疑似古語」では“是”を使うべきところを“乃”に置き換えるだけではなく、制限が見られる。まず“是”の前に修飾語がある場合には、“乃”は用いられない。例えば、“不是”“都是”“也是”を“不乃”“都乃”“也乃”とは言わない。また“乃”の前後には長い名詞句をあまり用いない。例えば、“这是你应该做的事（これはあなたがやるべきことである）”の“是”の代わりに“乃”を使うことはできない。実際に、「疑似古語」としての“乃”は「名詞・代名詞＋乃＋種類・属性を表す名詞」というパターンで、主に人物や物を紹介、あるいは説明する時に用いられていると思われる。

“之”も「疑似古語」の代表的な虚詞である。前の考察で三人称代名詞としての“之”の例を挙げたが、中国の時代もののフィクションでより多く見られる「疑似古語」としての“之”の用法は三人称代名詞ではなく、所有・修飾の関係を表す助詞としての用法である。“之”はそれに相当する現代中国語の“的”より古めかしいのは明らかであるが、全体的な使用頻度を見るとやはり“的”のほうが多い。しかし現代を舞台とする 트렌ディドラマに比べて、時代もののドラマでは“之”の使用頻度がはるかに高い。表3-11は時代もののテレビドラマ『封神演義』と 트렌ディドラマ『我爱我家』のそれぞれ6話分の台詞を調査した結果であるが、現代ドラマにおける“之”の出現頻度は比較的少ないことが分かる。

表3-11：“的”と“之”の使用頻度の比較

	“的” の出現回数	“之” の出現回数
《封神演義》	563	266
《我爱我家》	535	26

<sup>56</sup> 《现代汉语词典第五版》より。

## 3.2.1.3 単音節詞の多用

時代もののフィクション作品において、同じ意味を表すいくつかの単語がある場合、単音節詞を使う傾向が見られる。古代中国語、特に秦以前の「上古漢語」の大きな特徴の一つとして広く知られているのは、単音節語が多く存在したことである。脚本家はその歴史的事実を知った上で積極的に単音節語を用いているのかもしれない。または、小さい頃から読んできた様々な「古白話小説」の知識により、自然にそのような語感が身に付いたという可能性もある。理由を断定することはできないが、下記例のように、時代もののフィクション作品では単音節詞が多用されているという事実は変わらない。これも中国語の「疑似古語」が持つ大きな特徴と言えよう。ただ単に、複数の語が同じ意味を表す場合、単音節の語のみが時代もののフィクション作品で用いられるのではなく、2音節語もそれなりの割合で使用されている。その際、一つの台詞の中に、単音節語を1つや2つだけ入れて、古めかしさを足すという使い方が多い。

[128] 本[本来:本来]还想再扶持华妃协理六宫, 若非我今日引她入局, 恐怕日后我与陵容都是岌岌可危了 (《后宫甄嬛传2》p.11)

[129] 大王已下旨, 王后如[如果:もし]不招认, 只能用刑了。 (『封神演義』第5話0:25:45)

[130] 你是昏头了? 不知[知道:知る]第二步谋划么? (《大秦帝国第二部(上)p.14》)

[131] 那妖精现在仍[仍然:元どおり]在宫中。 (『封神演義』第9話0:15:18)

[132] 你就照[按照:…に従って]皇上的吩咐做就是了。 (《漢武大帝》第22話0:07:00)

[133] 还望[希望:…してほしい]太平公主恕不敬之罪。 (《大明宮詞》第7話0:03:09)

[134] 恐[恐怕:恐らく]就难以占先了。 (《三国演義》第55話0:18:08)

[135] 一旦有危险, 也可[可以:できる]第一时间出手。

(《秦時明月之諸子百家》第17話0:02:09)

## 3.2.2 文レベルの考察

日本語と同様、中国語の「疑似古語」にもよく用いられる「慣用句」が存在する。外国人中国語学習者にとって、それぞれの意味と使用場面を理解することは、かなりの苦勞を要すると思われる。本節では、まず表3-12に簡単にまとめておく。具体的な使用場面と意味については第五章の中「疑似古語」の対訳リストで詳しく記述する。

表3-12：中国語「疑似古語」の慣用句一覧

慣用句	日本語による説明	使用例
此言差矣	その言葉は間違っております	此言差矣，你我兄弟情谊，已经超过了半百之年，我怎么能如此无情呢？（『封神演義』第11話0:23:51）
别来无恙	その後お変わりありませんか	老太师，别来无恙？（《大秦帝国第一部（下）》p.617）
有何贵干	何のご用件ですか	公子有何贵干啊？（『尋秦記』第2話0:07:30）
拿你是问	あなたに責任を取ってもらう	此事只能办好，如有差错拿你是问！（《秦始皇》第3話0:11:06）
〇〇驾到	〇〇のおなり	鲁君驾到！（『孔子』0:03:57）
平身	面をあげよう。	众卿平身。（『封神演義』第2話0:37:58）
〇〇惶恐	恐れ入ります/申し訳ありません	臣妾惶恐，误听人言才引来如此误会。（《后宮甄嬛伝2》p.7）

### 3.2.3 文法レベルの考察

#### (1) “宾语前置”（目的語を述語の前に置く）

現代中国語では、通常、目的語が述語の後ろに来る。古代中国語では目的語を述語の前に置く例が多く見られるが、「疑似古語」における“宾语前置”の用法のバリエーションは非常に少ない。例[136][137]の「何在（どこにある）」は疑問詞の“何”が“在”の前にある。疑問詞を述語の前に置くのは古代中国語文法のルールであるとも言えるが、「疑似古語」の中で“何”以外の疑問詞ではこのような前置は見られない。最も多く現れるものは“何在”であり、例[138][139]の“何以”、“何往”も数例見られる。

[136]密诏何在[在哪里:どこにある]? (『封神演義』第5話0:34:57)

[137]何进之所以入宫,原因何在? (《三国演義》第2話0:05:13)

[138]何以如此肯定? (《神探狄仁傑 I》p.404)

[139]不知士元今欲何往[去哪里:どこに行く]? (《三国演義》第46話0:34:29)

下記[140]～[144]はもう一タイプの“宾语前置”であり、“之”あるいは“是”を用い



て目的語を前置する。

[140]二人为兄长报仇，何诈之有[有什么诈：何の罾がある]？（《三国演义》第35話0:02:24）

[141]此事只能办好，而我何罪之有[有什么罪：何の罪がある]？（《大明宮詞》第6話0:11:51）

[142]如有差错拿你是问[问你：あなたに責任を取ってもらう]。（《秦始皇》第3話0:11:06）

[143]朕都要拿你是问！（《漢武大帝》第22話0:42:22）

[144]说拿你的脑袋是问[あなたの首に責任を取ってもらう]啦。

（《宰相劉羅鍋》第21話0:05:19）

特に例[142]～[144]は現代中国人が古代中国語に対してぼんやりと持っている知識から生まれたものと思われる。“拿你是问”がCCLの古代中国語の検索で一回も現れなかったのに対して、現代中国語の検索では5例が見られた。また、中国人母語話者10人に“拿你是问”は「古めかしい言葉づかいですか」と確認したところ、全員が古めかしいという結果を得られた。実は現代中国語には“拿你是问”と非常に類似した“唯你是问(あなたに責任を取ってもらう)”<sup>57</sup>という表現がある。これを中国語コーパスCCLで調べた結果、以下のように、古代中国語のほうに3例、現代中国語のほうに11例が見られる。

古代：・逃走了，惟你是问！（CCL《七侠五义》）

・但是天霸若有更改，咱俩便唯你是问。（CCL《施公案》）

・那么将此人交给你，如有变端，唯你是问。（CCL《清代宫廷艳史》）

現代：・迟误了我惟你是问！（CCL《李自成》）

・如果它因此害上心脏病，唯你是问！（CCL《雁儿在林梢》）

・若有差失，我回来唯你是问！（CCL《神雕侠侣》）

・丢了郑局长，我唯你是问！（CCL《苍天在上》）

これらの例はほとんどが小説に見られる用例であり、さらに、現代に書かれた小説であっても、昔の時代を舞台とするものが多い。“拿你是问”がいつ、どのように作られたのかを調べることは困難だが、“唯你是问”が転じて出来上がった言葉づかいであると考え

<sup>57</sup> “唯你是问”とも書ける。

られる。第一章でも述べたように、このような現象は「役割語」の形成によく見られるものである。また、現代中国語には“唯利是图”、“唯命是从”のような、いわゆる“唯…是…”という形の四字熟語が多く存在する。これも“拿你是问”の出現に影響を及ぼしたと考えられる。

## (2) 定语后置(修飾語を被修飾語の後ろに置く)

例[145]～[148]のように、主に数量詞が修飾語の場合は被修飾名詞の後ろにくる。ただ、「疑似古語」の全体において見るとやはり名詞の前に数量詞が来ることが多い。「疑似古語」のこの用法はまだ時代もののフィクション作品では完全に定着していないと考えられる。

[145] 传晁田晁雷, 带**精兵三千**[三千人の精鋭兵士]火速追回。(『封神演義』第6話0:14:07)

[146] 五十岁以下男丁加服**劳役二十天**[二十日間の労役], 赶修跑道。

(《秦始皇》第26話0:36:33)

[147] 尚有**南越兵馬三十万**[三十万の南越兵隊と軍馬]随后调遣, 足以匡正天下!

(《漢武大帝》第5話0:02:25)

[148] 至少缺**銀二百万两**[二百万両の銀貨]以上。

(《雍正王朝》第1話0:05:21)

## まとめ

「疑似古語」全体の文法と現代中国語との間に大きな相違は無く、“何在”、“何罪之有”、“拿你是问”のようなごく一部の限られた言葉づかいに見られるのみである。つまり、古代中国語の文法が「疑似古語」に適用されていると言うより、現代語で頻繁に使われてきた一部の古代中国語の表現の中に古代中国語の文法的特徴が残り、「疑似古語」として生き残ったと言ったほうが適切だと思われる。

## 3.3 中国語「疑似古語」の起源をさかのぼる

「疑似古語」の起源と具体的な形成プロセスを明らかにするために、膨大な歴史文献を用いてより厳密な調査をしなければならないが、本節では、まず“臣妾”という一つの語を例として、中国語「疑似古語」の起源にアプローチしたい。更なる厳密な検証は今後の課題として残す。

## 3.3.1 「上古漢語」における“臣妾”

「上古漢語」において“臣妾”は、[149]～[152]の例に見られるように男女の貧しく卑しい者を指す語であった。また、これは普通名詞として用いられ、人称代名詞としての働きは果たしていない。《古代汉语词典》では、当時の“臣妾”は、「奴隸」と同様の意味をもっていたという説明が見られる。

[149]逾垣墙，窃马牛，诱臣妾，汝则有常刑。<sup>58</sup>

[150]八曰臣妾聚斂疏材。<sup>59</sup>

[151]某子之親，夜寢早起，強力生財以養子孫臣妾。<sup>60</sup>

[152]宾之南海，若以臣妾赐诸侯，亦惟命是听。<sup>61</sup>

## 3.3.2 「中古漢語」における“臣妾”

「中古漢語」において、“臣妾”には「奴隸」という意味に加え、「誰かに従う者」という意味が付与されていると考えられる。例[153]は、蜀国の王である劉備が病死した後に、丞相の諸葛亮が後継の君主に言ったものである。「臣妾號咷，若喪考妣（臣妾たちは大泣きして、まるで自分の親がなくなったように。）」での“臣妾”は奴隸ではなく、諸葛亮を含めた劉備の元部下や妻・妾<sup>めかけ</sup>や使用人の全てを指すと考えたほうが適切だと思われる。さらに、例[158]では、「伏見」というお姫様が皇帝に上奏する時、自分のことを“妾某者”と呼んでおり、ここでは普通名詞であった“妾”が自称詞としても用いられている。例[158]の後半では、このように自称した理由について、「臣妾の意義を含む自分を卑しめる言い方を選んだ」という解釈が述べられている。つまり、古代の女性が自分を卑しめる場合に用いる正確な自称詞は“臣妾”ではなく、“妾”だったと考えられる。

[153]亮上言於後主曰：伏惟大行皇帝邁仁樹德，覆燾無疆，昊天不弔，寢疾彌留，今月二十四日奄忽升遐，臣妾號咷，若喪考妣。<sup>62</sup>

[154]凱答檄曰：天降喪亂，奸雄乘釁，天下切齒，萬國悲悼，臣妾大小，莫不思竭筋力，肝腦塗地，以除國難。<sup>63</sup>

<sup>58</sup> 《尚書》/周書/卷二十/費誓 《十三經注疏 尚書》藝文印書館 1955 p. 313)

<sup>59</sup> 《爾雅注疏》/卷六/釋天第八 《十三經注疏 爾雅注疏》藝文印書館 1955 p. 95)

<sup>60</sup> 《韓非子》/第二十卷/第五十一篇/忠孝 《韓非子》成文出版社 1980 p. 1109)

<sup>61</sup> 《史記》/世家/卷四十/楚世家第十 《新校本史記三家注》鼎文書局 1981 p. 1702)

<sup>62</sup> 《三國志》/蜀書/卷三十二/蜀書二/先主備 《新校本三國志》鼎文書局 1980 p. 891)

<sup>63</sup> 《三國志》/蜀書/卷四十三 蜀書十三/呂凱 《新校本三國志》鼎文書局 1980 p. 1047)

[155] 況茂勳格于皇天，清暉光于四海，蒼生顒然，莫不欣戴，聲教所加，願為臣妾者哉！<sup>64</sup>

[156] 王者之於四海，無不臣妾，雖復父兄之親，師友之賢，皆純臣也。<sup>65</sup>

[157] 突厥、吐谷渾分領羌胡之國，為其擁遏，故朝貢不通。今並因商人，密送誠款，引領翹首，願為臣妾。<sup>66</sup>

[158] 中書奏：伏見公主上表稱妾某者，伏以臣妾之義，取其賤稱；家人之禮，即宜區別。臣等商量，公主上表，請如長公主之例，並云某邑公主幾女上表，郡、縣主亦望依此例稱謂。從之。<sup>67</sup>

以上のように、「中古漢語」における“臣妾”は「奴隸」という意味で用いられる場合もあるが、「誰か(特に君主)に従う者」という意味も伴っており、さらに用法も普通名詞としてだけではなく、自称詞としての用法も見られるようになった。“臣”が男、“妾”が女、“臣妾”が男と女の両方を含むという点は、「上古漢語」の場合と同様である。

### 3.3.3 「近代漢語」における“臣妾”

近代になると、文章語と口頭語の分立が明確になるため、主に文語を用いる正史と、主に口語を用いる通俗書物を別々に考察する。

#### ① 正史における“臣妾”

正史における“臣妾”の意味と用法は、中古時期からそれほど変化していないが、しばしば動詞として用いられることがある。例えば、[160]と[161]における“臣妾”は“臣妾にさせる”という意味で用いられている。古代中国語では名詞を動詞として、あるいは形容詞を名詞として用いる例が多く、このような品詞の変化が生じるのも不思議ではない。

[159] 我躬受之，真為臣妾矣。<sup>68</sup>

[160] 以詔諭江南為名，是欲臣妾我也。<sup>69</sup>

[161] 良懷曰：吾國雖處扶桑東，未嘗不慕中國。惟蒙古與我等夷，乃欲臣妾我。<sup>70</sup>

[162] 帝曰：汝昔何為而來，今何為而去？且問其所欲。對曰：臣妾昔以國亂無主，遠歸

<sup>64</sup> 《晉書》/紀/卷六/帝紀第六/中宗元帝（《新校本晉書》鼎文書局 1976 p. 147）

<sup>65</sup> 《晉書》/志/卷二十一/志第十一/禮下（《新校本晉書》鼎文書局 1976 p. 666）

<sup>66</sup> 《北史》/列傳/卷三十八/列傳第二十六/裴佗/訥之子矩（《新校本北史》鼎文書局 1976 p. 1390）

<sup>67</sup> 《舊唐書》/本紀/卷十八上/本紀第十八上/武宗李炎/會昌五年（《新校本舊唐書》鼎文書局 1976 p. 606）

<sup>68</sup> 《宋史》/列傳/卷四百二十二/列傳第一百八十一/許忻（《新校本宋史》鼎文書局 1978 p. 12608）

<sup>69</sup> 《宋史》/列傳/卷三百七十四/列傳第一百三十三/胡銓（《新校本宋史》鼎文書局 1978 p. 11580）

<sup>70</sup> 《明史》/列傳/卷三百二十二/列傳第二百十/外國三/日本（《新校本明史》鼎文書局 1975 p. 8342）

陛下、今頼陛下威徳、聞國已定、欲歸守墳墓耳。妾惟二子、雖愚無知、願留事陛下。<sup>71</sup>

[163]遠方臣妾、丕冒天子之恩<sup>72</sup>

## ② 通俗書物における“臣妾”

正史における“臣妾”の意味や用法と大きく異なり、通俗書物での“臣妾”は下記例[164]～[170]のように、「疑似古語」としての“臣妾”の用法とよく似ている。つまり、話し手が女性(主に皇后・妃)で、聞き手が皇帝という場面で用いられる場合が多い。また、これを動詞として用いた文章はあまり見られず、自称詞として用いることが一般的になっている。このことから、中国語「疑似古語」の起源は「古白話」<sup>73</sup>であると考えられる。

[164]杨妃闻语，连忙捧盞，启言陛下：臣妾饮时，号目(曰)发装酒。<sup>74</sup>

[165]臣妾有一词上奏天颜，这词名唤《鹧鸪天》。<sup>75</sup>

[166]只办得紧低头，忙跪下，愿陛下海量宽纳，听臣妾说一套儿伤心话。<sup>76</sup>

[167]陛下，国母，乃天下之主，臣妾焉敢坐。<sup>77</sup>

[168]臣妾不知圣驾降临，有失迎接，罪该万死。<sup>78</sup>

[169]待臣妾来舞一回百花舞，以博陛下一笑。<sup>79</sup>

[170]皇上肯替臣妾做主，臣妾虽死也瞑目的了。<sup>80</sup>

## まとめ

以上の考察で、「疑似古語」としての“臣妾”の用法は明清時代の古白話小説における用法とほぼ一致していることが分かった。今まで分析した中国語「疑似古語」のほとんどが、明清時代の古白話小説でも見られる。特に《三国演义》をはじめとする中国の「四大名著」<sup>81</sup>は現在も大勢の中国人に読まれており、それらの古白話小説から中国人母語話者が「疑似古語」の知識を自然に身につけるようになったと言えるだろう。

<sup>71</sup> 《元史》/列傳/卷一百三十六/列傳第二十三/阿沙不花祖母苦滅古麻里氏 子伯嘉訥 《(新校本元史) 鼎文書局 1977年 p.3296)

<sup>72</sup> 《明史》/列傳/卷三百二十五/列傳第二百十三/外國六/淳泥 《(新校本明史) 鼎文書局 1975年 p.8413)

<sup>73</sup> 王力《古代汉语》によると、「古白話」とは「唐朝、宋朝から清朝末期までの北方方言を基礎として形成した口語」である。

<sup>74</sup> 《敦煌變文集新書》潘重規(編) 文津出版社 1994年 p.1081

<sup>75</sup> 《大宋宣和遺事》不著撰人 台北：世界書局 1962年 p.74

<sup>76</sup> 《全元雜劇》初編十二 世界書局 1962年 pp.5812-5813

<sup>77</sup> 《封神演義》(明)許仲琳 中国文联出版公司 1998年 p.231

<sup>78</sup> 《隋唐演義》褚人获 山西人民出版社 1994年 p.647

<sup>79</sup> 《宋代十八朝宮廷艷史》第八十六回

<sup>80</sup> 《明代宮闈史》第八十三回

<sup>81</sup> 中国の「四大名著」は『三国志演義』、『水滸伝』、『西遊記』、『紅樓夢』の四つを指す。日本の四大奇書とは少し異なる。

## 第四章 両言語における「疑似古語」の扱い

### 4.1 辞書における扱いの比較

第二章と第三章では、日本と中国の現代語国語辞書を調査し、各国の「疑似古語」に対して、権威のある国語辞書がどのように認識し、扱っているのかを明らかにした。両言語とも、自国の「疑似古語」に対する扱いは不十分であり、改善すべき点があることが分かった。しかし、「疑似古語」の知識は本来、学校の勉強を通じて得るものではなく、その国で暮らしていくうちに様々なメディアから自然に刷り込まれるものであるため、主に母語話者が主に利用する国語辞書の中に「疑似古語」についての詳しい説明がなくてもさほど大きな問題ではない。しかしながら、外国語教育と学習の視点から考えると、外国人学習者に自国の「疑似古語」を正確に発信すること、また自国の母語話者に他国の「疑似古語」を適切に理解させることは、困難なことではあるが、重要なことでもある。役割語研究の分野では、すでに日本語教育の新しい試みとして、役割語の概念を日本語教育、翻訳教育に導入する実践がはじまっている。国際交流基金関西国際センターが近年新設したEラーニングサイト「アニメ・マンガの日本語」<sup>82</sup>も、教科書や辞書には載っていない役割語の表現を外国人学習者に理解してもらうための試みと言える。外国人日本語学習者に日本語と日本文化をより深く理解してもらうには、役割語や「疑似古語」の学習は一つの大きな鍵だと考えられる。真田(1992)によれば、言語には相手に情報を伝える「情報機能」のほかに、「象徴的機能」<sup>83</sup>もある。特に上級レベルの学習者に対しては、ただ単に言葉の意味を教えるだけではなく、単語の「象徴的機能」も正確に教えないといけない。そこで、外国人学習者に自国の「疑似古語」を正確に発信し、かつ他国の「疑似古語」を正確に理解するには、外国語学習辞書の役割が非常に大きいと思われる。例えば、外国にいる日本語学習者は日本語母語話者のように、自然に「疑似古語」の知識を身に付けることはできない。自ら積極的に現代日本の大衆文化と接触しないかぎり、学校の勉強または本国で出版された外国語学習辞書から得るしかない。つまり、国語辞書と違い、外国語学習辞書は「疑似古語」をどのように扱うかによって、学習者に異なる影響を与える。そこで、本

<sup>82</sup> <http://anime-manga.jp/> (最終アクセス 2013 年 3 月 16 日)

<sup>83</sup> 象徴的機能とは、同じ内容の話であっても違う表現を使うことによって伝わる「裏」のメッセージのことである。例えば、「うち、食べへんねん」と「オレ、食べねえーよ」という二つの発話では、「食べない」という情報以外にも、それぞれの発話者は近畿の女性と東日本の男性であるというメッセージが伝わってくる。

節では、まず両言語の国語辞書における「疑似古語」の扱いをまとめ、次に両国で出版されている日中・中日辞書の対照分析を行う。

#### 4.1.1 国語辞書における扱いの比較

##### I 共通する点

一、現代では頻繁に使用されているにもかかわらず、現代語辞書では扱っていない語が多数存在する。例えば日本語の“こたび” “ははあ” “もそっと” “やつがれ”などの語は、『三省堂国語辞典』では収録されているが、『岩波国語辞典』では収録されていない。一方、『岩波国語辞典』では“かかさま”は収録されているが、『三省堂国語辞典』では収録されていない。このように、「疑似古語」に対して、各国語辞書はそれぞれ異なる認識を持っているようである。中国語の場合も、歴史ドラマで頻繁に見かける“哀家[皇后・皇太后の自称]”や“臣妾[皇后・妃は皇帝に対して用いる自称詞]”などの「疑似古語」は『現代漢語詞典』に収録されていない。

二、文章語として扱う。

両言語のどちらにおいても、「疑似古語」を文章語として扱う傾向が見られる。特に中国語の場合は、現代語の文章語の語義の一部だけが「疑似古語」として用いられる語が多いため、辞書では一括りで文章語として扱っているようである。

三、古語として扱う。

現代語辞書に収録されており、「古語」または「雅語」と注記される「疑似古語」は数少ないが、両言語のどちらにおいても見られる。また、「古語」という明確な注記はなく、語の説明には古語として実際にあった用法のみが書かれているものもあるが、その場合、現代の時代ものフィクションにおける用法の変化についてはほとんど触れられていない。特に人称代名詞の場合は、発話者についての説明がないか、ある場合にも「疑似古語」の使用実態と乖離している語が少なくない。例えば、日本語の場合、自称詞「妾<sup>わらわ</sup>」について、『三省堂国語辞典第六版』、『岩波国語辞典第七版』と『新明解国語辞典第七版』のそれぞれの説明<sup>84</sup>は「昔、(武家の)婦人が自分をへりくだってさしたことば(三省堂)」、「女が自分をへりくだって言う語(岩波)」、「武家時代、身分の有る女性、特に武家の子女の自称。〔ごくまれに、男性も使用〕(新

<sup>84</sup> 発話者についての説明のみ引用する。

明解)」となっている。しかし、第二章の考察によれば、「疑似古語」としての「妾<sup>わらわ</sup>」は、むしろ古語の用法と真逆で、「武家の女性(主に将軍の正室)が自分の尊大さを出すために用いられる語」という意味で用いられている。中国語の場合も同じようなケースが見られる。例えば《現代汉语词典第五版》の“奴婢”の項目では、“太监对皇帝，后妃等也自称奴婢[宦官が皇帝后妃に対しても奴婢と自称する]”という説明が付いているが、時代ものフィクションで“奴婢”と自称するキャラクターの多くは「身分の低い女性の使用人」である。そのイメージは現代中国人母語話者の間にすでに定着したため、《大明王朝》という歴史ドラマでは古語の用法に従い、登場する宦官の登場人物が“奴婢”を用いたが、逆に多くの視聴者から指摘された。つまり、両国の現代語辞書は、一部の「疑似古語」を収録するが、その説明は古語としての意味用法のみとなっており、「疑似古語」としての現代での使用実態とかけ離れていると思われる。

## II 日本語の国語辞書にのみ見られる点

日本語の複数の国語辞典は「古語」と異なる位相カテゴリー「古風」を用いて、現代語の中の古めかしい表現(一部の「疑似古語」も含まれている)を示し、「疑似古語」に対する認識は、中国より一歩進んでいる。しかし、第二章の考察で分かったように、辞書によって、「古風」と見なされる語はかなり異なっており、各辞書の認識に相違が存在することが分かった。また、宮島(1994)が指摘したように、現代で使用されている古語は更に何種類かに分けることができる。宮島の分類を以下のようにまとめる。グループ2が本論文の「疑似古語」に当たる。

グループ1：中世以前の和文、和歌において見られる上品な文章語(雅語)。例えば、「あけぼの、たまゆら、めでる、ふみしだく」など。

グループ2：中世以降の作品によく使われていたもので、現代では主に講談や時代物の小説などに使われ、古さをだす役目を果たす特殊な文章語。例えば、「みども、たわけもの、大音声、中食、余の儀(ではない)」など。

グループ3：文明開化の一時期を象徴し、その後消え去った一部の文章語。例えば、「異人、官員、活動写真、陸蒸気、ステーション、シャボン」など。

グループ4：新しい呼び方に対してかつての呼び方をする「旧式語」。例えば、「カメラ」に対する「写真機」、「旅館」に対する「やどや」など。



このように、つまり同じ「古風」でも、古めかしさを出す役目をしているグループ2の語（「疑似古語」）は新しい呼び方に役目を取られたグループ4の古い呼び方とは本質的に異なると考えられる。また使用頻度の観点から見ても、「疑似古語」は他の3つのグループの語より遥かに高い。したがって、現代でもよく使用される「疑似古語」と現代ではほとんど見かけない古い表現は分けたほうが良いと思われる。例えば、「疑似古語」を「古風」と注記し、それ以外の古い語を「旧式語」と注記するなどの方法が考えられる。

一方、中国語の現代語辞書では「古語」の位相カテゴリーは存在するが、「古風」という意味の位相カテゴリーはまだ存在しない。中国語の国語辞書はいまだに「疑似古語」の存在を認識していないようである。日本語の辞書を見習って、まず「古風」というカテゴリーを新しく設けるように提案する。

#### 4.1.2 両国の外国語学習辞書における扱いの比較

まず日本と中国で出版された数多くの日中・中日辞書の中から、規模(語数)、売上部数、出版社、出版年、信憑性、電子辞書化、利用者数などの項目を総合的に考慮した上で、本調査の方向性に適合すると思われる下記11種類の辞書を調査対象として選定した。なお、近年のインターネットの普及によって、手軽に利用できるオンライン辞書を使用する学習者も増加傾向であるため、オンライン辞書も調査対象に含めた。主に調査した項目は、「①収録される「疑似古語」の割合②収録される「疑似古語」の説明③日中同形語についての扱いの比較」の三つである。

表4-1：調査対象となる外国語学習辞書

辞書名	出版国	出版年	タイプ	辞書規模
小学館日中辞典第二版	日本	2002	日中	中型(9万語)
小学館中日辞典第二版	日本	2003	中日	中型(10万語)
講談社日中辞典	日本	2006	日中	中型(7万6千語)
講談社中日辞典第三版	日本	2010	中日	中型(10万語)
デイリーコンサイス中日・日中辞典/三省堂日汉汉日词典	日本/中国	2003	中日/日中	小型(4万1千語/2万8千語)
中日大辞典増訂第二版	日本	1994	中日	大型(14万)

現代日漢漢日辞典[現代日漢漢日 辞典] <sup>85</sup>	中国	1991	日中/中日	小型(1万8千語 /1万8千語)
日漢双解学习词典第2版[日漢双解 学習词典第2版]	中国	2005	日中	中型(5万6千語)
精選日中・中日辞典/精選日漢漢日 辞典(新版)	日本/中国	2000	日中/中日	小型(2万語/2万 2千語)
日漢大辞典[日漢大辞典]	中国	2002	日中	大型(11万)
沪江小d日语词典	中国	2008	中日/日中	インターネット (10万以上)

#### 4.1.2.1 規模別の収録割合と語の説明

##### I 小型外国語学習辞書の場合

まず、本論文の第二章と第三章で扱っている日中それぞれの常用「疑似古語」は三種類の小型外国語学習辞書に収録される割合を調べる。表4-2から、日本語「疑似古語」が収録される割合はかなり低いことが分かった。中国語「疑似古語」の収録割合は比較的高いが、半数程度しか収録されていない辞書もある。

表4-2：各辞書に収録される常用「疑似古語」（日本語81語、中国語72語）の数と割合

	精選日中・中日辞典 (総語数2万/2万2 千)	ディリーコンサイス 日中・中日辞典(総語 数4万1千/2万8千)	現代日漢漢日辞典 (総語数1万8千/1 万8千)
日本語「疑似古語」	23語[28%]	10語[12%]	15語[18%]
中国語「疑似古語」	50語[70%]	54語[76%]	38語[53%]

収録された「疑似古語」の項目をさらに詳しく見ると、多義語が非常に多い。つまり他の語義が現代語で使用されているため収録されたと考えられる。例えば、日本語の「<sup>おる</sup>居る」、「曲者」、「手前」、「申す」など、中国語の“当真”、“等”、“奴才”、“望”、“休”などの語がある。しかし、これらの多義語の説明では、現代語として用いられる時の主な

<sup>85</sup> [ ]内は執筆者による日本語訳である。以降、中国で出版された辞書を言及するとき、すべてこの日本語の訳名を使用する。

意味用法と「疑似古語」として用いられる時の主な意味用法が明示されていないため、学習者が誤用する恐れがある。例えば、『現代日漢漢日』の「申す」の項目を例として引用する(下線部は執筆者による)。

もう・す【申す】Ⅰ [他五] (「いう」「話す」の自謙語) 说, 讲, 谈

Ⅱ [补动五] (上接动词连用形或名词) 表示自谦△お待ち~/我等着。

下線部の日本語例文は「お待ち申す」となっており、現代の日本人母語話者はこの例文を見れば恐らく武士を想起するだろう。つまり、現代語として使用される「申す」は「申します」や「申し上げます」などの丁寧形でなければならない。また、この例文の中国語訳は明白な現代中国語であるだけでなく、謙遜のニュアンスもまったく感じられない。したがって、辞書の例文としては再考すべきだと思われる。この例のように、小型外国語学習辞書における「疑似古語」の扱いはまだ問題点が多く、現状では、学習者たちは小型外国語学習辞書から「疑似古語」の知識を習得することがほとんど望めないであろう。確かに、小型外国語学習辞書は初級・中級レベルの学習者向けのものであり、最も常用する語彙を優先的に載せるべきである。しかし、現存の小型外国語学習辞書には「疑似古語」より使用頻度の低い語彙も収録されている。例えば、『精選日中・中日辞典』では、「拙者」は収録されていないが、「切齒扼腕(せっしゃくわん)」、「千軍万馬(せんぐんばんば)」、「晩鐘(ばんしょう)」、「突っ慳貪(つつけんどん)」、「蠟燭(ろうけつ)」、「老嫗(ろうおう)」などの現代ではめったに使用しない語が収録されている。このように、現存の小型外国語学習辞書の収録語についてはまだ検討する余地があると思われる。また、昔と違って、現在は手軽に日本語の時代ものフィクション作品に接する機会が増え、日本語の時代劇に強い関心を抱き、日本語を勉強しはじめる学習者も少なくない。したがって、小型の外国語学習辞書にも使用頻度の高い「疑似古語」を取り入れるべきである。

## Ⅱ 中型外国語学習辞書の場合

中型の外国語学習辞書は学習者にもっともよく利用される辞書であるため、学習者が相手言語の「疑似古語」の知識をどの程度得ることができるかは、中型辞書での「疑似古語」の収録の有無、または収録された「疑似古語」についての説明に大きく左右される。まず、表4-3の各辞書の収録語数を見ると、日中辞書に収録されている日本語「疑似古語」の割合

は小型辞書より多いが、2種類の辞書では5割にも達していないことが分かった。一方、中日辞書の場合は、49語の中国語「疑似古語」のほとんどが収録されている。

表4-3：中型辞書に収録される常用「疑似古語」（日本語81語、中国語72語）の数と割合

	小学館日中辞典	講談社日中辞典	日漢双解学習詞典
日本語「疑似古語」	52語[63%]	33語[40%]	26語[32%]
	小学館中日辞典	講談社中日辞典	
中国語「疑似古語」	67語[93%]	69語[96%]	

日中辞書に収録されている語も小型と同様、説明が不十分なところが見られる。例えば、表4-4は二人称代名詞の扱いについてまとめたものである。収録されていないものが多く、収録されている語も簡単な説明しかなく、また例文も付いておらず、日本語学習者はそれぞれの語の区別を理解することが非常に困難だと思われる。

表4-4：中型辞書における二人称代名詞の扱い

語項目	小学館日中辞典	講談社日中辞典	日漢双解学習詞典
おぬし	你。『関連』⇒あなた(貴方)	収録なし	収録なし
貴公	你。『関連』⇒あなた(貴方)	你；仁兄	収録なし
貴殿	您。『関連』⇒あなた(貴方)	台端；您	あなたさま／您。台端。 【参】多用于书信、公文中。男子称呼同辈或长上的词。
そこもと	収録なし	収録なし	収録なし
そち	収録なし	収録なし	収録なし
そなた	収録なし	収録なし	収録なし
その方(そのほう)	人称代名詞としての用法は収録なし	収録なし	収録なし

汝	你，尔，汝。 ～自身を知れ/要自知。	你 ◆～自身を知れ/你要有自知之明	「おまえ」にあたる古い 言いかた／“おまえ” (你)的陈旧说法。汝。你。
---	-----------------------	----------------------	--

また、現代語の訳語を用いて説明する項目が多く、学習者は現代語として「疑似古語」を用いる恐れがあると思われる。例えば、『小学館日中辞典』の「童<sup>わらべ</sup>」の項目では、“小孩儿(们)，儿童(们)”と説明し、現代語の「子供」についての説明も“儿童，小孩儿”を用いている。「童」の項目の説明に「「子供」より古風な感じがする」と一文を付け加えるだけでも、学習者が誤用する可能性はかなり下がるだろう。

### Ⅲ大型外国語学習辞書の場合

大型辞書の場合は現代標準語だけではなく、古典語や方言なども幅広く収録されるため、表4-5のように、本論文で取り上げている「疑似古語」はほぼすべて収録されている。『日漢大詞典』に収録されていない3語は「おっ母<sup>か</sup>さん」、「母様<sup>かかさま</sup>」と「心の臓」の三つである。どれも時代もののフィクションでしか使用しない語であるが、中国人学習者が日本の時代もののフィクション作品を見る機会がかなり増えているという現在の学習環境を考慮すると、このような語も収録すべきだと思われる。同じく古くさい感じを持つ一昔前の流行語「ナウイ」を現代日本語コーパスで検索した結果、2件しかないにも関わらず、『日漢大詞典』に収録されている。一方、「心の臓」の検索結果は30件に上る。現代での使用頻度の視点から見ても、収録する語を見直すべきである。

表4-5：大型辞書に収録される常用「疑似古語」（日本語81語、中国語72語）の数と割合

	日漢大詞典	中日大辞典	沪江小d
日本語「疑似古語」	79語[96%]		68語[83%]
中国語「疑似古語」		72語[100%]	

また、『日漢大詞典』と『中日大辞典』に収録されている語のうち、「古語」と明記し、またはそれに近い説明が付いている日本語「疑似古語」と中国語「疑似古語」はそれぞれ20語と25語がある。しかし、古語であるにもかかわらず古語と明記されていない語がまだ

多くある。例えば、表4-6に挙げた日本語「疑似古語」の記述はすべて現代語の訳語を付けられ、外国人学習者はこのような記述を見ても、同じ意味を持つ他の現代語との区別が分からず、誤って使用する恐れが高まる。

表4-6：『日漢大詞典』に見られる説明が不十分な「疑似古語」

日本語「疑似古語」	『日漢大詞典』の記述(例文省略)
朝餉	早饭。早餐。breakfast <span style="border: 1px solid black;">比較</span> 昼げ・夕げ。
女子	く「おんなご」的转音>1女孩。姑娘。少女。girl 2女人。女性。妇女。woman
おぬし	(代)(用于和自己地位同等或低下的人 <sup>86</sup> ) 你。「おまえ」。「そなた」。
間者	间谍。特务。Spy
貴公	您。男子称呼同輩或晚辈的敬语 <sup>87</sup> 。「貴殿」
金子	金钱。钱。钱币。
こやつ	(代)〈对人粗鲁或轻蔑的用语 <sup>88</sup> 〉这小子。这家伙。「こいつ」
左様	<span style="border: 1px solid black;">一</span> (副・形動)那样。「そう」。 <span style="border: 1px solid black;">二</span> (感)是。对。不错。是那样。

小型や中型と違って、現代語と古語の両方を収録する大型辞書こそ、同じ意味を持つ現代語と古い語の区別を明確に示さなければならない。ここに挙げた8語の中国語訳語を「疑似古語」に変えるか、または“古雅(古風)”という位相情報を付けるだけで、そういった誤用の恐れが解消できるだろう。以下、「金子」を例として、より精密な記述を提示してみる。

きんす【金子】〔古雅〕银两yínliǎng；金钱。在现代，主要在历史小说和古装剧的台词里使用。例金子は気にせずともよい/不必担心银两的问题。

<sup>86</sup> 自分と同等な地位または目下の人に用いる(執筆者による日本語訳)。

<sup>87</sup> 男性は同輩または後輩を呼ぶときに用いる敬称。

<sup>88</sup> 人に対して、乱暴または軽蔑な言い方。

『中日大辞典』の場合は、『日漢大詞典』より語の記述は全体的に質が高く、現代ではほとんど用いない語も学習者が分かるように印を付けている。しかし、やはり他の中日辞書と同じように、「疑似古語」についての説明は古語としての元来の意味用法のみを示し、「疑似古語」としての意味用法についてはまったく言及されていない。例えば、“臣妾”の記述は名詞としての「男僕(臣)と女婢(妾)」だけとなっており、皇后・妃の自称詞としての用法は記されていない。また、記述にある日本語訳も不適切なものが見られる。例えば、“何许”の記述は「どこ。どんな。〔何许人〕どこの人。どんな人。何者。」であり、現代語の「どこ」に訳されている。また「品詞」と「位相情報」もほぼ示されていない。

#### 4.1.2.2 日中同形語の扱いの比較

一般的に「日中同形語」とは、日本語と中国語において漢字の構造<sup>89</sup>が同一である語のことである。日中同形語の数は非常に多いため、外国語としての日本語または中国語教育の分野において、「日中同形語」の存在は学習者に大きな影響を与えていると考えられる。日中同形語に関する研究は多く見られるが、その多くは意味上の類似と相違に着目して行われてきたものであり、単語の文体的特徴や語用面についてはあまり論じられていない。そこで、本節では、まず日中・中日辞書における日中の「疑似古語」の同形語記述の問題点を明らかにし、次の小節では同形「疑似古語」の実際の使用様相について詳しく論じる。特に同形類義語と同形異義語の場合は、学習者の母語による干渉を避けるために、より精密な説明が必要と思われる。日中同形語の分類は1978年文化庁が出版した『中国語と対応する漢語』の分類規準に倣って、「同形同義語(Same)」、「同形類義語(Overlap)」、「同形異義語(Different)」、「中国語にない日本語の漢字語(Nothing)」の4種類に分けられる。本論文で扱っている両言語の「疑似古語」の中に見られる現代語の日中同形語32語を表4-7のようにまとめる(中国語にない日本語の漢字語は対象外とする)。

表4-7：日中同形「疑似古語」の比較

日本語	中国語[現代語の意味用法]	分類	「疑似古語」	
			日	中
相成る【あいなる】	相成[互いに助け合って協力しあい、事	D	○	×

<sup>89</sup> 漢字について、日本語の表記と中国語の表記との間に字体の差異が存在するが、本論文では、元の字(康熙字典体に準じるもの)は同じであれば同形と見なす。

	を成し遂げる]			
戦【いくさ】	戦[戦い、戦争;戦う]	O	○	×
何処【いずこ】	何処[どこ]	S	○	×
女子【おなご】	女子[女性、女子]	S	○	×
金子【きんす】	金子[金、金塊]	O	○	×
重畳【ちょうじょう】	重畳[幾重にも重なる、重複する]	O	○	×
誠【まこと】	誠[誠の;実際に;もしも]	O	○	×
夫婦【めおと】	夫婦[夫婦]	S	○	×
余・予【よ】	余[われ;あまり;端数;正式なこと以外のもの;余った時間;別の(もの)] 予[予;与える;許可する]	O	○	×
童【わらべ】	童[子供;男児;旧時、未成年(男子)の召し使い]	O	○	×
言う【いう】	言[話す]	S	×	○
娘【むすめ】	娘[おっかさん]	S	×	○
大人【おとな】 【だいにん】	大人[おとな;りっぱな人物;旧時、目上の人に対する敬称;長官の尊称]	O	×	○
閣下【かっか】	閣下[閣下、貴下]	S	×	○
休【きゅう】	休[休む;停止する;するな;妻を離縁する]	O	×	○
孤【こ】	孤[みなし子の;単独の;独りぼっちの;寂しい;旧時、君主・王・侯の自称]	O	×	○
臣【しん】	臣[家来、臣下;昔、(君主に対し)謙遜して言う自称;奴隸]	O	×	○
足下【そっか】	足下[足もと;二人称代名詞]	S	×	○
父親【ちちおや】	父親[父親]	S	×	○
望む【のぞむ】	望[遠望する;希望する;訪問する;不満と思う;名声;敬服する;…に対して;陰暦15日]	O	×	○



万歳【ばんざい】	万岁[万歳;旧時、臣民が皇帝に対していう]	O	×	○
陛下【へいか】	陛下[昔、天子に対する尊称]	O	×	○
老夫【ろうふ】	老夫[老人男性の自分に対する謙称]	D	×	○
吾【われ】	吾[わたくし、われ、われら]	S	×	○
我等【われら】	我等[わたしたち]	S	×	○
甚く【いたく】	甚[非常に;ひどい;超過する]	O	○	○
今宵【こよい】	今宵[今夜]	S	○	○
朕【ちん】	朕[皇帝の自称]	S	○	○
何故【なにゆえ】	何故[なぜ]	S	○	○
汝【なんじ】	汝[なんじ、おまえ]	S	○	○
故【ゆえ】	故[ゆえ;事故;古い;旧知;故意に;死ぬ]	O	○	○
妾【わらわ】	妾[側室;旧時、婦人の自称]	O	○	○

林(2002)は日中辞書における日中同形語記述の問題点を指摘し、より精密な記述をするには、下記に引用した(1)～(5)の条件を満たさなければならないと述べ、特に同形語の記述については(6)～(8)の項目も入れるべきであると提案した。

- (1) 意味項目の立て方をより正確に提示すること。
- (2) 訳語を用例に活用すること。
- (3) 誤訳と不適切な説明を避けること。
- (4) よく使われている例文及び典型的な文型を提示すること。
- (5) 品詞を提示すること。
- (6) 位相を提示すること。例えば、文章語か日常語かなどを明示すること。
- (7) 慣用的結合を提示すること。
- (8) 同形語の相違を明記すること。例えば、中国語にない意味・用法などを提示すること。

(林2002 p.119-120)

そこで、「疑似古語」として比較的問題が生じやすいと思われる下記五つの項目について

て調査を行う。

- A 相当する「疑似古語」あるにもかかわらず、示されていない
- B 例文がない、または提示された例文とその訳文は適切ではない
- C 品詞は提示されていない
- D 位相情報は提示されていない
- E 同形異義語の相違は明記されていない

また、調査対象とする辞書を、収録語数と利用者数などを考慮した上で、『小学館中日辞典』、『小学館日中辞典』、『講談社中日辞典』、『講談社日中辞典』の四冊に絞る。調査対象語は表4-7の中の10語を調査し、日中・中日辞書における「疑似古語」記述の問題点の傾向を把握する。表4-8と表4-9は調査結果をまとめたものである。○は「問題あり」を示し、×は「問題なし」を示す。Nは同形同義語であるため、相違を明記する必要がないことを示している。

表4-8：日中辞書における記述の問題点の有無

見出し 語	小学館日中辞典					講談社日中辞典				
	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
いくさ 戦	×	×	○	○	○	×	○	○	○	○
いずこ 何处	×	×	○	○	N	×	×	○	○	N
おなご 女子	○	○	○	○	N	収録なし				
きんす 金子	○	○	○	○	×	収録なし				
そっか 足下	×	○	○	○	×	収録なし				
ちょうじょう 重 畳	×	○	○	○	○	×	×	○	○	○
なにゆえ 何故	×	×	○	○	N	○	○	○	○	N
なんじ 汝	×	○	○	○	N	○	○	○	○	N
めおと 夫婦	×	×	○	○	N	×	×	○	○	N
わらべ 童	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

表4-9：中日辞書における記述の問題点の有無

見出し語	小学館中日辞典					講談社中日辞典				
	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
戦	×	×	○	○	×	×	×	×	○	×
何处	収録なし					×	○	×	×	N
女子	×	×	○	○	N	×	○	×	○	N
金子	○	○	○	×	×	×	○	×	○	×
足下	×	○	○	×	×	×	○	×	×	×
重叠	×	×	○	○	×	×	×	○	○	×
何故	○	○	○	×	N	×	○	×	○	N
汝	×	○	○	×	N	×	○	×	×	N
夫妇	○	×	○	○	N	×	×	○	×	N
童	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×

表4-8と表4-9で示されているように、日中・中日辞書における「疑似古語」の記述は問題点が少ないことが分かった。特に大きな問題は「品詞」と「位相情報」の不足である。今回調査した四種の辞書の中、「品詞」と「位相情報」を積極的に示しているのは『講談社中日辞典』のみである。「品詞」と「位相情報」の不足は「疑似古語」以外の語の記述の問題でもあり、つまり辞書の編集方針を見直す必要がある。例えば日中辞書の場合は、近年出版された日本の国語辞書を参考にすれば、各語の「位相情報」も容易に手に入る。また、「B例文の有無、または提示された例文とその訳文が適切かどうか」という項目においても、下記の4語の記述のように、まだ改善すべき部分があると思われる。

【金子】钱，金钱，钱币。 (小学館日中辞典第二版)

問題点：例文はない。

【何故】⇒なぜ（何故） (講談社日中辞典)

問題点：説明も例文もない。

【足下】＜書＞＜敬＞足下。貴殿。▶友人への書簡に用いる。 (小学館中日辞典第二版)

用例：①多蒙～照顾/大変お世話になりました。

②～以为如何？/あなたはどうか考えですか。

問題点：用例②の日本語訳は不適切である。「あなた」より「貴殿」や「貴公」のほうが古めかしさがあり、より適切である。

【何故】〔副〕なにゆえ．どうして．なぜ．∥ 他～不来？彼はどうして来ないのか。

(講談社中日辞典第三版)

問題点：例文の日本語訳は不適切である。「どうして」より「なにゆえ」のほうがより適切である。

## 4.2 実際の使用様相の比較

### 4.2.1 同形語の比較

#### I 両方が「疑似古語」である場合

同形語の中、日本語においても中国語においても「疑似古語」として用いられる語は7語がある。「甚く」と“甚”、「今宵」と“今宵”、「朕」と“朕”、「何故」と“何故”、「汝」と“汝”、「故」と“故”、「妾」と“妾”の7語である。この八組の語の中、同義語は5組、類義語は2組がある。意味上ではとても近いと言える。しかし、実際の使用上ではいくつかの相違点が見られる。特に発話者の属性面に見られる違いが少なくない。

#### ① 「甚く」と“甚”

「甚く」と“甚”のいずれもいくつかの意味を持っているが、「疑似古語」としての用法は同じであり、どちらも「非常に/とても」という意味で用いられている。中国語の“甚”を使用する際に注意しなければならないのは、修飾する語は単音節か2音節かによって形が変わるという点である。単音節の形容詞を修飾する場合はそのまま、例えば“甚好”、“甚远”。2音節の形容詞を修飾する場合は、必ず“是，为，不”などを伴い、“甚是”、“甚为”、“不甚”の形で用いられる。例えば“甚是高兴”、“甚为担心”、“不甚满意”。また、日本語の「甚く」を使用する登場キャラクターは年齢と性別には制限が見られないが、身分の低い町人はあまり用いず、ほぼ身分の高い人間が使用している。一方、中国語の“甚”については、身分の低い登場キャラクターが使用するケースも見られる。

#### ② 「今宵」と“今宵”

どちらも「今夜」という意味で使用されているが、日本語の「今宵」の「疑似古語」としてよく用いられるが、中国語の“今宵”は古めかしい感じがあまりなく、改まった

場面で、大きなイベントや特別なことがある夜を表す時に用いる。または熟語、慣用句の中で用いられる。

### ③ 「朕」と“朕”

どちらも皇帝・君主の自称詞として用いられるが、日本語の「朕」は主に天皇が自分の威厳を出そうとする場面で用いられ、出現頻度はそれほど多くない。一方、中国語の“朕”は皇帝・君主が使用する自称詞の中で最も使用頻度が高く、使用場面も日本語より広いと思われる。日本語の「朕」の使用頻度が低い理由は、恐らく「朕」は元々、古代中国の秦の始皇帝によって皇帝の専用一人称代名詞として用いられるようになり、日本の天皇もそれに倣って使用していたため、必然的に中国の皇帝が使用するイメージが強く残っているためであると考えられる。現代日本語コーパスBCCWJで「朕」を検索した結果、古代日本を舞台とする作品もあるが、古代中国を舞台とするもの、または『西遊記』、『水滸伝』、『封神演義』などの中国古小説の翻訳本で用いられる傾向がある。

### ④ 「何故」と“何故”

どちらも「疑似古語」として用いられる際の意味は「なぜ」である。日本語では「何故？」のように、単独で疑問文になすことができるのに対して、中国語の“何故”は単独では疑問文にならず、動詞の“是”を伴い、“是何故”という形で用いなければならない。また、中国語の場合は、“何故”より、同じ意味を持つ「疑似古語」“为何”のほうがより多く用いられている。また、「何故」も“何故”も主に身分の高い登場キャラクターに用いられる。

### ⑤ 「汝」と“汝”

この2語はどちらも二人称代名詞として用いられ、また使用頻度もほかの二人称代名詞より低いという傾向が見られる。日本語の場合は、「疑似古語」として用いられている二人称代名詞が何種類もあるというのがその一つの原因として考えられる。第二章で分析したように、それぞれの二人称代名詞には細かい役割が振られている。日本語の「汝」は主に身分のかなり高い人間が目下の者に諭す場面で用いられる。中国語の“汝”は時代もののフィクション作品で話し言葉として用いられるケースはもう一つの「疑似古語」二人称代名詞の“尔”に比べて少なく、主に詩、書物や手紙などの書き言葉としての役割を果たしていると思われる。

### ⑥ 「故」と“故”

この2語の共通点は、いずれも本来いくつかの意味を持っているが、「疑似古語」として

用いられるのはその一部のみという点である。日本語の場合は、『日本国語大辞典』の説明は以下のようにになっている。下線は執筆者によるものであり、「疑似古語」としての用法を示している。

〔名〕 〔一〕 深い理由や原因。また、由来。

(1)物事の確かな理由・原因。わけ。子細。

(2)非常に趣のある様子。すばらしい風情。また、良い趣味。情趣。

(3)人の素姓や身分、物の成り立ちなどの、すぐれて由緒のあること。

(4)縁故のあること。ゆかり。

(5)さしさわり。故障。

〔二〕 体言や活用語の連体形などに付けて用いる形式名詞。

(1)理由を示す。…のため。

(2)前の事柄に対して、結果としての後の事柄が反対性・意外性を持つ場合、逆接的意味に解される。…なのに。…であるが。

一方、中国語の“故”は『現代漢語大辞典』では、以下の9個の意味が記されている(〔 〕内は執筆者による日本語訳である)。そのうちの(1)、(8)、(9)の用法は「疑似古語」としてよく用いられる。(1)と(9)の意味は日本語と類似している。「故」と“故”のような多義語の場合は、日本語も中国語もその語の一部の用法のみ「疑似古語」として用いられるという共通の傾向がある。

(1)缘故[わけ]；原因[原因]。(2)意外或不幸的事变[事故あるいは不幸な事変]。(3)指旧的事物[古い事物を指す]。(4)指旧交[旧知を指す]；旧友[古い友人]。(5)古代的[古代の]；陈旧的[古い]。(6)过去[過去]；从前[昔]。(7)死亡[死ぬ]。(8)故意[わざと]。(9)连词[接続詞]。所以[だから]，因此[これによって]。

⑦「<sup>わらわ</sup>妾」と“妾”

第二章で述べたように、日本語の「妾」は主に将軍の母親や正室のような身分のかなり高い女性が目下の人間に対して用いる自称詞であり、尊大感を伴う。中国語の“妾”は、単独で用いられることはほぼなく、“臣妾”、“妾身”、“贱妾”などの形で用いられる。“臣妾”は皇后・妃が皇帝に対して自称するときに用い、“妾身”は既婚女性が自分の主人に対して自称するときに用いる。“贱妾”は自分の主人に対して更にへりくだった自称

詞である。日本語の「妾」との大きな相違点は、中国語の“妾”は謙遜のニュアンスを伴うため、目下の人間に対して用いるのではなく、自分より目上の親族に対して用いられる点である。例えば皇后の場合は、皇帝と皇帝の両親に対してのみ“臣妾”を用いる。

## II 一方のみが「疑似古語」である場合

上の両方が「疑似古語」の7語を除いて、残りの一方のみが「疑似古語」の25語のうち、日本語では「疑似古語」で中国語では非「疑似古語」である語は10個あり、中国語では「疑似古語」で日本語では非「疑似古語」の数は15個あり、大きな偏りは見られなかった。語義の面においては、同形同義語は10組、同形類義語は13組、同形異義語は2組であった。さらに詳しく考察すると、以下二つのことが分かった。

- ① 非「疑似古語」の一方の語はすべて現代語であるが、その中に、普段はあまり用いない文章語が8個ほど存在する。「何処」と“何处”、「臣」と“臣”、「足下」と“足下”、「誠」と“誠”、「余・予」と“余・予”、「老夫」と“老夫”、「吾」と“吾”、「我等」と“我等”の8組である(下線を引いている語が「疑似古語」)。
- ② 日本語には音読と訓読が存在するため、漢字も意味も同じで、一方の読み方が「疑似古語」になる語は少なくない。例えば「女子」と「女子」、「何処」と「何処」、「夫婦」と「夫婦」。中国語と違って、読み方が単一ではないことは日本語の「疑似古語」の豊富さの要因の一つであると考えられる。

### 4.2.2 全体的傾向の比較

#### I 共通する傾向

日中の「疑似古語」の共通する特徴は2点挙げられる。

- ①呼称詞のバリエーションが多い。

特に自称詞と他称詞の種類は非常に多く、各々が細かいニュアンスを持っている点も共通している。発話者が自身の特徴(年齢・性別・身分・出身など)や相手との上下関係、および発話場面などに応じて呼称詞を変えることは、現代語においてもよく見られるが、時代もののフィクションにおいては、この傾向は更に強調され、封建制下の厳しい身分制度を表現することによって、古い時代の雰囲気が醸し出される。

- ②慣用表現の存在。

どちらの言語の「疑似古語」においても、時代もののフィクションでしか用いられない慣

用フレーズや慣用文が存在することが分かった。例えば、日本語の「これはしたり」、「ひかえおろう」、「ありがたき幸せ」など、中国語の「〇〇惶恐」、「拿你是问」、「有何贵干」など。これらの慣用表現は現代語辞書にはほとんど記載されておらず、学習者にとっての一つの難所と言える。

## II 異なる傾向

日本語の「疑似古語」は中国語に比べ、より独立性が高いと思われる。つまり、日本語の場合は、ほとんどの「疑似古語」は、他の「疑似古語」と連動しなくても単独に用いることができる。例えば、下記例のように、現代語文の下線部分をそれぞれ「疑似古語」に置き換えるだけで、他の部分は現代語のままでも古めかしく感じられるようになり、文法面においても違和感がない。

現代語文：あなたは本当の医者ですか？

古めかしい文1：そなたは本当の医者ですか？

古めかしい文2：あなたはまことの医者ですか？

古めかしい文3：あなたは本当の医者でござるか？

古めかしい文4：そなたはまことの医者でござるか？

一方、中国語の「疑似古語」は日本語の「疑似古語」のように、現代語文の中で自由自在に用いることは難しく、単音節語の文法的制約がある程度存在すると思われる。例えば、下記現代語の文章aの下線部を「疑似古語」に置き換えてみると、a' のようになるが、中国語母語話者なら違和感を覚えるだろう。a' よりa'' の文のほうがより自然に感じられる。

a 我很喜欢这本书。(わたしはこの本がとても好きだ)

a' 我甚喜欢这本书。

a'' 我甚爱此书。

現代中国語では、単音節同士或いは2音節同士の組み合わせは、単音節と2音節の組み合わせよりも中国人母語話者の語感に合っている。例えば、現代中国語コーパスCCLで同じ意味を持つフレーズ“故未[だからまだ……]”、“故没有”、“所以未”、“所以没有”を検索したところ、表4-10のように、「単音節+単音節」と「2音節+2音節」はそれぞれ「単音節+2音節」と「2音節+単音節」を上回る結果となった。



表4-10：“故未”、“故没有”、“所以未”、“所以没有”のCCLにおける出現回数

フレーズ	タイプ	結果
故未	「疑似古語」(単音節) + 「疑似古語」(単音節)	66
故没有	「疑似古語」(単音節) + 現代語(2音節)	13
所以未	現代語(2音節) + 「疑似古語」(単音節)	96
所以没有	現代語(2音節) + 現代語(2音節)	323

## 第五章 翻訳作品における「疑似古語」の扱い

### 5.1 日本語から中国語に訳す場合

日本語の「疑似古語」は中国語の「疑似古語」よりバリエーションが豊富であり、また言語構造上の違いによって、訳せない語も存在する。そこで、本節では、日本語の「疑似古語」は実際にどのように中国語へ訳されているのか、翻訳者たちはどんな翻訳手法を用いて翻訳しているのか、まずその実態について調査を行う。そして、日本語から中国語に翻訳する際によく見られる問題点を明らかにする。調査対象として使う作品は、登場人物が多く、「疑似古語」の使用も多く見られるNHKの大河ドラマ6部及び民放の人気時代劇テレビドラマ2部とする。作品名は以下表5-1のようになっている。作品の詳細について、参考資料の「日本語作品一覧」を参照する。こちらの作品の中国語訳については、中国の動画共有サイトに掲載されているファンダブ(fansub)と呼ばれる中国の日本テレビドラマのファンたちによる非公式な字幕を利用した。その理由の一つはこちらの作品は中国大陆のテレビ局ではまだ正式に放送されていないため、公式な字幕が存在しないからである。もう一つの理由は、こちらの字幕は非公式なものだが、それを作った翻訳者たちは日本の時代もののフィクション作品に高い興味を持ち、日本語の「疑似古語」に関する知識もある程度持っており、それを中国語訳に反映させようとする努力も見られる。これらの翻訳者が行った翻訳に問題があれば、日本の時代もののフィクション作品に詳しくない翻訳者が更に苦勞するのであろう。ただ、金田(2011)が指摘したように、「ファンサブ動画の作成・公開は実際のところ著作権法に抵触するものであり、それを言語研究の資料として用いることは倫理的に問題もある(金田2011:133)」<sup>90</sup>。よって、本論文でのファンサブ字幕の引用は、金田(2011)と同じく<sup>90</sup>、ファンサブ動画を視聴する前に、必ず先に日本語版オリジナル本編をテレビでの本放送またはDVDで視聴し、オリジナルの台詞を記述したうえで、ファンサブ動画で字幕の翻訳を確認するという姿勢で行う。

<sup>90</sup> 金田(2011)p. 148-149 を参考する。

表5-1：考察する作品一覧(日本語から中国語)

日本語タイトル[略]	中国語タイトル	放送期間
利家とまつ[利]	利家与松	2002年1月6日 - 同12月15日
新撰組[新]	新选组	2004年1月11日 - 同12月12日
義経[義]	义经	2005年1月9日 - 同12月11日
大奥－第一章－ [大]	大奥－第一章－	2004年10月7日 - 同12月16日
風林火山[風]	风林火山	2007年1月7日 - 同12月16日
篤姫[篤]	笃姬	2008年1月6日 - 同12月14日
天地人[天]	天地人	2009年1月4日 - 同11月22日
JIN - 仁 - [仁]	仁医	2009年10月11日 - 同 12月20日

### 5.1.1 中国語に相当する「疑似古語」が存在する場合

数が少ないが、日本語と中国語の両方において「疑似古語」として使用されている語が見られる。下記の例はその一部である。

- [1] a. 利家様はいずこにござりますかな。 ([利]第4話0:21:40)  
 b. 利家大人不知在何处。
- [2] a. こたび、砥石城の一戦においては、御劳しいことにござりました。  
 b. 此番砥石城一战中之事，实在令人痛心疾首。 ([風]第35話0:03:36)
- [3] a. その証として、そのほうらをここに残す。 ([天]第35話0:22:24)  
 b. 特将汝等留于此处以表决心。
- [4] a. あのように心を軽うしてくれた女子は… ([仁]第8話0:24:31)  
 b. 遇见那样抚慰我心灵的女子…
- [5] a. 拙者、一癖ある身できっとお役に立つと存じます。 ([篤]第4話0:24:25)  
 b. 在下乃是性情暴躁之人、想必一定能助您一臂之力。

問題点：武士のキャラクターの代表的な一人称代名詞「拙者」は、多くの翻訳者に認知されているようで、今回調査した全作品の訳語の中でも統一性がもっとも高く、ほぼ“在下”と訳されている。しかし、中国語の人称代名詞の種類が少ないため、“在下”は「拙者」以外の人称代名詞の訳語としてもよく用いられる。これは恐らく翻訳者が古めかしさを出

そうしたことによると考えられる。例えば、[6]の「それがし」と[7]の「手前」も“在下”と訳されている。

[6]a.それがしはただのお見舞いにござる。 ([風]第35話0:04:36)

b.在下仅仅只是来探病的罢了。

[7]a.手前がそう望んだのではなく、ぜひお目通りしたいとしつこくせがまれ。

b.在下并不希望如此，但却被他纠缠不休的让在下引见。 ([風]第6話0:34:19)

ただ、上記例[6]の「それがし」も武士の一人称代名詞であるが、「拙者」と違って、訳語に統一性が欠けている。例えば例[8]、[9]、[10]、[11]の「それがし」の中国語訳はそれぞれ異なっている。[11]のように、現代語の一人称代名詞“我”に訳されるケースも多く見られる。

[8]a.それがし、幼少の頃より主景勝(かげかつ)に仕え、ともに命をかけてこの乱世

を生き抜いて参りました。 ([天]第1話0:09:43)

b.在下自幼侍奉景胜大人，在这乱世中浴血奋战，生死与共。

[9]a.景勝様の働きぶりはそれがしも耳にしております。 ([天]第5話0:08:13)

b.鄙人对景胜大人的年轻有为也是早有耳闻。

[10]a.それがしのためにわざわざ。。。 ([義]第4話0:11:00)

b.为了微臣 您还专程。。。。

[11]a.それがしは陥れられたでござる。 ([義]第4話0:25:57)

b.我是被冤枉的。

以上に挙げた例のように、「それがし」のような使用頻度が低い「疑似古語」の翻訳は、誤訳されやすい傾向が見られる。他にも、中国語に相当する「疑似古語」が存在するにもかかわらず、現代語に訳されたり、不自然な訳語になったりするケースも多く見られる。例えば、[12]の「その方」と[13]の「かたじけない」はそれぞれ“此后(その後)”と“不要客气(ご遠慮なく)”と誤訳され、[14]の「～殿」は不自然な中国語である“～武士”と訳され、[15]の「まこと」と[16]の「こたび」は現代語に訳される、というように、日本語の「疑似古語」は中国語への翻訳の現状は未だ良いとは言えない。このことは、翻訳者の「疑似古語」に対する知識の不足が主な原因であろう。

- [12] a. その方、三条西家に仕え、京風のたしなみのあること、武家の内儀であることなど、十分に資格は満たしておる。 ([大]第1話0:35:59)
- b. 此后在三条西实条家做事。学有京都风格技艺，有武士家庭教养等等，确实符合条件。
- [13] a. お気遣い、かたじけない。 ([新]第5話0:15:07)
- b. 请不要客气。
- [14] a. 橋殿、どうなさった？ ([仁]第1話0:27:18)
- b. 橋武士，你怎么了？
- [15] a. まことでございますか。 ([天]第5話0:08:18)
- b. 真的吗？
- [16] a. 御父上、織田信秀様にこたびの戦勝のご報告をなさるものと心得、おかえでになるのをお待ちもうしあげとおりました。 ([利]第4話0:39:14)
- b. 我知道主公一定会向您父亲织田信秀大人报告这次胜利。所以我特地在此等候。

### 5.1.2 中国語に相当する「疑似古語」が存在しない場合

#### ① 日本語を直接借用して訳すケース

[17]、[18]のように、中国に存在しない人物・物の呼称詞を翻訳する際に、日本語をそのまま借用して使うことがある。

- [17] a. もし公方様の御身に万が一のことあらば。 ([篤]第35話0:06:55)
- b. 倘若公方大人身上发生了什么不测的话。
- [18] a. 上皇様は御自らのお渡り、清盛、歓喜の極み。 ([義]第4話0:09:32)
- b. 烦劳上皇亲自前来探望，清盛实在是感激不尽。

#### ② 現代語を用いて訳すケース

日中両言語の構造上の相違によって、訳すことができない「疑似古語」も存在する。主に一部の人称代名詞、文末表現と文法面の翻訳によく見られる。例えば例[19]～[24]のような日本語の「疑似古語」は対応する中国語「疑似古語」が存在しないため、多くの翻訳者はその日本語の「疑似古語」を避けるか、あるいは現代中国語を用いて訳すかのいずれの方法を取ったようである。しかし、[25]と[26]のように、対応する中国語「疑似古語」が存在しているにもかかわらず、現代語に訳したケースも少なくない。

- [19] a. どんな病も治せるでありんすか？ ([仁]第4話0:10:33)  
 b. 你什么病都能治好吗？
- [20] a. 野風花魁よろしいでげすか？ ([仁]第4話0:13:40)  
 b. 野风花魁, 可以进来吗？
- [21] a. それゆえ、義経様のそばにいとうございます。 ([義]第26話0:19:24)  
 b. 正因为是这样，才想待在义经大人的身边。
- [22] a. 何を言っておる、其の方は。 ([仁]第1話0:27:36)  
 b. 你到底在说什么？
- [23] a. おぬしこそ手を離したではないか。 ([仁]第2話0:00:12)  
 b. 你不是也放手了吗？
- [24] a. そこもとは平治の戦のおりの源氏の統領、源義朝(みなもとのよしとも)のお子にごさる。 ([義]第2話0:02:37)  
 b. 你乃平治之战时源氏统帅源义朝公之子。
- [25] a. いいか、こたびのことは、誰にも言うでないぞ！ ([篤]第5話0:11:04)  
 b. 听好，这件事可别告诉任何人哦。
- [26] a. 貴公、駿河の浪人か。 ([風]第1話0:18:54)  
 b. 你是骏河的浪人吗？

### ③ 異なる中国語の「疑似古語」を用いて訳すケース

前節で挙げたような、中国語に相当する「疑似古語」が存在しない語の翻訳は、現状では概ね現代中国語を用いて翻訳されているが、一部の翻訳において、日本語とは異なる部分に中国語の「疑似古語」を用いて文全体の古めかしさを出そうとする翻訳者の工夫も見られる。下記[27]～[31]はその一部の例である。これは、「疑似古語」を翻訳する際の一つの有効な翻訳手法であると言えるが、翻訳者には日本語と中国語の両方の「疑似古語」についての詳しい知識が要求される。しかし、日本語の「疑似古語」は古語として見なされているようで、現代語を中心とする日中辞書に記載されていない場合が多い。したがって、現状では、翻訳者は日本語の「疑似古語」の知識を得るためには、翻訳者が自分で日本語の時代小説や時代劇などを大量に見て身に付けるという方法しかないと言える。

- [27] a. 聞きましたぞ！ ([篤]第35話0:10:40)  
 b. 老身可全都听说了哦。

[28]a.お船(武家女性)では、仙桃院様、これにて。 ([天]第26話0:23:16)

b.仙桃院夫人，在下告辞了。

[29]a.ほんに何と心得ておる。 ([天]1話0:02:38)

b.还望三思。

[30]a.無断でペニシリンを持ち出すとは何事じゃ！ ([仁]第7話0:02:50)

b.究竟为何擅自将青霉素带出去。

[31]a.なぜじゃ？ ([篤]第23話0:14:27)

b.为何啊？

### 5.1.3 慣用表現の翻訳

現状では、下記例のように、多くの慣用表現の翻訳は翻訳者によってそれぞれ異なっており、統一性がないことが分かった。

[32]a.かたじけのうございます。 ([仁]第7話0:10:33)

b.多谢。

[33]a.かたじけない。 ([新]第34話0:13:51)

b.不胜感激。

[34]a.かたじけない。 ([義]第33話0:03:52)

b.多谢您的关心。

[35]a.滅相もごせんせん。 ([仁]第4話0:18:01)

b.不是这个意思。

[36]a.滅相もございませぬ。 ([大]第1話0:23:08)

b.绝无此意。

### 5.1.4 問題の改善策

上述したように、日本語から中国語への「疑似古語」の翻訳の現状については、誤訳や訳漏れが多く見られ、また不適切、不自然な訳も存在し、全体的に十分に良質な翻訳であるとは言い難い。根本的な改善策は、やはり翻訳者個人による日中両言語の「疑似古語」知識の習得であると言えるが、時代もののフィクション作品を一つ一つ見るには膨大な時間が必要とされる。また、中国在住の翻訳者は多くの日本語の原作を手に入れることも困難だと思われる。そこで、翻訳者のサポートとして、本論文で調査した作品より、日本語の

代表的な「疑似古語」の中国語対訳リストを作成した。このリストを参考にすれば、「疑似古語」の習得時間が短縮でき、翻訳品質の向上にも繋がるであろうと思われる。

★対訳リストについての説明

①「使用上の特徴」の欄では、まず【 】でその日本語「疑似古語」に相当する現代日本語を示す。その後に、使用する登場人物や使用場面などの使用上の特徴を提示する。

②「翻訳のポイント」の欄では、その日本語「疑似古語」に相当する現代中国語を【 】で示し、相当する中国語の「疑似古語」が存在する場合は〔 〕で示す。その後に、翻訳の仕方や注意すべき点について、右側の使用例を用いて説明する。

③「使用例&翻訳例」の欄では、本論文で扱っている翻訳作品の中に実際の使用例が見られた場合に、その使用例と実際の翻訳を示す。本来の翻訳は、未だ改善する余地があると判断される場合には、下記例のように、「⇒」印の後ろに更に執筆者が提案する翻訳文を参考として付け加える。

日：(浪人→浪人) 貴公、駿河の浪人か。(『風林火山』1話 0:18:54)

中：你是駿河的浪人吗？ ⇒ 阁下可是駿河的浪人？

本論文で扱っている翻訳作品から適切な使用例がなかった場合は、下記例のように、他の日本語作品からの使用例と執筆者が提案する翻訳文を「⇒」印の後ろに示す。また、その日本語「疑似古語」に相当する中国語の疑似古語が存在しない場合は、他の部分で古めかしさを出すように提案し、その部分を「甚是」のように波線で示す。

日：異なことを申す。(『水戸黄門第三部』15話 0:06:29)

中：⇒所言甚是 奇怪。



日本語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
相成る(あいなる)	動詞	【成る】主に畏まった場面で、ある年齢に達したこと、または新しい状況になったことを表わす時に用いる。下級階級に属する人物はほとんど使用しない。	【成为】場合によって訳し方が変わる。 ①のように、年齢を聞く場合は“年方”と訳し、年齢を答える場合、その人物が20歳以下の若者なら、②のように“年方～”と訳せるが、③のように、20歳以上の人物なら他の部分で古めかしさを出す。④のように、年齢を表す以外の場合は、“成为”またはそれに近い意味の現代語を用いて訳し、他の部分で古めかしさを出す。	①日:そなた、いくつに <u>相成った</u> ? (『天地人』26話 0:22:36) 中:你几岁了? ⇒你 <u>年方</u> 几何? ②日:14に <u>相成ります</u> 。(『義経』1話 0:18:57) 中:年过14。⇒我 <u>年方</u> 14。 ③日:生きておれば今年で481歳に <u>相なり</u> 申す。(『素敵な金縛り』1:05:48) 中:⇒ <u>若在下</u> 还活在世上, 今年就481岁了。 ④日:今日から一つ格上の御広座敷を務めることと <u>相成りました</u> 。(『大奥-男女逆転-』1:06:06) 中:⇒ <u>在下</u> 今日起升为上一等级的御广座敷了。
朝餉(あさげ)	名詞	【朝食・朝ご飯】「昼餉(ひるげ)」は昼食、「夕餉(ゆうげ)」は夕食である。	【早飯】〔早膳/午膳/晩膳・早饍・朝飯〕発話人物が所属する社会階級によって訳し方が変わる。皇族・貴族が自分の食事を指す時、または皇族・貴族に仕える使用人が主 <sup>あるじ</sup> の食事を指す場合は、①のように“早膳/午膳/晩膳”と訳す。皇族・貴族以外の場合は、“早饍・朝飯”と訳す。ただし②のように、吹替の場合は、視聴者が聞き取れない恐れがあるため、“早饍・朝飯”と訳さず、現代語の“早飯”と訳してもいい。	①日:せめて <u>お昼餉</u> などをご一緒に。(將軍の正室『篤姫(下)』p.216) 中:⇒至少留下来一起用 <u>午膳</u> 吧。 ②日:すぐ <u>朝げ</u> の支度を致します。(下級武家の女性『JIN-仁-』2話 0:07:00) 中:(字幕) 我这就去准备早饭。⇒ 我这就去准备 <u>早饍</u> 。 (吹替) 我这就去准备早饭。

日本語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
あちき	1人称	【私】主に遊女が用いる。「わちき」や「わっち」とも。	【我】〔小女子・奴家〕中国語の“小女子・奴家”は若い女性の自称詞であるため、遊女以外の若い女性登場人物(主に下級階層)の自称詞の中国訳としても使用できる。	①日:あちきがここへ売られてきたのは十の頃でござんした。 (『JIN-仁-』4話0:27:38) 中:我被卖到这里的时候还只有10岁。 ⇒小女子被卖到这里的时候还只有10岁。 ②日:源はん、 <u>わちき</u> ゃ、おまはんばかりが頼りでおざんす。(『吉原手引き草』p.37) 中:⇒源先生、 <u>奴家</u> 能依靠的人只有您啊。
あやつ	3人称	【あいつ】第三者をののしったり、あなどったりする時に用いる。	【那家伙・那小子】〔那厮〕日本語の「あやつ」は男性の登場人物も女性の登場人物も使用できるが、中国語の“那厮”は女性の登場人物はあまり用いないため、女性の登場人物は「あやつ」を用いる場合は、現代中国語の“那家伙”或いは“那小子”と訳したほうがいい。	日:されど、 <u>あやつ</u> め…(『天地人』26話0:11:54) 中:不过, <u>那小子</u> ... ⇒ 不过, <u>那厮</u> ...
ありんす	助動詞	【あります】「でありんす」の形で用いられることが多く、現代語の断定の助動詞「です」に相当する。主に遊女が用いる。否定形は「ありんせん」、過去形は「ありんした」、推量形は「ありんしょう」となる。	相当する中国語が存在しないため、古めかしさを出したい場合①と②のように、他の部分で工夫する。	①日:どんな病も治せるで <u>ありんす</u> か? (『JIN-仁-』4話0:10:33) 中:你什么病都能治好吗? ⇒ 您任何病 <u>皆</u> 能治好吗? ②日:わっちは生むつもりで <u>ありんす</u> 。(『さくらん』1:25:16) 中: <u>奴家</u> 打算把这个孩子生下来。
戦(いくさ)	名詞	【戦争・戦い】現代語でも用いるが、熟語の中や比喩的な使い方が多い。	【仗・战・战争】相当する中国語の疑似古語がないため、古めかしさを出したい場合、他の部分で工夫する。	①日:前田家が本気ならば、不本意だが、こちらも <u>戦</u> の支度をせねばなるまいなあ。(『利家とまつ』48話0:09:13) 中:前田家若是认真的, 家康家也只好无奈的 <u>备战</u> 了。

日本語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
				②日:戦が始まるぞ。(『功名が辻』35話0:16:24) 中:⇒即将开战。
何処(いずこ)	代名詞	【どこ】古い作品では、「いづく」と表記することもある。下級階級の人間はあまり用いない。	【哪里】〔何处〕	①日:利家様はいずこにございますかな。(『利家とまつ』4話0:21:40) 中:利家大人不知在何处? ②日:伝助はいずこじゃ。(『風林火山』1話0:22:50) 中:传助他在什么地方? ⇒ 传助在何处?
甚く(いたく)	副詞	【甚だしく・非常に】感心したり心配したりする気持ちについて用いられる。下級階級の人間はあまり用いない。	【很・非常】〔甚・甚是・甚为・大为〕 単音節語を修飾する時に“甚”を用い、 2音節語を修飾する時に“甚是”または“甚为”を用いる。	①日:そちらの牛若というわらべをいたく可愛がっておいてとか。(『義経』2話0:33:02) 中:您不是很宠她的儿子牛若吗。 ⇒ 您不是甚为宠爱她的儿子牛若吗? ②日:姫君さま、いたくお疲れではございませぬか? (『篤姫(上)』p.152) 中:⇒公主殿下, 是否甚累?
異な	連体	【変な・妙な】現代語では、主に書き言葉として、または「縁は異なもの味なもの」のようなことわざで用いられる。	【怪・奇怪・离奇】古めかしさを出す場合は、他の部分で工夫する。	日:異なことを申す。(『水戸黄門第3部』15話0:06:29) 中:⇒所言甚是奇怪。
うぬ	2人称	【きさま・てめえ】相手をののしったりする時にもちいる。複数形は「うぬら」	【你小子】〔汝・尔〕複数形の翻訳は“汝等”“尔等”“你等”などを用いる。	日:うぬは一体何といたすつもりじゃ?(『山風短編集(1)くノ一紅騎兵』p.16) 中:汝到底想做什么啊?
おじゃる	助動詞	【ある・いる】主に「でおじゃる」の形で文末に現われ、現代語の断定	相当する中国語が存在しない。古めかしさを出したい場合は、他の部分で工夫す	①日:だまりや!嘘を言うなでおじゃるっ!(『織田信奈の野望3』p.50)

日本語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
		の助動詞「です」に相当する。主に公家の登場人物が用いるが、近年の作品における使用例が減った。	る。	中:住口! <u>休得胡言乱语!</u> ②日:みやびの世界も、楽しいもので <u>おじゃる</u> ぞ。(『陰陽師Ⅱ』0:23:19) 中:⇒宫里优雅的生活也是 <u>甚</u> 好的。
おっ母さん(おっかさ ん)	呼称詞	【お母さん】「おっかちゃん」とも。主に身分の低い子供登場人物が自分の母親を呼ぶ時、または母親を指す時に用いる。	【妈妈】〔娘・娘亲〕	①日: <u>おっかさん</u> が作ってくれた水で治ったから。(『JIN-仁-』3話 0:14:49) 中:喝了 <u>娘</u> 给我配的水后, 好了。 ②日: <u>おっかさん</u> が言ってた。(『てれすこ』0:07:49) 中:⇒ <u>我娘</u> 说的。
女子(おなご)	名詞	【女・女子(じょし)・女性】現代日本語では、多くは東北地方や関西で使用されるが、「疑似古語」としての場合は、そのような地域的傾向が見られない。	【女人・女性】〔女子〕	①日:魚の骨まで取ってくれる <u>女子</u> はめったにおらぬと言って。 (『利家とまつ』48話 0:10:59) 中:他说很少有 <u>女人</u> 愿意为男人挑鱼刺。⇒ 他说世间少有愿为男人挑鱼刺的 <u>女子</u> 。 ②日:あのように心を軽うしてくれた <u>女子</u> は…([仁]第8話 0:24:56) 中:遇见那样抚慰我心灵的 <u>女子</u> …
お主(おぬし)	2人称	【あなた】主に同等または目下の者に対して用いられる。男女ともに使用できる。話し手と聞き手の関係によって、尊大感を伴う場合がある。複数形は「お主ら」、「お主たち」。	【你】〔汝・尔〕複数形は“你等”“汝等”“尔等”。“おぬし”は日本語の代表的な疑似古語として、様々な場面で用いられている。翻訳する際に、話し手と聞き手の関係や、会話の内容などを考えて、“汝”や“尔”と訳すか、現代語の“你”と訳すかを判断する。例えば①は、	①日:(陰陽師頭領→自分の敵)わしか、 <u>おぬし</u> か。(『陰陽師Ⅰ』1:45:46) 中:⇒是老夫还是 <u>汝</u> ? ②日:(医師→同僚の医師) <u>おぬし</u> は一見たら百言うからのう。 (『JIN- 仁-2話 00:12:31) 中:是 <u>你</u> 吹牛吹过头了吧。⇒ <u>你这家伙</u> 吹牛吹过头了吧。

日本語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
			天皇の地位に取って代わろうと企んでいる発話人物が、それを阻止する主人公に対して発した台詞で、相手への軽蔑を表すために“汝”と訳するのが適切である。一方、②の話し手と聞き手は同等な関係であり、話し手が相手の癖を指摘しているが、軽蔑のニュアンスが含まれていないため、“汝”や“尔”以外の訳語を使ったほうがよい。③は相手を褒める場面であるため、やはり“汝”や“尔”と訳さないほうがよい。④は軽蔑のニュアンスも含まれておらず、なお二人は対等な関係にある武士であるため、“閣下”を用いて訳することができる。	③日:男と認められれば、上杉家中ではもはや <u>おぬし</u> しかおらんようじゃ! (『天地人』43話 0:11:25) 中:看来上杉家臣中称得上爷们的就 <u>你</u> 一个了。 ④日:(下級武士⇒初対面の下級武士) <u>おぬし</u> 、かずかれておるのだ。(『大奥逆転』0:26:28) 中:⇒他们在戏弄 <u>阁下</u> 呢。
居る(おる)	動詞	【いる】やや尊大感を伴う。男女ともに使用できる。「おります」と「おらず」には古風な感じがなく、「～まする」と組み合わせて「おりまする」という形であれば、古風な雰囲気が出る。現代語では方言的な響きを帯びるが、「疑似古語」としては地域的傾向が見られない。	【在・有】古めかしさを出したい場合は、①と②のように、他の部分で工夫する。	①日:そこに <u>おる</u> のは誰か!? (『JIN-仁-』1話 0:24:32) 中:谁在那边⇒ <u>在那儿</u> 的是何人! ? ②日:裏切り者の長二郎はここに <u>おる</u> か(『巷説百物語』p.241) 中:⇒叛徒长二郎可 <u>在此处</u> ?

日本語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
おる	補助動詞	【いる】「…てー」の形で動作・状態の継続をあらわす。「居る」の項目を参照する。	相当する中国語が存在しない。古めかしさを出したい場合は、①と②のように、他の部分で工夫する。	①日:ほんに何と心得て <u>おる</u> 。(『天地人』1話0:02:38) 中:还 <u>望</u> 三思。 ②日:そのくらいは存じて <u>おる</u> 。(『篤姫』23話0:33:03) 中:此事 <u>在下</u> 自然知晓。
母様(かかさま)	呼称詞	【お母さん】主に身分の比較的高い若い女の子が自分の母親を呼ぶ時に用いる。	【妈妈】〔娘亲・娘〕①の元の翻訳のようにな「妈妈」と訳さないように注意する。	①日:お松は <u>かかさま</u> に会いたいのか?(『天地人』31話0:18:06) 中:阿松你想见 <u>妈妈</u> 吗?⇒阿松你想见你 <u>娘亲</u> 吗? ②日: <u>かかさま</u> 、嫌です。(『功名が辻』1話0:25:40) 中:⇒ <u>娘亲</u> ,我不要啊。
かたじけない	形容詞	【ありがたい】身に余る好意や恩恵に浴し感謝に堪えない意を表わす。主に武家の人間が用いる。男性の登場人物が用いることが多いが、武家の女性が用いることもある。	【非常感谢】〔不胜感激・感激不尽〕 ①のように、他の中国語疑似古語を用いて古めかしさを出すのも一つの方法である。	①日: <u>かたじけな</u> うございます。(『JIN-仁-』7話0:10:33) 中:多谢。⇒ <u>不胜感激</u> 。/ <u>在下</u> 多谢了。 ②日:それは <u>かたじけな</u> い。(『大奥逆転』0:26:08) 中:⇒那真是 <u>感激不尽</u> 。 ③日:お気遣い、 <u>かたじけな</u> い。(『新撰組!』第5話0:15:07) 中:请不要客气。⇒ 劳您费心了。在下 <u>感激不尽</u> 。
合点(がってん)	名詞	【承知】「がてん」とも読むが、「疑似古語」として用いる時、ほとんど「がってん」と読む。主に武士が用いることが多いが、大名のような地位の高い武士はあまり用いない。「早合点」という組み合わせで用いることもある。	【认同・知道・明白】古めかしさを出したい場合は、他の部分で工夫する。	①日:私の <u>早合点</u> でした。(『新撰組!』4話0:19:36) 中:是我的 <u>失误</u> 。⇒ 是 <u>因我的贸然断定</u> 引起的误会。 ②日:九郎には <u>合点</u> が参りませぬ。(『源義経第一部』1:57:08) 中:⇒ <u>九郎</u> 我无法 <u>认同</u> 。
斯様(かよう)	形容動詞	【このよう】ひらがなで用いることが多い。主に教養のある登場人物や	【这样】〔如此・此等・这等〕	①日: <u>かよう</u> な狼藉を許すなど、姑として至らぬ何よりの証! (『篤姫』35話0:11:09)

日本語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
		上級階級に属する登場人物が用いる。		中:如此不明礼数, 恣意妄为, 这正是你这个做婆婆的管教不力的证明。 ②日:かようなところに軍艦奉行勝様が御自らおいでくださるとは恐悦至極でございます。(『憑神』 0:49:50) 中:⇒军舰奉行胜大人亲自来到此等偏僻之所, 在下不胜荣幸。
問者(かんじゃ)	名詞	【スパイ】	【奸細】〔細作〕	日:それがし、 <u>問者</u> ではござらん。(『風林火山』 1話 0:13:10) 中:在下并非 <u>奸細</u> 。⇒ 在下并非 <u>細作</u> 。
貴公(きこう)	2人称	【あなた】主に武家男性の登場人物が対等または目下の武士に対して用いる。「貴殿」に比べ尊敬度が低い。	【你】〔閣下・足下〕ほぼすべての場面において、“閣下”または“足下”を用いて訳すことができる。	①日:(浪人→浪人) <u>貴公</u> 、駿河の浪人か。(『風林火山』1話 0:18:54) 中: <u>你</u> 是駿河的浪人吗? ⇒ <u>閣下</u> 可是駿河的浪人? ②日:(大名→家臣) <u>貴公</u> は何もせずともよいぞ!(『利家とまつ』 36話 0:31:54) 中: <u>你</u> 什么也不必做。⇒ <u>閣下</u> 什么也不必做。
貴殿(きでん)	2人称	【あなた】主に身分の比較的高い武家男性が対等または目上の人間に対して用いる。「貴公」より尊敬の意が少し高い。	【你】〔閣下・足下・大人〕	日: <u>貴殿</u> の名は? (『天地人』 5話 0:18:59) 中: <u>閣下</u> 尊姓大名?
御意(ぎょい)	名詞	【了解】天皇、将軍や大名などの身分がかなり高い人に対して、同意・肯定を示す返事の言葉である。単独に使用されることが多いが、②のように、「御意にござります」の形で用いられることもできる。	【知道了】〔遵旨・遵命〕①のように、天皇や将軍の命令に対して返事する場面は“遵旨”と訳し、それ以外の場面は“遵命”と訳するのが適切である。	①日:(大臣→天皇) <u>御意</u> ! (『義経』 33話 0:13:46) 中:是啊。⇒ 臣 <u>遵旨</u> 。 ②日:(僧侶→大名) <u>御意</u> にござります。(『柳生忍法帖(1)』 p.13) 中:⇒老僧 <u>遵命</u> !

日本語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
金子(きんす)	名詞	【お金】身分、地位、教養など関係なく、ほぼすべての登場人物が使用できる。	【钱】〔銀兩〕中国語の同形語“金子”と間違えないように注意する。	日:金子は気にせずともよい。(『篤姫』33話 0:39:54) 中:钱的事就不必去操心了。⇒ 花多少銀兩都无妨。
曲者(くせもの)	名詞	【怪しい者】疑似古語としては主に盗賊などの怪しい者を指す時に用いられる。現代語では主にひと癖があつて、普通とは違う人物を指す時に用いる。	【坏人】〔可疑之人・宵小〕“宵小”を知っている中国人は多くないため、テレビドラマなどのような一般大衆向けの作品では、“可疑之人”と訳したほうがいい。	①日:何奴?曲者!(『JIN-仁-』6話 0:38:58) 中:什么人?有何居心?⇒什么人?有可疑之人! ②日:曲者はどうした!(『里見八犬伝』0:34:07) 中:⇒可疑之人怎么了?
げす	助動詞	主に「でげす」の形で用い、現代語の「です」に相当する。身分の低い町人が用いる。	相当する中国語が存在しない。古めかしさを出したい場合は、他の部分で工夫する。	日:野風花魁よろしいでげすか? (『JIN-仁-』4話 0:13:40) 中:野风花魁, 可以进来吗? ⇒ 野风花魁, 小的可以进来吗?
ござります	助動詞	【ある・いる】「ござる」の丁寧形。「〜てござります」、「〜でござります」、「〜にござります」の形で用いられることが多い。主に対等または目上の人間に対して用いる。教養のない、身分の低い町人などはあまり用いない。	相当する中国語が存在しない。古めかしさを出したい場合は、他の部分で工夫する。	①日:姫、ご父君のご辞世にござります。(『風林火山』16話 0:23:36) 中:公主, 此乃您父君的辞世之辞。 ②日:それがし、幸せでござります。(『大奥(男女逆転)』0:41:10) 中:⇒在下觉得甚为幸福。
ござる	動詞/助動詞	【ある・いる】「〜でござる」、「〜にござる」の形で用いられることが多い。主に武士または忍者が用いる。	【有・在】①のように動詞として用いられる場合は、“有”と訳することができるが、②と③のように、助動詞として用いられる場合は、他の部分で古めかしさを	①日:そんな中、一つ考えたことがござったなあ。(『篤姫』5話 0:09:25) 中:对于此事, 在下曾经想过。⇒ 关于此事, 在下有一想法。



日本語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
			出す工夫が必要である。	②日:山田純庵殿でござるか? (『JIN - 仁一』7話 00:19:06) 中:请问是山田纯庵大人吗? ③日:はい、お久し振り <u>でござる</u> 。(『里見八犬伝(1983年映画)』2:08:24) 中:⇒是啊, <u>许久</u> 未见了。
ござんす	助動詞	【ある・いる】「～でござんす」の形で用いることが多い。主に遊女などの江戸町人のキャラクターが丁寧語として用いる。過去形は「ござんした」、推量形は「ござんしょう」となる。	相当する中国語が存在しない。古めかしさを出したい場合は、他の部分で工夫する。	①日:ありがとう <u>ござんす</u> 、橋様。(『JIN - 仁一』7話 0:20:38) 中:谢谢你, 橋大人。⇒ <u>奴家</u> 多谢 <u>橋大人</u> 。 ②日:あつしはな、相撲に詳しい <u>でござんす</u> が。(『憑神』0:40:16) 中:⇒ <u>小人</u> 对相扑 <u>甚为</u> 精通。 ③日:ご機嫌 <u>でござんす</u> よ。(『吉原炎上』0:54:43) 中:⇒ <u>甚是</u> 高兴啊。
此度(こたび)	名詞	【今回・今度】「このたび」と読む場合は「疑似古語」ではない。主に上級階級に属する登場人物が用いる。	【这次・这回】[此番・此次] ほぼすべての場面において、“此番”または“此次”を用いて訳すことができる。	①日:清盛は <u>こたび</u> いかんなあ。(『義経』18話 0:15:47) 中:清盛 <u>这次</u> 不行了。⇒ 清盛 <u>此番</u> 怕是不行了。 ②日:その上、 <u>こたび</u> の婚儀じゃ。(『天地人』43話 0:09:36) 中:还有 <u>这回</u> 的婚事。⇒还有 <u>此次</u> 的婚事。 ③日: <u>こたび</u> は若殿の初陣。(『武田信玄』1話 0:09:58) 中:⇒ <u>此番</u> 乃是公子初次上阵。
こなた	2人称	【あなた】主に上級階級に属する登場人物が自分よりやや目下の人間に対して用いる。「そち」より尊敬度が高い。意味は「そなた」とほぼ同じだが、使用頻度は低い。	【你・您】使用例のように、相手の身分に応じて、適切な中国語の「疑似古語」の2人称を用いて訳すか、台詞の他の部分で古めかしさを出すか。	日:(御台所→地方の藩主) <u>こなた</u> は平素からこのような病いをお持ちか。(『篤姫(上)』p.360) 中:⇒ <u>领主大人</u> 是否平素里就常犯 <u>此</u> 病呢?
こやつ	3人称	【こいつ】近くの人をののしった	【这家伙】[这厮・此人]	日: <u>こやつ</u> が京で商いを営んでおりました時代の本名は、松波庄

日本語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
		り、ぞんざいに言ったりする場面で用いられる。		九郎！（『織田信奈の野望 3』 p.36） 中⇒ <u>这厮</u> 以前在京里做买卖时候的本名叫松波庄九郎！
今宵（こよい）	名詞	【今夜】現代語の書き言葉では大きなイベントや特別な事がある夜を指す時に用いるが、「疑似古語」としての「今宵」は普通の日の夜も指すことができる。主に上級階級に属する登場人物が用いる。	【今晚】〔今夜〕中国語の同形語“今宵”は古めかしい感じがあまりなく、改まった場面で、大きなイベントや特別なことある夜を表す時に用いる。または熟語、慣用句の中で用いられる。“今夜”と訳したほうが日本語本来のニュアンスに近い。	日:今宵、伺いたいのだ。（『義経』1話0:50:42） 中:今晚我想来你这。⇒ <u>今夜</u> 我想来此处。
これしき	名詞	【これくらい】「なんのこれしき」という一つの慣用表現としても用いられる。主に武家の人間が使用する。	【这种】【此等・这等・区区】「なんのこれしき」を訳す時、②のように、前後の文脈によって“此等”の後に名詞などを補ったほうがいい。	①日: <u>これしき</u> のことで、菊本も大げさな。（『篤姫』 p.88） 中⇒ <u>区区</u> 小事而已，菊本也太小题大做了。 ②日: <u>なんのこれしき</u> 。名張者には当たり前のこと。（『水戸黄門 第3部』15話0:01:01） 中⇒ <u>此等雕虫小技</u> ，对名张的人来说再普通不过了。
左様（さよう）	形容動詞	【そのよう】「かよう」とほぼ同じである。主に上級階級に属する登場人物が用いるが、町人が目上の人間に対して丁寧に話す時にも使用できる。	【这样・这种】〔如此・此等・此〕	①日: <u>さよう</u> に良い人ですか。（『風林火山』16話0:03:49） 中:当真是 <u>如此</u> 一个好人吗？ ②日: <u>左様</u> なご心配にや及びませんよ。（『吉原手引き草』 p.173） 中⇒ <u>此等</u> 担心是没有必要的。
左様（さよう）	感嘆詞	【そう】相手の話を肯定する時に用いられる。「さようか」は現代語の「そうか」に相当する。主に上級階級に属する登場人物が使用するが、	【是・是这样】〔正是・如您所言〕②のような疑問文の場合は、“正是・如您所言”は使用できない。	①日: <u>さよう</u> にござります。（『篤姫』5話0:35:37） 中: <u>正是</u> 。 ②日: <u>さようか</u> 。（『義経』1話0:50:16） 中: <u>是吗</u> ？

日本語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
		商売人が目上の人間(客など)に対して、丁寧語として用いることもできる。		
して	接続詞	【そして・それで】前の事柄を受けて、話題を変えたり、相手に話を促したりするときに用いる。	【那・那么】古めかしさを出したい場合は、他の部分で工夫する。	日:して、これは?(『義経』3話 0:28:23) 中:这个是。。。⇒ <u>那是何物</u> 啊?
じゃ	助動詞	【だ】断定の助動詞。「老人語」の語尾としても用いられるが、「疑似古語」としての場合は、老若男女問わず使用する傾向がある。やや尊大のニュアンスが伴う。	相当する中国語が存在しない。古めかしさを出したい場合は、他の部分で工夫する。	①日:無断でペニシリンを持ち出すとは何事 <u>じゃ</u> ! ([仁]第7話 0:02:50) 中:究竟 <u>为何</u> 擅自将青霉素带出去。 ②日:かまわぬ、何 <u>じゃ</u> ? (『天地人』43話 0:08:17) 中:没事。怎么? ⇒ 无妨。是 <u>何</u> 事?
心の臓 (しんのぞう)	名詞	【心臓】	【心脏】古めかしさを出したい場合は、他の部分で工夫する。	日:元々、 <u>心の臓</u> が悪かっただ。(『利家とまつ』6話 0:30:14) 中:她原本心脏就不好。⇒ 她原本 <u>心脏</u> 就不 <u>甚</u> 好。
拙者(せっしゃ)	1人称	【私・俺】武士または忍者が自分を謙遜するという自称詞である。特に名乗る場面でよく用いられる。「それがし」と意味用法が似ているが、「それがし」に比べ認知度が高いため、漫画・アニメなどの若年層向けの作品でよく用いられる。	【我】〔在下・鄙人〕ほとんどの場面において、“在下”と訳すことができる。	①日:恐れながら、 <u>拙者</u> 、一癖ある身できっとお役に立つと存じます。(『篤姫』4話 0:24:25) 中: <u>在下</u> 乃是性情暴躁之人、想必一定能助您一臂之力。 ②日: <u>拙者</u> がお相手つかまつる。(『天地人』43話 0:19:27) 中:由 <u>在下</u> 代来见你。
ぞ	助詞	【ぞ】「疑似古語」としての「ぞ」は性別、年齢、身分関係なく用いられる。	相当する中国語が存在しない。古めかしさを出したい場合は、他の部分で工夫する。	①日:(将軍の母)聞きました <u>ぞ</u> ! ([篤]第35話 0:10:40) 中: <u>老身</u> 可全都听说了哦。

日本語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
		れる。名詞の後に付けて強調の意を表すという使い方は特に古風である。	る。例えば、①と②のように、発話者の身分に合わせて、適切な自称詞を付け加える。③のように、現代語の“你”と訳し、他の部分で中国語疑似古語を用いて古めかしさを出す。	②日:(天皇) うん、見よう <u>ぞ</u> 。(『義経』3話 0:28:35) 中:拿来给 <u>朕</u> 看看。 ③日:(武士) おぬしこそ何者 <u>ぞ</u> ? (『炎立つ壺』 p.51) 中:⇒倒是你, 是 <u>何人也</u> ?
そこもと	2人称	【あなた】主に武家の男性が同輩または目下の武士に対して用いる。	【你】〔足下・閣下〕例のように、現代語の“你”と訳し、他の部分で中国語疑似古語を用いて古めかしさを出す方法もある。	日: <u>そこもと</u> は平治の戦のおりの源氏の統領、源義朝のお子にごさる。(『義経』2話 0:37:25) 中: <u>你乃</u> 平治之战时源氏之统帅源义朝公之子。
そち	2人称	【あなた】主に身分の高い人間が目下の人間に対して用いる。「そなた」と「こなた」よりやや敬意が低く、「おぬし」より敬意が少し高い。複数形は「そちたち」。男性の登場人物が使用する傾向がある。	【你】〔尔〕①のように、相手は目下の男性なら、中国語の疑似古語“尔”を用いて訳すことができるが、②のように、相手は女性である場合は、“你”と訳して、他の部分で古めかしさを出すほうがいい。	①日:(大名→家臣) 伝兵衛、 <u>そち</u> の命、このわしに預けてくれるか。(『風林火山』28話 0:18:00) 中:传兵卫, <u>你的</u> 性命愿意交付给我吗? ⇒传兵卫, <u>尔</u> 的性命愿意托付给 <u>老夫</u> 吗? ②日:(将軍→乳母) 余は <u>そち</u> のことを乳母などと考えたことは一度もないぞ!! (『春日の局(上巻)』 p.7) 中:⇒ <u>孤</u> 从未把 <u>你</u> 当奶娘看。
そなた	2人称	【あなた】主に身分の高い人間が目下の人間に対して用いる。「そち」「そのほう」「おぬし」より敬意と親近感が高い。男女ともによく用いる。複数形は「そなたたち」	【你】例のように、他の部分で中国語疑似古語を用いて古めかしさを出す。	①日:(大臣→男の子) <u>そなた</u> 、歳は?(『義経』1話 0:18:55) 中:岁数为 <u>何</u> ? ②日:(大名の妻→大名家臣の妻) そのわびしさ、心もとなさ、 <u>そなた</u> には分からぬか!?(『天地人』30話 0:33:41) 中:这种孤寂, 这种凄凉, <u>你</u> 不理解吗? ⇒ <u>此种</u> 孤寂凄凉之感, 难道 <u>你</u> 无法理解吗? ③日: <u>そなた</u> 、歌は誰に習うた?(『風林火山』28話 0:00:49)



日本語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
それがし	1人称	【私】武士が自分を謙遜して言う自称詞である。「拙者」と意味用法が似ているが、「拙者」に比べ認知度が低いので、漫画・アニメなどの若年層向けの作品では用いられない。	【我】〔在下〕「拙者」と同じく、ほとんどの場面において、“在下”と訳す。	①日:それがしは陥れられたでござる。(『義経』4話 0:25:57) 中:我是被冤枉的。⇒ 在下是被冤枉的。 ②日:それがしはただのお見舞いにござる。(『風林火山』35話 0:18:06) 中:在下仅仅只是来探病罢了。
大事無い(だいじない)	形容詞	【大丈夫】「心配することはない」、「さしつかえない」という意味で、武士が用いることが多い。	【没关系・没事】〔无妨〕	日:大事無い。(『利家とまつ』4話 0:39:09) 中:没关系。⇒ 无妨。
奉る(たてまつる)	助動詞	【差し上げる】動詞の連用形に付いて用いる。「～奉りましてござります」の形で用いられることが多い。目下の人間が天皇・将軍・大名などの身分の高い人物に対して高い敬意を表すのに用いる。	相当する中国語が存在しない。古めかしさを出したい場合は、①と②のように、他の部分で工夫する。	①日:慎みて、新年のお喜びを申し上げ奉ります。(『利家とまつ』48話 0:01:23) 中:恭贺新春大喜。⇒ 臣恭祝关白大人新春大喜。 ②日:このまま菊千代君のお体を伺い奉るように。(『篤姫(上)』p.361) 中:⇒你继续在此照看菊千代公子?
戯け(たわけ)	名詞	【バカ】「戯け者」という形で用いられることもある。	【笨】〔愚蠢〕「戯け者」という形で用いられる場合は、②のように、“蠢货”または“蠢才”と訳す。	①日:今の秀吉と真正面からぶつかった戦をするのはたわけというのだ。(『利家とまつ』36話 0:01:23) 中:只有不识时务的人才会现在和秀吉正面交锋。⇒ 只有愚蠢之人才会现在和秀吉正面交锋。 ②日:このたわけ者!(『憑神』0:38:27) 中:⇒你这个蠢货!

日本語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
父上	呼称詞	【お父さん】主に身分の高い登場人物が自分の父親を呼ぶ時に用いる。町人などの身分の低く、教養のない登場人物はあまり使用しない。相手の父親を指す時に、「御父上」という形で用いる。「母上」「兄上」「姉上」も疑似古語である。	【爸爸】〔父亲・父亲大人〕“爸爸”は現代語のニュアンスが強すぎるため、時代もののフィクション作品では、“爸爸”の使用を避けたほうがいい。「母上」と「兄上」はそれぞれ中国語の疑似古語“母亲大人”と“兄长”を用いて対応できるが、「姉上」は対応する疑似古語がなく、現代語の“姐姐”と訳し、他の部分で古めかしさを出す。	①日:あの方、 <u>父上</u> 、やはり嫁をもらうのはもう少し後にしたいのですが…(『新撰組!』1話 0:22:51) 中:那个, <u>爸爸</u> , 找老婆的事能先搁一搁吗? ⇒那个, <u>父亲</u> , 成亲一事能先搁一搁吗? ②日: <u>姉上</u> のお婿どののはどのようなお方なのですか。(『天地人』43話 0:07:02) 中: <u>姐夫</u> 是个什么样的人啊? ⇒ <u>姐夫</u> 是 <u>何等</u> 样的人啊?
重畳(ちょうじょう)	名詞	【非常に良い】「疑似古語」としては、主に非常に満足する様子を表す時に用いる。「幾重にも重なる」という意味での使用は「疑似古語」ではない。主に上級階級に属する登場人物が用いる。	【非常好】〔极好・甚好〕	①日:それは何より <u>重畳</u> 。(『篤姫(上)』p.255) 中:⇒那真是 <u>极好</u> 了。 ②日:それは <u>重畳</u> 。(『独眼竜政宗』5話 0:03:06) 中:⇒ <u>甚好甚好</u> 。
朕(ちん)	1人称	【私】主に天皇が目下の人間に対して用いる。改まった場面での使用が多い。	【朕】	日: <u>朕</u> を恨むものなどおらん。(『陰陽師 I』0:59:02) 中:⇒世上无人怨恨 <u>朕</u> 。
仕る(つかまつる)	助動詞	【致す】動詞の連用形に付いて用いる。「致す」より敬意が高い。武家と公家の人間が天皇・将軍・大名などに対して用いる。	相当する中国語が存在しない。古めかしさを出したい場合は、①と②のように、他の部分で工夫する。	①日:承知 <u>つかまつり</u> ましてございます。(『篤姫』35話 0:10:21) 中: <u>奴婢</u> 遵命。 ②日:暇乞いに、参上 <u>つかまつり</u> ましてござりまする。(『天地人』26話 0:19:44) 中: <u>在下一行</u> , 特来道别。

日本語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
手前（てまえ）	1 人称	【私】主に身分の比較的低い武士が用いるが、江戸の商人や奉行所の役人が用いることもある。	【我】〔在下・鄙人〕武士以外の登場人物が用いる場合は、②のように“鄙人”と訳しても良い。	①日:(武士)手前がそう望んだのではなく、ぜひお目通りしたいとしつこくせがまれ。(『風林火山』6話0:34:19) 中:在下并不希望如此,但却被他纠缠不休的让在下引见。 ②日:(呉服屋の主人)手前、稻荷…じゃない。い、伊勢屋と申します。(『憑神』0:09:13) 中:⇒鄙人名為稻荷……不,叫伊、伊勢屋。
当節(とうせつ)	名詞	【この頃】	【現在】〔現今・如今〕	日:当節は、どんなご用件でおいでになりました。(『大奥 - 第一章 -』1話0:29:26) 中:这次驾临却是所为何事啊? ⇒ 如今驾临却是所为何事啊?
何ゆえ(なにゆえ)	副詞	【なぜ】主に上級階級に属する登場人物が用いる。	【为什么】〔为何・何故〕	①日:何ゆえあんなに良い娘が犬や猿に夢中なのだ。(『利家とまつ』6話0:12:59) 中:为何两个那么好的女子会对阿犬和小猴如此忠贞? ②日:この貝に絵がないのは何ゆえじゃ。(『義経』33話0:12:24) 中:为何这贝壳上没有图画? ③日:それはまた何ゆえ?(『篤姫』5話0:35:58) 中:这又是为何? /这又是何故?
なれど(も)	接続詞	【けれど(も)】主に上級階級に属する登場人物が用いる。	【但是】〔然而・然〕②のように、他の部分で古めかしさを出すという訳し方を用いるのも良い。	①日:なれど、退くわけにはゆかん!(『風林火山』28話0:08:15) 中:然而却也不能撤军。 ②日:なれど、もう心配はいらん。(『里見八犬伝』2:08:20) 中:⇒但是,现已不必担心。
汝(なんじ)	2 人称	【おまえ】身分の高い登場人物が自分よりかなり目下の人間に対して用いる。多くは、①のように、大名	【你】〔汝〕複数形なら「汝等」「尔等」と訳す。	①日:(光圀公→悪人)来島、汝の罪、万死に値するぞ!(『水戸黄門第三部』15話 中:⇒来島,汝之恶行,罪该万死。



日本語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
		などの偉い人が悪人を戒める場面や、または②のように、神が人間に対してお告げを下す場面で用いられる。		②日:(神様→八犬士) <u>汝ら</u> は光の使者。この弓矢を静姫に与えよ (『里見八犬伝』1:44:27) 中:⇒ <u>汝等</u> 乃光之使者。请将这把弓矢带与静公主。
盗人(ぬすっと)	名詞	【泥棒】現代語では主に「盗人猛々しい」のような慣用句で用いられる。	【小偷・賊】「賊人・毛賊」	①日: <u>盗っ人</u> に遭ったようなもんや。(『天地人(中)』p.207) 中:⇒就如遭到 <u>賊人</u> 一般。 ②日:俺の感だがな、 <u>盗っ人</u> だ。(『鬼平犯科帳第5シリーズ』1話0:05:30) 中:⇒我的感觉告诉我应该是 <u>毛贼</u> 。
のう	終助詞	【ねえ】文末で感動・詠嘆・問いかけを表す。男女ともに使う。主に身分や社会地位の高い登場人物が用いる。	【啊】古めかしさを出したい場合は、①と②のように、他の部分で工夫する。	①日:男の子であればよいが <u>のう</u> 。(『源氏物語千年』0:05:54) 中:⇒ <u>若</u> 是个男孩子就太好了。 ②日:良晴どのよ。そなた、まさに織田家中の“智慧第一”じゃ <u>のう</u> !(『織田信奈の野望2』p.78) 中:⇒良晴大人、您 <u>实乃</u> 织田家中的“智多星”啊!
のう	間投助詞	【ねえ】文節末に付いて、相手に言い聞かせるような気持を表す。	【啊・呀】古めかしさを出したい場合は、他の部分で工夫する。	日:この男は医者で <u>のう</u> 、南方仁という今江戸で評判の名医じゃ。 (『JIN-仁-』4話0:13:10) 中:这位叫南方仁，现在是江戸最炙手可热的名医。 ⇒这位 <u>大人啊</u> ，叫南方仁。是 <u>如今</u> 江戸最炙手可热的名医。

日本語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
ははあ	感嘆詞	【はい】「ははっ」と表示すること も。主に家臣が天皇・将軍・大名な どの目上の人間に対してのかしこ まった応答に用いる。	【是】〔喏・遵旨・遵命・愧不敢当〕相 手の身分や前後の文脈の内容によって訳 語を変える。例えば①と②のように、大 名が目下の人間に命令を下す場面では、 “遵命”と訳す。③のように、家臣に対 してねぎらいの言葉を掛ける場面では、 家臣の恐縮する気持を表すために、“愧 不敢当”と訳したほうが適切である。	①日:(大名→大奥の女中)その方も人の情けがあるならば、この 件を捨て置くように。(『篤姫』23話0:33:16) (大奥の女中)ははあ。 中:倘若您也有慈悲心的话,此事还请就勿再提了。 是。⇒ 奴婢遵命。 ②日:(大名)力を合わせて、薩摩と日本国のために、尽くしてま いろうぞ。 (家臣)ははあ。(『篤姫』4話0:23:15) 中:齐心协力,为了萨摩和日本国克尽职守吧。 是。⇒ 遵命。 ③日:(関白)出迎え、大儀であった!(『利家とまつ』36話 0:36:30) (家臣)ははあ! 中:你特地来迎接,辛苦了。 不敢当。⇒ 愧不敢当。
腑分け(ふわけ)	名詞	【解剖】	【解剖】〔开膛〕	日:死んだら腑分けをする腹じゃ。(『JIN - 仁 - 』4話00:16:29) 中:他心里算计着死后给她开膛呢。
まこと	名詞	【本当】「まことに」の形で副詞と して用いることもできる。	【真正・属实・实在・亲】〔当真〕“当 真”は古めかしいが、文の内容によって、 “当真”を使用できないこともある。そ の場合は、①～⑤のように、文の内容に 応じて、適切な現代語訳語を選び、他の 部分で古めかしさを出したほうがいい。	①日:それはまことな話か。(『篤姫』35話0:06:16) 中:此事当真? ②日:まことの勝利とは言えん!(『義経』1話0:21:00) 中:还称不上真正的胜利。 ③日:左分利殿、今の話はまことでございますか。(『JIN - 仁 - 』 1話01:29:37)

日本語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
				<p>中:佐分利大人您刚刚说的<u>当真</u>吗? ⇒ 佐分利大人, 你<u>方才</u>所言<u>属实</u>吗?</p> <p>④日:<u>まこと</u>に申し訳ないが。(『新撰組!』0:24:51)</p> <p>中:对不起。⇒ <u>实在</u>抱歉。</p> <p>⑤日:この竹松、政重様を<u>まこと</u>の兄上と頼るつもりでございます。(『天地人』43話0:07:21)</p> <p>中:竹松一定将政重大人当成<u>亲</u>哥哥对待。</p>
まし	助動詞	【ませ】「いらっしゃる」「くださる」「なさる」などの尊敬語に付いて用いられる。	相当する中国語が存在しない。古めかしさを出したい場合は、他の部分で工夫する。	<p>日:先ずはあたしの身の上を聞いてください<u>まし</u>。(『巷説百物語』p.164)</p> <p>中:⇒请先听<u>小女子</u>说说自己的身世吧。</p>
まする	助動詞	【ます】「ます」より謙譲度が高い。	相当する中国語が存在しない。古めかしさを出したい場合は、他の部分で工夫する。	<p>①日:殿のお申し付けの通り、上洛致し<u>まする</u>。(『天地人』30話0:37:01)</p> <p>中:谨遵主公命令上京。⇒<u>妾身</u>谨遵主公命令上京。</p> <p>③日:万事、宗盛に命じており<u>まする</u>。(『義経』18話0:14:55)</p> <p>中:<u>诸事</u> . . . 都交由宗盛处理。</p>
麻呂・麿(まろ)	1人称	【私】公家男性が目下の人間に対して用いる自称詞。やや尊大な感じを伴う。	【我】〔本大人・本官〕話し手が官職に就いているなら、“本官”と訳しても良い。	<p>①日:<u>麻呂</u>に手をあげるでおじゃるか?(『織田信奈の野望』3p.51)</p> <p>中:⇒想对<u>本大人</u>动手吗?</p> <p>②日:<u>麿</u>が本日御身を尋ねたは、一の谷の合戦の功績による叙位任官のことじゃ。(『源義経第一部』1:56:10)</p> <p>中:⇒<u>本官</u>今日来此, 是因你在一之谷一战中立下战功, 特为你加官进阶之前来的。</p>
身共(みども)	1人称	【私】主に武家の男性が目上の人間	【我】〔在下〕	①日:父も <u>みども</u> も亘理が気に入っております。(『炎立つ壱』

日本語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
		に対して用いる。近年の作品では、「拙者」、「それがし」より使用頻度が低い。		p.14) 中:⇒父親和在下都很欣赏亘理。 ②日:身共には聞き取れませなんだが。(『信長燃ゆ(下)』p.444) 中:在下没有听到。
夫婦(めおと)	名詞	【夫婦(ふうふ)】現代語では、単独で用いることが少なく、主に「夫婦茶碗」や「夫婦松」のような熟語で用いられる。	【夫妻・夫妇】古めかしさを出したい場合は、他の部分で工夫する。	日:わしらは <sup>めおと</sup> 夫婦、一心同体ゆえな。(『篤姫』27話0:20:25) 中:我们二人乃是夫妻,可是一心同体的啊。
申す(もうす)	動詞	【言う】丁寧体の「申します」には古風な感じがないが、「申しまする」なら、古風なニュアンスになる。主に武家男性が用いる。	【说・讲】「言」「言」を用いる場合は、単独では、①の“此言”、②の“胡言”のように、修飾部分が必要である。または③のように、他の部分で疑似古語を用いて訳す。	①日:と申しますと?(『義経』19話0:19:08) 中:此话何解? ⇒ 此言何意? ②日:何を申す? 罪人を匿ったのはそちらのほうではないか? (『新撰組!』5話0:33:17) 中:你在想些什么啊? 藏匿罪犯的不就是你们吗? ⇒一派胡言。藏匿罪犯的不就是你等吗? ③日:申すがよい。(『信長燃ゆ』p.453) 中:⇒但说无妨。
もしや	副詞	【もしかして・ひょっとして】	【难道】「莫非・莫不是」	①日:もしや璋子は院が恋しいのではないか?(『平清盛』1話0:25:54) 中:⇒莫非璋子她思念陛下。 ②日:もしや、うち間違えました?(『利家とまつ』4話0:30:15) 中:难道是我搞错了? ⇒莫非是我弄错了?
もそっと	副詞	【もう少し】	【再……一些・再……一下】古めかしさを出したい場合は、他の部分で工夫する。	①日:もそっと近こうへ。(『風林火山』4話0:30:10) 中:再靠近些来。

日本語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
				②日: <u>もそつと</u> 分を弁えるがよい。(『花の乱』3話 0:36:01) 中:⇒ <u>且</u> 再多考虑一下自己的身份。
やつがれ	1人称	【私】男性が自分をへりくだっている時に用いる自称詞。	【我】〔小人・奴才・在下・貧僧〕中国語の時代ものの作品の日本語翻訳本では、中国の宦官キャラクターの自称詞として用いられることが多い。発話者の身分に応じて、訳語を選ぶ。例えば、使用例のように、発話者は行者であるため、僧侶の自称としてよく用いられる中国語疑似古語“貧僧”を用いて訳す。	日: <sup>やつがれ</sup> <u>奴</u> は法力のある高僧でもないし陰陽の術を使う術師でもありません。(『巷説百物語』p.348) 中:⇒ <u>貧僧</u> 既非法力深厚の高僧、也非懂阴阳之术的法师。
ゆえ	名詞	【…のため】体言や活用語の連体形などに付いて用い、理由を表す。「だから」の意味を表す時、「故に」という形で用いることも多い。教養のない町人や百姓キャラクターはあまり用いない。	【因为・所以】〔因・因此・故〕②の元の翻訳は「ゆえに」を“因此”と訳したのは良いが、文末の強調を表す“的”は現代語のニュアンスが強いため、古めかしい感を持つ“因此”と一緒に用いられると、やや不自然な文になるため、避けたい。	①日:初音が困る顔は見たくありません <u>ゆえ</u> 。(『JIN-仁-』8話 0:25:52) 中:我不想见到初音看见我时尴尬的样子。 ⇒ <u>因</u> 我不愿见到初音看见我时的尴尬之容。 ②日: <u>ゆえに</u> 、案じてはおりませぬ。(『風林火山』6話 0:25:38) 中: <u>因此</u> 我并不担心的。⇒ <u>因此</u> 我并不担心。
余・予(よ)	1人称	【私】日本を舞台とする作品の場合は主に将軍、大名の自称詞として用いられ、外国の場合は、主に君主の自称詞として用いられる。	【我】〔寡人・孤〕	日: <u>予</u> がそのあとの七巻を贈ろうぞ。(『篤姫』p.49) 中:⇒ <u>寡人</u> 将后续的七卷赠与你吧。
よしなに	副詞	【よろしく】主に上級階級に属する登場人物が用いる。	【拜托・关照】	①日: <u>よしなに</u> のう。(『天地人』31話 0:09:33) 中:慢走。⇒ <u>拜托</u> 您了。

日本語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
				②日:どうぞよしなに。(『大奥(男女逆転)』0:25:53) 中:⇒请您多 <b>关照</b> 。
よもや	副詞	【まさか】推量を表す。主に上級階級に属する登場人物が用いる。	【不会是・难道】古めかしさを出したい場合は、他の部分で工夫する。	①日: <b>よもや</b> 今川に誑かされておるのではあるまいのう。(『風林火山』1話0:12:05) 中: <b>不会是</b> 上了今川の当了吧? ⇒ <b>我等不会是</b> 上了今川の当了吧? ②日: <b>よもや</b> 兄上に宿替えしたのではあるまいな?(『憑神』1:00:46) 中:⇒ <b>难道</b> 你换成附身我 <b>兄长</b> 了吗?
わし	1人称	【私】尊大な感じを伴う。年輩の男性が用いることが多いが、身分や社会地位の比較的高い若い男性も用いる。例えば、医者、武家の男性。年輩の女性が用いることもできるが、尊大感を出す場面に限る。	【我】〔老夫・老身〕発話人物は年輩者であれば、①のように男性は“老夫”、②のように女性は“老身”と訳す。それ以外の登場人物の場合は、③のように、その登場人物の身分に合わせて、適切な自称詞を用いて訳す。	①日:(年輩な大名)じゃが、その <b>わし</b> とてひとりの人間。(『天地人』1話0:42:01) 中:然而 <b>我</b> 也是一个人。⇒ 但 <b>老夫</b> 也是一个凡夫俗子。 ②日:(大名の母)この <b>わし</b> が言うてやる。(『女太閤記』36話0:06:12) 中:⇒ <b>老身</b> 去跟他说。 ③日:(若い将軍) <b>わし</b> がいくさは好かぬ。(『篤姫』23話0:15:29) 中: <b>我</b> 可不喜欢打仗。⇒ <b>寡人</b> 可不喜欢打仗。
童(わらべ)	名詞	【子供】現代語では、単独で用いることが少ない、主に「童歌」のような熟語の中で用いられる。	【小孩】〔小童〕	日:通りで、里の <b>わらべ</b> にはない立ち居振る舞いじゃ。(『花の乱』1話0:39:03) 中:⇒怪不得言行举止与村里的 <b>小童</b> 们不一样。
わらわ	1人称	【私】将軍の正室、皇后など高い地位にある女性の登場人物が目下の者に対して、威厳を出そうとする場	【我】〔本夫人・本宮〕発話人物の身分に合わせて、適切な自称詞を用いて訳す。将軍の正室なら、“本夫人”と訳し、皇	日:世継ぎの母は <b>わらわ</b> じゃ。そなたではない。(『大奥-第一章-』1話0:54:48) 中:储君的母亲是 <b>我</b> 而不是你。⇒储君的母亲是 <b>本夫人</b> 而不是你。

日本語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
		面で用いられる。	后なら“本宮”と訳す。	
～ぬ	文法	【～ない】動作・作用を打ち消す意を表す。「～ませぬ」は現代語の「～ません」に相当する。「～せぬ」は現代語の「しない」に相当する。「…てはならぬ」の形で、不許可や禁止の意を表し、現代語の「…てはいけない」に相当する。	【不・没】〔无・未・非・否〕“无・未・非・否”を用いる時、①、②、③、④のように、品詞やテンス、他の語との組み合わせに注意しながら訳す。または、⑤のように“不・没”と訳して、他の部分で古めかしさを出す。	①日:こたびの一件、あまり感心はいたせぬなあ。(『大奥-男女逆転-』1:47:48) 中:⇒此番之事, 属下无法恭维啊。 ②日:何も起こってはおりませぬ。(『陰陽師II』0:19:03) 中:⇒并未发生何事。 ③日:あとわずかではございませぬか。(『義経』1話0:26:36) 中:那岂非日子所余无几了吗? ④日:このことは父上さま母上さまにも固く黙っていてはくれぬか。(『篤姫(上)』p.31) 中:⇒此事可否不要告诉父亲大人和母亲大人。 ⑤日:そこまで先走っておりませぬ。(『篤姫』5話0:10:01) 中:在下还不会如此草率鲁莽。
ウ音便	文法	「近い⇒近こう」「居たい⇒居とう」のように、形容詞連用形またはハ行動詞連用形に「ウ音便」が起きる。	対応する中国語が存在しないため、古めかしさを出したい場合は、他の部分で工夫する。	①日:見ていて、辛ろうございます。(『天地人』5話0:30:06) 中:少女也是看在眼里, 疼在心里。 ②日:それゆえ、義経様のそばにいとうございます。(義経26話0:19:24) 中:正因为是这样, 才想待在义经大人的身边。 ⇒正因如此, 我才想待在义经大人身边。 ③日:殿下がおられんでは、寂しゅうございます。(『女太閤記』36話0:19:52) 中:⇒大人若是不在, 妾身会感到寂寞的。

日本語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
～で(は)ない	文法	【～な】動詞の後に付いて、禁止の意を表す。	【不要・不准・別】〔休・莫〕①のように、強い禁止の意が含まれる場合は、“休”と訳し、②のように、親しい相手に対して、軽く否定の意を表す場合は、“莫”と訳したほうが適切である。	①日:いいか、こたびのことは、誰にも言う <u>でない</u> ぞ！ （『篤姫』5話0:11:04） 中:听好，这事可 <u>别</u> 告诉任何人哦。 ⇒ 听好，此事 <u>休</u> 要告诉任何人。 ②日:(武士→妻)案ずる <u>でない</u> 。（『天地人』30話0:40:16） 中:你 <u>不要</u> 挂念。⇒ 你 <u>莫</u> 挂念。
苗字+殿	呼称詞	【～様】対称詞と他称詞として用いられる。主に同輩または目上の人に対して、男女ともに使用できる。	〔～大人・～夫人〕①のように、相手は男性の場合は“～大人”と訳し、②のように相手は女性の場合は“～夫人”と訳す。	①日: <u>スサ殿</u> 、今のしらべは？（『陰陽師Ⅱ』0:16:05） 中:⇒ <u>須佐大人</u> ，方才の曲调是？ ②日: <u>ゆうゆう殿</u> 、久しゅうござります。（『利家とまつ』36話0:20:33） 中: <u>阿优夫人</u> ，好久不见。
ありがたきお幸せ。	慣用表現	【ありがとうございます】将軍や主などの目上の人から褒め言葉や褒章などを頂く場面で用い、嬉しさと感謝の気持を表す。男女ともに使用できる。	【非常感谢・非常高兴】〔不甚感激・深感荣幸〕	日: <u>ありがたきお幸せ</u> 。（『風林火山』第28話0:06:33） 中:谢主上厚恩。⇒ 主公之恩， <u>不甚感激</u> 。
面（おもて）を上げ。	慣用表現	【顔を上げなさい】身分の高い人が自分に平伏する相手に用いる。男女ともに使用できる。	【抬起头来】〔平身〕天皇や将軍などの国一番地位の高い人間の場合は①のように“平身”と訳し、大名などの比較的地位が高い人間の場合は②のように、“抬起头来”と訳したほうが良い。	①日:(大名)面をあげよう。（『篤姫』4話0:26:03） 中:平身。⇒ 抬起头来。 ②日:(将軍)面をあげよう。（『新撰組』16話0:32:13） 中:抬起头来。⇒ 平身。



日本語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
大儀であった。	慣用表現	【ご苦労だった】目上の人間が目下の人間の苦労をねぎらう時に用いる。	【有劳了・辛苦了】例のように、疑似古語の人称詞を付け加えて、古めかしさを出すのも良い。	日：本日は <u>大儀であった</u> 。（『篤姫』23話0:21:12） 中：今日真是辛苦 <u>閣下</u> 了。
出合え！	慣用表現	【出て来い！】敵または怪しい者が現れ、それを発見した人は自分側の人たちが立ち向かうように大きい声で叫ぶ場面で用いる。主に武家男性が用いる。	【快来人啊・给我上】単独で使用される場合は、古めかしさを出すことが難しいため、前後の台詞でカバーする。	①日：者ども、 <u>出合えっ</u> ！ 中：大伙儿，都 <u>给我上</u> ！ ②日： <u>出合え！出合え</u> ！上様の一大事ござる！（『憑神』1:26:04） 中： <u>快来人啊！快来人啊</u> ！将军大人有危险！
これはしたり！	慣用表現	【しまった！】「したり」は意外や驚きや意外だという気持ちを表わす語で、「これはしたり」は「これは驚いた」の意味である。通常、その驚きは「しまった、やり損った」という意味で用いられることが多い。主に武家男性が用いる。	【糟糕・不好・可惜了】	日： <u>これはしたり</u> ！あの金もらって置けば。（『天地人』1話0:05:42） 中： <u>可惜了</u> ，早知道就把那钱收下了。
恐悦至極に存じます。	慣用表現	【大変うれしく思っております】「恭悦至極」とも書く。主に武家の人間が藩主や将軍など自分より上の相手に対して、喜びや満足の気持ちに慎みの気持ちを加えて、感謝を述べるときに用いる。	【感激不尽・不胜荣幸】	①日：おなごの身にまで、お心をおかけくださり、 <u>恭悦至極に存じます</u> 。（『篤姫』4話0:23:37） 中：您甚至对臣下的女眷都甚为在意、实在令人倍感恭悦。 ⇒ 您对臣下的女眷都甚为关心，令我等 <u>感激不尽</u> 。 ②日：ご拝顔の榮に浴し、 <u>恐悦至極に存じたまつります</u> 。（『信長燃ゆ(下)』p.144） 中：今日拜见尊颜，在下实在是 <u>不胜荣幸</u> 。

日本語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
控えおろう！	慣用表現	「控えなさい！」偉い人の側に居る家臣が一般の民衆に対して、「(目の前にいるお方は偉いから)おとなしくしてろ！」という意味で用いられる。	〔〇〇在此，还不快下跪〕「〇〇」のところに偉い人の身分に応じて、適切な呼称詞を用いて訳す。	日:控えおろう！（『水戸黄門第一部』第9話0:33:32） 中:德川光圀大人 <u>在此，还不快下跪！</u>
よきにはからえ。	慣用表現	【君がいいと思うようにしなさい】将軍や大名などの偉い人が、あることに対して、家臣から判断を求められる場面で用い、その件を家臣に任せるという意味で用いる。	【你看着办】〔全交予你去办〕	日:よきにはからえ。（『天地人』43話0:18:56） 中:你看着办。⇒ 全交予你去办吧。
滅相もない。	慣用表現	【とんでもない】主に武家の人間が用いる。女性の場合は主に丁寧体の「滅相もございません」を用いる。	【不是这个意思・不好意思】〔绝无此意・愧不敢当・〇〇惶恐〕前後の文脈に合わせて、適切な訳語を選ぶ。	日: <u>滅相もござんせん</u> ！あちきはただおやじ様に助かっていただきたくてありんす。（『JIN - 仁 - 』4話0:18:01） 中: <u>不是这个意思</u> 。我只是想救父亲的命。 ⇒ 小女子 <u>绝无此意</u> 。我只是想保住父亲大人的性命。

## 5.2 中国語から日本語に訳す場合

本節では、中国語の「疑似古語」が日本語に翻訳される際に、どのように反映されているのか、問題点があるかどうか、その実態について調査を行う。調査対象として使う作品は、日本国内で放送され、またはDVDとして販売及びレンタルされている中国の歴史ドラマ4部、映画2部、及び日本で全作品が翻訳、出版された中国の国民的人気を持つ作家金庸の小説3部である。なお、金庸作品に関しては、翻訳者が異なる作品を選んだ。作品の一覧は以下表5-2にまとめてある。各作品の詳細は参考資料の「中国語作品一覧」を参考する。

表5-2 考察する作品一覧(中国語から日本語)

中国語タイトル[略]	日本語タイトル	(中国大陸での)初放送・初公開年
孔子[孔]	孔子の教え	2010年
封神榜之凤鸣岐山[封]	封神演義	2006年
三国演义精编版[三国]	三国志国際スタンダード版	1997年
三国[新三国]	三国志Three Kingdoms	2010年
天龙八部[天]	天龍八部	2003年
赤壁2[赤]	レッドクリフ-PART II-	2009年
射雕英雄传[射]	射鵰英雄伝	1994年
鹿鼎记[鹿]	鹿鼎記	1994年
倚天屠龙记[倚]	倚天屠龍記	1994年

### 5.2.1 日本語に相当する「疑似古語」が存在する場合

日本語の「疑似古語」はバリエーションが豊富であるため、翻訳の際に適切な訳語を見つけることは難しくないと考えられる。実際、日本語から中国語への翻訳より、中国語から日本語への翻訳の質は全体的にレベルが高い様子が見受けられる。しかし、やはり「疑似古語」は現代語より扱いにくく、作品によって「疑似古語」の翻訳の具合にバラツキが見られる。中には、無視されたり、現代語に翻訳されたりするケースもしばしば見られる。特に映画とテレビドラマの字幕の翻訳においてはこのような傾向がより顕著である。これは人間が字を読める速度には限界があるため、画面上に表示できる台詞の文字数が制限さ

れていることが一つの原因として考えられる。もう一つは、やはり字幕の翻訳は小説の翻訳のようにゆっくり時間をかけて「疑似古語」について調べたり、吟味したりすることができないため、文の古めかしさを出すことより、まず意味の正確さを優先せざるを得ないからであろう。以下、中国語の「疑似古語」が日本語に翻訳される際によく見られるパターンについて、使用例を提示しながら詳しい分析を行う。

① 忠実に日本語の「疑似古語」に翻訳されるケース

日本語の「疑似古語」の種類は中国語よりも多いため、中国語の「疑似古語」に対応する適切な語を見つけることは難しくないと思われる。例えば[37]～[39]の“閣下”、“朕”、“老夫”のような使用頻度の高い人称代名詞や、[40]、[41]、[42]、[43]のような中国語と日本語のどちらにおいてもよく用いられる語と慣用表現は、他の語より忠実に翻訳される傾向が見られる。

[37]a. 閣下连败我两个师弟，姓潘的还欲请教。 (《倚》 p.41)

b. 貴殿はおとうと弟子二人を続けて破られたが、この潘もご教示願いたい。  
([倚一] p.78)

[38]a. 朕不知道。 ([新三国] 第22話0:07:08)

b. (字幕) 寡人<sup>わななし</sup>は何も知らぬ。/(吹替) 朕は知らぬ。

[39]a. 死，对 老夫来说没什么可怕的。 ([天] 第34話0:05:39)

b. もはや、わしは死など恐れておらぬ。

[40]a. 这话 当真? (《射》 p.877)

b. まことでござるか? ([射三] p.292)

[41]a. 众卿 平身。 ([封] 第2話0:37:58)

b. 面をあげよ。

[42]a. 公主殿下 驾到! ([天] 第36話0:38:27)

b. 姫君の お成り!

[43]a. 寡人倒想把这重任给你担当。 ([孔] 0:05:13)

b. 余はそちにこの重責を任せたい。

② 忠実に日本語の「疑似古語」に翻訳されていないケース

一方で、下記[44]、[45]、[46]のように、対応する適切な日本語の「疑似古語」が存在

するにもかかわらず、現代語に翻訳されているケースも見られる。それは特にテレビドラマの翻訳において顕著である。

[44] a. 岂敢，岂敢。 ([天]第33話0:20:44)

b. どんでもない。 ⇒ 「滅相もない」のほうがよりいい

[45] a. 此话当真? ([三国]第9話0:33:02)

b. 本当か? ⇒ 「まことか」のほうがよりいい

[46] a. 今日送箭，明日就送老夫的人头是不是!? ([赤]0:51:29)

b. 今日は敵に矢を贈り、明日は私の首を贈るのか! ⇒ 「わし」のほうがよりいい

また、[47]のような中国語の「疑似古語」に対する知識の不足による誤訳も見られる。「方才」は現代語の“才”に相当する「疑似古語」であり、「さきほど」と「ようやく」という二つの意味を持っている。[47]の場合は、「さきほど」という意味で使われているため、日本語訳も「やっと」ではなく、「今し方」と訳したほうがより適切である。

[47] a. 方才刘备派糜芳前来报信。 ([新三国]第22話0:23:01)

b. やっと劉備が書簡をよこしました。

作品にもよるが、“方才”のような使用頻度の比較的低い中国語「疑似古語」は、全体的に見るとやはり忠実に翻訳されていない場合が多いと言える。例えば、[48]の“哀家”と[49]の“足下”は日本語訳では反映されておらず、[50]の“本宮”は現代語に翻訳されている。“哀家”は皇后・皇太后が用いる自称詞であり、“本宮”は皇后の自称詞としてよく用いられる。これらに対しては、いずれも日本語の「わらわ」で対応することができる。“足下”は二人称代名詞であって、日本語でも実際、昔は「<sup>そっか</sup>足下」を二人称代名詞として使っていたが、現代では「疑似古語」として使用されていないため、中国語の“足下”をそのまま日本語の「足下」に翻訳するのは不適切である。しかし、日本語には二人称代名詞の「疑似古語」が多く存在しているため、[49]の訳のように省略するのではなく、「そこもと」、「おぬし」、「そなた」、「貴殿」のいずれかに訳したほうが、元の訳文に比べて古めかしさが増して、より適切な翻訳になると思われる。[51]の“喏”は目下の者が目上の者に対して、承諾する時に発する「疑似古語」で、現代日本語の「はい」と同じ意味である。したがって、[51]の訳文「失礼します」よりも、「御意」のほうが中国語の原

文に近く、古めかしさも増すと思われる。

[48] a. 是不是想让哀家以后整日以泪洗面啊？ ([封]第3話0:25:08)

b. 涙に暮れる日々を過ごせと？

[49] a. 我对足下的估计过高了。 ([新三国]第22話0:19:52)

b. 見損ないましたよ。

[50] a. 例这题词的意思好像说本宫心胸狭隘，量小德低吗？ ([封]第3話0:23:33)

b. まるで私が、心がせまく徳が低いと申す気か。

[51] a. 喏。 ([新三国]第21話0:07:36)

b. 失礼します。

⇒中国語の“喏”は「分かった」という意味であるが、翻訳ではまったく意味が異なる「失礼します」に置き換えられた。「疑似古語」の「御意」を使うか、または現代語であれば「承知しました」を使ったほうが中国語の原文に沿っていると思われる。

上に挙げた用例は、中国語の「疑似古語」が間違って訳されたり、現代語に訳されたり、または省略されたりするものである。しかし、そのほかに、ニセ方言に訳されるケースも見られる。例えば[52]、[53]、[54]の台詞を発するキャラクターは中国語の原作では他のキャラクターと同じように、「疑似古語」をしばしば用いる喋り方をしているが、日本語翻訳本では関西人キャラクターになっている。理由は恐らくこのキャラクターは原作では、いたずら好きなお爺さんとして登場しており、風変わりなキャラクターとして描かれているからであると推測される。日本語の「疑似古語」は武家言葉から来たものが多く、堅苦しいイメージがある。そこで、翻訳者がこのキャラクターの特徴に合わない判断し、代わりに「お笑い」を想起させる「関西弁」を用いて、キャラクターが持つ滑稽な性格を出そうとしたのであろう。

[52] a. 十五年来，他用尽了心智，始终奈何我不得。 (《射》p.667)

b. 十五年間やつも智恵をしばってあの手この手でよったが、いっぺんも

成功せんかった。 ([射三]<sup>91</sup>p.24)

<sup>91</sup> 金海南(訳)・岡崎由美(監修)『射鵬英雄伝 三』 2009年 徳間書店

[53]a. 岛上向从来没有这种奇毒无比的青蝮蛇，不知自何而来？（《射》p.676）

b. この島には毒蛇はおらんはずやのに、どこから来たんやろ？（[射三]p.39）

[54]a. 有这等事？（《射》p.865）

b. なに？そんなことになっとるんか、そんならいま行くよってな。（[射三]p.281）

このように、登場人物の性格などによって、台詞で古めかしさを出すことよりも、その登場人物の特徴を表現することが優先される場合もある。例えば、[55]の登場人物は侍女や手下をたくさん持つ霊鷲宮の主で、外見は10歳前後の小娘だが実年齢は96歳もあり、周りに尊大な態度を取っているため、日本語訳では皇后の自称詞を用いて翻訳されている。[56]の登場人物は塩を密売する悪商人という設定であるため、日本語訳では遊女などの町人が使用する「疑似古語」の「でござんす」に翻訳されている。その理由は、日本語の「疑似古語」が登場人物の細かい属性によって、明確に細分化されているためであると思われる。

[55]a. 小和尚，你确实救了我。不是做了什么傻事。（[天]第26話0:31:23）

b. 坊主、わらわを助けたのは余計な事ではないぞ。

[56]a. 閣下好身手，请问尊姓大名？（《鹿》p.45）

b. おみごとなお手並みでござんす。（[鹿一]<sup>92</sup>p.13）

### 5.2.2 日本語に相当する「疑似古語」が存在しない場合

本節では、中国特有の官職に対する呼称詞などを翻訳する際に、日本語の「疑似古語」に対応できる語が存在しない場合は、どのように翻訳されているのかについて考察したい。

#### ① 直接借用

一つ目は、中国語をそのまま借用して翻訳するという手法である。特に呼称詞の翻訳にはよく用いられる。ただし、この翻訳方法は小説や字幕などの文字の翻訳に限る。吹替の翻訳では用いられない。例えば、[57]の“公公”は宮廷の宦官に対する特有の呼称で、[58]の“施主”は和尚が一般人に対して使う呼称詞であり、いずれも日本語には対応する語がないため、中国語をそのまま借用している。また、[59]の“皇上”と[60]の“太医”のように、日本語に「お上」や「陛下」、「奥医師・侍医」などの対応する「疑似古語」が存

<sup>92</sup>岡崎由美・小島瑞紀(訳) 『鹿鼎記(一)』 2008年 徳間書店

在するが、中国語を借用するケースも見られる。これは原作の中国的な雰囲気を出すためであると思われる。

[57]a. 公公, 再服一剂, 好不好? (《鹿》p.95)

b. 公公<sup>こうこう</sup>(宦官への呼称)、もう一服お飲みになっては? ([鹿一]p.97)

[58]a. 我们也不敢留着女施主的兵刃。 (《倚》p.11)

b. 我々は女施主の武器を取り上げるのではござらぬ。 ([倚一]<sup>93</sup>p.24)

[59]a. 皇上只知其一, 不知其二。 (《鹿》p.156)

b. 皇上<sup>おかみ</sup>、それは浅はかでございますぞ。 ([鹿一]p.202)

[60]a. 快叫太医, 快叫太医。 ([新三国]第21話0:18:05)

b. 早く太医<sup>たいい</sup>を呼べ。

しかし、作品によっては[61]のように、日本語の「疑似古語」を用いて翻訳されるケースも見られる。

[61]a. 我想问萧老施主一句话。 ([天]第34話0:52:44)

b. 萧殿にお聞きしたい。

## ② 異なる「疑似古語」に翻訳される。

直接借用するという方法以上に多く見られる翻訳パターンは中国語原文と意味が異なる日本語の「疑似古語」を用いて、古めかしさを出すという手法である。特に人称代名詞の翻訳にはよく用いられる。若干意味が異なっても、現代語を使うより適切であると考えられる翻訳者が少なくないようである。用例[62]～[65]はすべてその例である。[66]、[67]、[68]の“奴才”は宦官特有の自称詞であり、同じ作品においても場面によって異なる日本語の「疑似古語」が用いられており、翻訳者の工夫が見られる。また、[69]のように、中国語原文とは異なる部分で「疑似古語」を用いて古めかしさを出しているケースも多い。

[62]a. 萧居士全神贯注于武学典籍之中, 心无旁骛, 自然瞧不见老僧。

([天]第33話0:41:26)

b. 萧殿は武学の経典に夢中になられていて、私には気づかれませんでした。

[63]a. 父王, 儿臣以为不必如此隆重。 ([封]16話0:36:57)

b. 父上、大げさではないですか。

<sup>93</sup>岡崎由美（監修）林久之・阿部敦子（訳）『倚天屠龍記（一）』



- [64] a. 小僧 覚遠, 居士有何吩咐? (《倚》p.53)  
 b. それがしが覚遠ですが、居士どのにはどんな御用で? ([倚一]p.99)
- [65] a. 小弟也正是来寻访郭师叔。 (《射》p.940)  
 b. 拙者も実は郭靖どのを訪ねるところでござる。 ([射三]p.367)
- [66] a. 奴才 螯拜叩见皇上! (《鹿》p.154)  
 b. 臣オーバイ、皇上に拝謁申し上げます。 ([鹿一]p.198)
- [67] a. 奴才 就只知道赤胆忠心, 给皇上办事。 (《鹿》p.156-157)  
 b. やつがれはひたすら忠心を以て皇上にお仕えするのみ。 ([鹿一]p.203)
- [68] a. 皇上不可听这小太监的胡言乱语, 奴才是个大大的忠臣。 (《鹿》p.161)  
 b. このようなたわ言をお聞きあそばしてはなりません。それがしは忠心一途にござる。 ([鹿一]p.209)
- [69] a. 他不敢听我箫声, 乃是有自知之明。 (《射》p.692)  
 b. わしの笛の音を聞かないのは賢明というものじゃ。 ([射三]p.62)

### ③ 現代語に翻訳される

上述したように、日本語に対応する「疑似古語」がなくても、異なる「疑似古語」を用いて工夫する翻訳者もいるが、[70]～[74]のように、現代語に翻訳する翻訳者もいる。翻訳者の「疑似古語」に対する知識の不足からよるものである可能性もある。いずれにしても、現代語に翻訳されても中国語原文の意味と異なっているわけではないので、誤訳とは言えない。ただ、良質な翻訳を目指すのであれば、「疑似古語」を用いることが望ましいと考えられる。また、異なる日本語の「疑似古語」を用いて、文の他の部分で古めかしさを出すという方法もある。

- [70] a. 因为明天是王后姐姐的生辰。 ([封]第3話0:18:32)  
 b. 明日は皇后様のお誕生日です。
- [71] a. 老乌龟, 休得伤了太后! (《鹿》p.239)  
 b. おいぼれ、皇太后さまに手を出すな! ([鹿一]p.338)
- [72] a. 女媧乃上古正神。 ([封]第1話0:12:34)  
 b. 女媧は人類を作った太古の神です。
- [73] a. 敢问上面, 可是大汉皇叔刘备刘玄德乎? ([新三国]第22話0:40:15)  
 b. そこの方、漢の皇叔、劉備殿ではありませんか?

[74]a. 可是臣妾让大王受了委屈。 ([封]第3話0:10:22)

b. 私のせいで大王がご不快に。

### 5.2.3 中国語の現代語が日本語の「疑似古語」に翻訳される

中国語から日本語に翻訳する際によく見られる特徴の一つとして、中国語の原文では「疑似古語」ではない部分も日本語翻訳文では「疑似古語」が用いられることが挙げられる。これは、翻訳者が持つ日本語の「疑似古語」の知識の量によって異なるが、打ち消しの「ぬ」、二人称代名詞「そなた」、「朝餉」、「皆の衆」などのような、認知度の高い日本語の「疑似古語」は中国語原文が現代語であっても、翻訳文では頻繁に使用されていることが分かった。例えば、今回調査した全作品の中で、『封神榜』の日本語字幕の翻訳はもっとも現代語に近く、難解な「疑似古語」はほぼ用いられていないが、[75]、[76]、[77]のように、最小限の「疑似古語」は用いられている。[78]～[82]の用例もそうである。しかし、[83]のように、中国語の原文が現代語の二人称代名詞である“你”に相当する日本語の「疑似古語」について、日本語母語話者であれば「そなた」や「おぬし」などを容易に思い付くはずなのに、実際には吹替と字幕のどちらも「疑似古語」が用いられず、現代語に翻訳された残念なケースもある。中国語から日本語への翻訳の質は、意味の正確さで言えば概ね問題ないと言えるが、意味だけではなく、「疑似古語」を駆使して、作品の古めかしさを最大限に引き出すという面においては、まだ改善する余地があると言える。

[75]a. 为什么哭? ([封]第2話0:43:57)

b. なぜ泣いておる?

[76]a. 你可真是福从天降啊! ([封]第1話0:28:03)

b. そなたは実に幸せですぞ。

[77]a. 是啊, 大师可曾见到? (《射》p.876)

b. さよう、和尚には心当たりがおありか? ([射三]p.292)

[78]a. 你不是他的对手。 ([天]第32話0:16:03)

b. おぬしの手には負えぬぞ。

[79]a. 各位朋友, 打扰莫怪, 在下赔礼。 (《鹿》p.43)

b. 皆の衆、お邪魔をして申し訳ない。 ([鹿一]p.11)

- [80]a.五弟,你从未没有见过我的‘七伤拳’。 (《倚》p.257)  
 b.五弟よ、おぬしはおれの七傷拳を見たことはあるまい。 ([倚一]p.443)
- [81]a.待会吃过早饭,便跟他们赌钱去。 (《鹿》p.113)  
 b.朝餉をすませたら、あの連中と博打を打っておいで。 ([鹿一]p.128)
- [82]a.办得很妥当! (《鹿》p.185)  
 b.大儀であった。 ([鹿一]p.250)
- [83]a.看来我的脑袋是保住了, 你呢? ([赤]0:54:11)  
 b1.どうやら私の首は無事らしい。そちらは? (吹替)  
 b2.これで、私の首は無事、あなたは? (字幕)

#### 5.2.4 問題の改善策

日本語から中国語に翻訳する場合と同じく、根本的な改善策は、翻訳者個人による日中両言語の「疑似古語」知識の習得であるが、そのサポートとして、まず一部の中国語「疑似古語」について、以下のように、中日の対訳リストを作成する。対訳リストについての説明は150ページを参照する。

中国語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
哀家	1人称	【我】皇太后は目下の人間に対して自称するときに用いる。初期の作品では、皇后が自称する時にも用いていたが、それは間違った使い方である。	【私】〔わらわ・わたくし・わし〕 皇太后の年齢と場面に応じて訳す。 例えば、①のように、ライバルだった相手に対して勝ち誇った口ぶりで話す場面では、「わらわ」と訳す。 年取った皇太后なら、③のように「わし」と訳し、それ以外の場合は、「わたくし」と訳す。	①中:(皇后→元皇后)今天 <u>哀家</u> 不是来看你。(『一代女皇武则天』29話0:02:32) 日:⇒今日、 <u>わらわ</u> はそなたを見に来たのではない。 ②中:(20代の皇太后) <u>哀家</u> 去那里住就好了。(『美人心计』24話0:04:12) 日:⇒ <u>わたくし</u> はあそこで住めば良いのです。 ③中:(50代の皇太后)你且坐着， <u>哀家</u> 知道你是个懂事的。(『后宫甄嬛传』p.80) 日:⇒お坐りなさい。 <u>わし</u> は知っておる。そなたは道理をわきまえられる女子であることを。
本(+身分・官職)	1人称	【我】身分の比較的高い人が目下の人間に対して自称するときに用いる。尊大感が伴う。	【私】発話人物の設定に応じて①と②のように適切な日本語「疑似古語」の自称詞を用いて訳す。対応できる日本語「疑似古語」の自称詞がない場合は、③のように、他の部分で古めかしさを出すように工夫する。	①中:(皇后)就题词的意思好像说 <u>本宫</u> 心胸狭隘，量小德低吗？(『封神演義』3話0:23:33) 日:まるで <u>私</u> が心がせまく、徳が低いと申す気か？ ⇒まるで <u>わらわ</u> が心がせまく、徳が低いと申す気か？ ②中:(諸侯) <u>本侯</u> 待你不薄啊，你要干什么!?(『秦始皇』12話0:35:08) 日:⇒ <u>余</u> はそちを手厚く遇したぞ！何するつもりじゃ？ ③中: <u>本公子</u> 的事与你何干？(『尋秦記』4話0:32:15) 日: <u>お前</u> に何の関係が？ ⇒ <u>おぬし</u> に何の関係が？
陛下	呼称詞	皇帝に対する尊称。対称詞としても他称詞としても用いられるが、対称詞としての使用がやや多い。	〔陛下・主上〕文の内容によって、訳しづらい場合は、①のように、他の部分で古めかしさを出すのも良い。	①中:深夜打扰，请 <u>陛下</u> 恕罪。(『秦时明月之诸子百家』1話0:18:27) 日:⇒夜分お邪魔したことを、何卒お許し <u>願わしゅう</u> 存じます。 ②中:那就多谢 <u>陛下</u> 挂念！ 日: <u>陛下</u> が心配してくださり、ありがたき幸せに存じます。
臣	1人称	【我】臣下が皇帝・君主・諸侯に対して自称するときに用いる。複数形は“臣	【私】〔それがし〕①のように、自称詞を使わず他の部分で古めかしさ	①中:陛下， <u>臣</u> 有一事启奏。(『封神演義』18話0:23:22) 日:陛下、一件上奏がございます。

中国語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
		等”。	を出すのも良い。複数形の場合は、②のように「我々」または「我ら」と訳し、他の部分で古めかしさを出す。	⇒陛下、 <u>それがし</u> 、一件上奏がございます。/陛下、一つ申し上げたいことが <u>ござります</u> 。 ②中:夜半召見 <u>臣等</u> 、主子有什么大事? (《康熙大帝4》p.119) 日:⇒夜中に <u>我々</u> を呼び出し、何事で <u>ござりましょう</u> 。
～臣	1人称	【我】臣下が君主に対して自称するときに用いる。発話人物の身分によって、“老臣”“微臣”“儿臣”“罪臣”などのバリエーションが用いられる。	【私】発話人物の身分や場面に応じて適切な日本語自称詞を用いて訳す。または、②のように他の部分で古めかしさを出す。	①中:若是不想 <u>老臣们</u> 反对, 皇上也该免去了周大人的爵位。(《美人心計》24話0:00:59) 日:⇒ <u>我々</u> に反対されなければ、陛下も周殿の爵位を解か <u>ねばなりませぬ</u> 。 ②中: <u>微臣</u> 明白, 微臣明白。(『封神演義』5話0:08:40) 日:分かっております。⇒ 承知しており <u>ます</u> 。 ③中: <u>儿臣</u> 事事都依着母后, 只求母后依孩儿这么一件事。(《秦始皇》6話0:31:43) 日:⇒ <u>わたくし</u> はどんな事も母上様に従う <u>ゆえ</u> 、この一件だけはどうかご了承ください。 ④中: <u>罪臣</u> 杜摯, 参见国公。(《大秦帝国第一部(下)》p.637) 日:⇒ <u>罪人</u> 杜摯、主上に拝謁 <u>つかまつりましてござります</u> 。
臣妾	1人称	【我】皇后が皇帝と皇太后に対して、または皇后以外の妃が皇帝、皇太后、皇后に対して自称する時に用いる。	【わたくし】古めかしさを出したい場合は、他の部分で工夫する。	①中: <u>臣妾</u> 希望太子殿下高兴。(《美人心計》31話0:08:48) 日:⇒ <u>わたくし</u> は皇太子殿下に喜んで <u>いただきとう存じます</u> 。 ②中: <u>臣妾</u> 何尝不愿意去呢。(『封神演義』27話0:26:26) 日: <u>わたくし</u> も <u>行きとう存じます</u> 。
诚	副詞	【确实】主に畏まった場面で用いられる。単独で用いられない。	【本当に】 [まことに]	①中:大唐边疆, <u>诚</u> 如将军所言, 尚欠安稳。(《大明宮詞》1話0:22:08) 日:⇒大唐の国境は、將軍様のおっしゃる通り、 <u>まことに</u> 不安定でござります。

中国語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
此～	代名詞	【这・这里・这样】単独で用いられるときは、「ここ」の意味である。「此+名詞」の形で用いられるときは、「この」の意味になる。例えば、“此人”は「この人」、「此酒」は「この酒」、「此話」は「この話」となる。	【ここ・このような・この】「かような・さような」「ここ」という意味で用いられる場合は、①のように「疑似古語」の対称詞を用いたりするように、他の部分で古めかしさを出す。「この」という意味で用いられる場合は、②と③のように、「かような」または「さような」を用いて訳す。	①中:(孔子→大司徒)此为你的领地, 却民不聊生, 苛政猛于虎。(『孔子』0:26:27) 日:この地では、どう猛な政治に民は息も絶え絶え。 ⇒ここは大司徒殿の領地なのに、どう猛な政治に民は息も絶え絶え。 ②中:不想遭此冷遇。(『三国志スタンダード版』9話) 日:かような冷遇を受けるとは思いもよらなかった。 ③中:元帅, 此言从何处而来?(『封神演義』18話0:18:38) 日:そのような話は、到底信じられません。 ⇒元帥どの、さような話は到底信じられません。
大人	呼称詞	単独で用いることもできるが、多くは「名前・官職・身分+大人」の形で用いる。「官職+大人」の使い方は、現代中国語にも見られるが、それ以外の使い方は時代ものの作品でのみ見られる。	【様】[～どの] 単独で用いられる場合は、②のように苗字などを付けて「～どの」という形で訳す。	①中:来人可是中都幸大人孔丘?(『孔子』0:02:43) 日:中都幸の孔丘どので? ②中:大人笑从何来?(《大秦帝国第一部(上)》p.98) 日:⇒ <u>龐どの</u> 、何故笑う?
大王	呼称詞	君主を呼ぶ時に用いる称呼詞。“皇上”“陛下”“圣上”より使用頻度は低い。	「陛下・大王様」使用例のように、字幕の翻訳なら、「大王」とそのまま訳してもいいが、吹替の翻訳の場合は、日本人になじみのある呼称詞「陛下」と訳したほうがいい。	中:臣妾要为大王选一位有勇有谋能和大王一心的将军为统率。(『封神演義』35話0:11:49) 日:兵法に長け、 <u>大王</u> に忠実な将軍に軍を任せるのです。 ⇒わたくしは陛下のために、兵法に長け、 <u>陛下</u> に忠実な将軍を選んで差し上げましょう。
当真	名詞 副詞	【真的; 确实; 果然】“诚”と違って、単独で述語になれる。	【本当・本当に】「まこと・まことに」中国語の“当真”はほぼすべての場合は、日本語の「まこと」で対	①中:这话当真?(《射雕英雄传》p.877) 日:まことでござるか?(『射鵬英雄伝三』p.292) ②中:此话当真?(『三国志国際スタンダード』9話0:33:02)

中国語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
			応できるが、日本語の「まこと」を中国語へ翻訳する際には、すべてを“当真”で対応することはできない。	日: <u>本当</u> か? ⇒その話、 <u>まこと</u> か? ③中: 王上 <u>当真</u> 如此看重楚国吗? (《秦始皇》9話0:24:55) 日: 主上は <u>まことに</u> 楚国を大事に思っているのか。
等	助詞	【们】人称詞の後に付けて、複数の意味を表す。“我等”“你等”“尔等”“汝等”“臣等”“臣妾等”など。	【～たち・～ら】前の人称詞によって、適切な日本語の人称詞を用いて訳す。	①中: <u>尔等</u> 听清楚了吗? (《神探狄仁傑 1》p.434) 日: ⇒ <u>うぬら</u> 分かったか? ②中: 夜半召见 <u>臣等</u> , 主子有什么大事? (《康熙大帝 4》p.119) 日: ⇒夜中に <u>我々</u> を呼び出し、何事で <u>ござり</u> ましょう。
尔	対称詞	【你】自分より目下の人間に対して用いる。相手を見下す感じがある。複数形は“尔等”。	【おまえ】[おぬし・そち・うぬ・汝] 相手との関係、文の内容と場面の雰囲気に合わせて適切な対称詞を用いて訳す。	①中: 待我说出 <u>尔等</u> 奸计, 叫汝死而无怨! (『三国志国際スタンダード』9話 0:23:12) 日: 見破った訳を教えよう。この世に未練が残らぬようにな。 ⇒ <u>おぬしら</u> の企みを見破った訳を教えよう。この世に未練が残らぬようにな。 ②中: 防微杜渐, <u>尔</u> 言之成理。 (《康熙大帝 4》p.201) 日: ⇒悪事が大きくならないように防ぐ。 <u>おぬし</u> の申す通りじゃ。
方才	名詞 副詞	【刚才・才】「先ほど」、または「ようやく」の二つの意味で用いられている。	【さきほど・ようやく】[今し方] 意味を間違って捉えないように注意する。「さきほど」という意味で用いられる場合は、①のように「今し方」と訳す。または②のように「さきほど」と訳し、他の部分で古めかしさを出す。「ようやく」という意味で用いられる場合は、他の部分で古めかしさを足す。	①中: <u>方才</u> 刘备派糜芳前来报信。 (『三国』22話0:09:30) 日: <u>やっと</u> 劉備が書簡をよこしました。 ⇒ <u>今し方</u> 、劉備が書簡をよこしました。 ②中: <u>方才</u> , 是你在说话? (《大秦帝国第一部(上)》p.149) 日: ⇒ <u>さきほど</u> 喋っていたのは <u>そなた</u> ですか。 ③中: 君父, 你要忍到国乱人散, <u>方才</u> 罢休么? (《大秦帝国第二部(上)》p.227) 日: ⇒ <u>父上</u> は国が乱れ、民が逃げ去るまで我慢して、ようやくやめる気か? / <u>父上</u> は国が乱れ、民が逃げ去るまで我慢するおつもりで <u>ござる</u> か?

中国語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
夫君	呼称詞	【丈夫・爱人・老公】自分の夫または他人の夫を指すときに用いる。	【あなた・主人・旦那】主に女性の登場人物が用いるため、無理やり堅苦しい「疑似古語」に訳さなくてもいい。	①中:这位就是你的夫君? (『孔子伝』3話0:42:15) 日:ご主人ね? ②中:夫君, 一切都安排好了。(《大秦帝国第一部(下)》p.684) 日:⇒あなた、すべて用意できました。
父王・母后	呼称詞	【爸爸・妈妈】皇帝の子供たちは皇帝と自分の母親を呼ぶとき、または指すときに用いる。“父王”は“父皇”とも言う。	【お父さん・お母さん】〔父上・母上〕	①中:父王, 儿臣以为不必如此隆重。(『封神演義』16話0:36:57) 日:父上、大げさではないですか。 ②中:父皇和张廷玉讲的, 儿臣全然铭记于心! (《康熙大帝4》p.296) 日:⇒父上と張廷玉がおっしゃったこと、肝に銘じます! ③中:首先要感谢母后恩准我们出宫。(《大明宮詞》6話0:08:20) 日:⇒まず、私たちに外出の許可を下さった母上に感謝します。
父亲・母亲	呼称詞	【爸爸・妈妈】比較的身分の高い人が自分の父と母を呼ぶとき、または指すときに用いる。	【お父さん・お母さん】〔父上・母上〕	中:父亲, 您看陵墓之图有无[没有:ない]修改? (《漢武大帝》16話0:41:00) 日:⇒父上、この墓の図には修正した箇所があるか見てください。
阁下	呼称詞	【您】主に比較的身分の高い男性の登場人物が同等の男性の相手に対して呼ぶときに用いる。	【あなた】〔貴殿・貴公〕	①中:閣下连败我两个师弟, 姓潘的还欲请教。(《倚天屠龙记1》p.41) 日:貴殿はおとうと弟子二人を続けて破られたが、この潘もご教示願いたい。(『倚天屠龍記』p.78) ②中:閣下尊姓大名? (《神探狄仁傑I》p.24) 日:貴公のお名前は?
公公	呼称詞	【您】宦官を呼ぶときに用いる。「名前+公公」という形で使うこともできる。	〔～様・公公〕小説の翻訳の場合は、例のように注記付きで中国語の「公公」をそのまま借用できるが、吹替の翻訳の場合は、直接借用せず、「～様」と訳したほうがいい。	中:公公, 再服一剂, 好不好? (《鹿鼎記》p.95) 日:公公(宦官への呼称)、もう一服お飲みになっては? (『鹿鼎記1』p.97) ⇒海様、もう一服お飲みになっては?



中国語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
公子	呼称詞	【您】主に身分の高い家の年若い子弟を敬って呼ぶとき、または指すときに用いる。「名前+公子」で用いることもできる。	【御曹司】〔若様・～様〕発話者は自分のあるじの息子を指す場合は、①のように「若様」と訳すことができるが、それ以外の場合は、②のように訳さずに他の部分で古めかしさを出す。「名前+公子」の場合は、③のように「名前+様」と訳し、他の部分で古めかしさを出す。	①中:公子他醒过来了! (《新白娘子传奇》24 話 0:23:33) 日:⇒若様は意識が戻った! ②中:公子所言正是。(《神探狄仁傑1》p.207) 日:⇒おっしゃる通りにござります。 ③中:那張公子的病, 我怕不好治。(《新白娘子传奇》24 話 0:23:59) 日:⇒あの張様の病は、治療しにくいかもしれません。
故	接続詞	【所以】身分や教養の高い登場人物が畏まった場面や手紙などの文書で用いることが多い。	【だから・したがって】〔ゆえに〕	中:故明君贤将, 能以上智为间者, 必成大功。(《大秦帝国第二部(下)》p.382) 日:⇒ゆえに、明君と有能な将は、高い知恵を以て反間の策を使いこなせれば、必ずや大業を成すことができる。
孤	1人称	【我】君主・諸侯の自称である。“孤王”という言い方もある。	【私】〔余・わし〕発話人物は中年以上の年齢なら、②のように、「わし」と訳しても良い。	①中:来, 给孤说说此图。(『封神演義』10話0:05:48) 日:さあ、この絵の説明を。⇒さあ、余にこの絵の説明を。 ②中:孤亦深爱此子。(《三国演义》55話0:08:22) 日:⇒わしもこの子を甚く可愛がっておる。
官人	呼称詞	【老公】一般家庭の既婚女性が自分の夫を呼ぶとき、または指すときに用いる。	【あなた】〔旦那さま〕	中:宜人那你自己以为呢? (《新白娘子传奇》5話0:25:44) 日:⇒旦那さまご自身はいかがとお思いですか。
寡人	1人称	【我】君主・諸侯の自称である。	【私】〔余・わし〕発話人物は中年以上の年齢なら、②のように、「わし」と訳しても良い。	①中:寡人倒想把这重任给你担当。(『孔子』0:05:13) 日:余はそちにこの重責を任せたい。 ②中:寡人当将国政委于何人啊? (《东周列国春秋篇》8話0:10:10) 日:⇒わしは国政を誰に任せれば良いのか。
何	代名詞	【什么】単独でも、“何人”“何事”	【何・何の・どのような】良く見ら	①中:这个字作何解释? (《秦时明月之诸子百家》20 話 0:12:20)

中国語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
		“何处”のように、名詞を修飾する形で用いられることができる。	れる組み合わせの“为何”と“何处”は日本語の疑似古語「何ゆえ」と「いずこ」で対応できる。それ以外の組み合わせは決まった訳し方がなく、修飾する内容によって、適切な訳語を考える。例えば③のように、“何人”を「誰」と訳し、文末に「おる」を用いて古めかしさを出す。	日⇒この字は <u>どういう</u> 意味で <u>ござりますか</u> ? ②中:又 <u>为何</u> ? (『封神演義』10話0:28:30) 日:その <u>訳</u> は? ⇒ それはまた <u>何ゆえ</u> ? ③中:这个院子是 <u>何人</u> 居住? (《神探狄仁傑1》p.426) 日⇒この屋敷には <u>誰</u> が住んで <u>おる</u> ? ④中:此后姜兄将去 <u>何处</u> ? (『封神演義』10話0:10:53) 日: <u>どこ</u> に行くおつもりで? ⇒ <u>いずこ</u> へ行くおつもりで?
何故	副詞	【为什么】	【なぜ】 [何ゆえ] ②のように、訳さずに他の部分で古めかしさを出すのも良い。	①中:文远将军 <u>何故</u> 到此? (『三国』21話0:05:00) 日:文遠將軍、 <u>何事</u> か? ⇒文遠將軍、 <u>何ゆえ</u> ここに? ②中:既意不在魚、 <u>何故</u> 伤它。(『封神演義』16話0:40:11) 日:釣る気もないのに、傷つけられ <u>ぬ</u> 。
乎	助詞	【吗】疑問または反語を表す。頻繁に用いられていない。近年の作品ではあまり用いられなくなった。	【か】古めかしさを出したいなら、他の部分で工夫する。	中:敢问上面, 可是大汉皇叔刘备刘玄德 <u>乎</u> ? (『三国』22話0:40:15) 日:そこの方、漢の皇叔、劉備 <u>殿</u> ではありません <u>か</u> ? ⇒そこの方、漢の皇叔、劉備 <u>殿</u> ではありませ <u>ぬか</u> ?
皇上	呼称詞	皇帝を呼ぶまたは指す時に用いる。	〔陛下・主上〕小説などの文字翻訳の場合は、①のように、中国語の漢字に日本語の読みを振るという手法を用いて訳すことができる。	①中: <u>皇上</u> 只知其一, 不知其二。(『鹿鼎記』p.156) 日: <u>皇上</u> <sup>おかみ</sup> 、それは浅はかでございますぞ。(『鹿鼎記一』p.202) ②中:臣妾以为, <u>皇上</u> 应舍小利而取大义。(《大明宮詞》1話0:24:57) 日⇒私は、 <u>陛下</u> は小利を捨てて大義を取るべきだと思っております。
可	助動詞	【可以】単音節語として用いられる。	【できる】古めかしさを出したいな	①中:陛下不 <u>可</u> 太心急。(『三国』21話0:32:57)

中国語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
			ら、他の部分で工夫する。	日⇒お焦りになってはなりません。 ②中:陛下不可。(『三国志国際スタンダード版』15話0:04:07) 日:陛下、行けません。⇒ 陛下、行けません。
客官	呼称詞	【客人】宿屋や飯屋などの店の使用人がお客さんを呼ぶときに用いる。	【お客様】【お客人】①と②のように他の部分で古めかしさを出しても良い。	①中:客官, 你们的菜齐了, 慢用。(『封神演義』36話0:38:07) 日:どうぞ、これですべて揃いました。 ⇒どうぞ、これですべて揃ったでござんす。 ②中:怎么客官, 您没听说?(《神探狄仁傑1》p.59) 日⇒あれ? お客人はお聞きにならなかったでげすか?
老夫	1人称	【我】年配の男性が目下の人間に対して自称する時に用いる。多くの場合は、尊大感が伴う。	【我】[わし・わしゃ] 比較的身分の高い老人キャラが用いる場合は、「わし」と訳す。②のように、田舎の老人キャラが用いる場合は、身分が低いことを表現するために、「わしゃ」と訳したほうがいい。	①中:死, 对老夫来说没什么可怕的。(『天龍八部』34話0:05:39) 日:もはや、わしは死など恐れておらぬ。 ②中:(田舎の老人)老夫没有听错吧?(『尋秦記』2話0:13:45) 日:お前、咸陽に行く気が? ⇒ わしゃ、聞き間違っってねえよな?
老衲	1人称	【我】年輩の僧侶が自称するときに用いる。	【私】[愚僧・老僧・拙僧]	①中:国师的拈花指功如此了得, 老衲佩服了。(『天龍八部』31話0:28:26) 日:そなたの拈花指は見事なものだ。恐れ入った。 ⇒そなたの拈花指は見事なものだ。老僧は恐れ入った。 ②中:这口宝剑还请收回, 老衲恭送下山。(《倚天屠龍記》p.13) 日:剣をお返しして、愚僧が下まで送って進めましょう。(『倚天屠龍記一』p.28)
老身	1人称	【我】年輩、かつ身分の比較的高い女性が自称するときに用いる。尊大感が伴う。	【私】[わし]	①中:老身并无大碍, 快让御医来看看这个不忠不孝的畜生胡安吧。(『封神演義』32話0:25:43) 日:大丈夫よ。すぐに侍医を呼んでこの愚か者を診せなさい。

中国語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
				⇒ <u>わし</u> は大事ない。早く侍医を呼んでこのたわけ者を診てやっておくれ。 ②中: <u>老身</u> 有个主意。(《漢武帝》1話0:38:08) 日:⇒ <u>わし</u> は一つの案がある。
老朽	1人称	【我】年輩の男性が自称する時に用いる。謙遜な感じが伴う。	【わたくし】謙遜のニュアンスが強いため、「わし」と訳さないように注意する。古めかしさを出したいなら、①と②のように他の部分で工夫する。	①中: <u>老朽</u> 愿收其为徒,带回终南山,你看可好啊!(《封神演義》8話0:22:24) 日:弟子にして終南山に連れ帰ってもよいか。 ⇒ <u>姫昌</u> どの、彼を弟子にして終南山に連れ帰っても構わぬか。 ②中:(宰相⇒皇帝) <u>老朽</u> 也是感佩不已。(《秦始皇》30話0:33:50) 日:⇒ <u>わたくし</u> も感服いたしており <u>ます</u> 。
乃	副詞	【是】「…は…である」という意味の文で“是”の代わりに用いられる。“乃是”の形で用いられることもある。	【である】古めかしさを出したいなら、①と②のように他の部分で工夫する。	①中:女媧 <u>乃</u> 上古正神。(《封神演義》1話0:12:34) 日:女媧は人類を作った太古の神 <u>です</u> 。⇒女媧は人類を作った太古の神で <u>ござります</u> 。 ②中:他不敢听我箫声, <u>乃是</u> 有自知之明。(《射雕英雄传2》p.692) 日: <u>わし</u> の笛の音を聞かないのは賢明というもの <u>じゃ</u> 。(《射雕英雄伝三》p.62)
爹/娘	呼称詞	【爸爸/妈妈】親しみを込めて母親を呼ぶ時に用いる。比較的身分の低い登場人物が使用することが多いが、皇太子などの身分の高い登場人物が私的な場面において使用することもある。	【父さん/母さん】[おっとうさん/おっかさん・ととさま/かかさま・父上/母上] 発話人物の年齢や身分に応じて訳す。身分の低い子供なら「おっとうさん/おっかさん」と訳し、身分の高い子供「ととさま/かかさま」と訳す。身分の低い大人なら「父さん/母さん」、身分の高い大人なら「父上/母上」と訳す。	①中:(皇太子⇒皇后) <u>娘</u> ……你不能死啊!(《封神演義》5話0:39:00) 日: <u>母上</u> 、死なないで! ②中:(百姓の男性⇒両親) <u>爹</u> , <u>娘</u> , 你等放心!(《大秦帝国第一部(下)》p.546) 日:⇒ <u>父さん</u> , <u>母さん</u> 、案ずるな!

中国語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
娘娘	呼称詞	目下の人間が皇太后、皇后、妃に対して呼ぶとき、または指すときに用いる。 “皇后娘娘” “〇妃娘娘” “苗字+娘娘” の形で用いられることもできる。	〔皇太后様・皇后様・妃様〕	①中: <u>娘娘</u> , 我帮您梳。(『封神演義』5話0:14:30) 日:では、今致します。 ⇒ <u>皇后様</u> 、わたくしが致します。 ②中:即使 <u>太后娘娘</u> 发现了, 也一定以为是巧慧的错。(《美人心計》31話0:10:30) 日:⇒たとえ <u>皇太后様</u> が気付いたとしても、巧慧のせいだと思うに違いありません。
娘子	呼称詞	【老婆】一般家庭の既婚男性が妻を呼ぶとき、または指すときに用いる。皇族や貴族は用いない。	【あなた】〔そなた〕無理に訳さずに他の部分で古めかしさを出しても良い。	①中: <u>娘子</u> , 我又何时骗过你呢? (『封神演義』10話0:22:00) 日:私は嘘はつかん。⇒ <u>そなた</u> を騙したこと今まであったか? ②中: <u>娘子</u> 你不用说我也知道了。(《新白娘子伝奇》24話0:06:38) 日:⇒ <u>そなた</u> は何も言わなくとも分かるからさ。
奴婢	1人称	【我】宮廷または貴族の屋敷に仕える女性使用人が自分の主に対して自称する時に用いる。	【わたくし】古めかしさを出したいなら、他の部分で工夫する。	①中: <u>奴婢</u> 8岁离开东鲁时是不认识姜环。(『封神演義』5話0:33:34) 日:当時は姜環を知りませんでした。⇒当時は姜環を <u>存じ</u> ませんでした。 ②中:小主叫 <u>奴婢</u> 好找。(《后宫甄嬛伝2》p.6) 日:⇒莞嬪 <sup>ワンヒン</sup> <u>さま</u> 、 <u>わたくし</u> はずっと捜して <u>おり</u> ました。
奴才	1人称	【我】宦官が皇族と貴族に対して、または明朝・清朝の大臣が皇族に対して自称する時に用いる。	【私】〔やつがれ・ <sup>わたくし</sup> 私め・それがし〕発話人物は宦官の場合は、①のように「やつがれ」または「 <sup>わたくし</sup> 私め」と訳す。②のように大臣が使用する場合は「それがし」と訳す。	①中: <u>奴才</u> 就只知道赤胆忠心, 给皇上办事。(《鹿鼎記》p.156-157) 日: <u>やつがれ</u> はひたすら忠心を以て皇上にお仕えするのみ。(『鹿鼎記一』p.203) ②中: <u>奴才</u> 年羹尧叩见四爷, 十三爷。(《雍正王朝》1話0:12:13) 日:⇒ <u>それがし</u> 年羹尧、四親王さま、十三親王さまにご拝謁つかまつります。

中国語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
诺; 喏	名詞	【是・明白了】目下の者が目上の者に対して返答する時に用いる。	【はい・承知した】〔御意・ははあ・はっ!〕相手の身分によって訳し方が変わる。①のように、君主に対して言う場合は「御意」または「ははあ」と訳し、②のように、上司に対して言う場合は「承知した」または「はっ!」と訳す。	①中:(臣下が君主に対して) 诺! (『三国』 21 話 0:07:36) 日:失礼します。⇒御意! ②中:(兵士が上司に対して) 诺! (『三国』 21 話 0:03:06) 日:(訳なし) ⇒ 承知しました! / はっ!
平身	動詞	皇族の人間がひざまずいている者に対して、「お立ちなさい」という意味で用いる。	【お立ちなさい】〔面をあげよ〕日本語の「面をあげよ」は「立ってください」の意味ではないが、語のニュアンスと使用場面は中国語の“平身”と近いので、「面をあげよ」と訳して良い。	中:众卿平身。(『封神演義』 2話 0:37:58) 日:みんな、 <u>面をあげよ</u> 。
其	3人称	【他・她】主に身分の比較的高い登場人物が畏まった場面で用いる。複数形が存在しない。	【彼・彼女】〔あやつ〕①のように、あなどった態度で言う場合は「あやつ」と訳しているが、そうでない場合は、②のように他の部分で工夫をする。	①中: <u>其</u> 用心不軌, 与商鞅李斯如出一轍呀, 陛下! (『漢武帝』 5 話 0:17:04) 日:⇒陛下! <u>あやつ</u> には下心があって、商鞅李斯らと同じでござりますぞ。 ②中:老朽愿收 <u>其</u> 为徒, 带回终南山, 你看可好啊! (『封神演義』 8 話 0:22:24) 日:弟子にして終南山に連れ帰ってもよいか。 ⇒ <u>姬昌</u> どの、 <u>彼</u> を弟子にして終南山に連れて帰っても構わ <u>ぬ</u> か。
岂	副詞	【难道】強い反問を表す。“岂敢” “岂能” “岂有” などの熟語で用いられることが多い。	決まった訳語が存在しない。前後の文脈やそれぞれの熟語の意味を考慮して適切な日本語疑似古語を用いて訳す。	①中: <u>岂敢</u> , 岂敢。(『天龍八部』 33話0:20:44) 日: <u>とんでもない</u> 。 ⇒ <u>滅相もない</u> 。 ②中:天下人 <u>岂</u> 不个个心寒, 人人自危。(『封神演義』 37 話 0:18:59) 日:民は不安を感じます。 ⇒民はみんな不安を感じ、怖くなりかね <u>ます</u> る。

中国語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
				③中:既然用了, <u>豈</u> 能后悔。(『三国』21 話 0:09:00) 日:使った以上、後悔しても仕方ない。 ⇒使った以上、後悔しても仕方 <u>あるまい</u> 。
卿	名詞	【你】君主が臣下に対して親しみを持って呼ぶときに用いる。さらに親近感を表す場合には、“爱卿”を用いる。	【あなた】[そなた・こなた] ①のように相手の名前を用いて訳しても良い。②のように、訳さずに他の部分で異なる疑似古語を用いて古めかしさを出すのも良い。	①中: <u>卿</u> 为何阻止朕?(『三国志国際スタンダード版』15 話 0:04:59) 日: <u>子龍</u> はどうして止めるのだ。 ②中: <u>爱卿</u> 有何妙计?(『三国』21 話 0:33:10) 日:そんな妙計が? ⇒ <u>そなた</u> 、どんな妙計? ③中: <u>爱卿</u> 辛苦了。(『封神演義』6 話 0:13:01) 日:ご苦労であった。⇒ <u>大儀であった</u> 。
然	接続詞	【然而・但是】比較的身分の高い登場人物が用いる。	【しかし・けれども】[なれど・されど]	中:两国罢战言和, 固然是我天朝之幸, <u>然</u> 更是突厥之幸。(《神探狄仁傑1》p.3) 日:⇒両国が戦を止めて和解したことは、むろん我が国の幸運である。 <u>なれど</u> 、突厥にとっては更に大きな幸運にござりましょう。
容	動詞	【允许】比較的身分の高い登場人物が用いる。	【(余裕を与えるという意味で)…させてください】例のように他の部分で古めかしさを出す。	中:陛下, 能不能 <u>容</u> 臣几日, 想一想办法?(《神探狄仁傑1》p.421) 日:⇒陛下、方法を考えます <u>ゆえ</u> 、 <u>しばしお時間をくだりませ</u> 。
汝	2人称	【你】身分の高い者が目下の者に対して呼ぶときに用いる。相手を見くびっているニュアンスがある。複数形は“汝等”。	【你】[汝・おぬし・うぬ]	①中:当初权战是 <u>汝</u> , 如今要降, 又是 <u>汝</u> !(『三国演義国際スタンダード版』9話0:05:10) 日:先に徹底抗戦を叫びながら、今また降伏を唱える。 ⇒ <u>汝</u> ! 先に徹底抗戦を叫びながら、今また降伏を唱える。 ②中: <u>汝</u> 无官无爵, 又是庶出, 有难处么?(《大秦帝国第二部(上)》p.312) 日:⇒ <u>おぬし</u> は官位も爵位もなく、しかも庶民の出身で、難しいかのう?
如	副詞	【如果】の単音節語として用いられる。	【もし・もしも…ならば】古めかし	中:大王已下旨, 王后 <u>如</u> 不招认, 只能用刑了。(『封神演義』5 話 0:26:51)

中国語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
		“有”以外の動詞を直接修飾することができない。例えば“你如喜欢”は言わない。この場合は、“若”を用いる。	さを出したいなら、他の部分で工夫する。	日:王は罪を認めねば目をえぐると。 ⇒陛下はすでに勅旨を下した。 <u>もし</u> 罪を認め <u>ねば</u> 目をえぐると。
若	接続詞	【如果】“如”と違って、動詞を直接修飾することができる。	【もし・もしも…ならば】古めかしさを出したいなら、他の部分で工夫する。	中:你 <u>若</u> 赢了我, 兵车给你 500 乘。(『孔子』 0:25:40) 日: <u>わし</u> に勝てば兵車を出そう、500 台な。
甚	副詞	【很・非常】単独で単音節の形容詞を修飾することができるが、2 音節以上の語を修飾する場合は、“甚是”または“甚为”を用いる。	【非常に・大変】「甚く」と訳すことができる文は限られている。訳せない場合は、他の部分で古めかしさを出す。	①中:大都督所言 <u>甚是</u> 。(『三国志国際スタンダード版』 11 話 0:08:42) 日:そこまで言われるのなら。⇒ 大都督のおっしゃる通り <u>でござる</u> 。 ②中:所以, 学生认为李将军之言 <u>甚为</u> 有理。(《神探狄仁傑 1》 p.433) 日:⇒ <u>ゆえに</u> 、李將軍のおっしゃったことはごもっともでございます。 ③中:此酥滋味 <u>甚美</u> , 快来尝尝。(《三国演义》 55 話 0:13:08) 日:⇒この菓子の味は大変 <u>美味</u> <sup>びみ</sup> <u>でござる</u> 。 <u>早う</u> 味わってみなさいな。
生辰	名詞	【生日】	【誕生日】古めかしさを出したいなら、例のように他の部分で工夫する。	中:因为明天是王后姐姐的 <u>生辰</u> 。(『封神演義』 3話0:18:32) 日:明日は皇后様の <u>お誕生日</u> です。 ⇒明日は皇后様のお誕生日で <u>ござります</u> 。
圣上	呼称詞	皇帝を呼ぶまたは指すときに用いる。明朝・清朝を舞台とする作品での使用が比較的多い。	【陛下・主上】	中:老臣已经痊愈, 蒙 <u>圣上</u> 赐药, 令臣感激之至! (《康熙大帝4》 p.337) 日:⇒それがしは完治しました。 <u>陛下</u> よりお薬を賜りまして、恐悦至極に存じます。



中国語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
厮	呼称詞	【家伙】他人を軽蔑に言うときに用いる。ほとんど“这厮”または“那厮”の形で用いられる。	【こいつ・そいつ・あいつ】〔こやつ・そやつ・あやつ〕①のように“这厮”は「こやつ」と訳し、②のように“那厮”は「そやつ・あやつ」と訳す。	①中:把 <u>这厮</u> 给我拿下! (《神探狄仁傑1》p.57) 日:⇒ <u>こやつ</u> を捕えてくれ! ②中:大哥,你就是心善,忘了袁术 <u>那厮</u> ,当年如何欺负人,断了咱们的粮饷了? (『三国』21話0:11:55) 日:兄者は人が良すぎる。昔、兵糧を断たれひどい目に遭ったぜ。 ⇒兄者は人が良すぎる。昔、 <u>あやつ</u> に兵糧を断たれ、ひどい目に遭ったぜ。
望	動詞	【希望】の単音節語として用いられる。	【～してほしい・～と願いたい】〔願わしゅう存じます〕例のように、他の部分で「疑似古語」を用いて古めかしさを出すのも良い。	中:还 <u>望</u> 太平公主恕不敬之罪。(《大明宮詞》7話0:03:09) 日:⇒姫君、ご無礼をお許し <u>願わしゅう存じます</u> 。 <u>拙者</u> のご無礼をご容赦 <u>くださりませ</u> 。
万岁	呼称詞	主に清朝の皇帝を呼ぶまたは指すときに用いる。“万岁爷”とも。	〔陛下・主上〕	中: <u>万岁爷</u> 怎么就知道今天会有这么个天大的喜事。(《大明王朝》2話0:01:06) 日:⇒ <u>主上</u> はどうして今日、大きなめでたいことがあるとご存知でしたか。
勿	副詞	【不要】禁止の意味を表す。現代語では、主に一部の熟語または文章語として用いられる。	【するな・～しないで】〔動詞+でない〕発話者と相手との関係、禁止の意の強さに応じて訳す。①のように、目下の人に対して禁止の意も強い場合は、「動詞+でない」と訳している。②のように、目上の人に対して言う場合は、「動詞+でない」を使用せず、他の部分で古めかしさを出す。	①中:照常行进,切 <u>勿</u> 喧哗。(『大秦帝国第一部(下)』p.452) 日:⇒このまま進め、騒ぐ <u>でない</u> ! ②中:上大夫且 <u>勿</u> 怪罪他们才是呢。(『大秦帝国第二部(下)』p.358) 日:⇒張大夫殿、彼らを咎めないで <u>くださりませ</u> 。

中国語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
吾	代名詞	【我・我的・我們的】“吾皇”の形で用いられることが多い。または手紙などで文章語として用いられる。主に身分の高い登場人物が用いる。	【私・私の】〔われ・わが〕	①中: <u>吾</u> 去安陸五六日还。(《大秦帝国第二部(下)》p.415) 日:⇒ <u>吾</u> は安陸へ参り、五、六日帰す！ ②中:老臣叩見 <u>吾皇</u> ，万岁万岁万万岁。(《宰相劉羅鍋》3話0:43:38) 日:⇒ご挨拶申し上げます。 <u>わが陛下</u> 万歳万歳万々歳。
相公	呼称詞	一般家庭の既婚女性が夫を呼ぶまたは指すときに用いる。	【あなた】〔旦那様〕	中: <u>相公</u> ，你吩咐我说的话我已经照着说完了。(《武林外伝》43話0:36:47) 日:⇒ <u>旦那様</u> に申された通りに話しました。
宵小	名詞	【坏人】	【悪人】古めかしさを出したいなら、例のように他の部分で工夫する。	中:想不到，狄怀英一代名臣，竟然死于 <u>宵小</u> 之手！(《神探狄仁傑 1》p.41) 日:⇒狄殿のような名臣は悪人にやられたとは、 <u>無念じゃ</u> ！
休	副詞	【不要】強い禁止の意を表す。「“休+得(+要)+動詞”の形で用いられることが多い。“勿”より禁止の意が強い。	【するな】〔動詞+でない〕	①中:老乌龟， <u>休得</u> 伤了太后！(《鹿鼎记》p.239) 日:おいぼれ、皇太后さまに手を出す <u>な</u> ！(『鹿鼎記一』p.338) ⇒おいぼれ、皇太后さまに手を出す <u>でない</u> ！ ②中:自今而始， <u>休言</u> 立太子之事——直至朕死！(《康熙大帝4》p.249) 日:⇒今日から朕が死ぬまで、世継ぎの事を <u>言い出すでない</u> ！ ③中: <u>休得</u> 胡言，这是洛阳。(《大秦帝国第一部(上)》p.133) 日:⇒でたらめなことを <u>言うでない</u> ！ここは洛陽だ。
言	動詞	【说】	【言う・話す】〔申す〕翻訳しにくい場合は、①のように他の部分で古めかしさを出す。	①中:听安邑传闻， <u>言</u> 先生为商道奇人，多有才具。(《大秦帝国第一部(上)》p.101) 日:⇒安邑での噂によれば、猗殿は凄腕の商売人で、才能と器量の持ち主だそう <u>でござる</u> 。 ②中:不必多 <u>言</u> ，老夫主意已定！(《三国演义》2話0:32:00) 日:⇒もう何も <u>申す</u> な。ワシはそう決めた。

中国語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
				<p>③中:卿若不<u>言</u>, 孤几乎误了大事啊。(『三国志国際スタンダード版』15話0:43:08)</p> <p>日:<sup>かんたく</sup>關沢の<u>言葉</u>がなければ、余は将来を誤るところであった。</p> <p>⇒そなたが<u>申さなければ</u>、余は将来を誤るところであった。</p>
恙	名詞	【病】ほとんど“有恙”“抱恙”の熟語の形で用いられる。否定する時は“无恙”を用いる。単独で主語になれない。	【病氣】〔 <sup>やまい</sup> 病〕例の元の翻訳のように、他の部分で古めかしさを出すのも良い。	<p>中:会不会是我女儿身体有<u>恙</u>? (『封神演義』9話0:24:48)</p> <p>日:<u>もしや</u>娘の身に何かあったのでは?</p> <p>⇒<u>もしや</u>娘が<u>病</u>になったのでは?</p>
也	助動詞	文末に置き、判断または説明の語気を表す。“乃”とともに用いられることが多い。	【である・だ】①と②のように、他の部分で古めかしさを出す。	<p>①中:因为丘乃<u>士也</u>。(『孔子伝』3話0:23:50)</p> <p>日:私も“士”ですから。⇒私も“士”です<u>ゆえ</u>。</p> <p>②中:国贼乃曹丕, 非孙<u>权也</u>。(『三国志国際スタンダード版』15話0:04:13)</p> <p>日:国賊は曹丕です。孫権ではありません。</p> <p>⇒国賊は曹丕です。孫権ではございませ<u>ぬ</u>。</p>
在下	1人称	【我】男性の登場人物が自分のことを謙遜して指すときに用いる。	【私】〔それがし・拙者・手前・わたくし〕発話者の身分や相手との関係によって、適切な日本語の自称詞を用いて訳す。例えば、①の台詞の発話者は武術の達人であり、豪放磊落な性格であるため、「手前」と訳し、②の発話者は朝廷の文官であるため、「それがし」と訳したほうが人物の雰囲気に近い。	<p>①中:(武術の達人⇒僧侶)家父犯下杀人罪孽, 都是因<u>在下</u>而引起的。(『天龍八部』33話0:52:11)</p> <p>日:父が犯した殺人の罪は、すべて<u>私</u>が原因。</p> <p>⇒父が犯した殺人の罪は、すべて<u>手前</u>が原因。</p> <p>②中:(朝廷の官吏⇒姫)<u>在下</u>昨天去牡丹阁查户口, 看到了驸马。(『大明宮詞』12話0:12:24)</p> <p>日:⇒<u>それがし</u>、昨日牡丹閣へ戸籍を調べに参った時、姫君のお婿殿を見かけました。</p>

中国語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
朕	1 人称	【我】皇帝の代表的な自称詞。使用頻度が高。女性の皇帝でも使用できる。	【私】朕 ほとんどの場合は、「朕」と訳して問題ない。②のように、一つの文の中で2回以上現れる場合は、一箇所だけ訳せばいい。	①中:朕不知道。(『三国』22話0:07:08) 日:(字幕)寡人は何も知らぬ。(吹替)朕は知らぬ。 ②中:朕读了你的书, 朕气病了。(《漢武帝》1話0:02:57) 日:⇒朕はそちの本を読んで、怒りのあまり具合が悪くなった。
之	助詞	【的】限定語と中心語の間に用いて、所属や修飾関係を表す。単音節の中心語と共起することが多い。	【の】他の部分で古めかしさを出す。	中:此乃亮为将军谋划之大业。(『三国志国際スタンダード版』5話1:12:06) 日:これが將軍に獻ずる<天下三分の計>です。 ⇒これが將軍のために考えた「天下三分の計」でござります。
足下	2 人称	【您】比較的身分の高く、教養のある男性が自分と同等の相手に対して用いる敬称である。近年のエンターテインメント性が強い大衆向けの作品ではあまり用いられない。	【あなた】〔貴殿・貴公〕	①中:敢问足下现居何官职啊?(《三国演义》48 話 0:07:37) 日:それで貴方の官職は何ですか? ⇒それで貴殿の官職は何ですか? ②中:我对足下的估计过高了。(『三国』22話0:19:52) 日:見損ないましたよ。⇒貴公を買いかぶっていた。
别来无恙?	慣用句	【最近好吗?】知り合いと久しぶりに会ったときに用いる挨拶言葉。	【お変わりありませんか・お久しぶりです】〔お久しぶりです〕	中:老太太, 别来无恙?(『大秦帝国第一部(下)』p.617) 日:⇒大師殿、お久しぶりです。
此言差矣!	慣用句	【你这话不对】“所言差矣”“此话差矣”などのバリエーションが存在する。	「その言葉は間違っている」という意味で、発話者と相手の関係や前後の文脈に合わせて訳す。例えば、②のように、相手は目上の人間であるため、敬意の高い日本語疑似古語を用いて訳したほうがいい。	①中:此言差矣, 你我兄弟情谊, 已经超过了半百之年。(『封神演義』11話 0:23:51) 日:何を言う。お前とは半世紀の付き合いだぞ。 ⇒何を申す。お前とは半世紀の付き合いだぞ。 ②中:少主所言差矣。(『封神演義』16話0:37:13) 日:若様、違います。⇒若様、今の発言、間違っております。

中国語疑似古語	種類	使用上の特徴	翻訳のポイント	使用例&翻訳例
拿你是问	慣用句	【由你来承担责任】“唯你是问”とも言う。主に目下の人間に対して、何か命令した後、この一言を付けて、「失敗は許せないぞ」と言うプレッシャーを相手にかける場面で用いられる。	【あなたに責任を取ってもらう】例のように、「おぬし」、「そち」などの日本語「疑似古語」の人称詞を付け加えて古めかしさを表現する。	①中:此事只能办好, 如有差错 <u>拿你是问!</u> (《秦始皇》3話0:11:06) 日⇒この件を成功させるのみじゃ。もし失敗したら <u>おぬしに責任を取ってもらうぞ</u> 。 ②中:朕都要 <u>拿你是问!</u> (《漢武帝》22話0:42:22) 日⇒ <u>そちにすべての責任を取ってもらうぞ!</u> ③中:说 <u>拿你的脑袋是问</u> 啦。(《宰相劉羅鍋》21話0:05:19) 日⇒ <u>おぬしの首に責任を取ってもらう</u> そうじゃ!
有何贵干	慣用句	【有什么事吗?】	【何の御用ですか】	①中:公子 <u>有何贵干</u> 啊? (『尋秦記』2話0:07:30) 日: <u>何の御用でしょうか</u> 。 ②中:光临少林寺, 不知 <u>有何贵干</u> ? (《倚天屠龙记1》p.13) 日:少林寺へ見えられたのは、 <u>何の御用かな?</u> (『倚天屠龍記①』p.26)
〇〇驾到	慣用句	【〇〇来了】「〇〇」の部分に皇族・貴族の偉い人間を指す語が入る。“皇上驾到”“公主驾到”“太后驾到”など。	【〇〇がお見えです】〔〇〇のおなり〕	①中:鲁君驾到! (『孔子』0:03:57) 日:魯殿の <u>おなり!</u> ②中:公主殿下 <u>驾到!</u> (『天龍八部』36話0:38:27) 日:姫君の <u>お成り!</u>
〇〇惶恐	慣用句	【〇〇不敢】①君主に疑われた時、または詰問された時に、「申し訳ありません」という意味で用いられる。②君主に対して、恐縮の気持を表すときにも用いられる	【申し訳ありません・恐縮です】〔申し訳ございませぬ・恐縮でござります〕	中: <u>臣妾惶恐</u> , 误听人言才引来如此误会。(《后宫甄嬛传2》p.7) 日⇒ <u>申し訳ございませぬ</u> 。わたくしが導を信じたせいで、かような誤解を招いたのです。

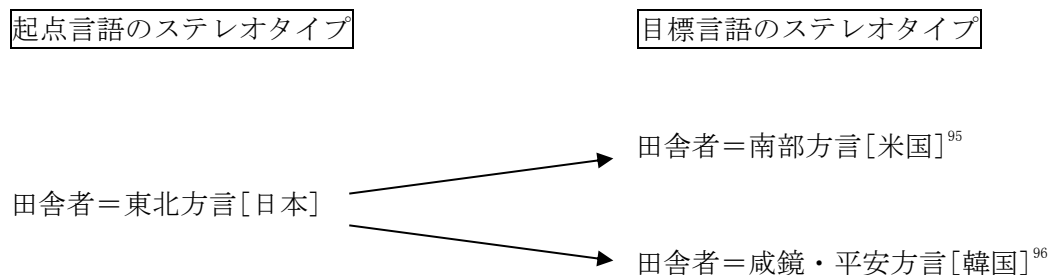
### 5.3 「疑似古語」を使用する理由

なぜ「時代ものフィクション作品」を翻訳する際に「疑似古語」を使用したほうがいいのか。これには二つの大きな理由が考えられる。

一、語彙レベルでは、起点言語にできる限り忠実に翻訳しなければならない。

単語の意味だけでなく、その単語が持つ文体的特徴も忠実に翻訳することが望ましい。例えば、英語の場合、基本「朝っぱら」は「morning」に、「黎明」は「dawn」に訳されている。また、Edwards(1985)は言語の機能を「伝達機能」と「象徴的機能」に分けている。<sup>94</sup>「伝達機能」には「内容的情報」が含まれ、「象徴的機能」には「象徴的情報」が含まれると考えられる。しかし、本章に行った考察の結果を見ると、「疑似古語」が翻訳される際に、「内容的情報」だけが表現され、「象徴的情報」が表現されていない訳語が数多く見られた。

二、目標言語の聞き手や受け手が持つ言語面のステレオタイプと同調しなければならない。



上記図のように、方言の場合は、異なる言語間における適切な転換は非常に手間のかかることであるが、多くの翻訳者はできる限り起点言語が持つ方言のイメージを表現しようとする。文学作品の翻訳におけるステレオタイプの同調はいかに大切であるかが分かる。目標言語に「疑似古語」が存在しない場合は仕方がないとしても、目標言語に「疑似古語」が存在する場合は、仮に訳語が、目標言語の聞き手が持つ「古い時代の人間＝古めかしい喋り方」というステレオタイプに添えなければ、恐らく聞き手は大きな違和感を覚えるだろう。一方、178 ページに挙げた「ニセ関西弁」に翻訳された例もこのステレオタイプの同調によるものであると考えられる。

<sup>94</sup> 「Communicative function」と「symbolic function」.

<sup>95</sup> トーマス・マーチン・ガウバツツ(2007)p.136

<sup>96</sup> 鄭惠先(2007)p.91

## 第六章 終章

本章では、まず本論文の考察によって得られた成果及び不十分な点を示す。次に、「疑似古語」研究の今後の展開について、その方向性と可能性を提示したい。

### 6.1 本論文の成果のまとめ

① 先行研究では、歴史小説や時代小説などの文芸作品に現れる「非現代語」の存在を指摘し、歴史小説や時代小説などのフィクション作品を用いて証明したが、これらの「非現代語」について、明確な定義はされていなかった。そこで、本論文はまず第一章でこれらの現代語に現れる古語らしい言葉づかいを「疑似古語」と呼び、その定義と分類、及び具体的な特徴を述べた。

② 先行研究では調査されていなかったメディア(映画、テレビ、漫画・アニメ、ライトノベル)の時代ものフィクション作品を新たに調査対象として追加したことで、現代における「疑似古語」の使用様相の全貌をある程度掴むことができたと思われる。

③ 日本語の「疑似古語」だけではなく、中国語の「疑似古語」についても考察を行い、不完全ではあるものの、初めての中国語「疑似古語」に対する考察を行った。中国語「疑似古語」研究への取り組みを促すという点では、十分な意義があると思われる。さらに両言語の「疑似古語」について、いくつかの視点から対照分析を行い、「疑似古語」の習得に影響を与える可能性のある要素および現存の問題点を明らかにした。

④ 「疑似古語」の日中・中日翻訳の実態について調査を行い、存在する問題点を明らかにし、さらに現状を改善するための手段を提示した。改善策の一つとして、日本語と中国語それぞれの代表的な「疑似古語」について、その意味用法、使用人物の特徴、使用場面、対応する訳語、翻訳する際の注意点などを詳しく示した対訳リストを作成した。この対訳リストは翻訳者のサポート、および今後辞書を編纂する際の参考として役に立つと思われる。

### 6.2 不十分な点と今後の課題

① 本論文では日本語と中国語の両方の使用頻度が比較的高い「疑似古語」について考察を行ったが、使用頻度の低い「疑似古語」まで調査するに至っていない。また考察した

「疑似古語」の一部は、分析に用いる用例数が十分ではなかったため、個々の「疑似古語」の使用様相についての分析にはまだ不十分なところが存在する。今後、各「疑似古語」の用例を更に増やし、各語の具体的な使用状況をより明確に示したい。その上で、「疑似古語」の日中・中日対訳リストをより充実させ、その成果をウェブページなどで公開する予定である。

②「疑似古語」の使用実態を考察するにあたって、メディアの種類による使用上の相違が存在することも考えられるが、本論文の考察ではメディアと「疑似古語」の使用状況との関係についての分析を割愛した。今後の課題として、各メディアの作品数を増やし、それぞれのメディアに見られる「疑似古語」の使用上の特徴を明らかにしたい。

### 6.3 「疑似古語」研究の展開

「疑似古語」研究の今後の発展の可能性としては、いろいろな方向性が考えられる。ここでいくつかのアプローチ方法を挙げてみたい。

#### ①「疑似古語」の歴史的考察

本論文は、現代語の中にすでに定着した「疑似古語」の使用現状を重点的に考察したが、「疑似古語」はいつ、どのように生まれてきたか、初期の「疑似古語」はどのような変化を経て現在のようになったのかなどの歴史的考察も大きな意義を持っている。「役割語」の起源に関する研究はすでに行われており、例えば、「博士語」は十八世紀後半から十九世紀にかけての江戸時代までさかのぼることができる<sup>97</sup>。また、同じく金水(2003)の考察によれば、「お嬢様ことば」<sup>98</sup>は明治二十年頃から明治四十年代まで、女学校の若い女生徒の間で流行していた「てよだわ言葉」から生まれてきたようである。現代に見られる「疑似古語」の起源については、日本語の場合は恐らく江戸時代の能楽、狂言、歌舞伎、人形浄瑠璃などの古典演劇作品から生まれたのであろう。能楽と狂言は室町・桃山時代頃から幕末まで武士のたしなむ芸能として、城の中でしか行われていなかったため、社会全体への浸透力は歌舞伎に比べて弱く、「疑似古語」の発展への貢献度も歌舞伎より劣っていると考えられる。以下に示した例①～⑤は江戸時代の歌舞伎作品からの台詞であり、下線部は「疑似古語」を示すために執筆者が付けたものである。

<sup>97</sup> 金水(2003)p.27 より。

<sup>98</sup> 「～て(よ)」 「動詞+わ」 「名詞+だ・です+わ」 「動詞(+ます)+の」といった語形を多用する言葉づかい。金水(2003)p.130 を参照する。



- ①雷蔵：それがし、是へ参りしは、下河部の庄司行平どのに対面なし、君の御和睦を願はん為、此御殿へ伺公いたしてござる。して、そのもとには何用有て、此所へは参られしぞ。  
(「御摂勧進帳 第一番目三建目」<sup>99</sup>)
- ②かの女：私は左様のことではござりませぬ。  
(「参会名護屋 第二番目」<sup>100</sup>)
- ③いやへ、虎には逢ひますまい、そなたに逢ふて、せめての義理を届けんためばかり。  
(「傾城阿佐間曾我第三番目」<sup>101</sup>)
- ④菊〔市之丞〕見事 そちも手打にすると言ふ事を知っているか。  
(「女土佐日記 上口明」<sup>102</sup>)
- ⑤又五郎「御 尤 もでござり升る。拙者も左様存じてから、御機嫌を見合せ御帰 館 有様にとお勧め 申 事でござりまする。」  
(「伊賀越乗掛合羽 口明」<sup>103</sup>)

現代日本語によく見られる「疑似古語」は江戸時代の歌舞伎作品の中にすでに用いられていたことが分かる。江戸時代以降もこれらの歌舞伎の演目が繰り返し上演され、当時の台詞の言葉づかいが新しい世代に受け継がれてきた。さらに大正時代より現れた時代小説は、戦前まで大いに盛り上がり、戦後も高い人気を保っている。初期の時代小説は恐らく歌舞伎の言葉づかいを真似していたと思われる。そして時代小説の普及とともに、これらの言葉づかいも社会全体へ浸透し、「疑似古語」として現代語の中に定着していったと思われる。江戸時代の演劇作品の用語が具体的にどのようなプロセスを経て、現代まで受け継がれてきたのかについてはまだ詳しく考察する必要がある。金水(2003)が「役割語」の形成は近代マスメディアの発達と深く関わっていると指摘した。この点では「疑似古語」も同様であろう。明治時代以降、出版メディア(一般書籍、新聞、雑誌など)、映画、ラジオ、テレビが次々と登場し、不特定多数の受け手への文字、画像、音声の伝達が可能になった。そして、「役割語」や「疑似古語」の知識もマスメディアを通じて全国へ広がり、多くの受け手に刷り込まれていく。特に人気のある、影響力の強い時代もののフィクション作品は、「疑似古語」の形成および定着に大きく貢献したと考えられる。明治時代以降から現代までの各時期の人気時代もののフィクション作品の言葉づかいを調査して比較す

<sup>99</sup> 『江戸歌舞伎集 新日本古典文学大系 96』p. 85 岩波書店 1997年11月

<sup>100</sup> 『江戸歌舞伎集 新日本古典文学大系 96』p. 14 岩波書店 1997年11月

<sup>101</sup> 『江戸歌舞伎集 新日本古典文学大系 96』p. 64 岩波書店 1997年11月

<sup>102</sup> 『歌舞伎台帳集成 第一巻』p. 114 勉誠社 1983年2月

<sup>103</sup> 『上方歌舞伎集 新日本古典文学大系 95』p. 103 岩波書店 1998年7月

ば、「疑似古語」の形成プロセスもある程度明らかになるだろう。

## ②「疑似古語」と言語意識

細川(2011)では、社会語用論的語史研究の中で「役割語」研究にとって最も重要なのは言語意識史であると述べ、その理由は「役割語は、書き手／話し手と読み手／聞き手双方が特定の言語意識を共有してさえいれば、実践における言語の使用例を無視して、新たな言語変種を創造し役割語として使用することさえ可能だからである。」と説明した。「疑似古語」研究においても、言語意識に関する研究が必要である。言語に対する意識はさらに発信する側(書き手／話し手)と受信する側(読み手／聞き手)に分けることができる。本論文は発信する側の「疑似古語」に対する意識が反映されている時代ものフィクション作品の台詞を調査したが、受信する側は「疑似古語」についてどのように認識しているのか、発信する側の認識との差異が存在するのかなど、まだ解明されていない点が残されている。具体的なアプローチ方法として、例えば読者・視聴者の年齢による認識の相違、日本語母語話者と外国人日本語学習者の認識の比較、同じ「疑似古語」に対する意識の変遷などが挙げられる。

## ③「疑似古語」と翻訳

「疑似古語」の翻訳についての議論は、主に「言語内翻訳」と「言語間翻訳」の二つの分野において展開できる。自国の古典文学作品を現代語へ翻訳する作業は「言語内翻訳」に属する。例えば、日本語の古語が分からない現代の読者も理解できるように、『源氏物語』の原文を現代日本語に翻訳する場合、石井(1986)の調査によると「非現代語(本論文における「疑似古語」)」を用いる訳者が少なくないようである。特に『源氏物語』のような有名な古典文学作品の現代語訳本は多くの人に読まれているため、訳本の中に用いられている「疑似古語」も一種の知識として多くの読者の脳に刷り込まれ、「疑似古語」に対する共通する認識の形成に大きな影響を与えたと考えられる。

「言語間翻訳」分野においては、ある自然言語の「疑似古語」を異なる言語へ翻訳する際に、どのように翻訳すれば起点言語の「疑似古語」が持つ「内容的機能」と「象徴的機能」の両方が目標言語で適切に再現できるかを明らかにすることが研究の主な目的となる。本論文で考察した日本語と中国語は、ともに東洋文化圏に属し、類似の社会的差異やそれに伴う言語現象が存在するため、翻訳は比較的容易である。日本語の「疑似古語」を西洋

文化圏に属する言語に翻訳する方が、より困難が多いと思われる。特に日本語にしかない呼称詞、キャラ語尾<sup>104</sup>、擬音語・擬態語の翻訳手法についての考察は不可欠である。細川(2011)では、ドイツにおける日本のマンガの翻訳方法について、「現在出版されているマンガの翻訳に当たっては、それまで主流であった(目標言語であるドイツ語・ドイツ文化を重視した)同化的翻訳方法ではなく、(起点言語である日本語・日本文化を重視した)異化的翻訳方法が好まれるようになっていく。」<sup>105</sup>と述べ、その例として、ドイツ語版『バガボンド』に見られる「侍ことば」の翻訳例を挙げた。

(1) „Kanemaki Jisai-Dono, nicht wahr?“ (鐘巻自斎殿ですな?)<sup>106</sup>

(2) „[...]friedlich meinem Ende entgegengehen, soro.“ ([...]安らかに自らの死へ向かい候)<sup>107</sup>

この二つの翻訳例のどちらも、日本語をそのまま借用するという翻訳手法を用いている。また借用語を用いる場合、説明や補足のための注記を伴うことが多い。この借用語および注記を利用する翻訳手法によって、今まで翻訳で表現できなかった日本語特有の言葉づかいが持つコノテーションを表すことができた。しかし、細川が指摘したように、「これらの新たに造られた言語変種が、翻訳作業や翻訳物から離れて自立したドイツ語の役割語になりうるか否かについては議論の余地があるだろう」<sup>108</sup>と言える。

#### ④「疑似古語」と言語習得

日本語学習動機が多様化している現在、「応用力」を養う日本語教育だけではなく、「言語文化能力」を養う日本語教育も必要だと考えられる。特に上級レベルの日本語教育では、「役割語」と「疑似古語」のような、教科書に出てこないスタイルの日本語を取り入れることによって、バリエーションに富んだ日本語の「真の姿」を示すことができる。「役割語」や「疑似古語」を外国語教育または翻訳教育に導入する必要性があることは言うまでもないが、現時点で、習得するための「インフラ」はまだいくつか改善しなければならない

<sup>104</sup> 特定のキャラクターに与えられた語尾。

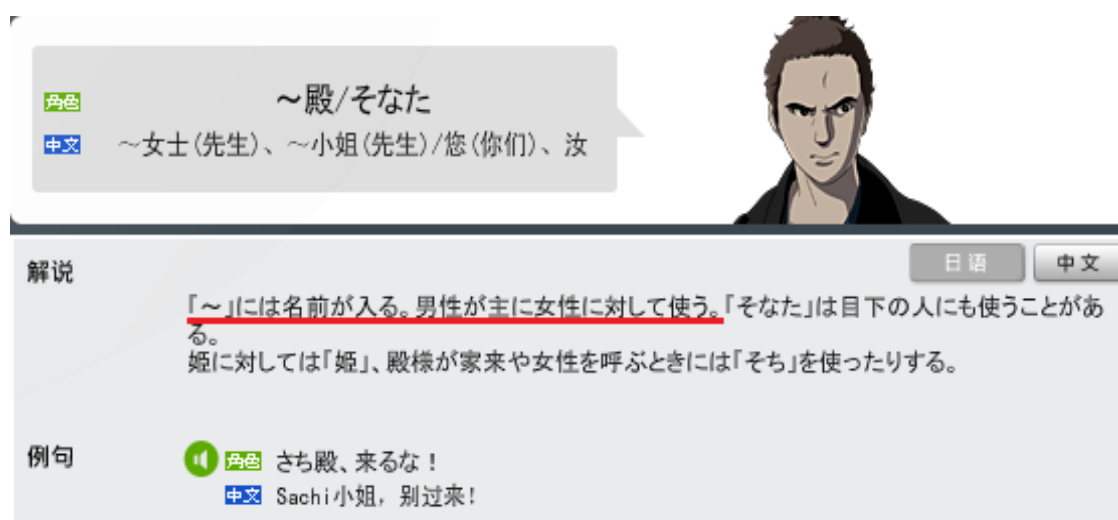
<sup>105</sup> 細川(2011 : 159)

<sup>106</sup> 細川(2011 : 164)

<sup>107</sup> 細川(2011 : 164)

<sup>108</sup> 細川(2011 : 165)

いところがある。一つ目は教育者側の「疑似古語」への認識の不備、二つ目は本論文で指摘した辞書の不備、三つ目は教材の不備である。一つ目の問題は、「役割語」研究の展開とともに、「疑似古語」の存在と日本語教育分野における必要性に気付く教師が今後増えると予想できる。二つ目の問題は短時間に改善することが難しく、長時間かつ広範囲の研究調査が必要とされる。三つ目の問題について、「役割語」を取り入れる教材の開発に取り掛かりはじめた組織と教師<sup>109</sup>がすでに現れたが、調査研究が十分ではないためか、不十分な解説などが見られる。例えば、下記の画像は、国際交流基金関西国際センターが開設したスペイン語、韓国語、中国語、フランス語の五ヶ国の言語に対応できるE-ラーニングサイト「アニメ・マンガの日本語」<sup>110</sup>から抜粋したものである。



赤い下線で示した解説は不適切だと思われる。本論文の考察によれば、「～殿」は男性が女性に対して使うケースも見られるが、男性が身分の高い男性に対して使う用例のほうが遥かに多い。また女性が身分の高い男性や高い役職に就いている女性(大奥の上臈御年寄など)に対して使うケースもある。この例のような誤りを避けるべく、「疑似古語」と「役割語」を日本語教育に導入するにあたって、更なる慎重な研究調査が必要である。

<sup>109</sup> 恩塚(2011)参照。

<sup>110</sup> <http://anime-manga.jp/chinese/CharacterExpressions/>より、「角色詞典」⇒「武士」⇒「称呼：～殿/そなた」の順に進む。(2013年3月16日最終アクセス)。なお、引用した絵に描かれたキャラクターは前記サイトによって新規制作されたものであり、著作権は前記サイトが所有している。

## 参考文献

### ◆日本語

- 石井久雄(1986)『古代的言語の享受と創造』(文部省昭和 60 年度科学研究費補助金による一般研究◎研究報告書).
- 市川スガノ(2008)『日常生活で使ってみたい「侍」の日本語』日本文芸社.
- 牛島徳次(1966)「中古漢語の人称と称呼」『中国語学』通号 159 号 中国語学研究会 pp.1-13.
- 大西克也(1992)「殷周時代の 1 人称代名詞の用法をめぐって一般周漢語研究の問題点」『中国語学』通号 239 号, pp.115-124 中国語学研究会.
- 大村彦次郎(2005)『時代小説盛衰史』筑摩書房.
- 小川環樹・荘司格一(1962)「古小説の語法―特に人称代名詞及び疑問代名詞の用法について」『集刊東洋学』8, pp.1-16 東北大学中国文史哲研究会.
- 柏野和佳子・奥村学(2010)「国語辞典に「古い」と注記される語の現代書き言葉における使用傾向の調査」『研究報告人文科学とコンピュータ(CH)』6, pp.1-6.
- 金田純平(2011)「要素に注目した役割語対照研究―「キャラ語尾」は通言語的なりうるか―」金水敏(編)『役割語研究の展開』pp.127-152 くろしお出版.
- 金水敏(2000)「役割語探求の提案」佐藤喜代治(編)『国語史の新視点 国語論究』第 8 集 pp.311-351 明治書院.
- 金水敏(2003)『もっと知りたい日本語 ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店.
- 金水敏(2006)「シンポジウム 対照役割語論への誘い(総括)」『KLS 26』Proceedings of the Twenty-seventh Annual Meeting June 4-5, 2005 関西言語学会, pp. 400-405.
- 金水敏(2007a)『『役割語』研究と社会言語学の接点』第 19 回社会言語科学会研究大会「社会言語学における『人の社会的属性』の扱いを問い直す」講演稿.
- 金水敏(編)(2007b)『役割語研究の地平』くろしお出版.
- 金水敏(編)(2011)『役割語研究の展開』くろしお出版.
- 郭俊海・全京姫(2006)「中国人大学生の日本語学習の動機づけについて」『新潟大学国際センター紀要第 2 号』pp.118-128 新潟大学.
- 熊野七絵(2010)「日本語学習者とアニメ・マンガ～聞き取り調査結果から見える現状とニ

- ーズ〜」『広島大学留学生センター紀要』第20号, pp.89-103.
- 熊野七絵(2011a)「アニメ・マンガの日本語—ジャンル用語の特徴をめぐって—」『広島大学国際センター紀要』第1号, pp.35-49.
- 熊野七絵・川嶋恵子(2011b)「『アニメ・マンガの日本語』Webサイト開発—趣味から日本語学習へ—」『国際交流基金日本語教育紀要』第7号, pp.103-117.
- 熊野七絵・廣利正代(2008)「『アニメ・マンガ』調査研究—地域事情と日本語教材—」『国際交流基金・日本語教育紀要』第4号, pp.55-69.
- 黒崎佐仁子(2011)「役割語から考える自称詞「わし」方言性と出現時期」『聖学院大学論叢』23(2), pp.1 - p.14.
- 小池清治・河原修一(2005)『語彙探究法』朝倉書店.
- 呉偉明(2005)「日本における金庸武俠小説の受容」『日中社会学研究』(12), pp. 27-43.
- 香坂順一(1983)『白話語彙の研究』光生館.
- 小松寿雄(1985)「後期江戸語の武家の言葉」『国語と国文学』62(5), pp.33-45 至文堂.
- 小松寿雄(2007)「幕末江戸語の一・二人称代名詞」『學苑』802, pp.21-32.
- 定延利之(2005)『もっと知りたい日本語 ささやく恋人、りきむレポーター 口の中の文化』岩波書店.
- 定延利之(2006)「キャラ助詞の生起環境」『KLS 26』Proceedings of the Thirtieth Anniversary Meeting, Jun4-5, 2005 関西言語学会, pp.428-438.
- 定延利之(2007)「キャラ助詞が現れる環境」金水敏(編)『役割語研究の地平』くろしお出版.
- 定延利之・張麗娜(2007)「日本語・中国語におけるキャラ語尾の観察」彭飛(編)『日中対照言語学研究論文集—中国語からみた日本語の特徴、日本語からみた中国語の特徴—』pp.99-119 和泉書院.
- 佐藤喜代治(編)(2002)『国語論究9 現代の位相研究』明治書院.
- 関川夏央(2006)『おじさんはなぜ時代小説が好きか』岩波書店.
- 外山滋比古(1966)「外国語教育とスタイルの問題」『日本文体論協会編 文体論入門』p.233-251 三省堂.
- 田中章夫(1999)『日本語の位相と位相差』明治書院.
- 田中ゆかり(2011)『「方言コスプレ」の時代—ニセ関西弁から龍馬語まで』岩波書店.
- 鄭恵先(2005)「日本語と韓国語の役割語の対照—対訳作品から見る翻訳上の問題を中心に

- ー』『社会言語科学』第8巻第1号 社会言語科学会, pp.82-92.
- 鄭恵先(2006)「日韓対照役割語研究—その可能性を探る—」『KLS 26』Proceedings of the Thirtieth Anniversary Meeting, Jun4-5, 2005 関西言語学会, pp.417-427.
- 勅使河原三保子(2007)「声質から見た声のステレオタイプ—役割語の音声的側面に関する一考察—」金水敏(編)『役割語研究の地平』pp.49-69 くろしお出版.
- トーマス・マーチン・ガウバッツ(2007)「小説における米語方言の日本語訳について」『役割語研究の地平』pp.125-158 くろしお出版.
- 鳥飼玖美子(監訳)(2009)『翻訳学入門 / ジェレミー・マンデイ [著]』.
- 長崎靖子(2006)「江戸語における「でございます」」『日本女子大学会誌』25, pp. 9-28.
- 中野伸彦(1993)「終助詞の男女差の形成—江戸語における男女差形成の動き—」『山口大学教育学部研究論叢—人文科学・社会科学—』pp.41-52.
- 中村明(1993)『日本語の文体』岩波書店.
- 中村純子(2000)「終助詞における男性語と女性語」『信州大学留学生センター紀要』1, pp.1-14.
- 西隈俊哉(2006)「日本語教育のための映画・アニメの理解と利用」『2006 年度日本語教育学会春季大会予稿集』pp.30-34.
- 野火迅(2008)『使ってみたい武士の日本語』文藝春秋.
- 野村剛史(2011)『話し言葉の日本史』吉川弘文館.
- 萩野実美(2007)「日本のまんがとアニメ—日本語教材としての可能性」『拓殖大学日本語紀要』No.17, pp.123-130 拓殖大学.
- 平土大学(編)(2004)『使わなくなった日本語[時代劇篇]』経済界.
- 広田紀子(2007)『翻訳論：言葉は国境を越える』上智大学出版.
- 文化庁(1978)『中国語と対応する漢語』大蔵省印刷局.
- 北條文緒(2004)『翻訳と異文化(原作とのくずれ>が語るもの)』みすず書房.
- 細川裕史(2011)「コミック翻訳を通じた役割語の創造—ドイツ語史研究の視点から—」『役割語研究の展開』pp.153-170 くろしお出版.
- 堀井令以知(2008)『お公家さんの日本語』グラフ社.
- 真田信治(1992)『社会言語学』桜楓社.
- 丸山諒男(2009)『語義・語構成・音の変遷から見た日本語古語研究』三陸書房.
- 水本光美(2006)「テレビドラマと実社会における女性文末詞使用のずれにみるジェンダー

- フィルタ」日本語ジェンダー学会(編)『日本語とジェンダー』pp.73-94 ひつじ書房.
- 宮島達夫(1994)『語彙論研究』むぎ書房.
- 森野崇(1992)「平安時代における終助詞『ぞ』の機能」『国語学』168, pp.12-25.
- 森野崇(1993)「奈良時代の終助詞『ぞ』について」『国語国文』第62巻第5号, pp.19-35  
京都大学.
- もんじろう運営委員会(2008)『武士語で候』総合法令出版.
- 山口治彦(1998)『語りのレトリック』海鳴社.
- 山口治彦(2005)「語りで味わう一味ことばの謎とフィクションの構造」瀬戸賢一ほか  
『味ことばの世界』pp.162-205 海鳴社.
- 山口治彦(2007)「役割語の個別性と普遍性—日英の対照を通して—」金水敏(編)『役割語  
研究の地平』pp.9-25 くろしお出版.
- 山口治彦(2011)「役割語のエコロジー —他人キャラとコンテキストの関係—」金水敏(編)  
『役割語研究の展開』pp.27-47 くろしお出版.
- 山崎直樹(1993)「物語における3人称代名詞」『中国語学』(240), pp.109-117 日本中国語  
学会.
- 八幡和郎(2008)『武士語でござる』KKベストセラーズ.
- 林玉恵(2002)「日華・日漢辞典からみた日中同形語記述の問題点—同形類義語を中心に—」  
『世界の日本語教育』12, pp.107-121 国際交流基金日本語国際センター.
- 劉璐(2012a)「現代日中両言語に見られる「疑似古語」の翻訳に関する問題点の分析」『日  
本语言文化研究 第二輯(上)』pp.228-238 中国延边大学出版社.
- 劉璐(2012b)「現代の国語辞典における「古風な言葉」についての一考察 —辞書間の比  
較を通じて—」『比較文化研究』No.102, pp.199-209 日本比較文化学会.

## ◆中国語

- 陈明富/张鹏丽(2005)《〈楚辞〉的人称代词》《上饶师范学院学报》第25卷第4期 pp.73-77.
- 郭锡良主编(1998)《古汉语语法论集》语文出版社.
- 康玉晶(2008)《目的论视角下的华语古装片英文字幕翻译》四川教育学院学报 2008年05期.
- 李乔(2006)《奏章上的『奴才』》《文史杂志》2006年第4期 pp.73.
- 刘汉生(2007)《〈史记〉与〈世说新语〉人称代词比较》《天中学刊》第22卷 pp.81-84.



- 李佐丰(2004)《古代汉语语法学》商务印书馆.
- 马春暄(1981)《古今汉语语法比较浅说》福建教育出版社.
- 马松亭(1986)《汉语语法学史》安徽教育出版社.
- 齐静(2004)《〈儒林外史〉中的人称代词》《广西教育学院学报》2004年第4期 pp.103-106.
- 宋洪民/张红梅(2007)《电视剧〈三国演义〉语言应用指瑕》《语文建设》2007年第4期 pp.50-51.
- 孙金华(2006)《〈搜神记〉中人称代词及称谓词的时代特征》《语言学研究》第十二期 pp.137-139.
- 唐黎标(2006)《正说清代宫廷称谓与礼仪》《文史杂志》2006年第4期 pp.76-78.
- 谭耀炬(2005)《三言二拍语言研究》四川出版集团巴蜀书社.
- 王敬霞(2007)《〈论语〉中“之”字的使用》《文教资料》2007年4月号下旬刊 pp.90-93.
- 王力(1988)《王力文集第九卷-汉语史稿-》山东教育出版社.
- 王力(1976)《古汉语通论》 中外出版社.
- 汪维辉(2000)《东汉-隋常用词演变研究》南京大学出版社.
- 吴福祥(2004)《敦煌变文12种语法研究》河南大学出版社.
- 吴媛媛(2007)《第三人称代词流变探微》《北方论丛》2007年第3期 pp.73-75.
- 徐国莉(2006)《上古汉语第一人称代词“吾”与“我”》《张家口职业技术学院学报》第19卷第3期 pp.55-57.
- 徐时仪(2000)《古白话词汇研究论稿》上海教育出版社.
- 杨伯峻/何乐士(1992)《古汉语语法及其发展》语文出版社.
- 殷玲(2008)《从功能翻译理论看电影字幕翻译中文化词语的处理》《外国语言文学研究》2008年6月 第8卷 第2期 pp.21-24.
- 张亚栋(2009)《目的论视角下看〈赤壁〉的字幕翻译策略》 衡水学院学报第11卷第2期 pp.78-84.
- 张玉金(2004)《西周汉语语法研究》商务印书馆.

#### ◆英語

- Edwards, John(1985) *Language, society and identity*, Oxford: Basil Blackwell, Ltd.
- Jeremy Munday(ジェレミー・マンデイ)著 鳥飼玖美子監訳(2009)『翻訳学入門』みすず書房.

## 辞書類

## ◆日本語

- 『岩波国語辞典第七版』 2009 年 岩波書店.
- 『広辞苑第六版(机上版)』 2008 年 岩波書店.
- 『三省堂国語辞典 第五版(小型版)』 2003 年 三省堂.
- 『三省堂国語辞典 第六版』 2008 年 三省堂.
- 『時代小説用語辞典』 2005 年 歴史群像編集部(編) 学習研究社.
- 『新明解国語辞典第七版』 2011 年三省堂.
- 『精選日中・中日辞典[改訂版]』 2000 年 東方書店.
- 『全文全訳古語辞典』 2004 年 小学館.
- 『中日辞典第 2 版』 2003 年 小学館.
- 『中日辞典第三版』 2010 年 講談社.
- 『中日大辞典(増訂第二版)電子版』 1987 年 愛知大学中日大辞典編纂処 大修館書店.
- 『ちょっと古風な日本語辞典』 1997 年 東郷吉男 東京堂出版.
- 『デイリーコンサイス中日・日中辞典第 2 版』 2005 年 三省堂.
- 『日中辞典』 2006 年 講談社.
- 『日中辞典第 2 版』 2002 年 小学館.
- 『日本国語大辞典第二版(JapanKnowledge)』 2007 年 小学館.

## ◆中国語

- 《古代汉语虚词词典》 1999 年 中国社会科学院语言研究所古代汉语研究室 商务印书馆.
- 「沪江小 d 日语在线翻译」 2008 年 <http://dict.hjenglish.com/jp/>
- 《日汉大辞典》日本讲谈社/编译:上海译文出版社 2002 年 上海译文出版社.
- 《日汉双解学习词典第 2 版》日本株式会社旺文社/訳者:王萍 2005 年 外语教学与研究出版社.
- 《现代汉语词典(第 5 版)》 2005 年 中国社会科学院语言研究所词典编辑室 商务印书馆.
- 《现代汉语大词典》 2006 年 汉语大词典出版社.
- 《现代汉语虚词词典》 侯学超 1998 年 北京大学出版社.
- 《现代日汉汉日词典》 王萍 2000 年 外语教学与研究出版社.

## コーパス

現代日本語書き言葉均衡コーパス <http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/>

北京大学中国語言学研究中心 Center for Chinese Linguistics

[http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl\\_corpus/index.jsp?dir=xiandai](http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/index.jsp?dir=xiandai)

## 参考サイト

「地球言葉村」ホームページ <http://www.chikyukotobamura.org/muse/life0511194.html>

中央研究院漢籍電子文献ホームページ <http://www.sinica.edu.tw/ftms-bin/ftmsw3>

もんじろう <http://monjiro.net/?PHPSESSID=c241be322528979b78858c99907ea07c>

ジャパンナレッジ版『日本国語大辞典第二版』

[http://www.japanknowledge.com/contents/intro/cont\\_nikkoku.html](http://www.japanknowledge.com/contents/intro/cont_nikkoku.html)

## 用例出典

### 小説

#### ◆日本語

- 安部龍太郎 『信長燃ゆ』 2006 年 新潮社.
- 池波正太郎 『忍びの女(上)』 1975 年 講談社 eBookJapan.
- 風巻紘一 『大乱妖花伝』 1993 年 春陽堂書店 eBookJapan.
- 京極夏彦 『巷説百物語』 1997 年 角川書店.
- 金庸(著) 岡崎由美・松田京子(訳) 『神雕劍俠』 2006 年 徳間書店.
- 金庸(著) 岡崎由美・小島瑞紀(訳) 『鹿鼎記』 2008 年 徳間書店.
- 金庸(著) 岡崎由美(監修) 林久之・阿部敦子(訳) 『倚天屠龍記』 2008 年 徳間書店.
- 金庸(著) 金海南(訳)・岡崎由美(監修) 『射鵬英雄伝 三』 2009 年 徳間書店.
- 笹沢左保 『江戸女人絵巻』 1987 年 詳伝社 eBookJapan.
- 佐藤賢一 『女信長』 2005 年 毎日新聞社.
- 高橋克彦 『炎立つ(壱)』 1995 年 講談社.
- 春日みかげ 『織田信奈の野望』 2009 年 ソフトバンク クリエイティブ株式会社.
- 春日みかげ 『織田信奈の野望 2』 2010 年 ソフトバンク クリエイティブ株式会社.
- 春日みかげ 『織田信奈の野望 3』 2010 年 ソフトバンク クリエイティブ株式会社.
- 火坂雅志 『新装版 天地人(上) 天の巻』 2008 年 日本放送出版協会.
- 火坂雅志 『新装版 天地人(中) 地の巻』 2008 年 日本放送出版協会.
- 火坂雅志 『新装版 天地人(下) 人の巻』 2008 年 日本放送出版協会.
- 松井今朝子 『吉原手引草』 2009 年 幻冬舎.
- 宮尾登美子 『新装版 天璋院篤姫(上)』 2007 年 講談社.
- 宮尾登美子 『新装版 天璋院篤姫(下)』 2007 年 講談社.
- 山田風太郎 『柳生十兵衛死す(上)』 1992 年 小学館 eBookJapan.

#### ◆中国語

- 不著撰人 《新刊大宋宣和遺事》 1962 年 世界書局.
- [清] 褚人穫 《隋唐演义》 1994 年 山西人民出版社.
- 金庸 《鹿鼎記 1-5》 1994 年 三联出版社.

- 金庸《射雕英雄传 1-4》1994 年 三联出版社.
- 金庸《笑傲江湖 1-4》1994 年 三联出版社.
- 金庸《倚天屠龙记 1-4》1994 年 三联出版社.
- [民国]李逸侯《宋代十八朝宫廷艳史》2004 年 北京中电电子出版社.
- [明]罗懋登《三宝太监西洋记》1995 年 华夏出版社.
- [明]羅貫中著,[清]毛宗崗批評,饒彬校訂《三国演义》1989 年 三民書局.
- 潘重規(編)《敦煌變文集新書》1994 年 文津出版社.
- 石玉昆述/俞樾重編《七侠五义》1980 年 宝文堂书店.
- [明]许仲琳《封神演义》1998 年 中国文联出版.
- [民国]许啸天《明代宫闱史》2001 年 中国戏剧出版社.
- 楊家駱編《全元雜劇》1962 年 世界書局.
- 孙皓晖《大秦帝国第一部・黑色裂变(上、下)》2005 年 长江文艺出版社.
- 孙皓晖《大秦帝国第二部・国命纵横(上、下)》2005 年 长江文艺出版社.
- 二月河《康熙大帝 乱起萧墙》2009 年 湖北长江出版集团&长江文艺出版社.
- 钱雁秋《神探狄仁杰 I》2006 年 线装书局 中国社会科学出版社.
- 流潋紫《后宫・甄嬛传修订典藏版贰》2012 年浙江出版联合集团&浙江文艺出版社.

## 映画

- 『ICHI』2008 年 (監督)曾利文彦 (配給)ワーナー・ブラザース映画
- 『大奥(男女逆転)』2010 年 (監督)金子文紀 (配給)松竹アスミック・エース
- 『陰陽師』2001 年 (監督)滝田洋二郎 (配給)東宝
- 『陰陽師Ⅱ』2003 年 (監督)滝田洋二郎 (配給)東宝
- 『さくらん』2007 年 (監督)蜷川実花 (配給)アスミック・エース
- 『里見八犬伝』1983 年 (監督)深作欣二 (配給)東映
- 『SHINOBI-HEART UNDER BLADE-』2005 年 (監督)下山天 (配給)松竹
- 『千年の恋 ひかる源氏物語』2001 年 (監督)堀川とんこう (配給)東映
- 『憑神』2007 年 (監督)降旗康男 (配給)東映
- 『やじきた道中 てれすこ』2007 年 (監督)平山秀幸 (配給)松竹
- 『吉原炎上』1987 年 (監督)五社英雄 (配給)東映

『レッドクリフ・PART II -』 2009 年 (監督)ジョン・ウー (配給)中国電影集团公司/東宝東和/エイベックス

『孔子の教え』 2011 年 (監督)胡玫 (フー・メイ) (配給)ツイン

『画皮 あやかしの恋』 2012 年 (監督)ゴードン・チャン (配給)大秦

『女帝エンペラー』 2007 年 (監督)馮小剛 (配給)ギャガ

《阴阳师》 2001 年 日菁字幕組 (译) ファンサブ

《阴阳师 2》 2003 年 日菁字幕組 (译) ファンサブ

## テレビドラマ

### ◆日本で公開・販売されたもの

『NHK 大河ドラマ 篤姫 完全版(レンタル DVD)』 2008 年 (製作)日本放送協会

『NHK 大河ドラマ おんな太閤記(レンタル DVD)』 1981 年 (製作)日本放送協会

『NHK 大河ドラマ 功名が辻(レンタル DVD)』 2006 年 (製作)日本放送協会

『NHK 大河ドラマ 新撰組! (レンタル DVD)』 2012 年 (製作)日本放送協会

『NHK 大河ドラマ 平清盛(レンタル DVD)』 2012 年 (製作)日本放送協会

『NHK 大河ドラマ 武田信玄(レンタル DVD)』 1988 年 (製作)日本放送協会

『NHK 大河ドラマ 天地人(レンタル DVD)』 2009 年 (製作)日本放送協会

『NHK 大河ドラマ 利家とまつー加賀百万石物語ー(レンタル DVD)』 2002 年  
(製作)日本放送協会

『NHK 大河ドラマ 風林火山(レンタル DVD)』 2007 年 (製作)日本放送協会

『大奥〜第一章〜(レンタル DVD)』 2004 年 (製作)フジテレビ

『鬼平犯科帳(中村吉右衛門)シリーズ 5(レンタル DVD)』 1994 年 (製作)松竹

『三国志 国際スタンダード版(レンタル DVD 版)』 2009 年 (総監督)王扶林

『三国志 Three Kingdoms 第 2 部-中原逐鹿-(レンタル DVD 版)』 2010 年  
(監督)ガオ・シーシー

『恕の人ー孔子伝ー』 2011 年 (監督)ハン・ガンてん『天龍八部(レンタル DVD 版)』  
2005 年 (製作総指揮)張紀中

『JINー仁ー(第1期)』 2009年 (製作)TBSテレビ

『尋秦記 タイムコップB.C.250』 2001年 (監督) ウォン・イー

『水戸黄門第三部(レンタル DVD)』 1971 年ー1972 年 (製作) C.A.L&日本テレビ

『源義経上巻(レンタル DVD)』1990 年 (製作)日本テレビ

『封神演義(レンタル DVD 版)』2009 年 (監督)ジン・グオジャオ

◆中国で公開・販売されたもの

《大奥～第一章～》2004 年 天香影视字幕组(译) ファンサブ

《大明宫词》1998 年 (監督)李少红・曾念平 (製作)中国中央电视台

《大明王朝 1566-嘉靖与海瑞》2006 年 (監督)张黎 (製作)中国湖南卫视电视台

《东周列国春秋篇》1996 年 (監督)沈好放 (製作)中央电视台

《笃姬》2008 年 琵琶行字幕组(译) ファンサブ

《风林火山》2007 年 琵琶行字幕组(译) ファンサブ

《封神榜》2006 年 (監督)程力栋 (製作)中国中央电视台

《功名十字路口》2006 年 日史译组(译) ファンサブ

《汉武帝》2005 年 (監督)胡玫 (製作)中国中央电视台

《孔子》2010 年(監督)韩 刚 (製作)佛山传媒集团

《利家与松》2002 年 日搜组(译) ファンサブ

《美人心计》2010 年 (監督)吴锦源・梁欣全・陈国华 (製作)全盛时代・紫骏辉煌，  
于正工作室

《秦始皇》2007 年 (監督)阎建钢 (製作)中国中央电视台

《仁医 1》2009 年 日菁字幕组(译) ファンサブ

《仁医 2》2011 年 日菁字幕组(译) ファンサブ

《三国演义》1994 年 (監督)王扶林, 蔡晓晴, 张绍林等 (製作)中国电视剧制作中心・中央  
电视台

《天地人》2009 年 PPX 字幕组(译) ファンサブ

《武林外传》2006 年 (監督)尚敬 (製作)联盟影业

《武则天》1995 年 (監督)陈家林 (製作)中国电影合作制作公司中国文学艺术基金会・中央  
电视台涿州拍摄基地中国电视剧制作中心、中国华侨影视制作中心

《新白娘子传奇》1993 年 (監督)夏祖辉, 何麒 (製作)景德传播公司・台视公司

《西游记》1986 年 (監督)杨洁 (製作)中国国际电视总公司

《一代女皇武则天》1985 年 (監督)李岳峰 (製作)中国电视公司(CTV)

《义经》2005 年 天香影视字幕社(译) ファンサブ

《雍正王朝》1997 年 (監督)胡玫 (製作)中国中央电视台

《宰相刘罗锅》1996 年 (監督)张子恩・石零・韩刚 (製作)北京天寅影视艺术策划中心

## アニメ

### ◆日本語

『まんが水戸黄門(レンタル DVD 版)』 1981-1982 年 (監督)西野聖市 (製作) ICHI

『もののけ姫』 1997 年 (監督)宮崎駿 (製作)スタジオジブリ

『サムライガン』 2004 年 (監督)菊池一仁 (製作) avex mode・テレビ朝日

『サムライチャンプルー』 2004 年 (監督)渡辺信一郎 (製作)フジテレビ・マンガローブ  
下井草チャンプルーズ

『少年陰陽師』 2006 年 (監督)森邦宏 (製作)スタジオディーン少年陰陽師製作委員会

### ◆中国語

《秦时明月之诸子百家》2010 年 (監督)沈乐平 (製作)杭州玄机科技信息技术有限公司

## 漫画

『あさきゆめみし(全 7 巻文庫セット)』 2001 年 大和和紀 講談社.

『春日の局』 1988 年 三浦みつる スコラ.

『くノ一捕物帖 恋縄緋鳥』 1973 年 石ノ森章太郎 メディアファクトリー.

『THE・武頼くサムライ>剣四郎妖斬剣』 1995 年 原作:鳴海丈

作画:細馬信一 学習研究社.

『時代ロマンシリーズ(1)ささめごと』 1991 年 河村 恵利 秋田書店.

『ちょっと江戸まで』 2008 年 津田雅美 白泉社.

『豊臣秀吉ー異本太閤記』 1989 年 横山光輝 講談社.

『花の慶次』 1993 年 原作・原案:隆慶一郎 作画:原哲夫 集英社.

『姫武将政宗伝ぽんたん!!』 2007 年 阿部川 キネコ 幻冬舎.

『ぼんぐら同心』 1976 年 ジョージ秋山 講談社.

『Y + M~柳生忍法帖~』 2008 年 せがわまさき 講談社.

『山風短 (1)くノ一紅騎兵』 2010 年 せがわまさき 講談社.

『吉原遊女絵伝』 2011 年 千之 ナイフ リイド社.



## その他

### ◆日本語

『歌舞伎台帳集成第一巻』1983年 歌舞伎台帳研究会(編) 勉誠社.

『歌舞伎台帳集成第二巻』1983年 歌舞伎台帳研究会(編) 勉誠社.

『新日本古典文学大系 95 上方歌舞伎集』1998年 岩波書店.

『新日本古典文学大系 96 江戸歌舞伎集』1997年 岩波書店.

『荀子』2001年 荀子著/澤田多喜男・小野四平訳 中央公論新社.

### ◆中国語

《韓非子》1980年 (周)韓非撰,(清)吳翊校 成文出版社.

《十三經注疏 1 尚書》1989年 (漢)孔安國傳,(唐)孔穎達等正義,(清)阮元校 藝文印書館.

《十三經注疏 3 周禮注疏》1989年 (漢)鄭玄注,(唐)賈公彥疏,(清)阮元校勘 藝文印書館.

《新校本北史》1976年 (唐)李延壽撰,楊家駱主編 鼎文書局.

《新校本漢書》1986年 (漢)班固撰,(唐)顏師古注,楊家駱主編 鼎文書局.

《新校本晉書》1976年 (唐)房玄齡等撰,楊家駱主編 鼎文書局.

《新校本舊唐書》1976年 (後晉)劉昫撰,楊家駱主編 鼎文書局.

《新校本明史》1975年 (清)張廷玉等撰,楊家駱主編 鼎文書局.

《新校本三国志》1980年 (晉)陳壽撰,(宋)裴松之注,楊家駱主編 鼎文書局.

《新校本宋史》1978年 (元)脫脫等撰,楊家駱主編 鼎文書局.

## ＜参考資料1＞日本語作品一覧

作品名	媒体	作者・脚本家情報	時代設定	初出版・放公開
大江戸ロケット	アニメ	中島かずき	江戸時代後期	2007年
サムライガン	アニメ	熊谷カズヒロ	江戸時代後期	2004年
サムライチャンプル	アニメ	manglobe	江戸時代中期	2004年
少年陰陽師	アニメ	原作：結城光流	平安時代中期	2006年
まんが 水戸黄門	アニメ	脚本：伊東恒久・荒木芳久・水野均・吉田進・吉田喜昭	江戸時代	1981年-1982年
もののけ姫	アニメ	宮崎駿	大和時代	1997年
ICHI	映画	浅野妙子	江戸時代	2008年
大奥(男女逆転)	映画	原作：よしながふみ 脚本：高橋ナツコ	江戸時代中期	2010年
陰陽師 I	映画	脚本：福田靖・夢枕獏・江良至	平安時代前期	2001年
陰陽師 II	映画	脚本：滝田洋二郎・夢枕獏・江良至	平安時代前期	2003年
さくらん	映画	原作：安野モヨコ 脚本：タナダユキ	江戸時代	2007年
里見八犬伝	映画	鎌田敏夫・深作欣二	室町時代後期	1983年
SHINOBI-HEART UNDER BLADE-	映画	平田研也	江戸時代初期	2005年
千年の恋ひかる源氏物語	映画	早坂暁	平安時代中期	2001年
憑神	映画	降旗康男・小久保利己・土屋保文	江戸時代末期	2007年
やじきた道中 てれすこ	映画	安倍照雄	江戸時代後期	2007年
吉原炎上	映画	中島貞夫	明治後期	1987年
天璋院篤姫	小説	宮尾登美子	江戸時代末期	1983年-1984年
江戸女人絵巻	小説	笹沢左保	江戸時代	1987年
織田信奈の野望	小説	春日みかげ	戦国時代	2009年-現在
女信長	小説	佐藤賢一	戦国時代	2005年
巷説百物語	小説	京極夏彦	江戸時代末期	1997年
忍びの女	小説	池波 正太郎	室町時代後期～安土桃山時代	1975年
大乱妖花伝	小説	風巻 紘一	室町時代後期～戦国時代前期	1993年
天地人	小説	火坂雅志	戦国時代	2006年
信長燃ゆ	小説	安部 龍太郎	戦国時代	2001年
炎立つ	小説	高橋克彦	平安時代末期	1992年-1994年
柳生十兵衛死す	小説	山田風太郎	江戸時代前期	1992年
吉原手引草	小説	松井 今朝子	江戸時代後期	2007年

作品名	媒体	作者・脚本家情報	時代設定	初出版・放公開
篤姫	テレビドラマ	原作：宮尾登美子 脚本：田淵久美子	江戸時代末期	2008年
大奥～第一章～	テレビドラマ	浅野妙子	江戸時代初期	2004年
鬼平犯科帳シリーズ5	テレビドラマ	原作：池波正太郎 脚本：井手雅人	江戸時代	1994年
おんな太閤記	テレビドラマ	原作と脚本：橋田壽賀子	戦国時代～江戸初期	1981年
功名が辻	テレビドラマ	原作：司馬遼太郎 脚本：大石静	戦国時代	2006年
JIN－仁－(第1期)	テレビドラマ	原作：村上もとか 脚本：森下佳子	江戸時代末期	2009年
新撰組!	テレビドラマ	三谷幸喜	江戸時代末期	2004年
平清盛	テレビドラマ	藤本有紀	平安時代末期	2012年
武田信玄	テレビドラマ	原作：新田次郎 脚本：田向正健	戦国時代	1988年
天地人	テレビドラマ	原作：火坂雅志 脚本：小松江里子	戦国時代	2009年
利家とまつ～加賀百万石物語～	テレビドラマ	竹山洋	戦国時代	2002年
風林火山	テレビドラマ	原作：井上靖 脚本：大森寿美男	戦国時代	2007年
源義経第一部	テレビドラマ	杉山義法	平安時代末期	1991年
義経	テレビドラマ	金子成人他	平安時代末期	2005年
水戸黄門第三部	テレビドラマ	葉村彰子	江戸時代前期	1971年－1972年
あさきゆめみし	漫画	大和和紀	平安時代中期	1979年－1993年
春日の局	漫画	三浦みつる	江戸時代	1988年
くノ一捕物帖 恋縄緋鳥	漫画	石ノ森章太郎	江戸時代	1973年
THE・武頼<サムライ> 剣四郎妖斬剣	漫画	原作：鳴海丈 作画：細馬信一	江戸時代	1995年
時代ロマンシリーズ(1) ささめごと	漫画	河村 恵利	平安時代	1991年
ちょっと江戸まで	漫画	津田雅美	江戸時代(架空)	2008年－2011年
豊臣秀吉－異本太閤記	漫画	横山光輝	戦国時代	1989年－1990年
花の慶次	漫画	原作・原案：隆慶一郎 作画：原哲夫	戦国時代	1990年－1993年
姫武将政宗伝ぽんたん!!	漫画	阿部川 キネコ	戦国時代(架空)	2007年
ぼんぐら同心	漫画	ジョージ 秋山	江戸時代	1975年－1976年
Y+M～柳生忍法帖～	漫画	せがわ まさき (著)	江戸時代初期	2005－2008
山風短 (1)くノ一紅騎兵	漫画	せがわ まさき (著)□	江戸時代初期	2010年
吉原遊女絵伝	漫画	千之 ナイフ	江戸時代	2011年

## ＜参考資料2＞中国語作品一覧

作品名	媒体	作者・脚本家情報	時代設定	初出版・初放映年
秦时明月之诸子百家	アニメ	原作:温世仁 脚本:沈乐平	秦朝	2010年
赤壁Ⅰ	映画	吴宇森・陈汗・郭筝・盛和煜	三国時代	2008年
赤壁Ⅱ	映画	吴宇森・陈汗・郭筝・盛和煜	三国時代	2009年
画皮	映画	刘浩良・邝文伟・陈嘉上	漢朝	2008年
孔子	映画	何燕江・陈汗・胡玫	春秋時代	2010年
夜宴	映画	盛和煜・邱刚建	五代十国時代	2006年
大秦帝国	小説	孙皓晖	秦朝	2005年
后宫・甄嬛传	小説	流潋紫	清朝	2010年
康熙大帝	小説	二月河	清朝	1985年
鹿鼎记	小説	金庸	明朝末期-清朝初期	1994年(大陸出版)
射雕英雄传	小説	金庸	宋朝	1994年(大陸出版)
神探狄仁杰Ⅰ	小説	钱雁秋	唐朝	2006年
笑傲江湖（三联版）	小説	金庸	時代設定なし	1994（大陸出版）
倚天屠龙记	小説	金庸	元朝	1994年(大陸出版)
大明宫词	テレビドラマ	郑重・王要	唐朝	1999年
大明王朝1566	テレビドラマ	刘和平	明朝	2007年
大宋提刑官	テレビドラマ	钱林森・廉声	宋朝	2005年
东周列国春秋篇	テレビドラマ	欧阳逸冰・郭启宏・王培公	春秋時代	1996年
东周列国战国篇	テレビドラマ	欧阳逸冰・郭启宏・王培公	戦国時代	1996年
封神榜之凤鸣岐山	テレビドラマ	程瑞龙・陈龙骧・大黑	商朝	2006年
汉武帝	テレビドラマ	江奇涛	漢朝	2004年
孔子	テレビドラマ	钱宁	春秋時代	2010年
美人心计	テレビドラマ	于正	漢朝	2010年
母仪天下	テレビドラマ	陈翹英・王伊	東漢	2008年
秦始皇	テレビドラマ	脚本:张天民	秦朝	2002年
三国	テレビドラマ	原作:罗贯中 脚本:朱苏进	三国時代	2010年
三国演义	テレビドラマ	原作:罗贯中 脚本:杜家福・朱晓平・刘树生・叶式生・周锴・李一波	三国時代	1994年-1995年
三国演义精编版	テレビドラマ	导演:蔡晓晴 脚本:杜家福	三国時代	1997年
天龙八部	テレビドラマ	原作:金庸 脚本:戴明宇・孙铎・白一骢・陈逸星	宋朝	2003年
武林外传	テレビドラマ	宁财神	明朝	2006年
武则天	テレビドラマ	张天民・冉平・柯章和	唐朝	1995年

作品名	媒体	作者・脚本家情報	時代設定	初出版・初放映年
新白娘子传奇	テレビドラマ	贡敏・赵文川・方桂兰・何冀平	南宋時代	1992年(台湾) 1993年(中国大陸)
西游记	テレビドラマ	原作:施耐庵 脚本:戴英禄・杨洁・邹忆青	唐朝	1986年
寻秦记	テレビドラマ	原作:黄易 脚本:汤建平・黄国辉	秦朝	2001年
一代女皇武则天	テレビドラマ	孟子义・独孤红	唐朝	1985年
雍正王朝	テレビドラマ	原作:二月河 脚本:刘和平	清朝	1997年
宰相刘罗锅	テレビドラマ	秦培春・石零・张锐・白桦	清朝	1996年

## 謝辞

本論文は、現代日本語と中国語に見られる「疑似古語」について書いたものです。修士前期課程在籍中から現在に至るまで本研究を進めるにあたり、多くの方々に御世話になりました。ここに深く感謝の意を表します。

正指導教官の岩根久先生は、私の研究テーマを支持してくださり、修士の頃より論文の研究および論述の方法等について、多大なご指導を賜りまして、私のゆっくりとした成長に辛抱強く付き合ってくださいました。岩根先生に甚大なる謝意を表します。研究の面だけではなく、アルバイトの保証人や奨学金とビザの申請書類の作成などの暮らしの面においても大変お世話になりました。また「岩根ファミリー」の一員としてファミリーの先輩方にもたくさんのアドバイスをいただき、温かく見守って頂きました。心より感謝申し上げます。また、副指導教官小門典夫先生には修士論文の段階から指導してくださり、本論文を作成する際に、先生のゼミで習った辞書の比較研究の方法に大変助けられ、感謝しております。木内良行先生には、本論文の3人目の指導教官となって頂き、先生が下さった数々のご意見は本論文を作成する上で非常に貴重なものとなり、おかげで本論文の完成度が高まりました。ここに厚く御礼を申し上げます。

また、本研究の初期段階でアドバイスをくださった大阪大学文学部の金水敏先生、ゼミでお世話になった深澤一幸先生、坂内千里先生にも深く感謝を申し上げます。そのほか、言語文化専攻の博士論文中間報告会、博士論文資格審査発表会、各学会発表及び雑誌投稿の際にコメントを下さった先生方にも御礼を申し上げます。また、本論文の日本語チェックを快諾して頂いた立川真紀絵さん、音声データの文字化に協力して下さった李曉倩さんと王艶霞さんにも深く御礼を申し上げます。

さらに、ロータリー米山記念奨学会、日本国際教育支援協会、及び日本学生支援機構から奨学金を援助していただき、経済面で大変助けられました。ここに感謝の意を表します。日本に来てから、幸いにも多数の友人たちとの出会いに恵まれ、皆からたくさんの笑いと刺激を頂きました。とても全員の名前を挙げることはできませんが、特にいつも優しく支えてくれている親友の呉沛珊さんと斉暁娜姉さんにも感謝の気持ちを表したいと思います。

最後に、留学する機会を与えてくださり、あらゆる場面で私を温かく見守り続けてくれた両親に深く深く感謝いたします。

2013 年 桜色に包まれる大阪大学豊中キャンパスにて

## 正誤表

訂正箇所	誤	正
p.18,第 15 行	金水は	金水(2007a)では
p.32,表 2-4 の上の段落,第 1 行	表 4	表 2-4
p.32,表 2-4 の上の段落,第 2 行	18 語	19 語
p.34,下から 4 行目	表 1	表 2-1
p.34,下から 4 行目	表 3	表 2-3
p.40,①の部分の第 4 行	90 語	88 語
p.42,上から第 2 行	18 語	19 語
p.82,上から第 3 行	CCL 現代語部分	中国北京大学言語学研究センターのコーパスの現代語部分
p.82,上から第 7 行	2 件	2 件しか
p.94,下から 12 行目	“奴才” と “奴婢”	“奴才” と “奴婢”
p.98,用例[54]の二行目	関係ないが？	関係あるか？
p.112,(2)の部分の第 1 行	中国語「虚詞」	中国語の「虚詞」
p.113,表 3-11 の上の行	現代ドラマ	現代のトレンドドラマ
p.115,表 3-12	面をあげよう。	面をあげよ
p.115,(1)の段落,第 4 行	疑問詞	一部の疑問詞
p.120,脚注 81	日本の「四大奇書」	日本で言う「四大奇書」
p.121,4.1 の段落,第 1 行	各国	両国
p.121,4.1 の段落,第 6 行	主に利用する	利用する
p.123,第 2 行	真っ逆	正反対
p.127,上から第 2 行	49 語	72 語
p.127,表 4-3	63%	64%
p.127,表 4-3	40%	41%
p.141,脚注 90	参考する	参照
p.182,最終行	150 ページ	147 ページ
p.190,“老夫” の「翻訳のポイント」の欄,第 1 行	【我】	【私】
p.208,第 2 行	『古代的言語の享受と創造』	『古代(的)言語の享受と創造—現代日本語における』